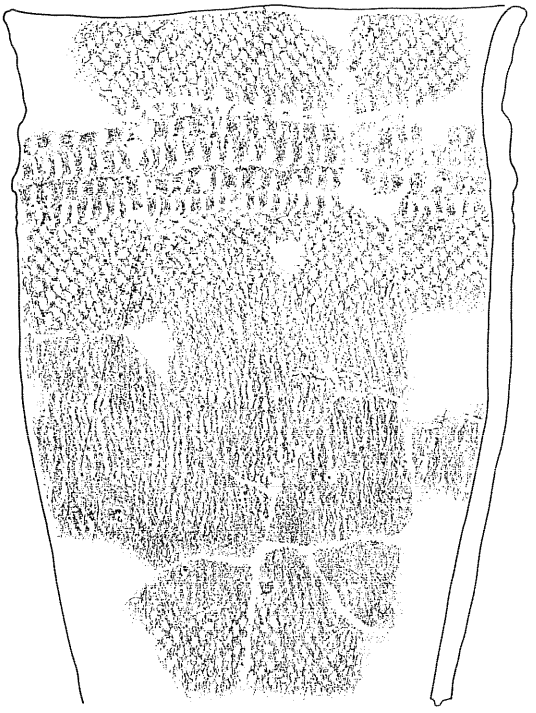
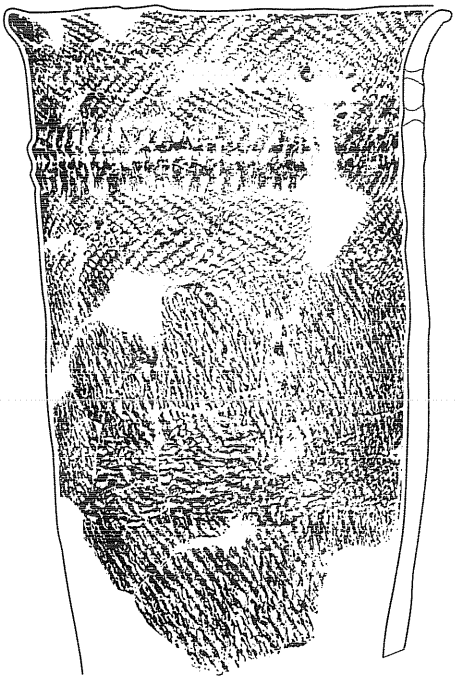
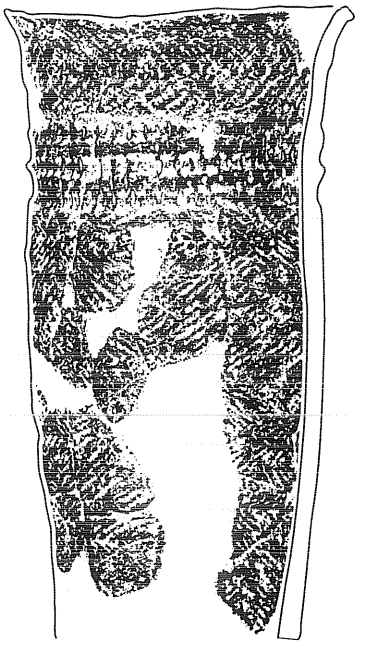


1（396・504－266）

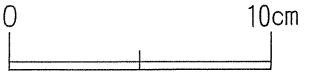
2（396・504－267）



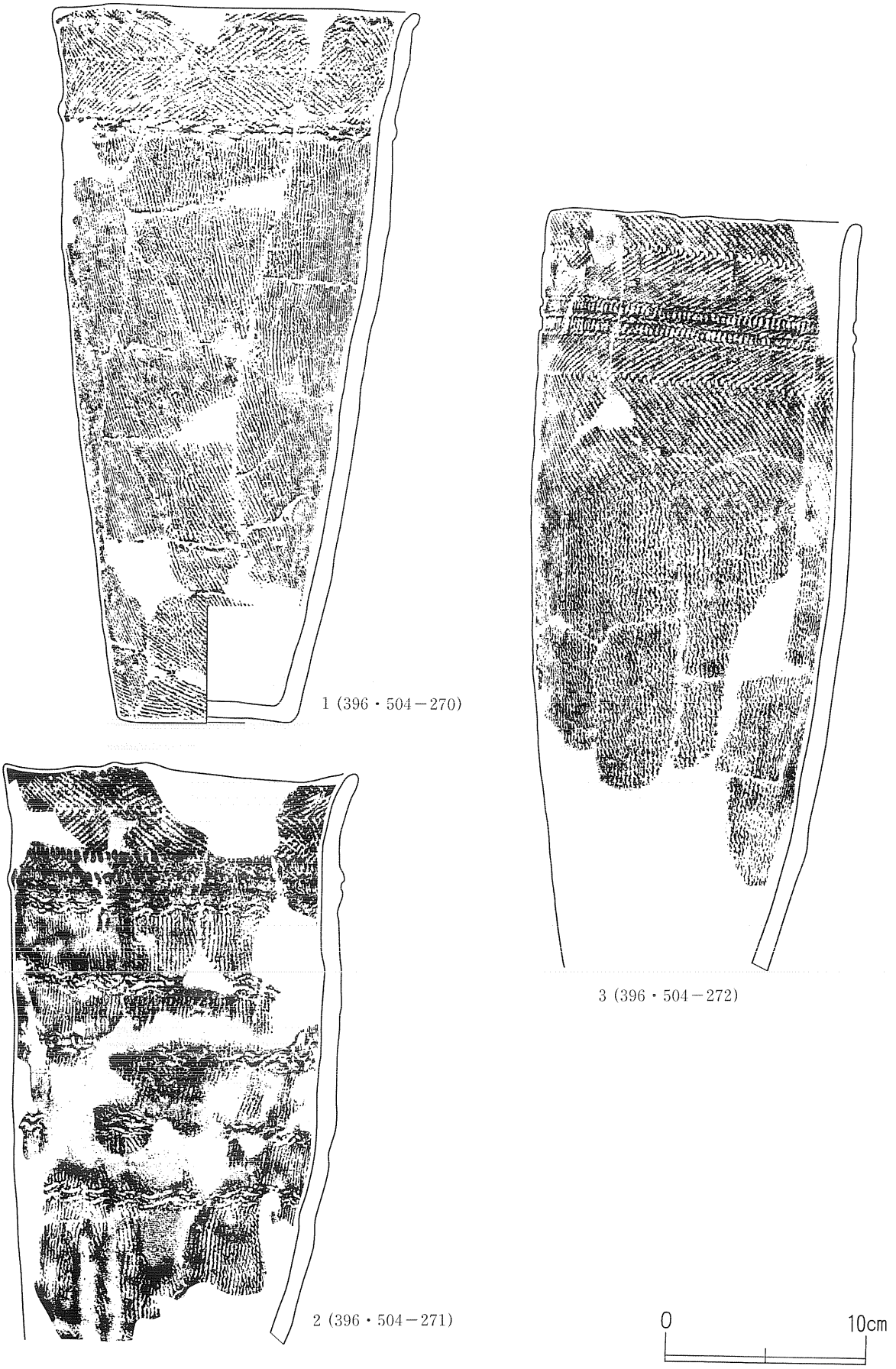
3（396・504－268）



4（396・504－269）

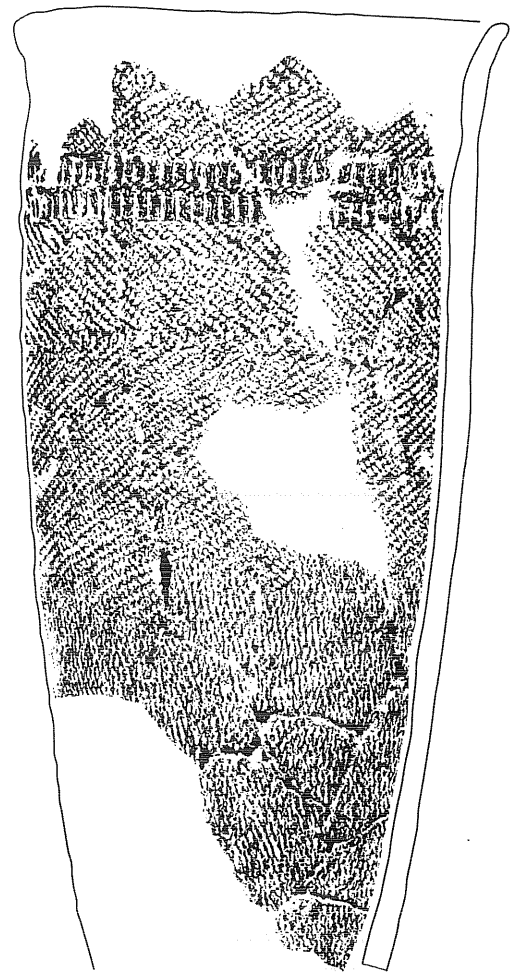


第641図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（23）

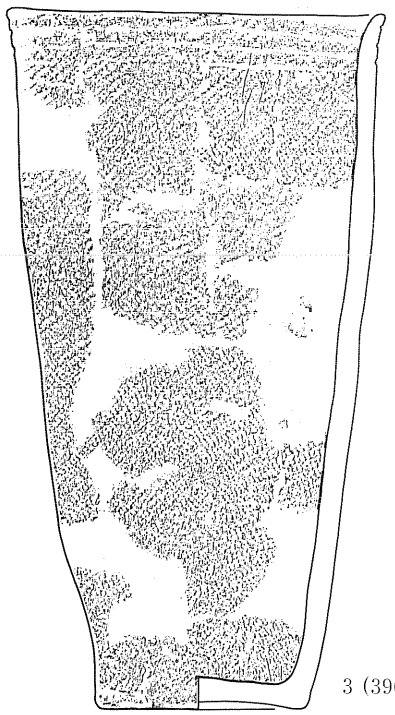


第642図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（24）

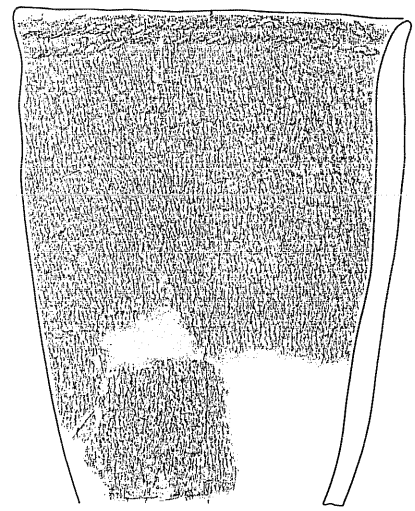
1（396・504－273）



2（396・504－274）



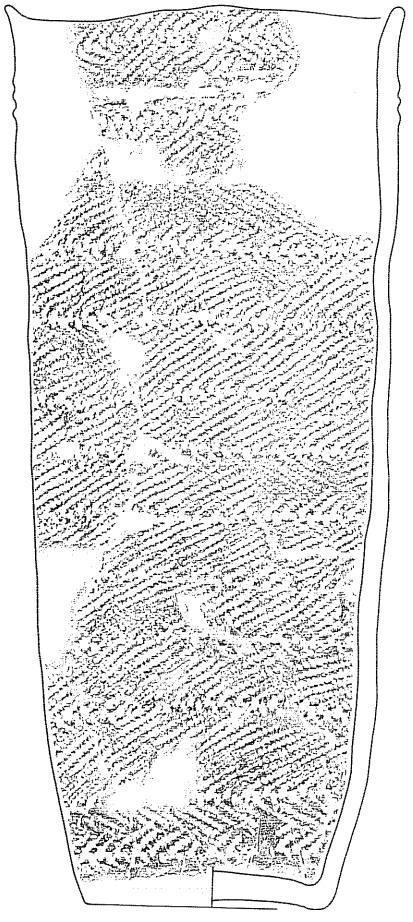
3（396・504－275）



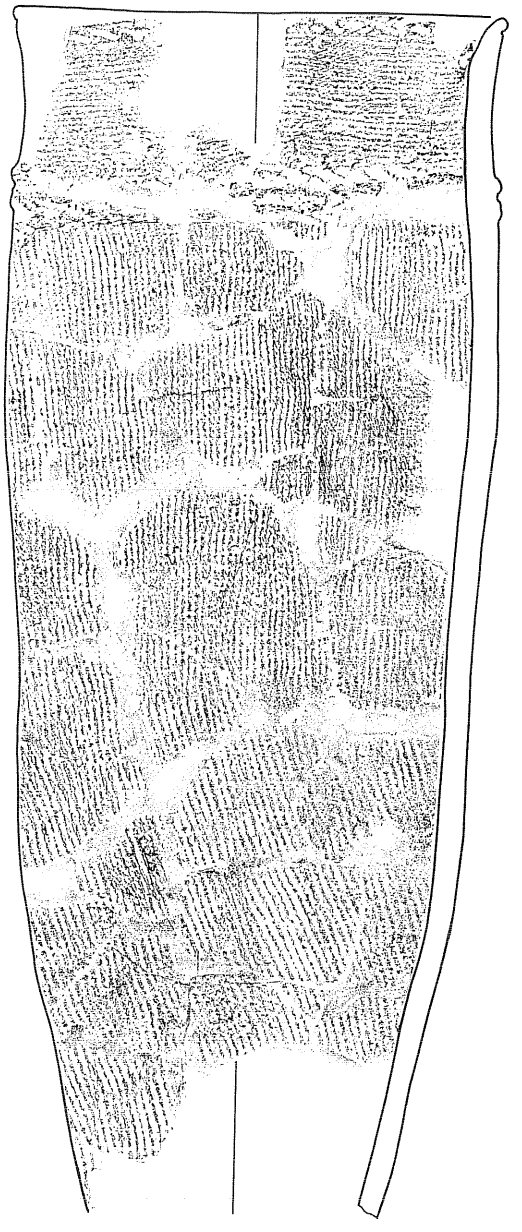
4（396・504－276）

0　10cm

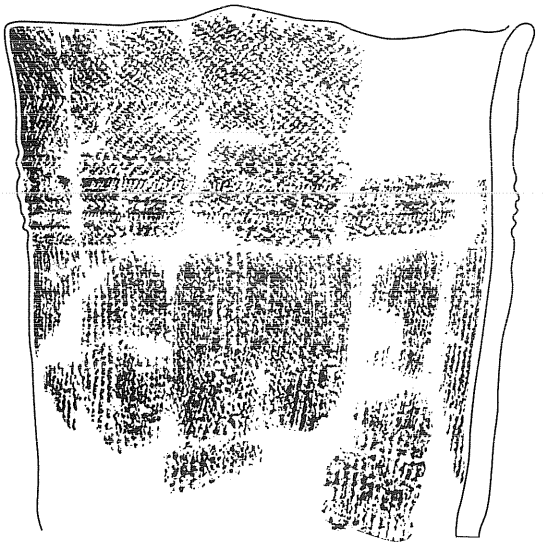
第643図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（25）



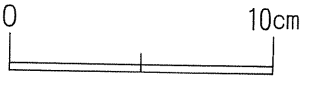
1（396・504－277）



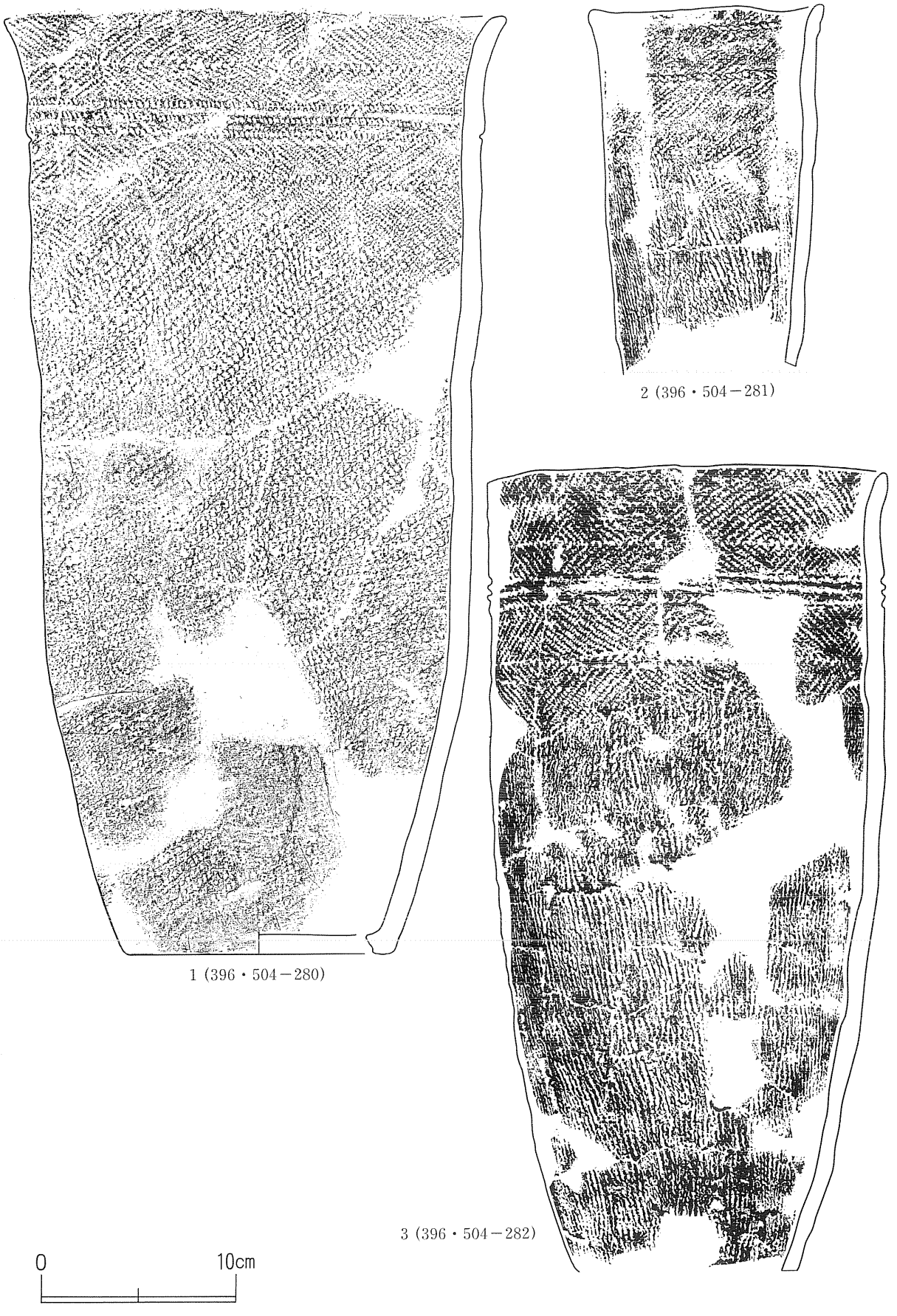
2（396・504－278）



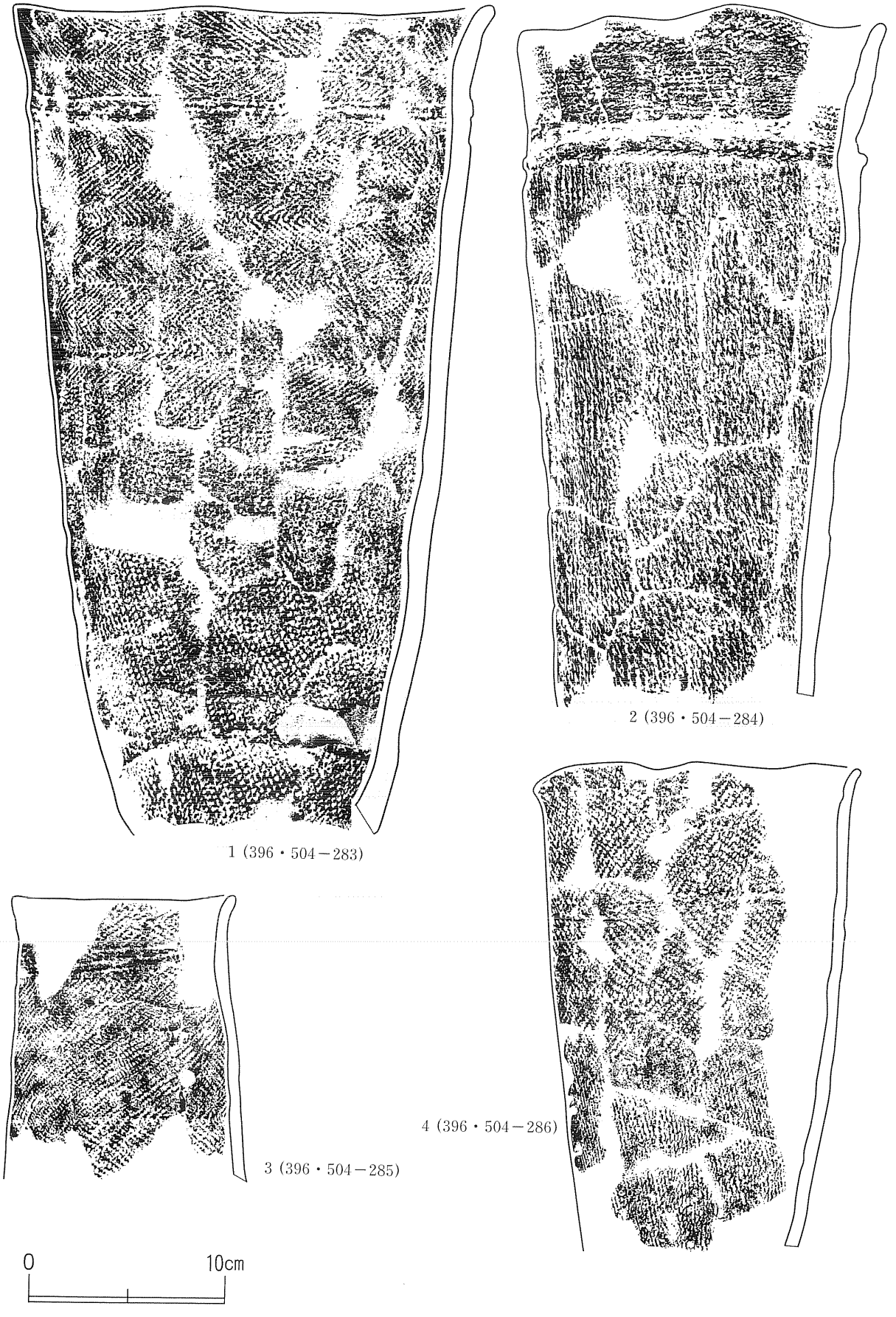
3（396・504－279）



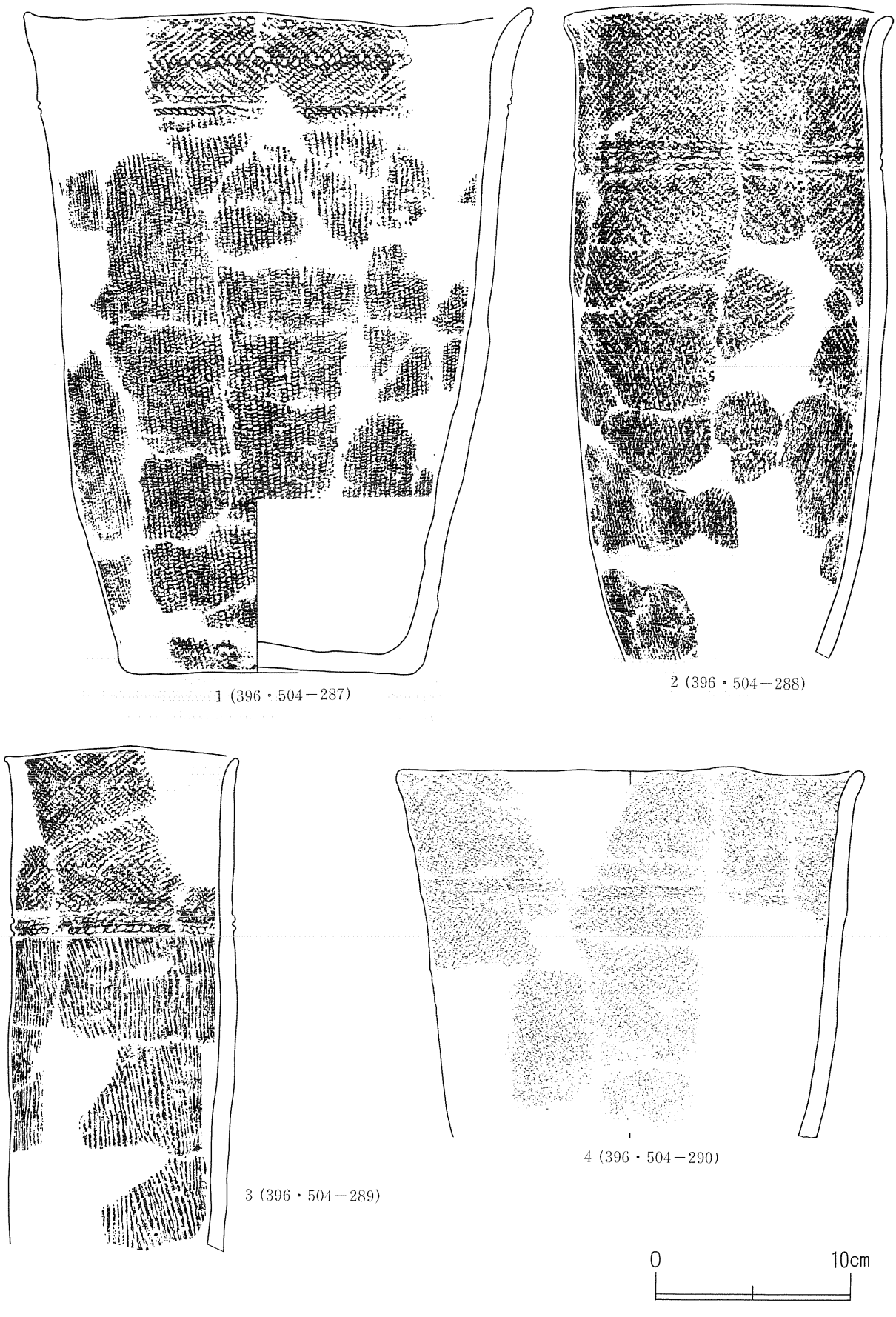
第644図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（26）



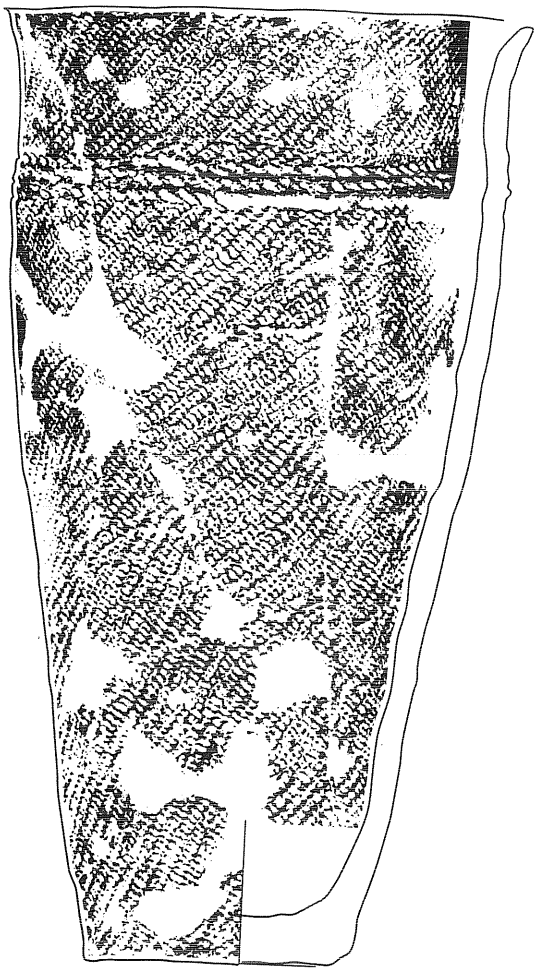
第645図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（27）



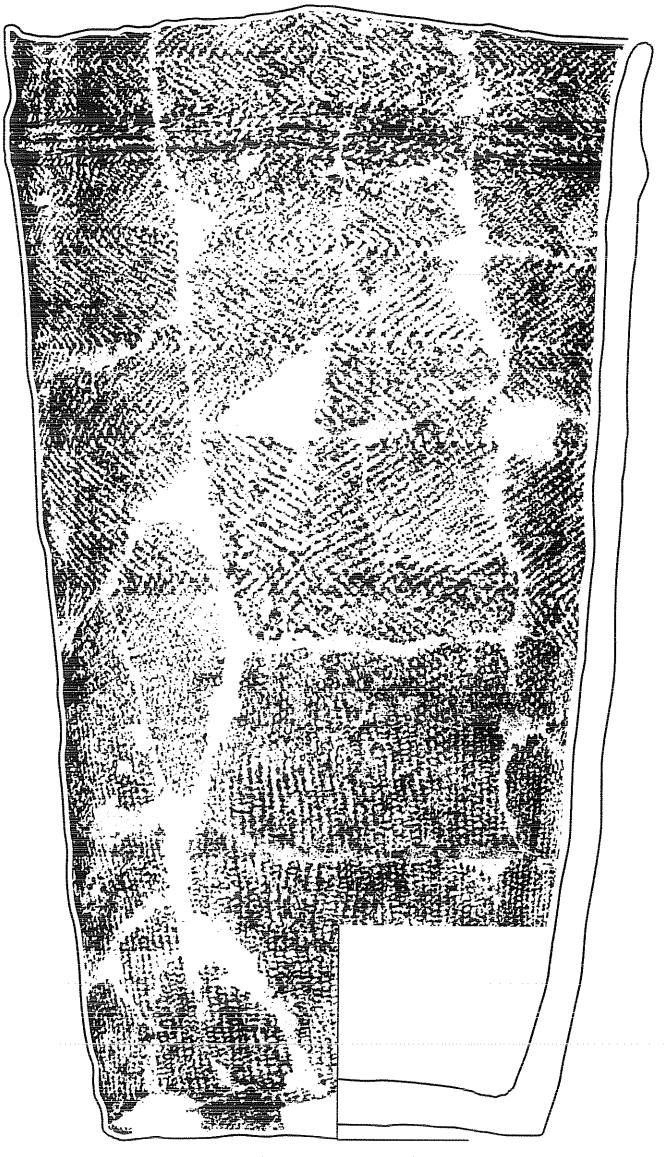
第646図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（28）



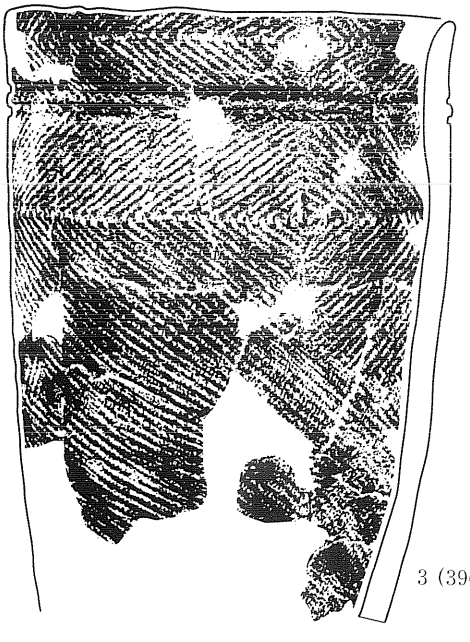
第647図　ＳＴ396・504谷Ⅴ層出土土器（29）



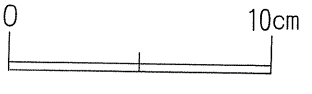
1（396・504－291）



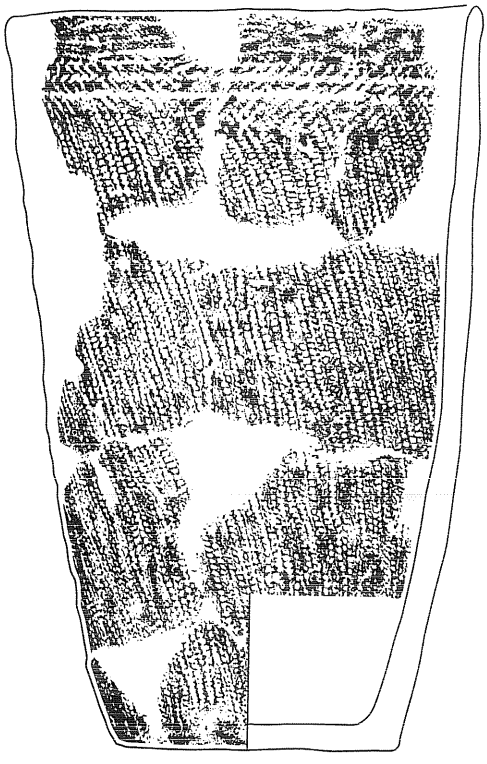
2（396・504－292）



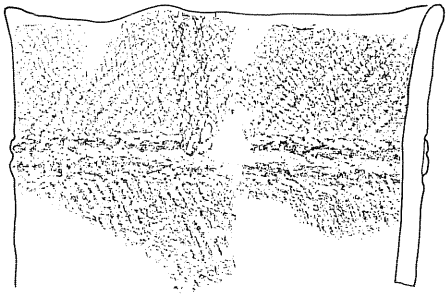
3（396・504－293）



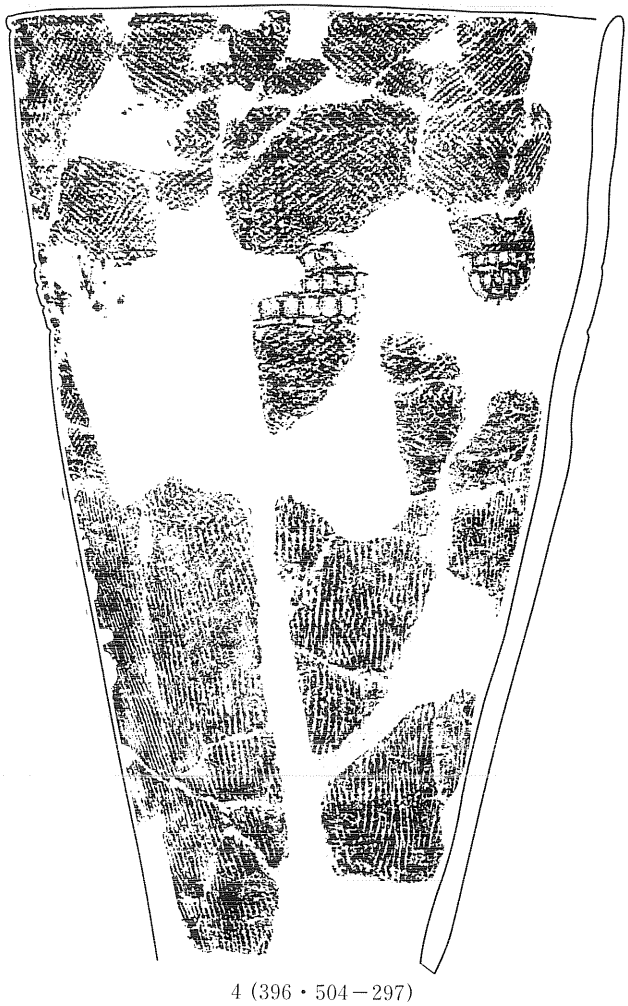
第648図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（30）



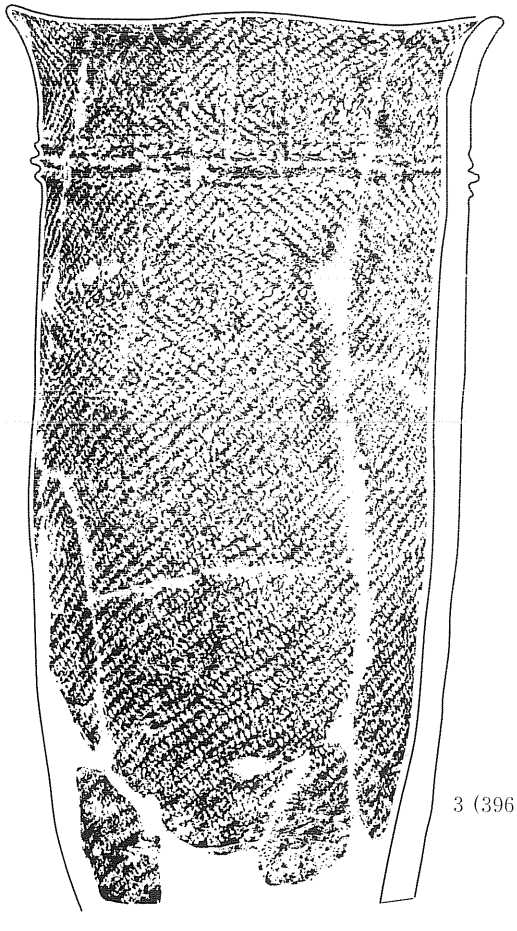
1（396・504－294）



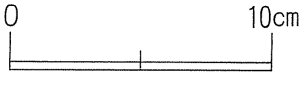
2（396・504－295）



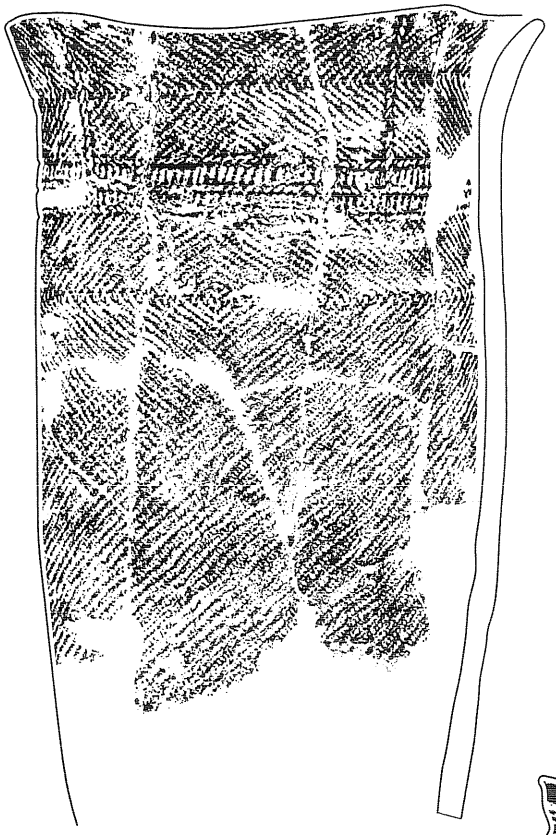
4（396・504－297）



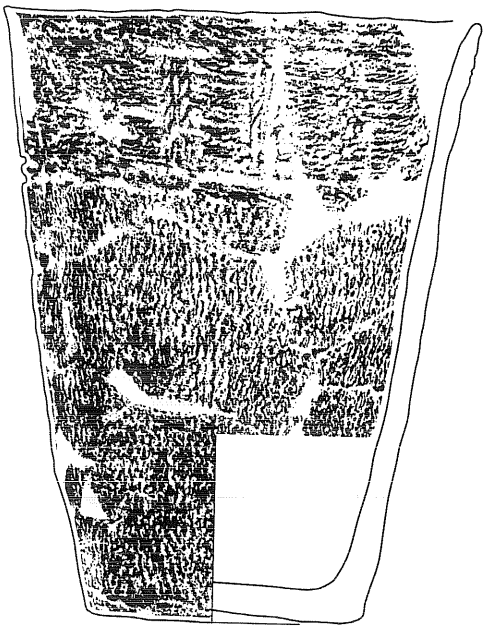
3（396・504－296）



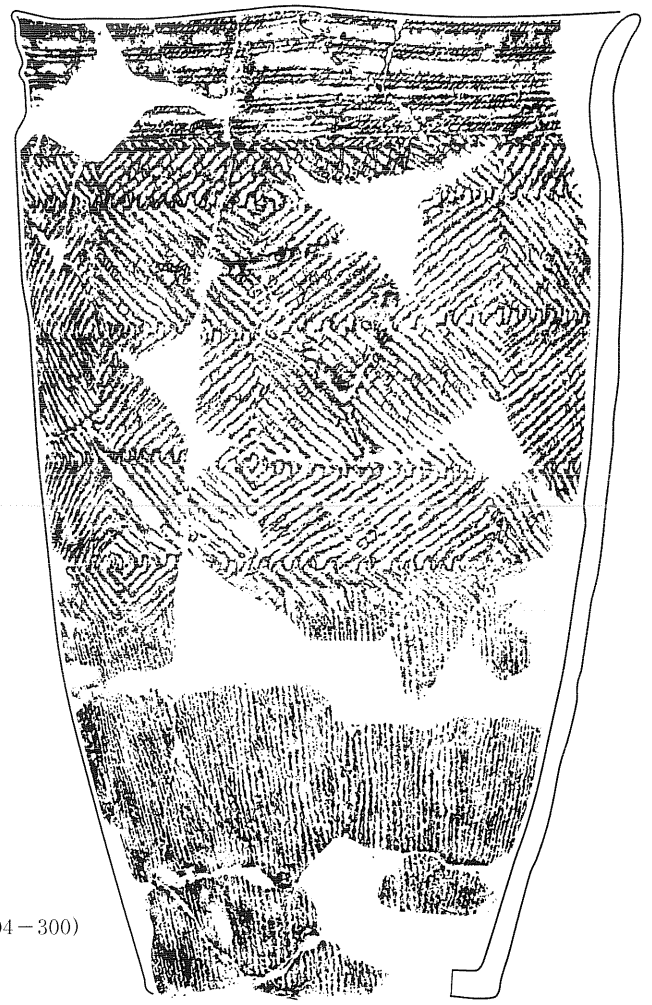
第649図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（31）



1（396・504－298）



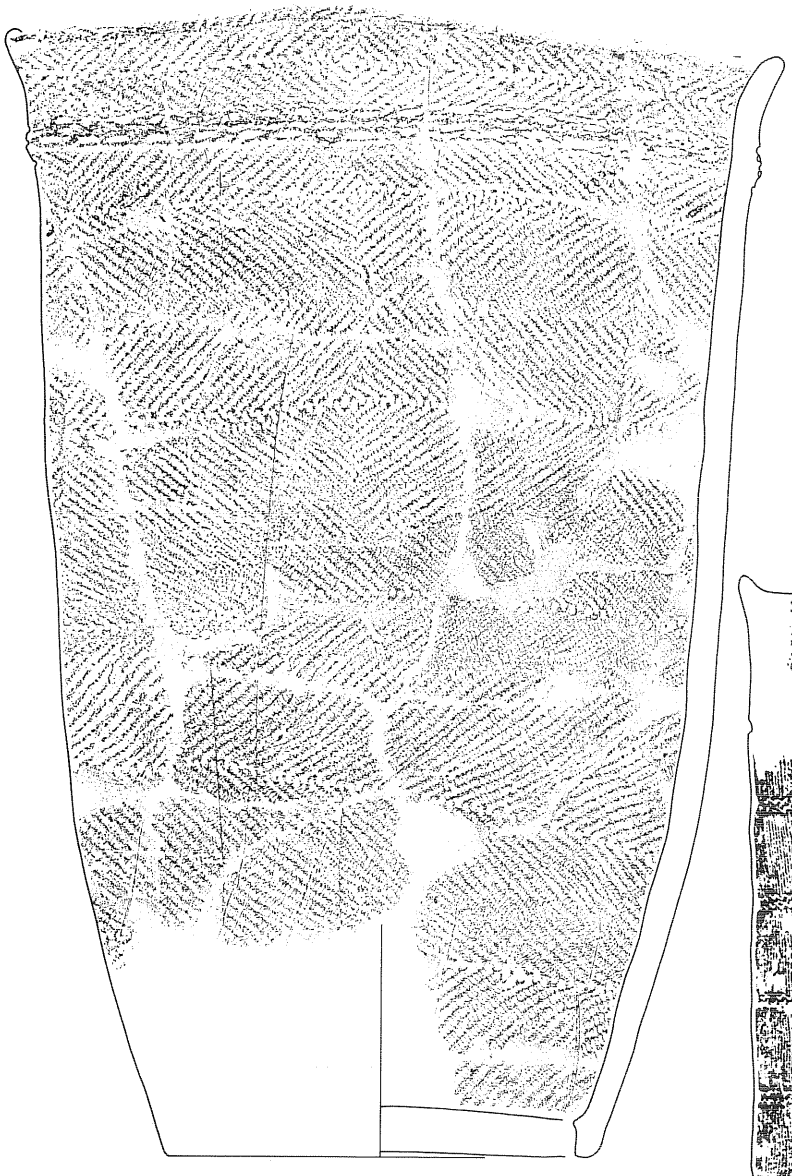
2（396・504－299）



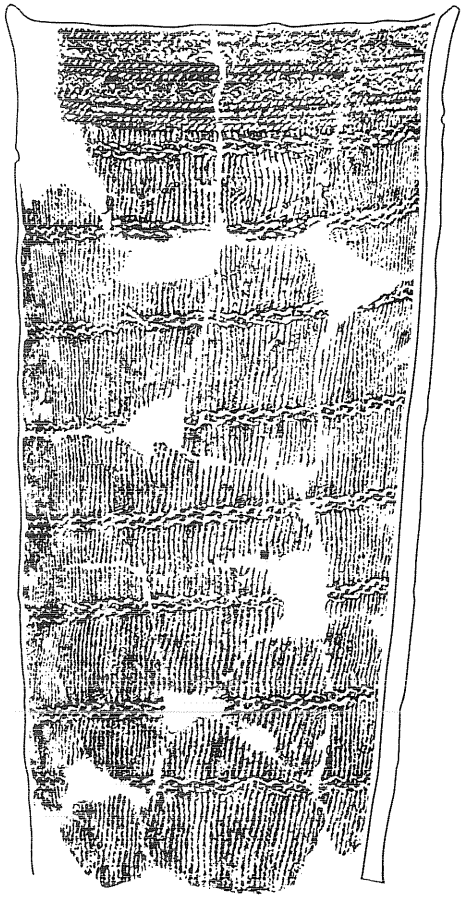
3（396・504－300）

0　10cm

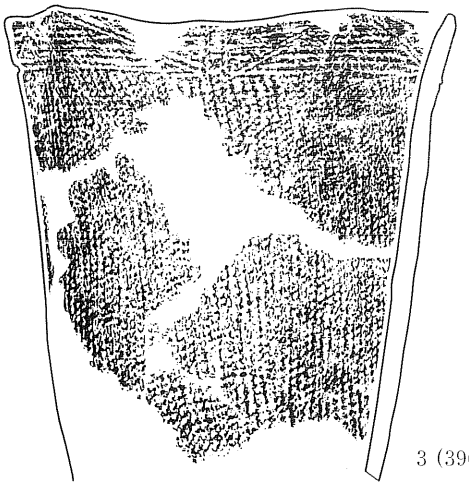
第650図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（32）



1（396・504－301）



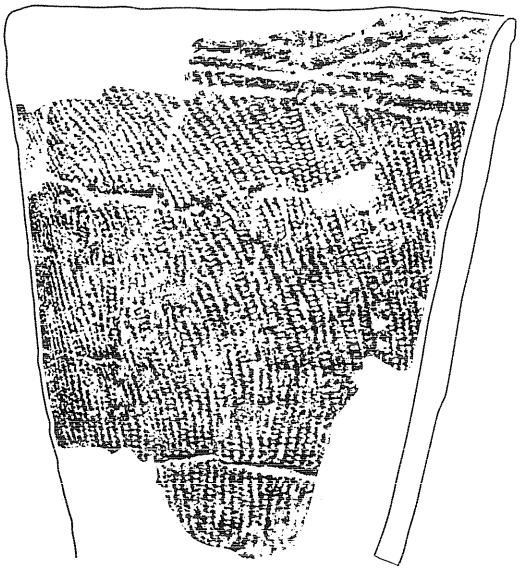
2（396・504－302）



3（396・504－303）

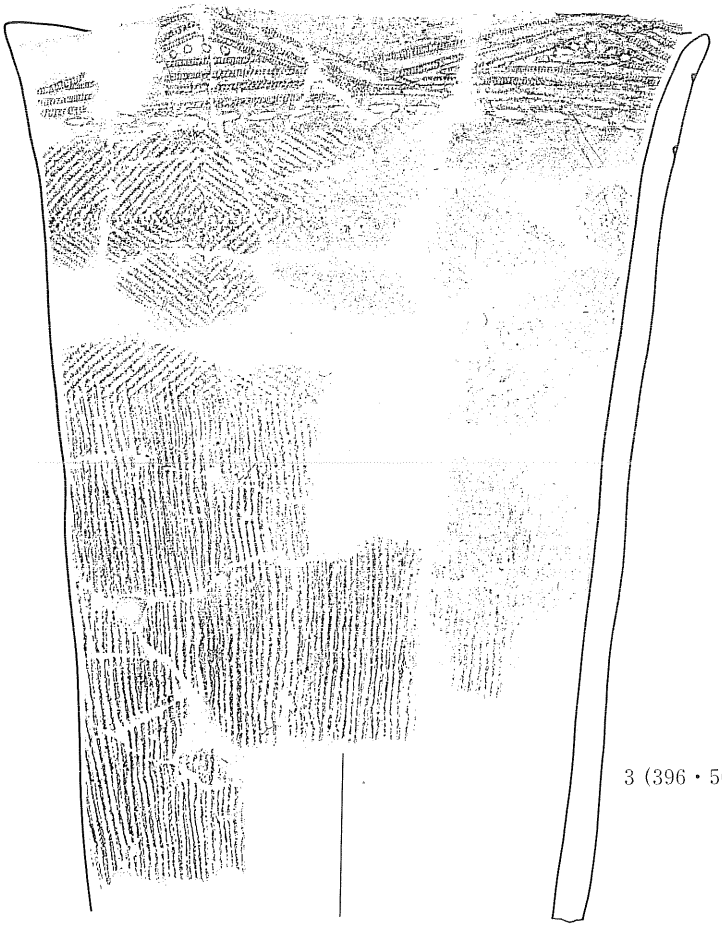
0　10cm

第651図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（33）

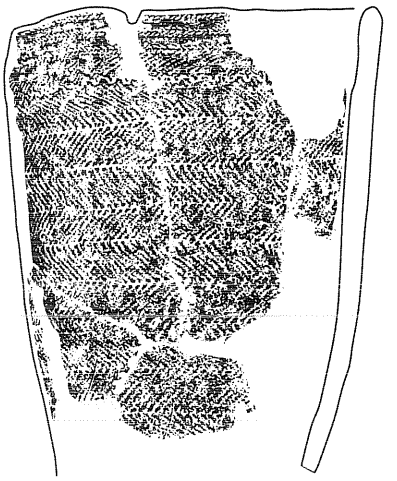


1（396・504－304）

2（396・504－305）



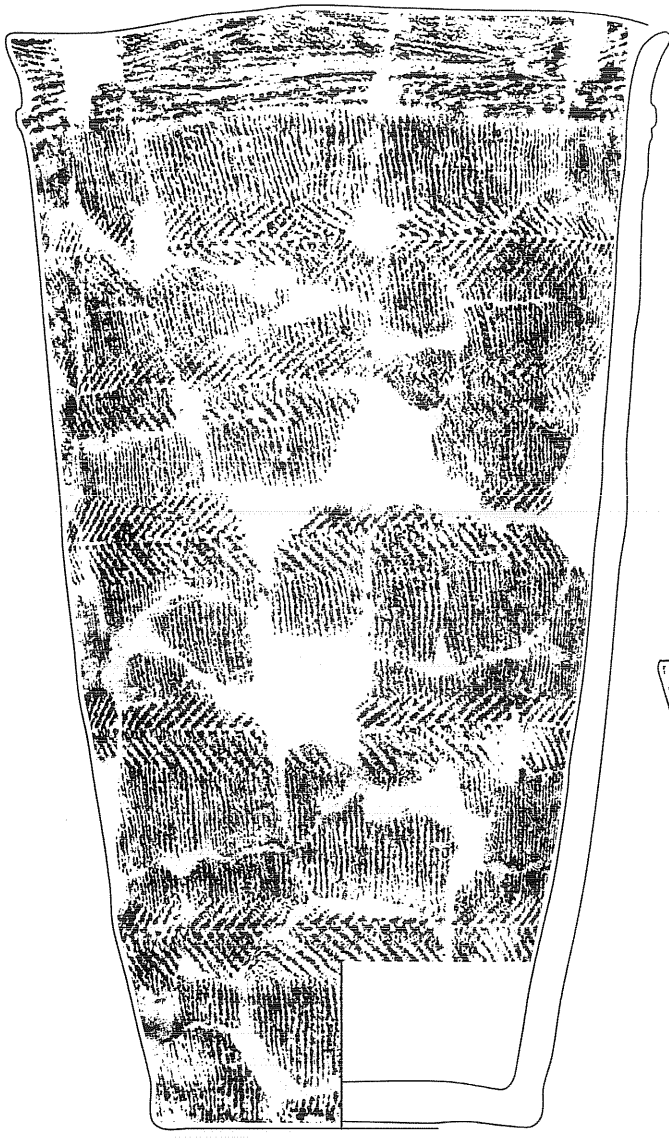
3（396・504－306）



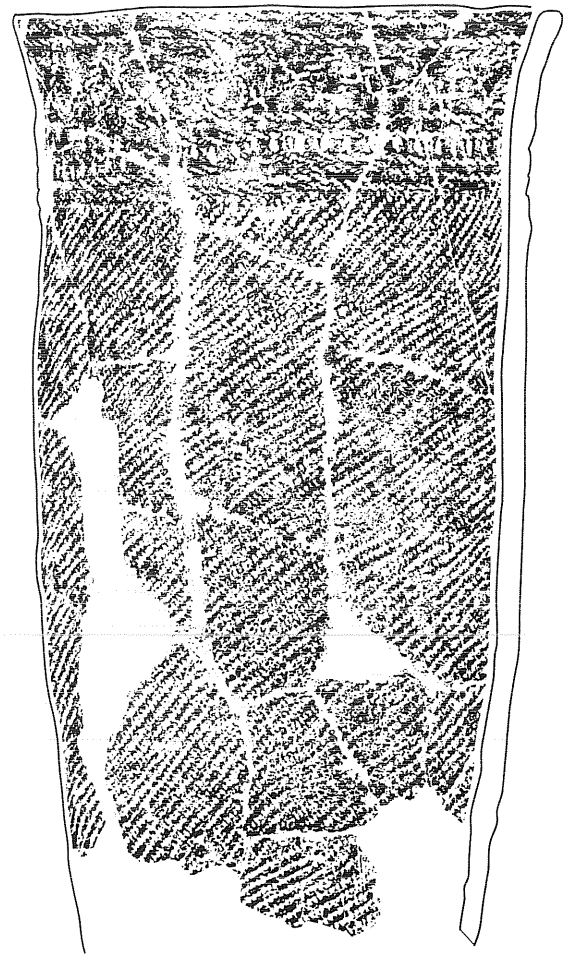
4（396・504－307）

0　10cm

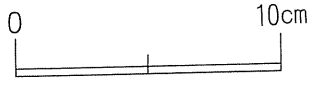
第652図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（34）



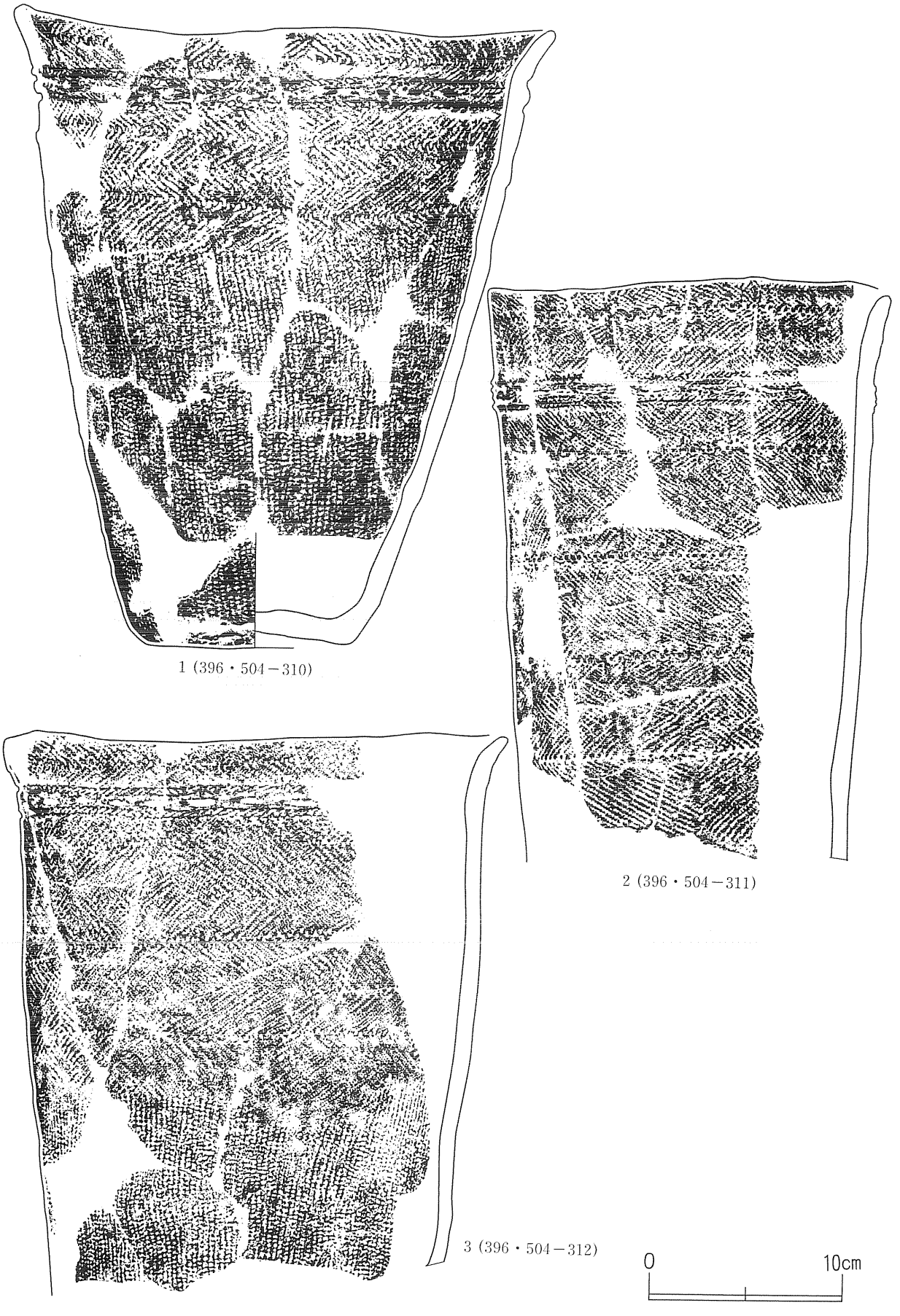
1（396・504－308）



2（396・504－309）



第653図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（35）

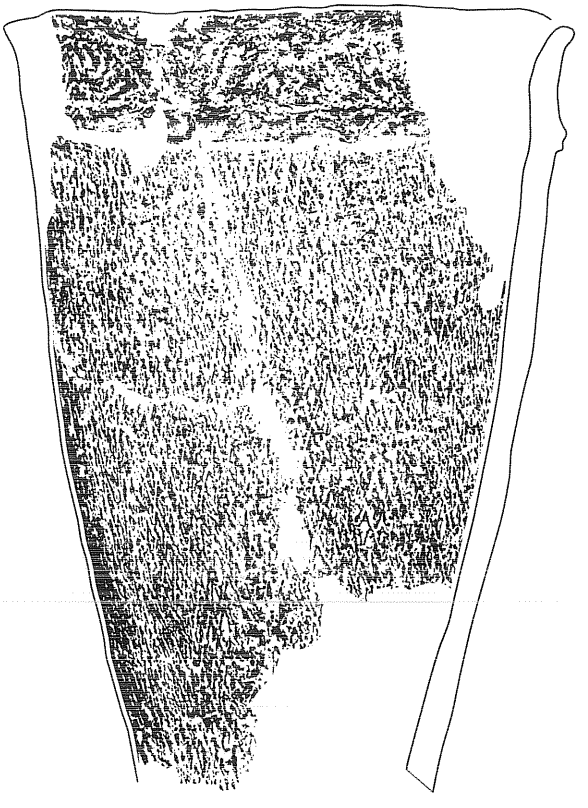


第654図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（36）

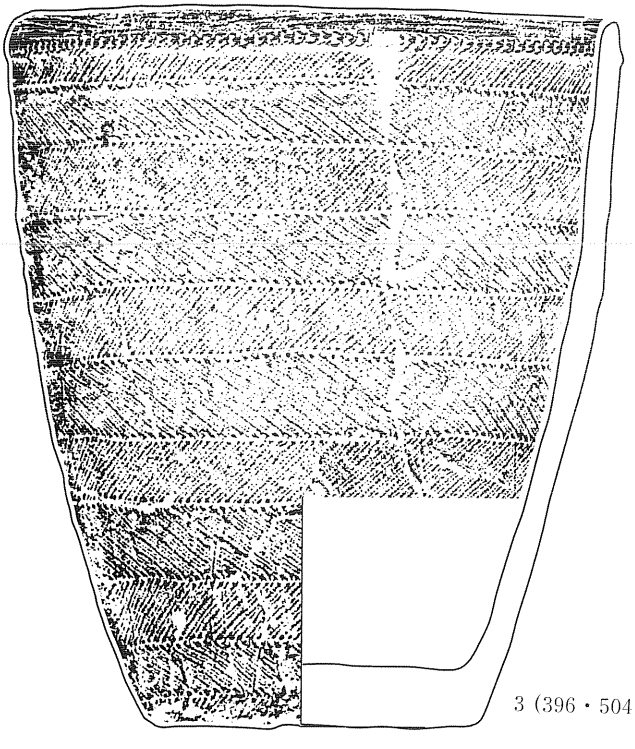
第655図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（37）

1（396・504－315）

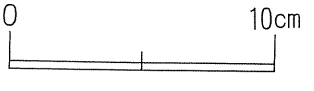
2（396・504－316）



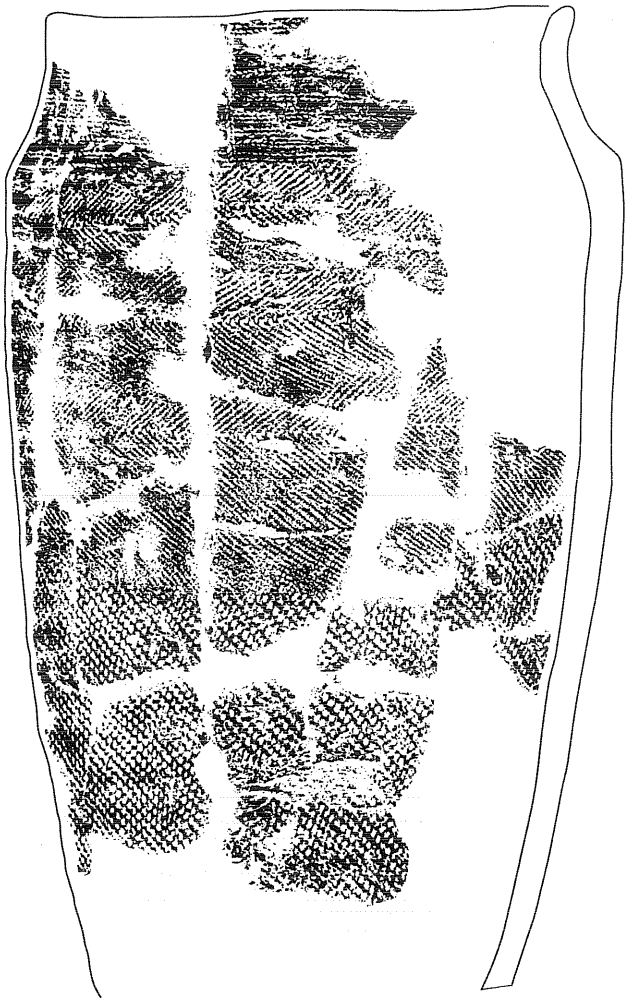
4（396・504－318）



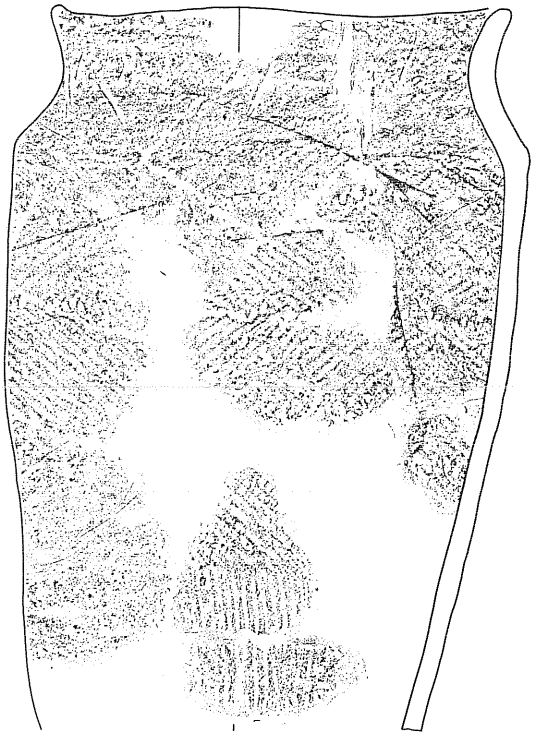
3（396・504－317）



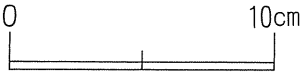
第656図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（38）



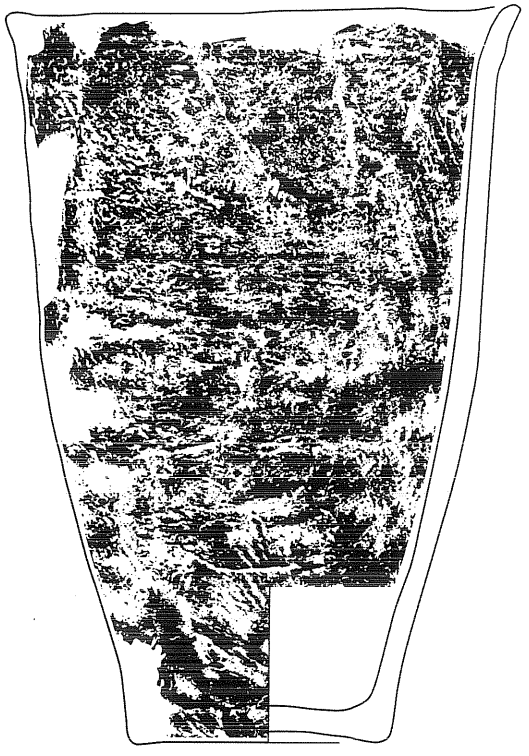
1（396・504－319）



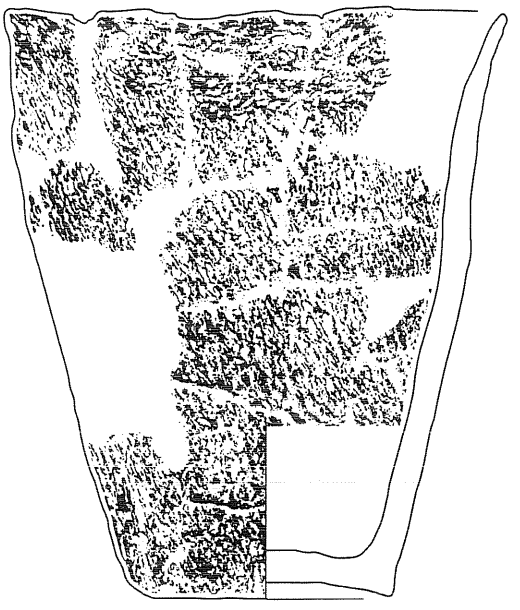
2（396・504－320）



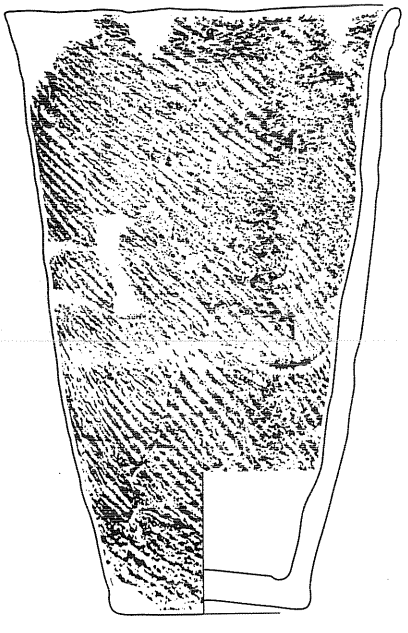
第657図　ＳＴ396・504谷Ｖ層出土土器（39）



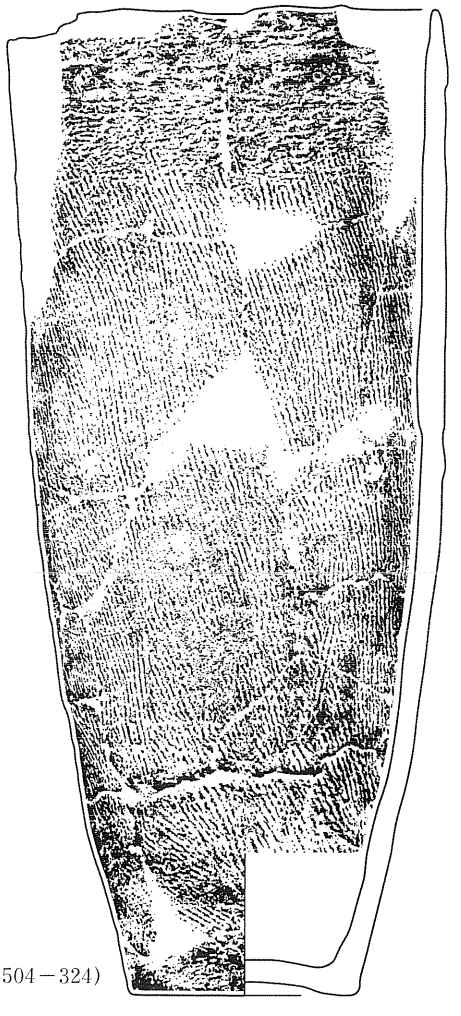
1（396・504－321）



2（396・504－322）



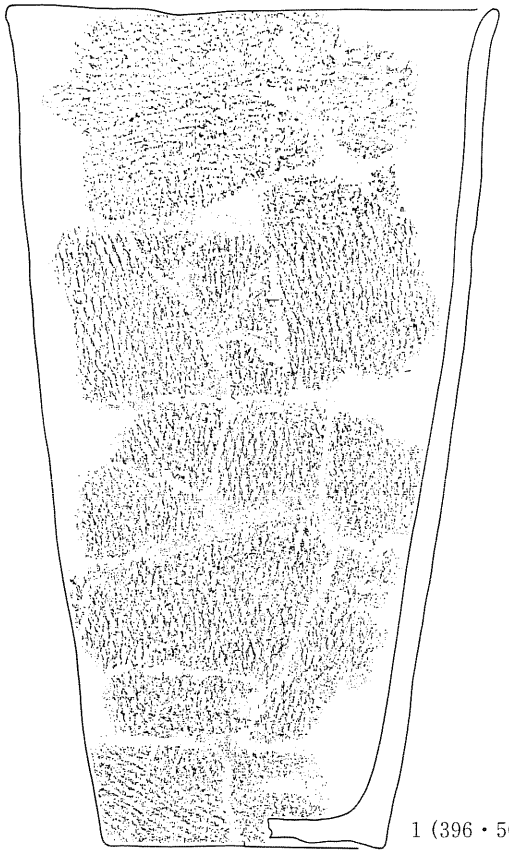
3（396・504－323）



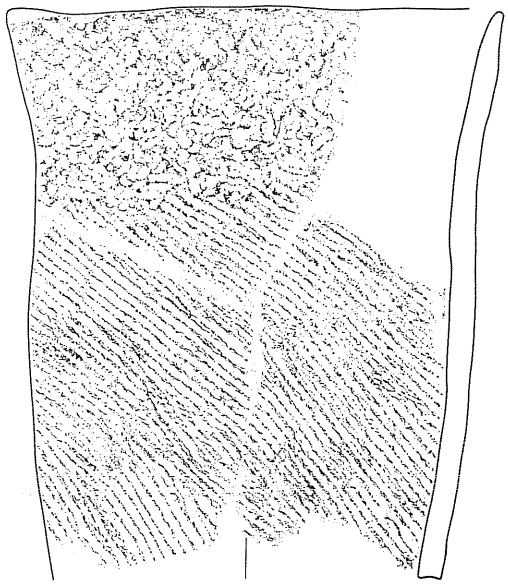
4（396・504－324）

0　10cm

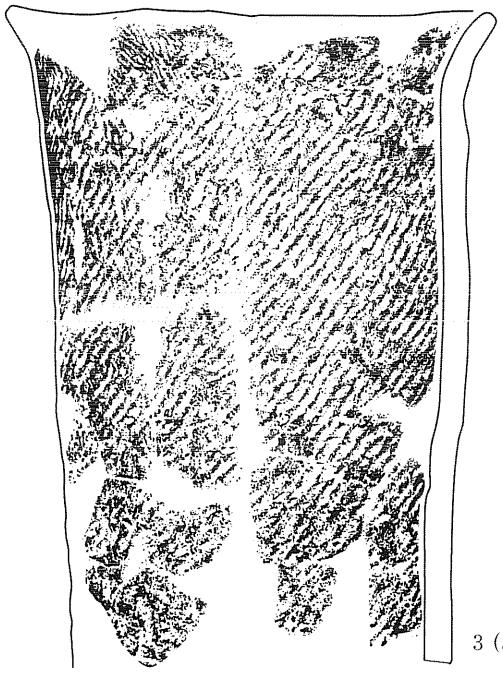
第658図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（１）



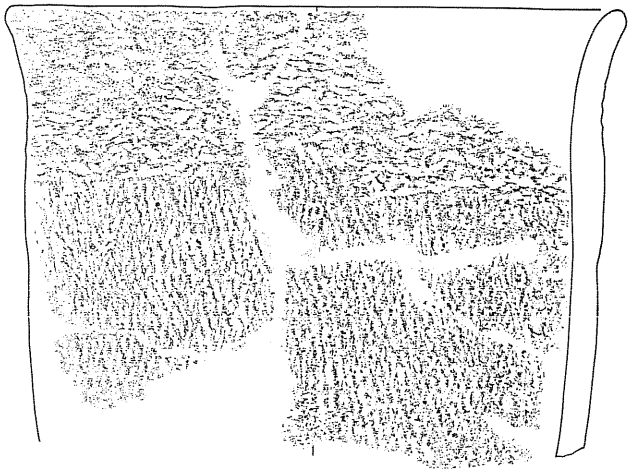
1（396・504－325）



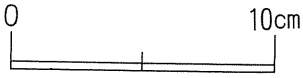
2（396・504－326）



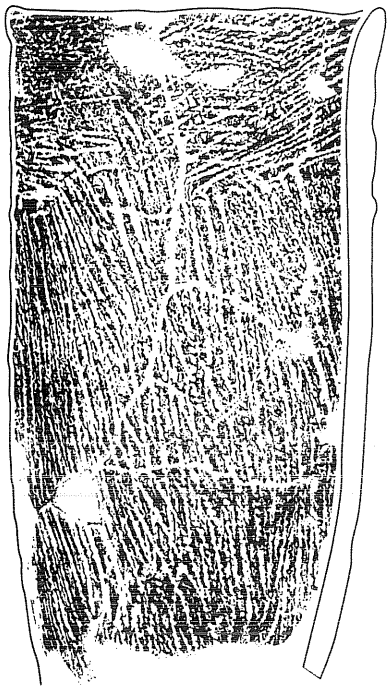
3（396・504－327）



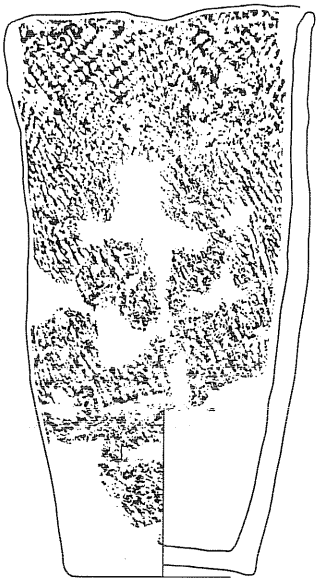
4（396・504－328）



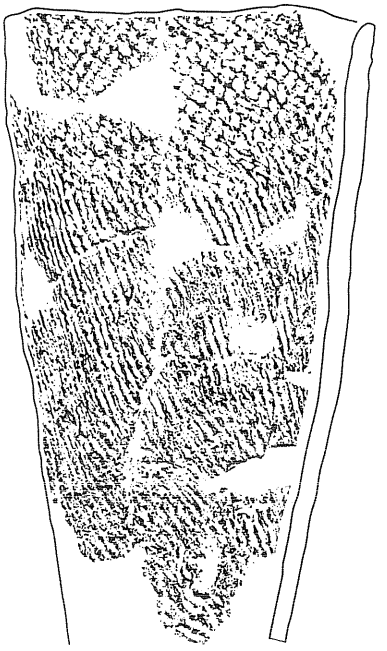
第659図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（２）



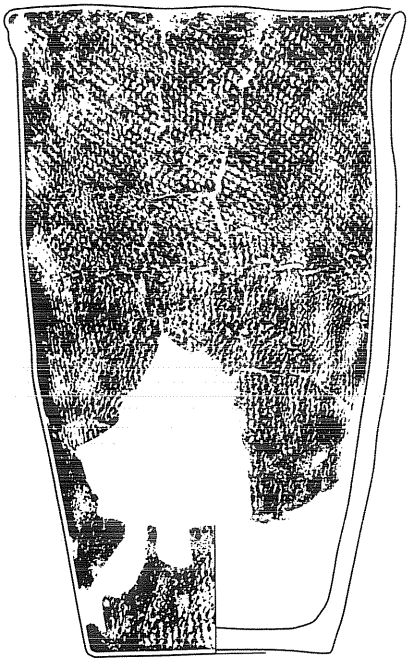
1（396・504－329）



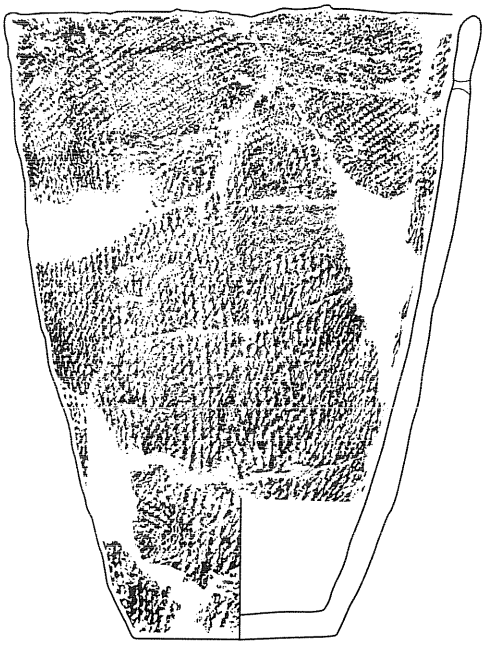
2（396・504－330）



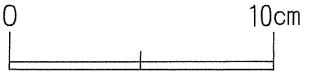
3（396・504－331）



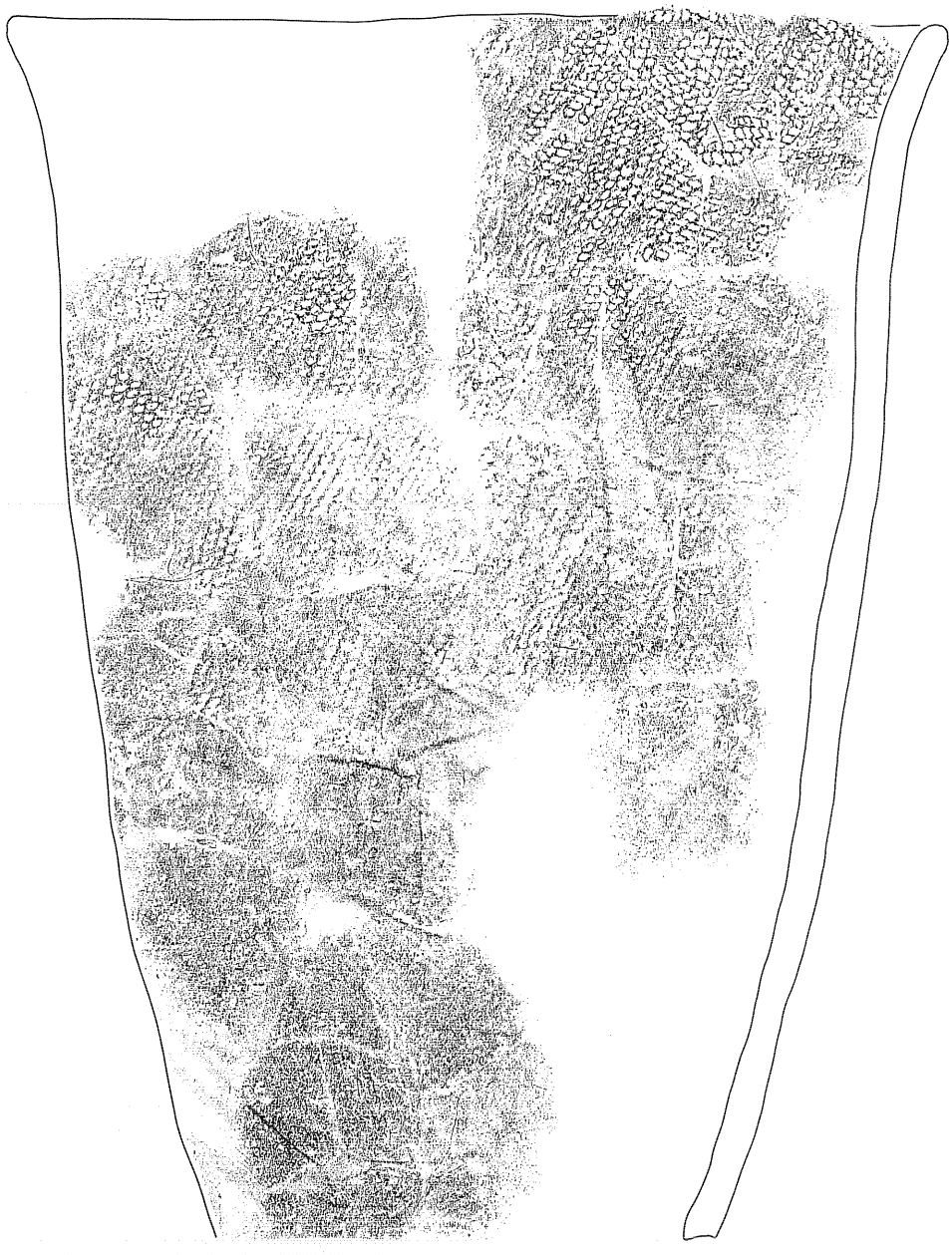
4（396・504－332）



5（396・504－333）



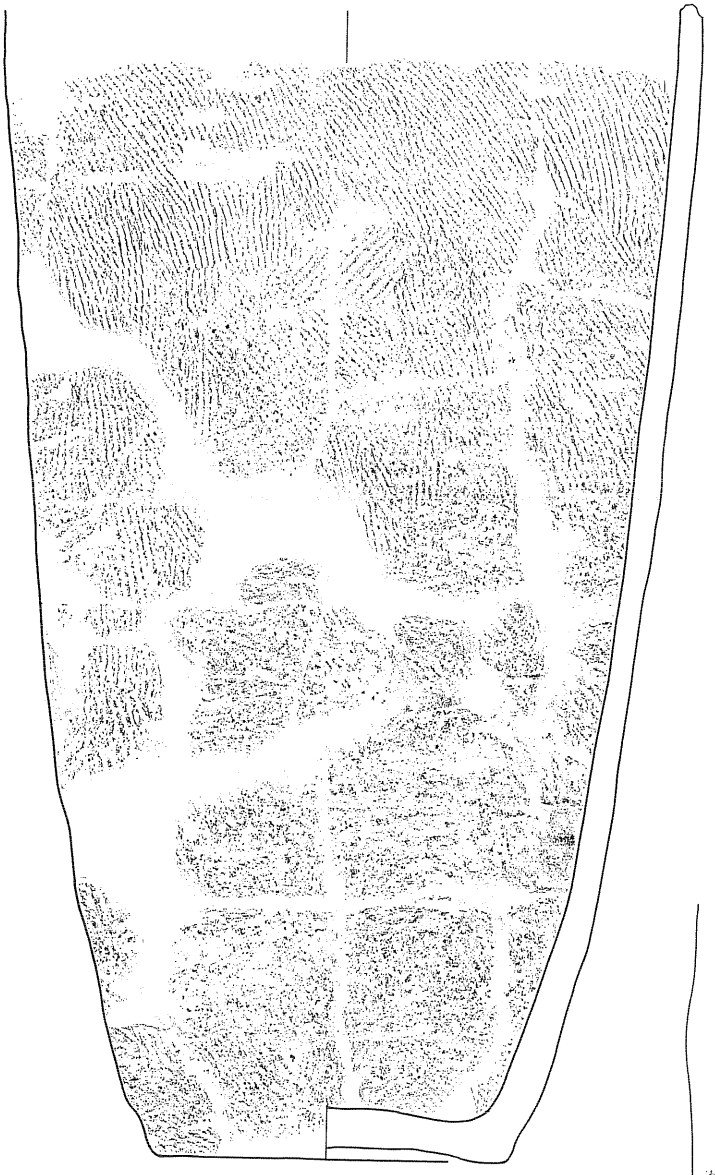
第660図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（３）



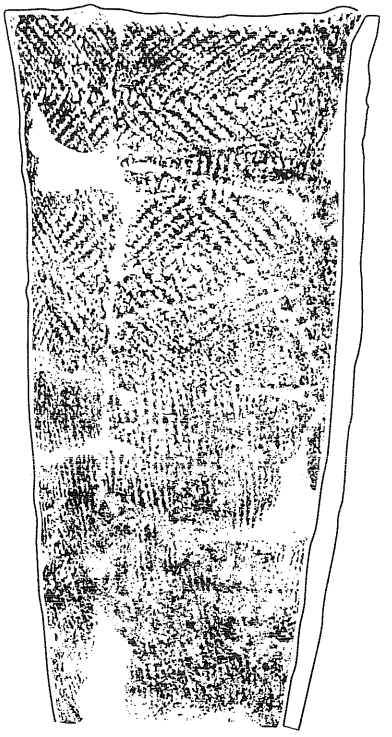
1（396・504－334）

0　10cm

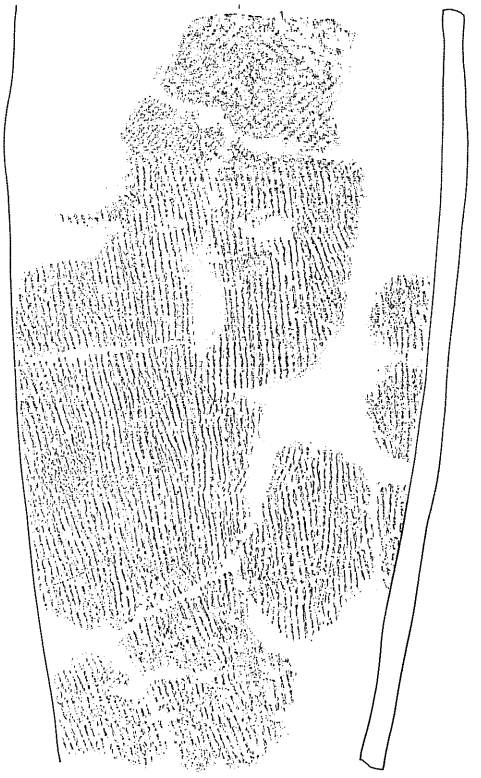
第661図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（４）



1（396・504－335）



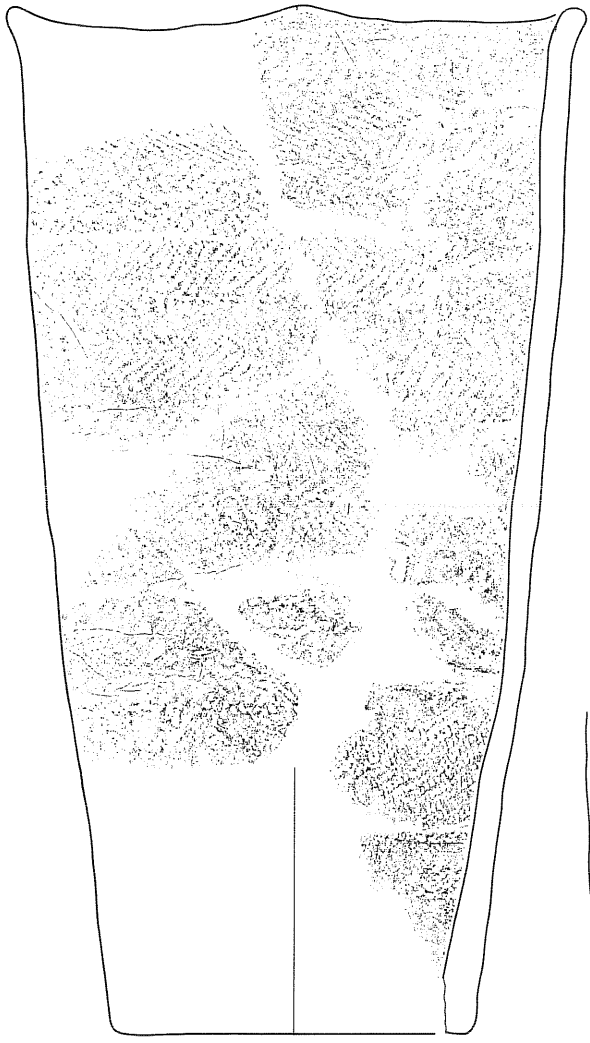
2（396・504－336）



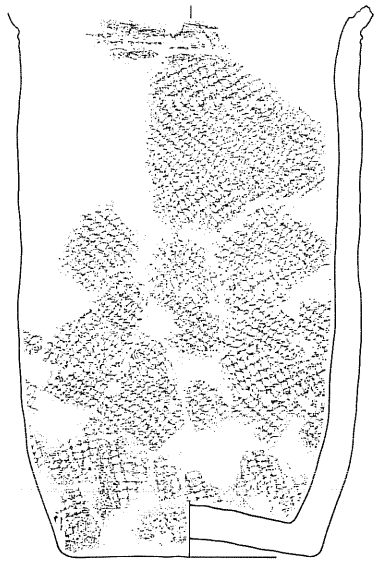
3（396・504－337）

0　10cm

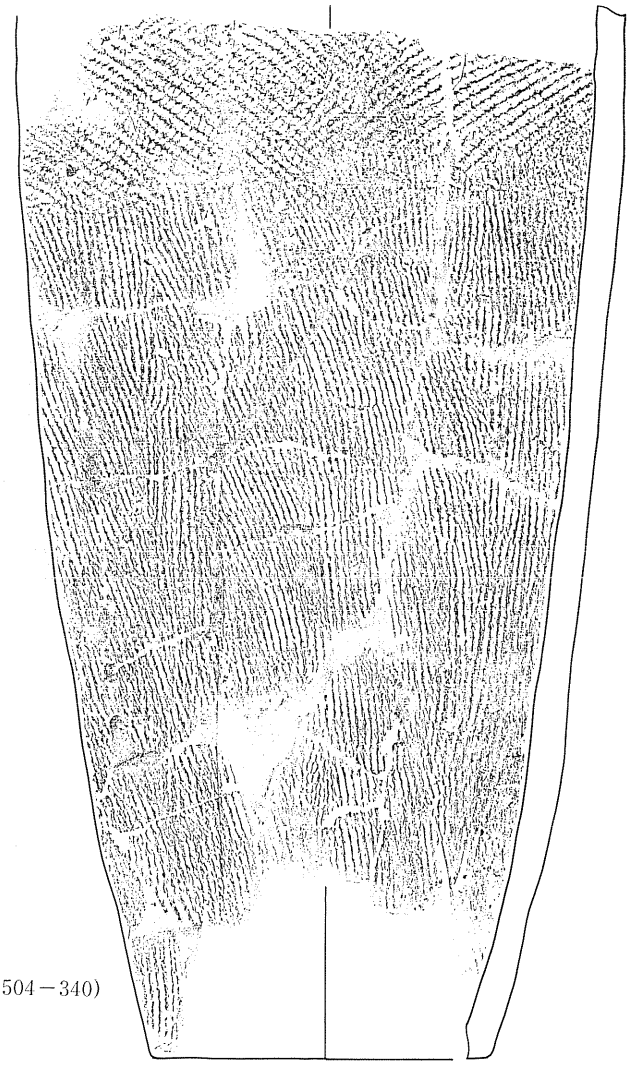
第662図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（５）



1（396・504－338）



2（396・504－339）



3（396・504－340）

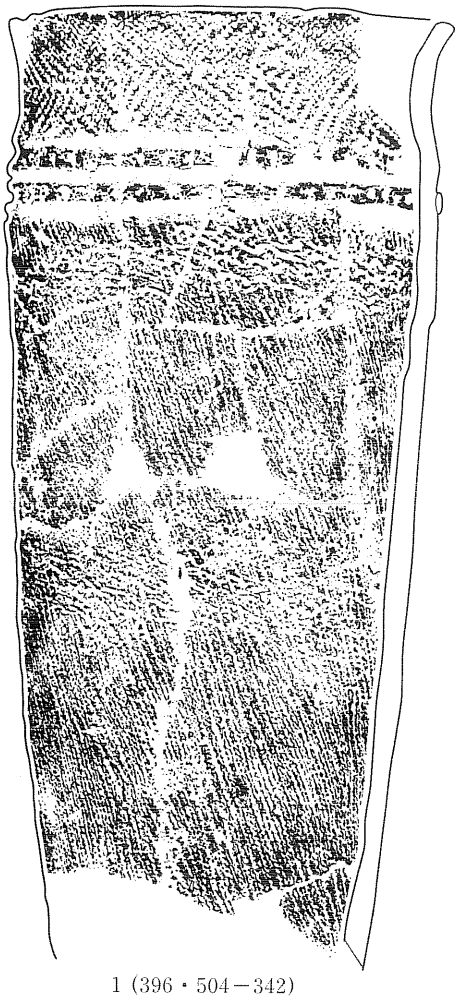
0　10cm

第663図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（６）

1（396・504－341）

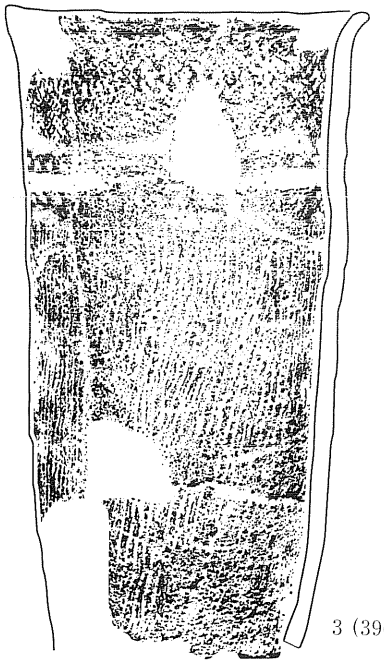
0　10cm

第664図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（７）

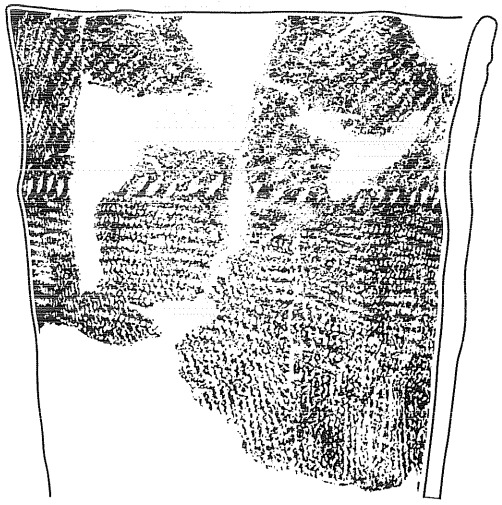


1（396・504－342）

2（396・504－343）



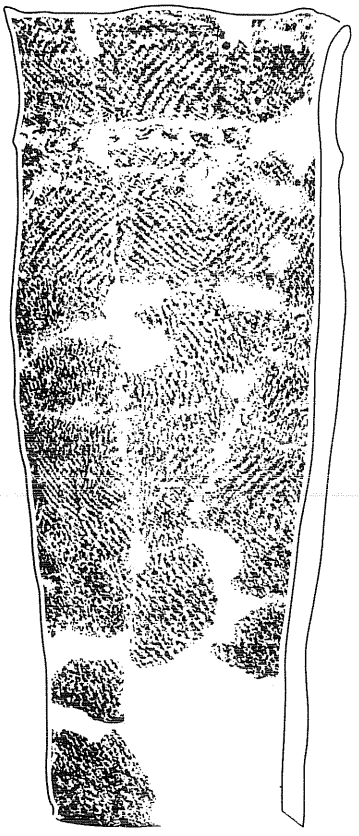
3（396・504－344）



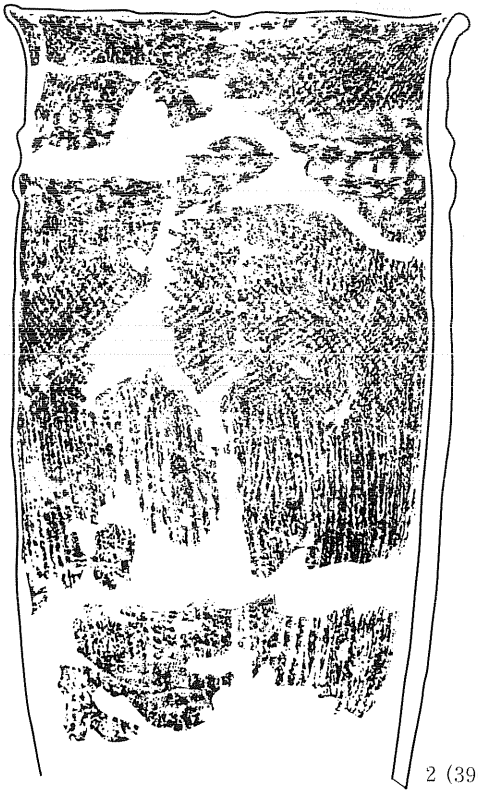
4（396・504－345）

0　10cm

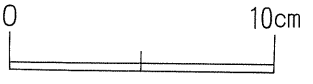
第665図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（８）



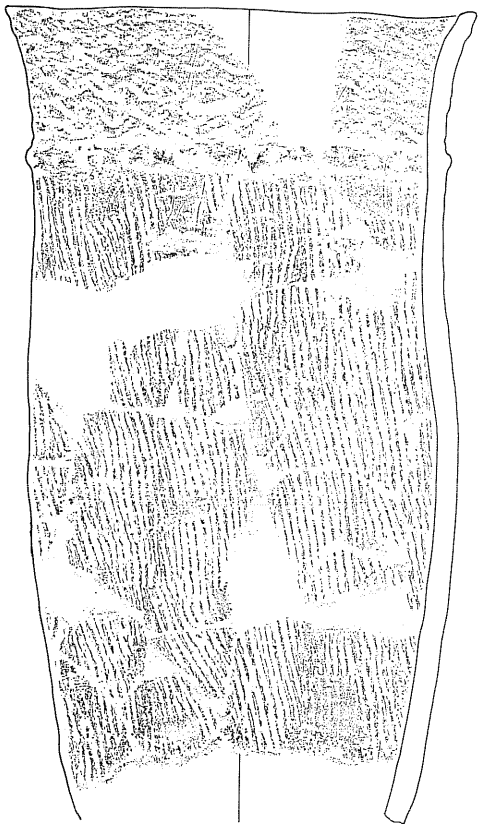
1（396・504－346）



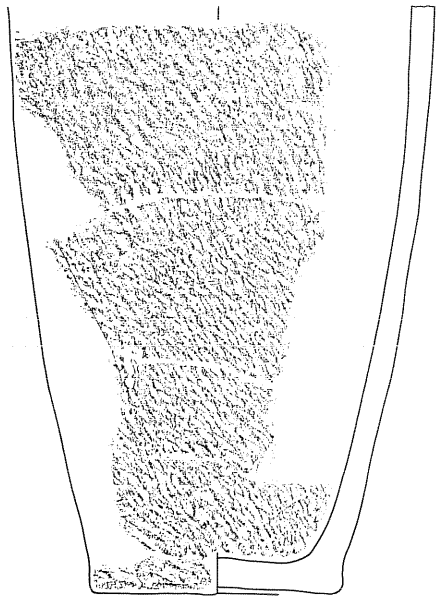
2（396・504－348）



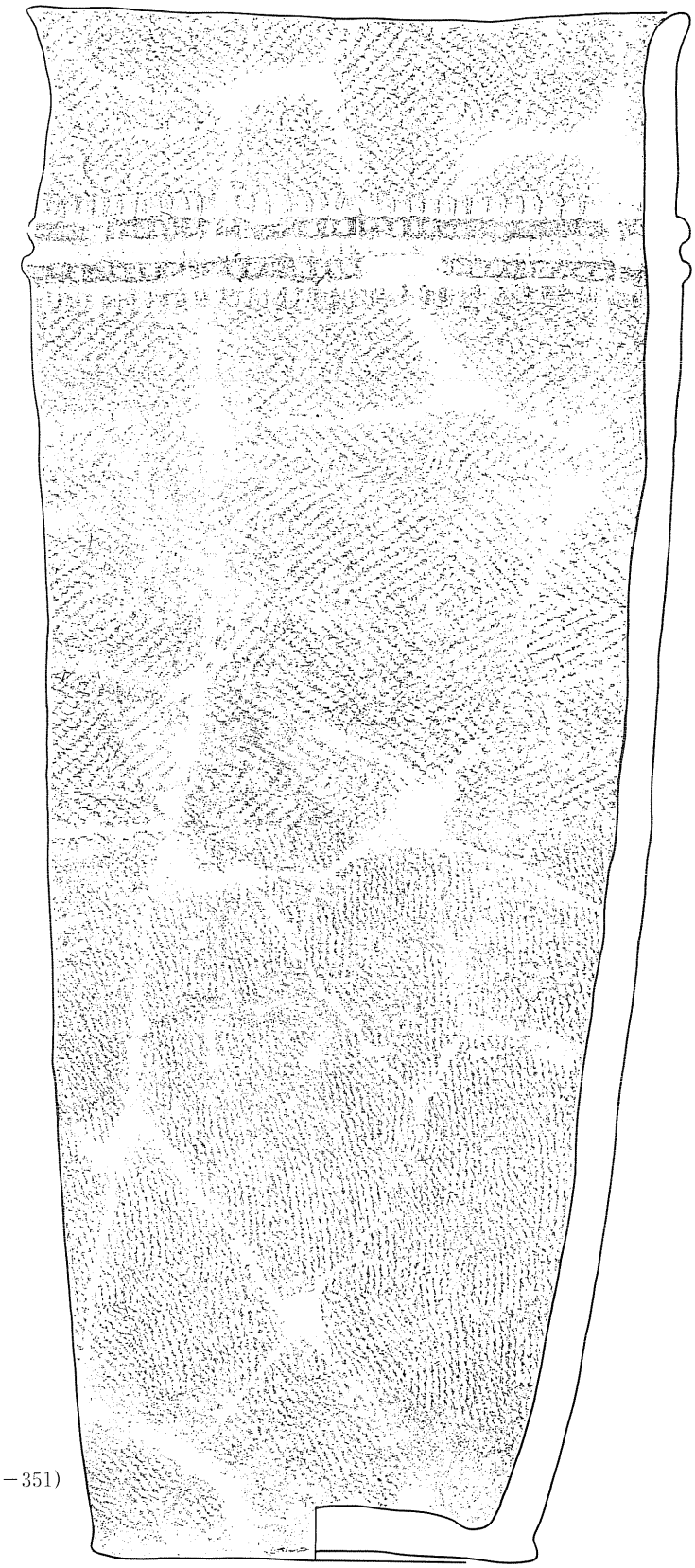
第666図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（９）



1（396・504－349）



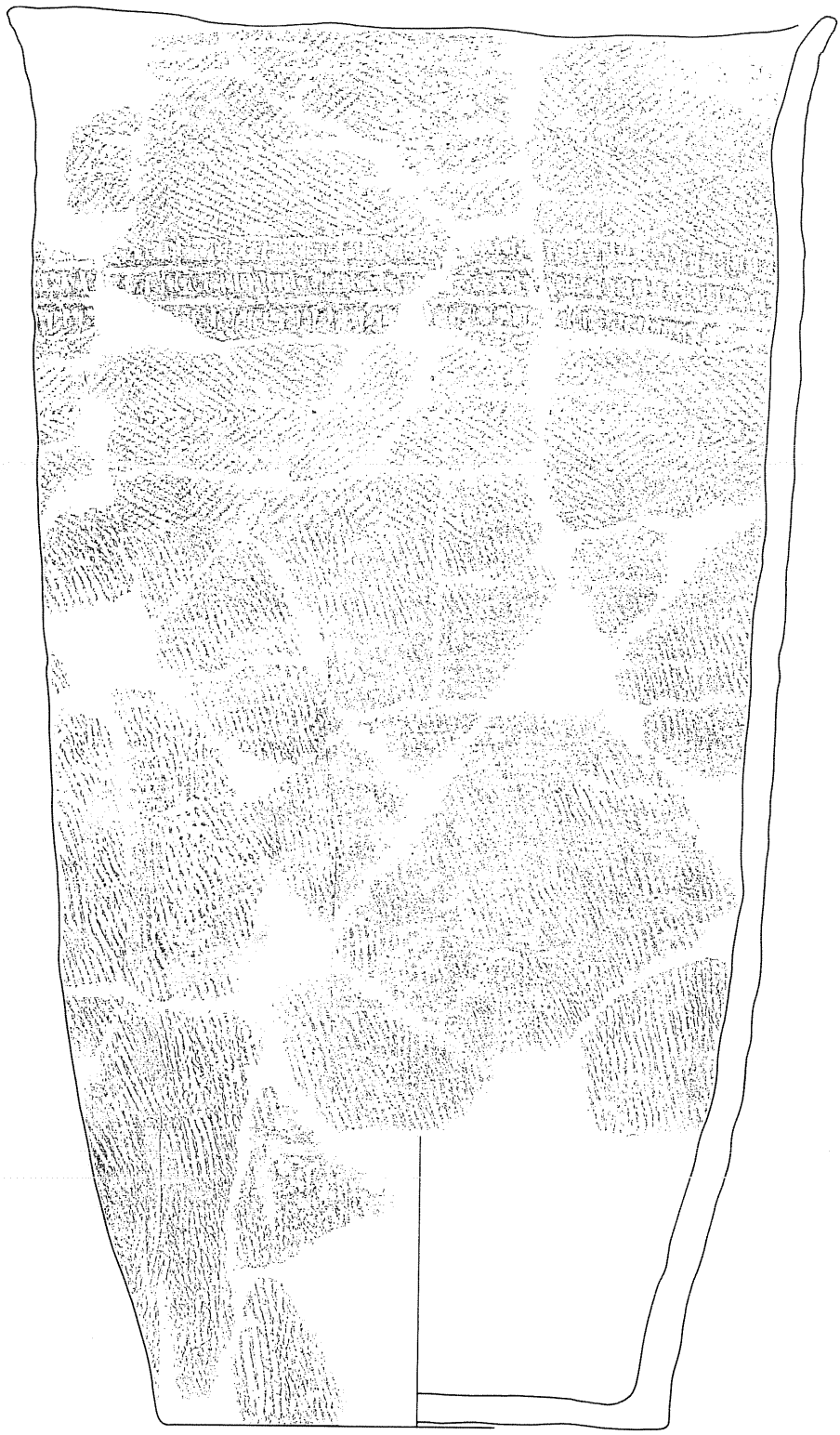
2（396・504－350）



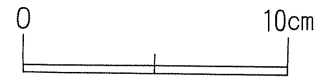
3（396・504－351）

0　10cm

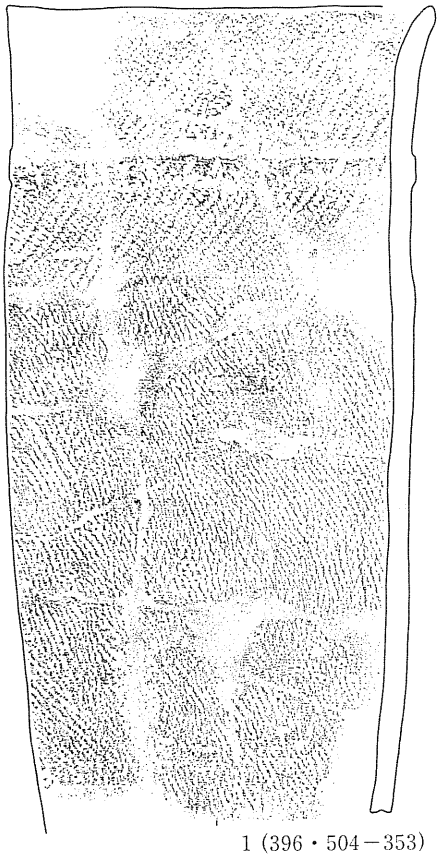
第667図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（10）



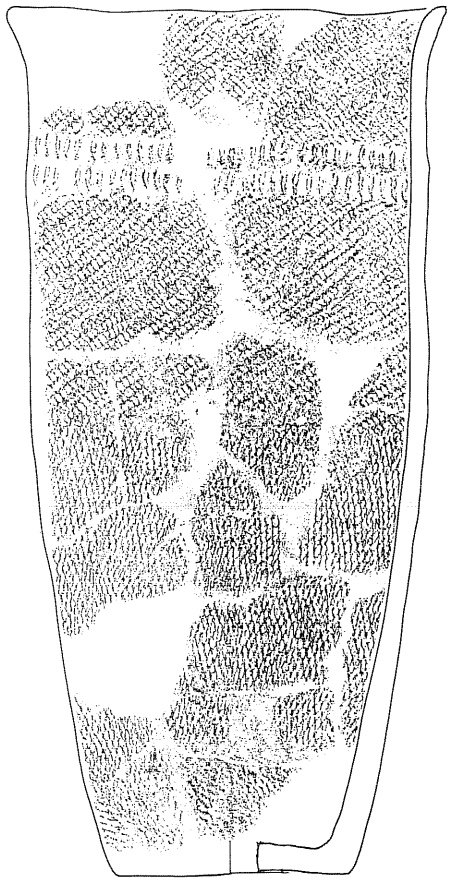
1（396・504－352）



第668図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（11）

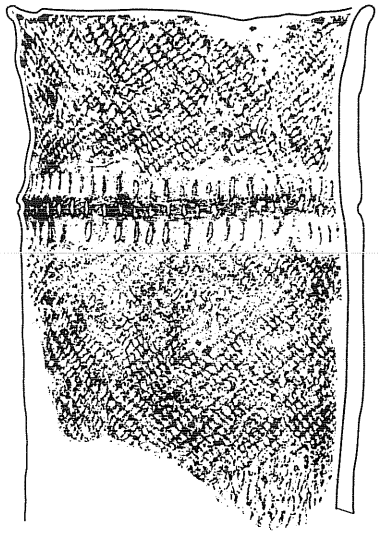


1（396・504－353）

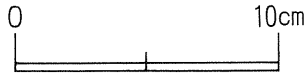


2（396・504－354）

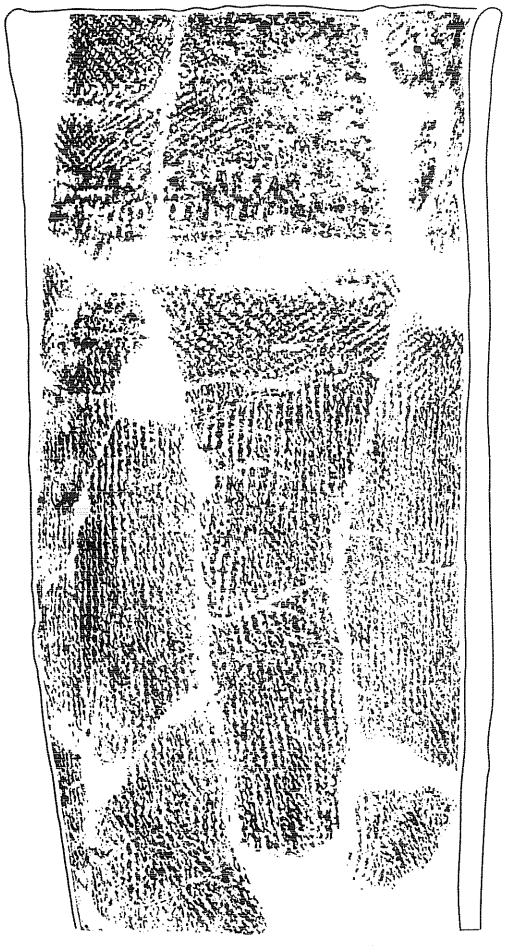
3（396・504－355）



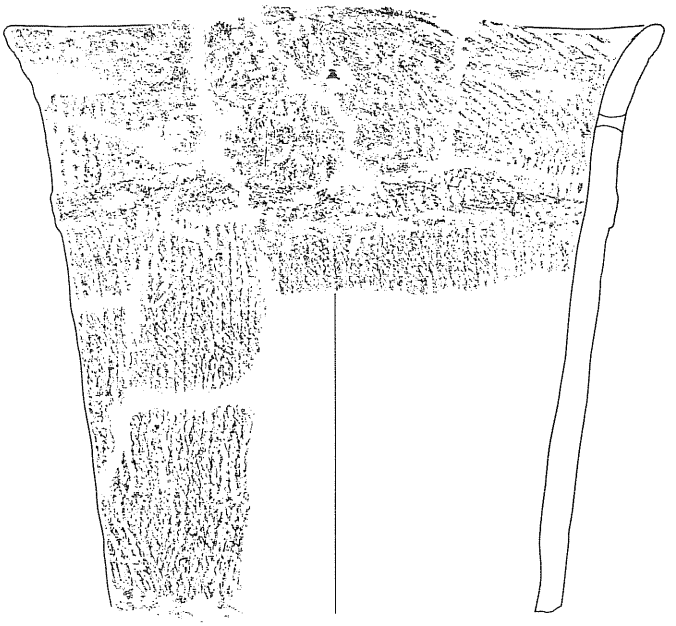
4（396・504－356）



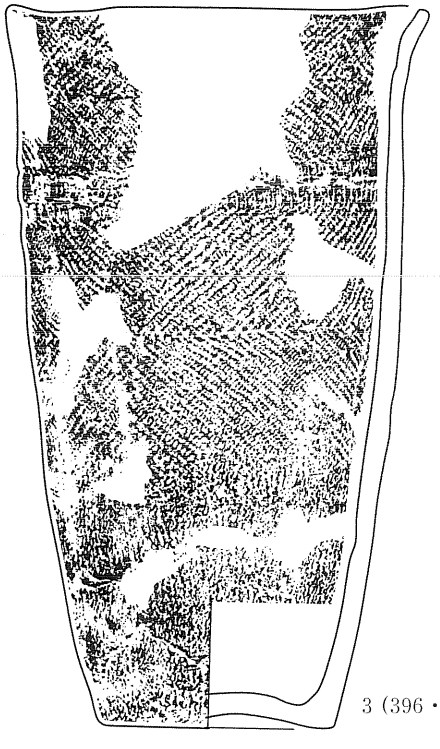
第669図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（12）



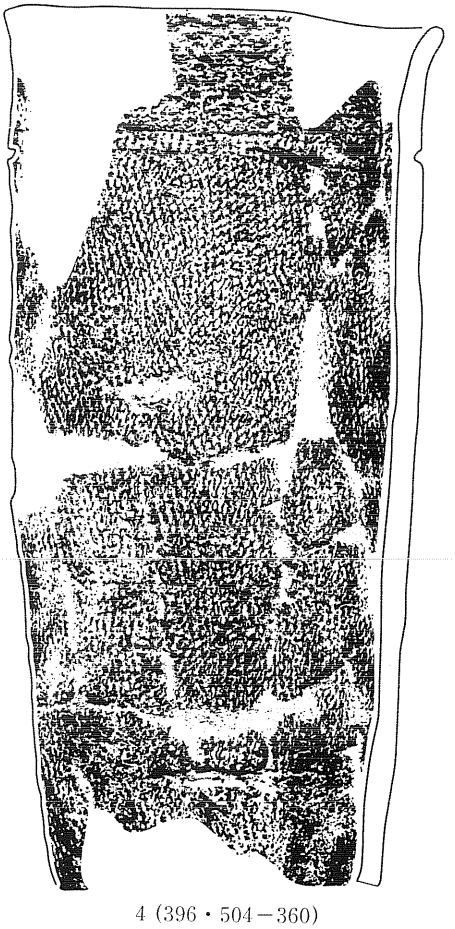
1（396・504－357）



2（396・504－358）



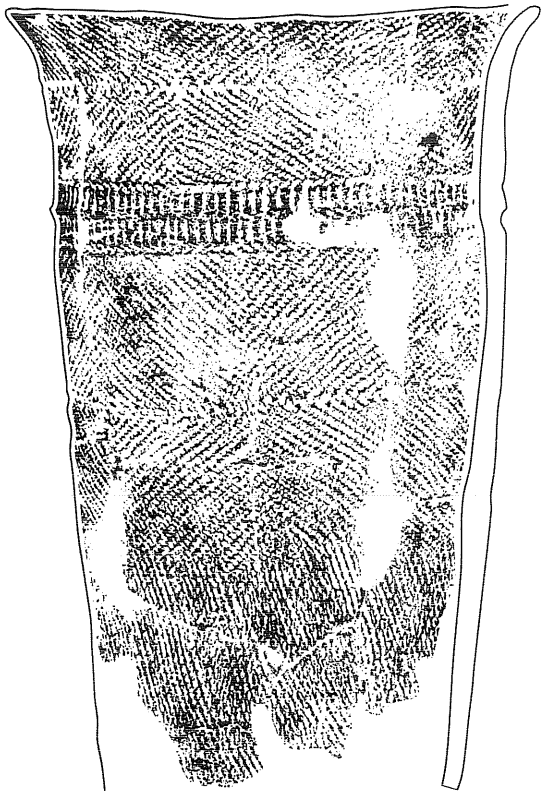
3（396・504－359）



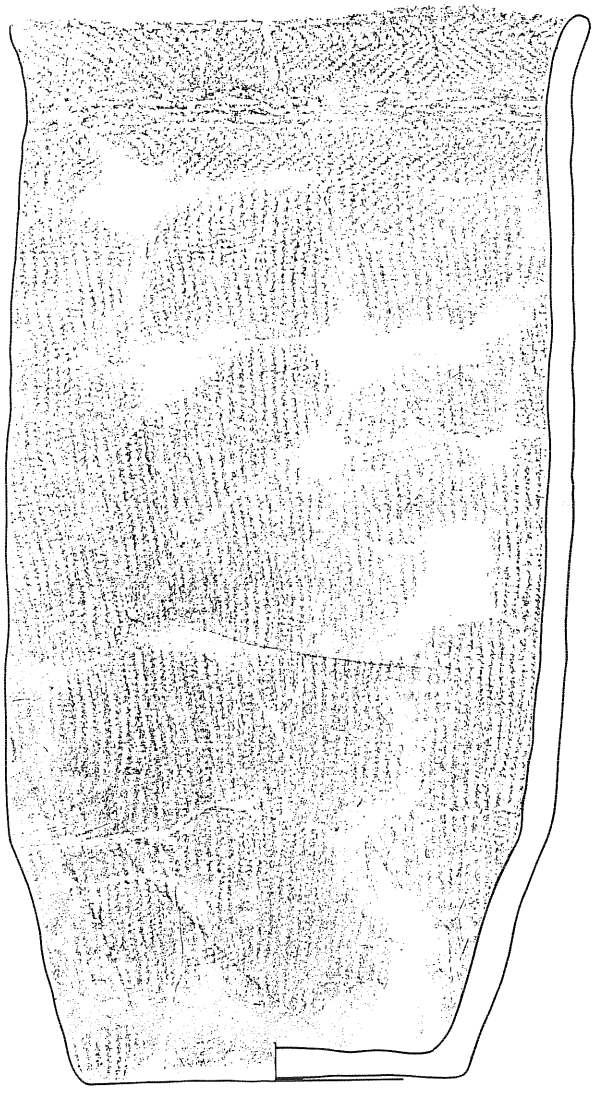
4（396・504－360）

0　10cm

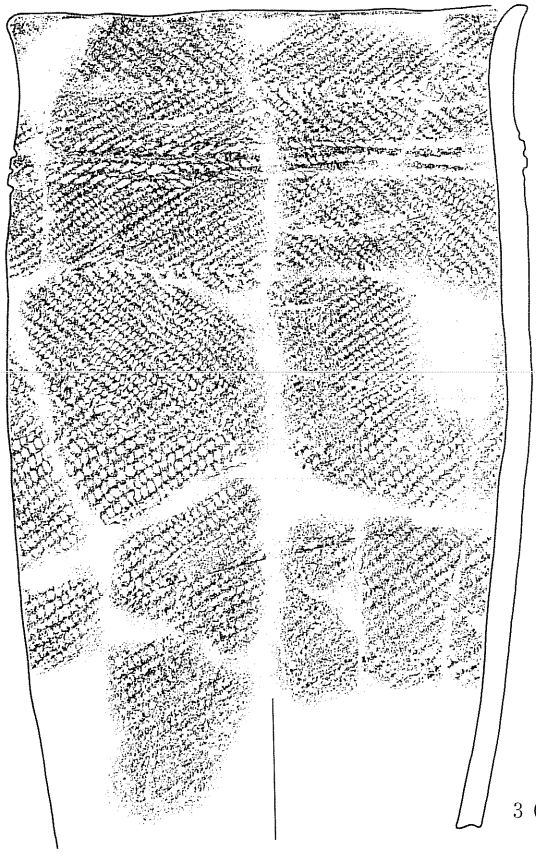
第670図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（13）



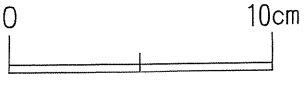
1（396・504－361）



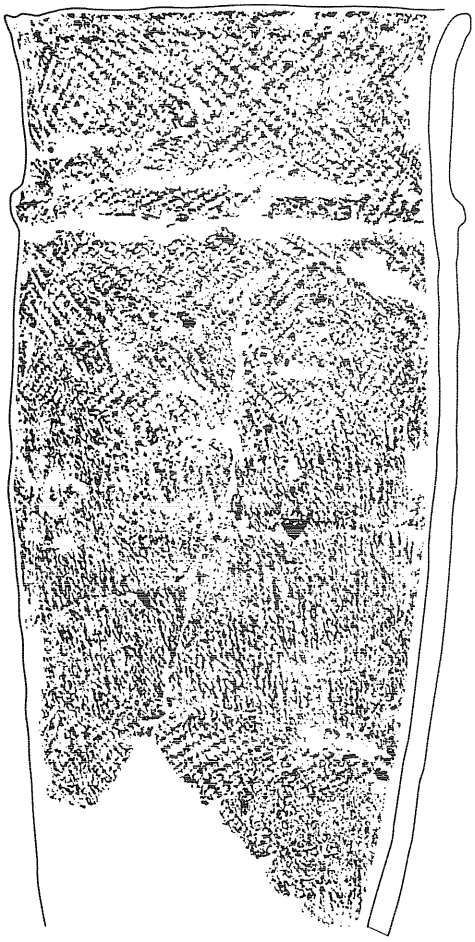
2（396・504－362）



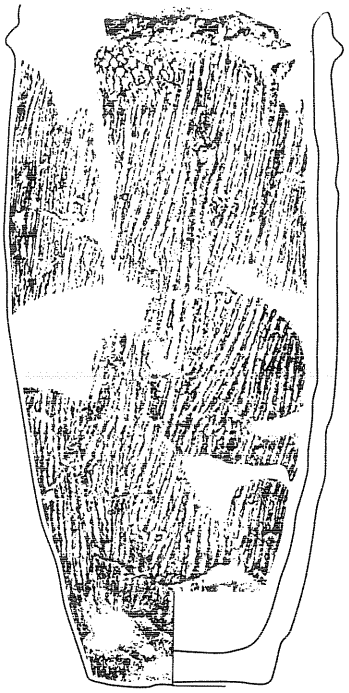
3（396・504－363）



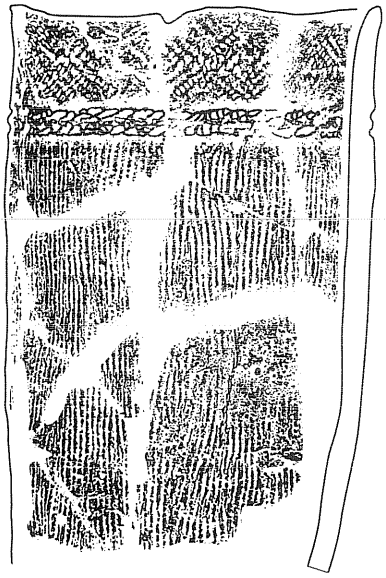
第671図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（14）



1（396・504－364）

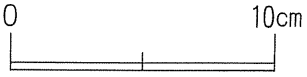


2（396・504－365）

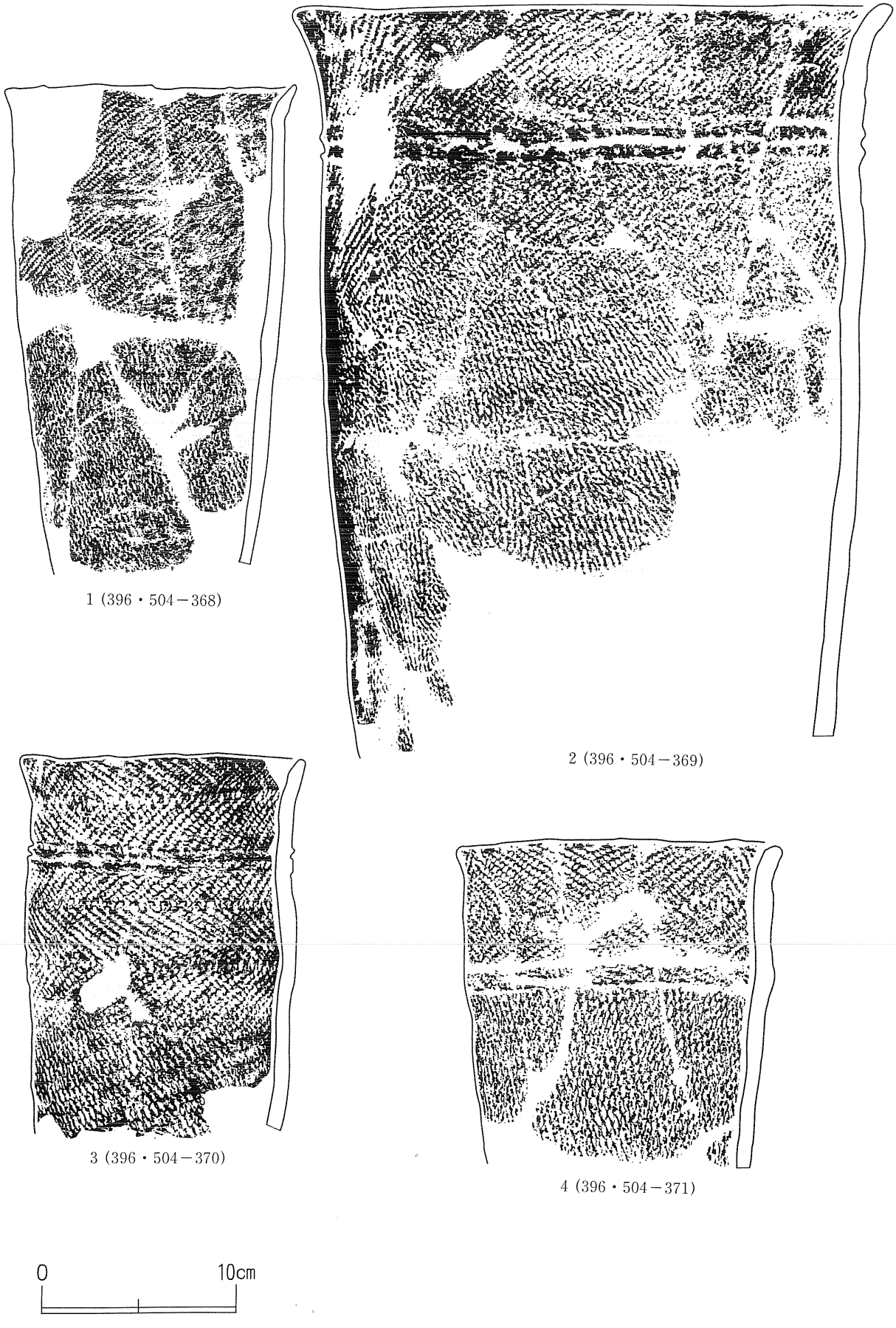


3（396・504－366）

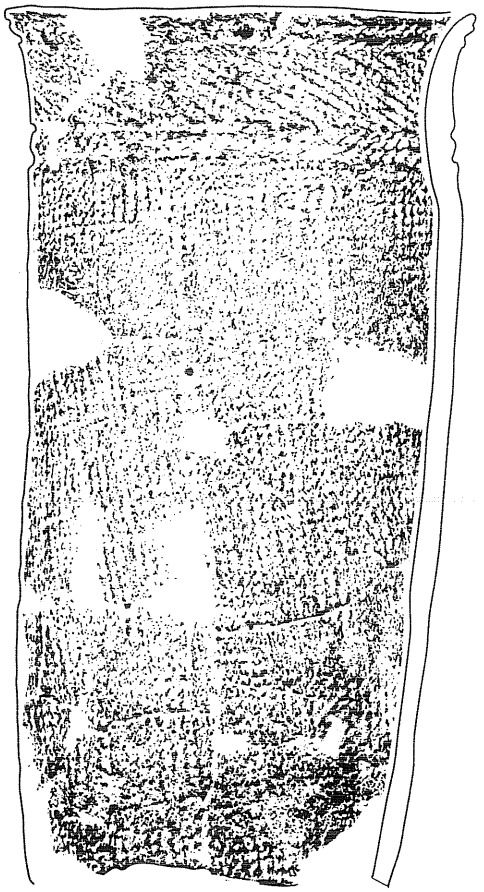
4（396・504－367）



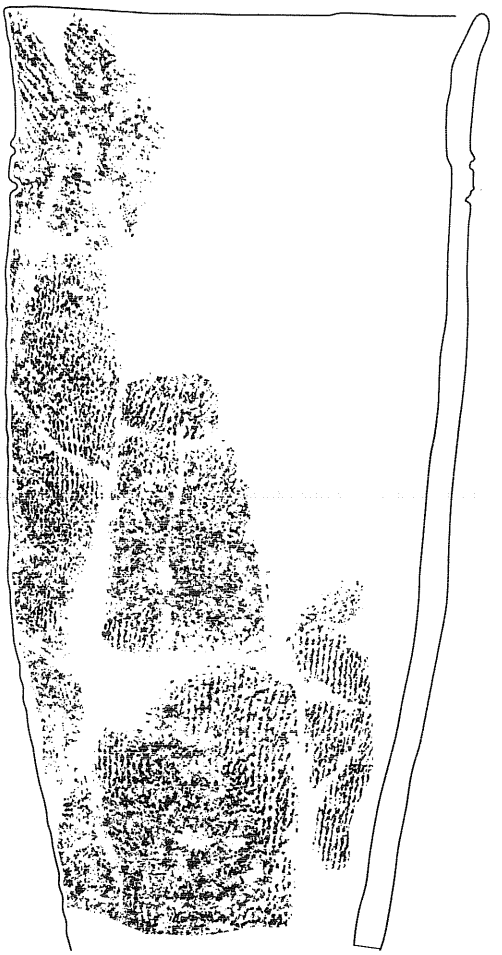
第672図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（15）



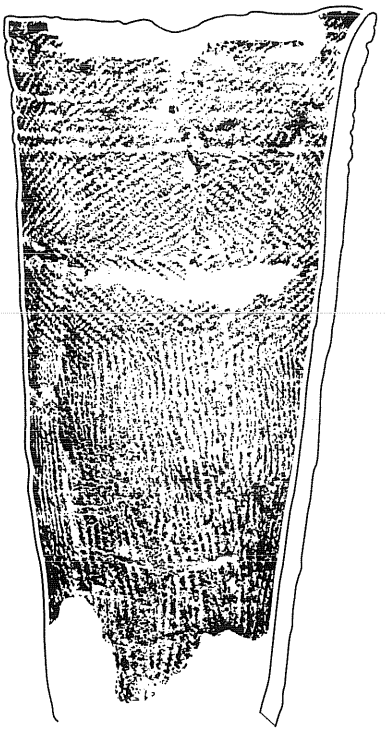
第673図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（16）



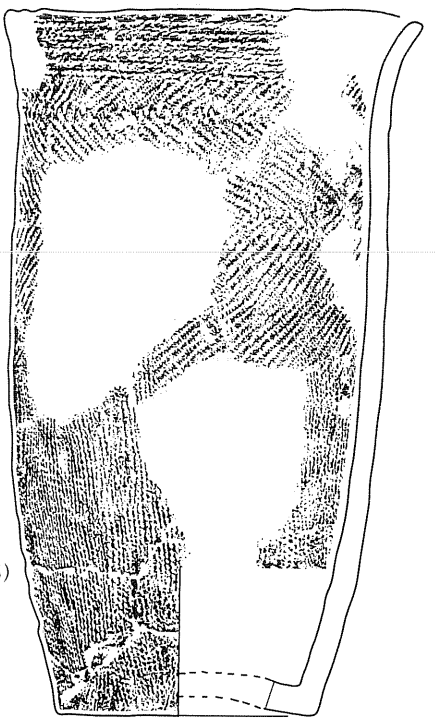
1（396・504－372）



2（396・504－373）



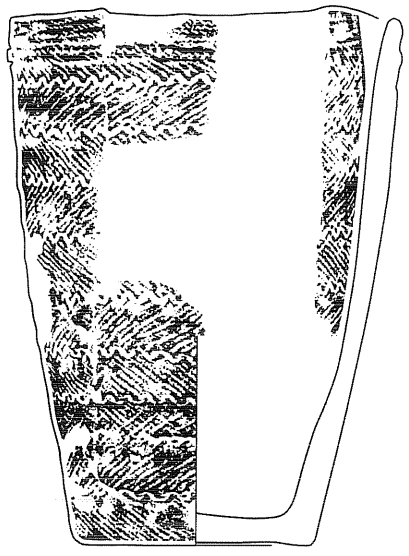
3（396・504－374）



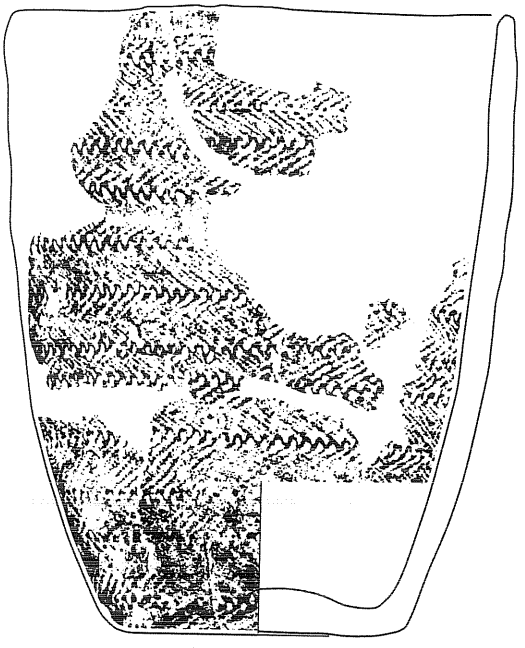
4（396・504－375）

0　10cm

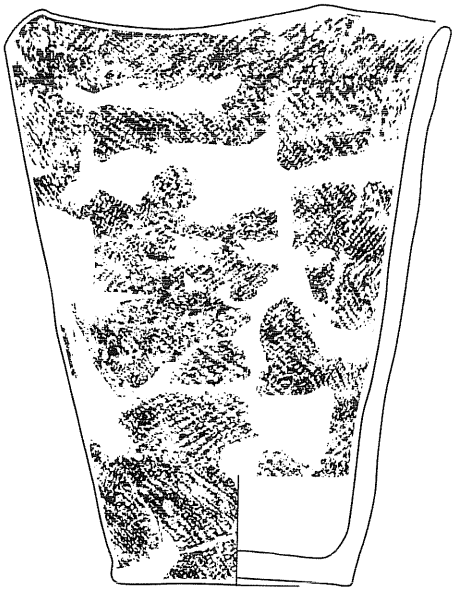
第674図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（17）



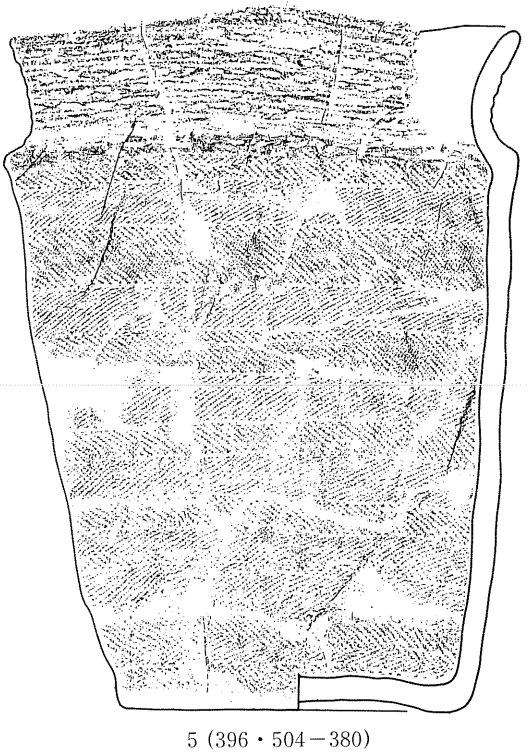
1（396・504－376）



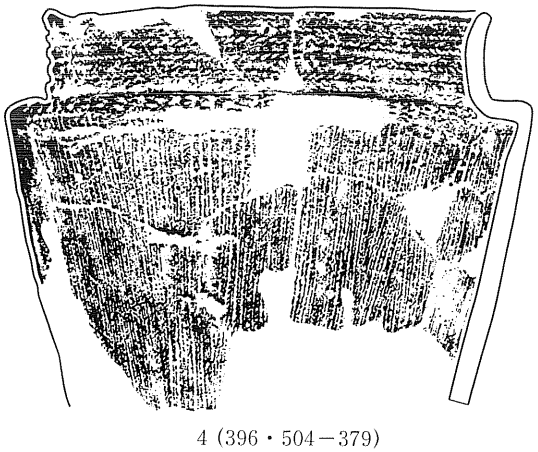
2（396・504－377）



3（396・504－378）



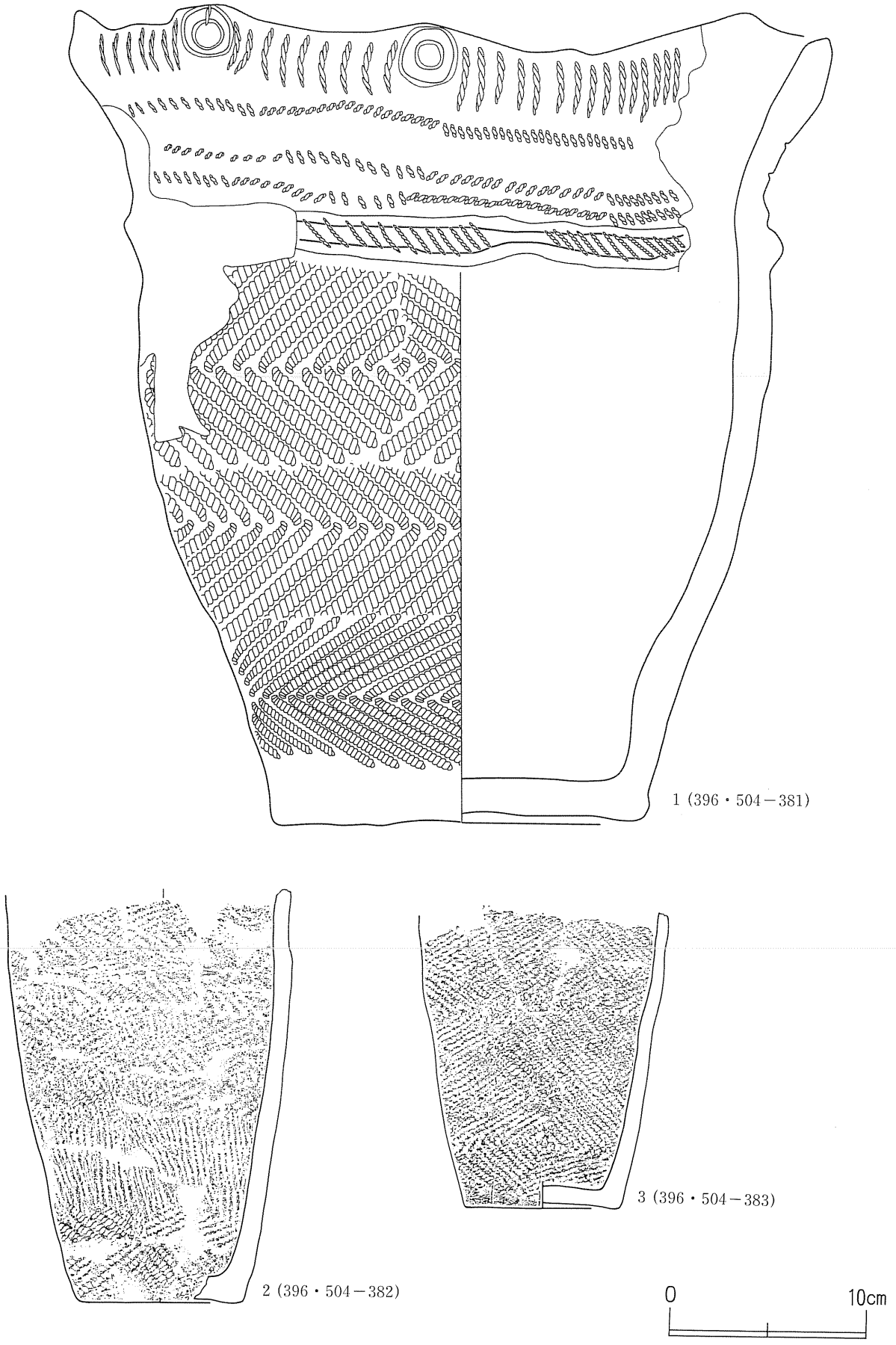
5（396・504－380）



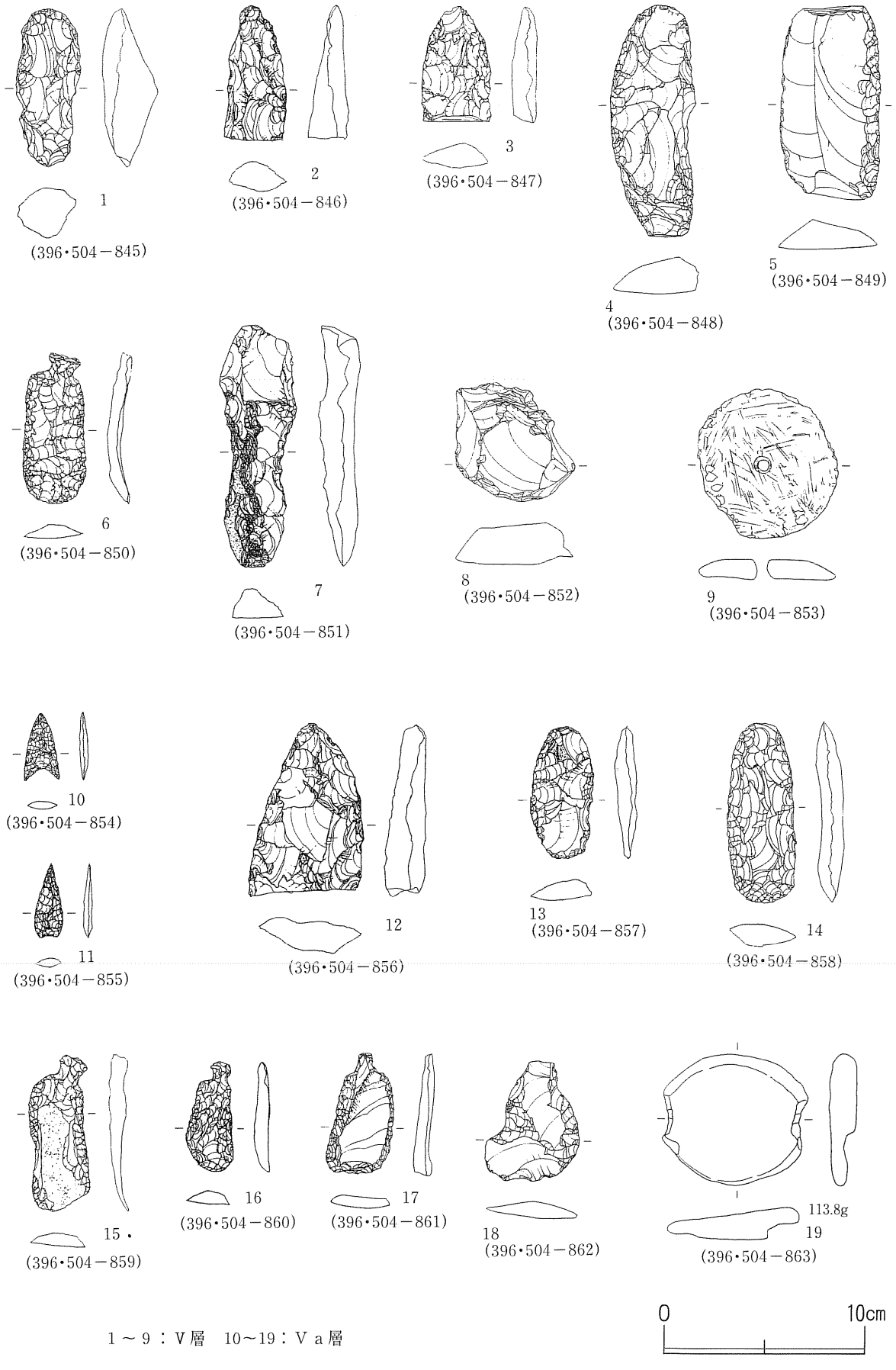
4（396・504－379）

0　10cm

第675図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（18）

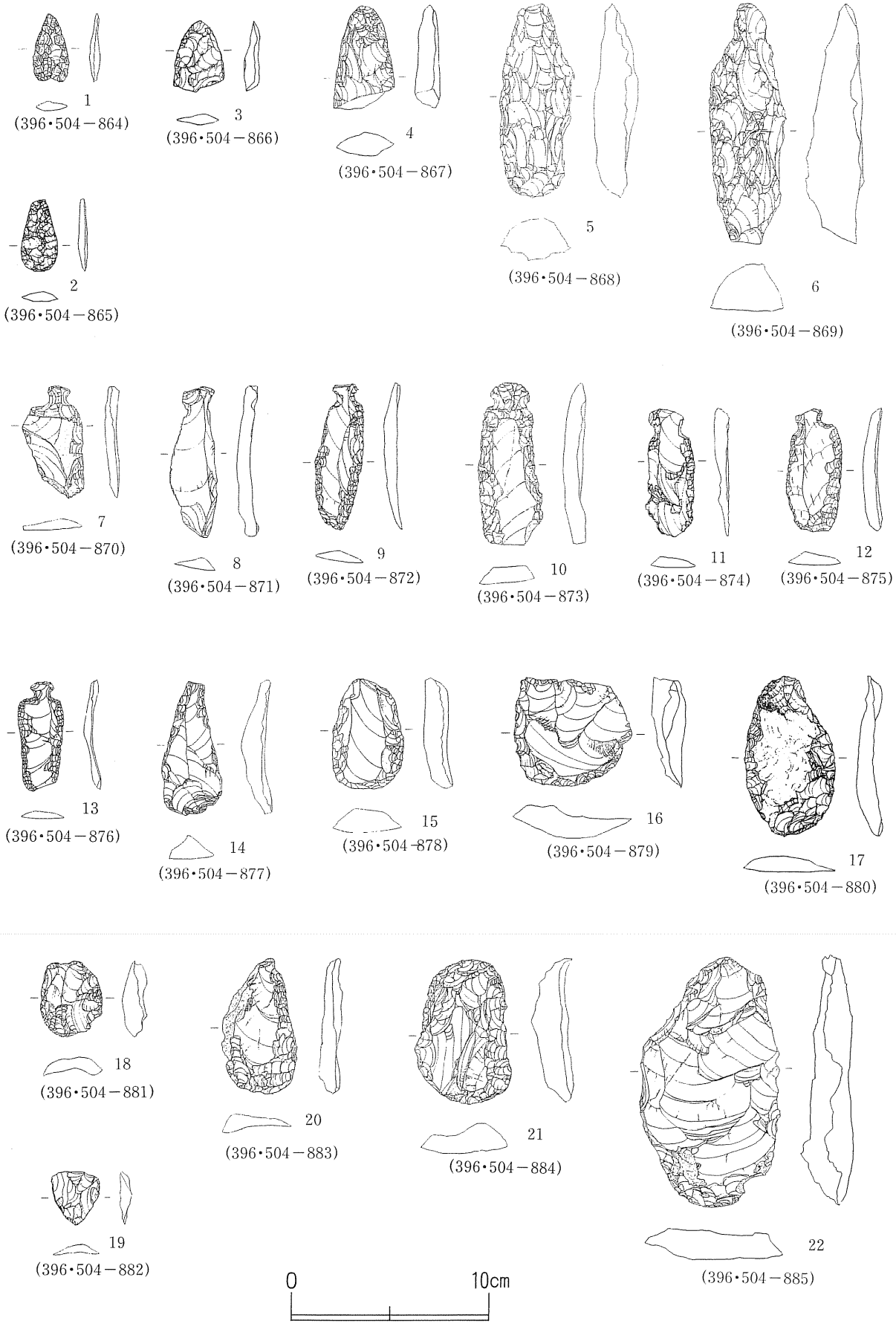


第676図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土土器（19）

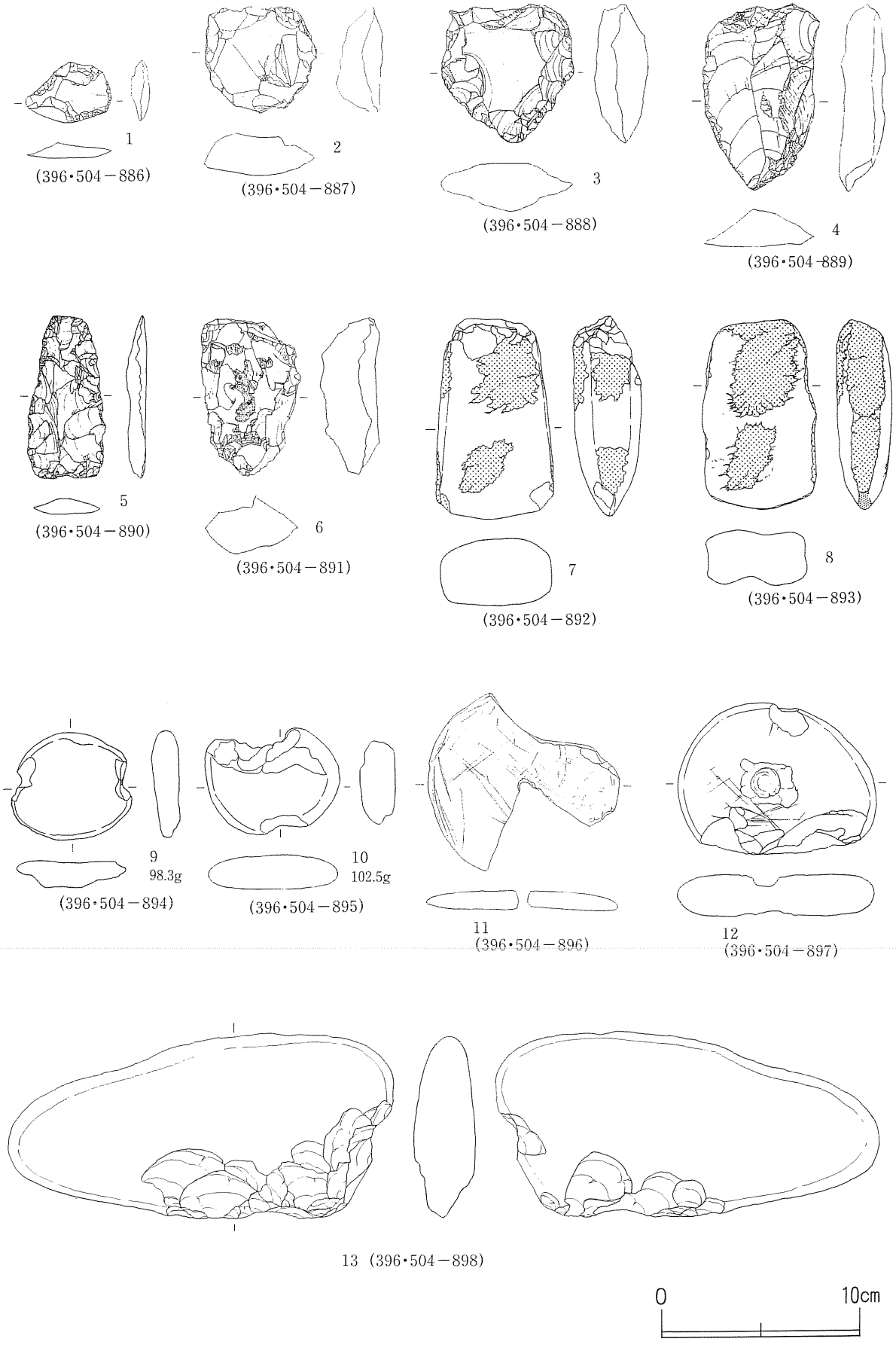


１～９：Ⅴ層　10～19：Ⅴａ層

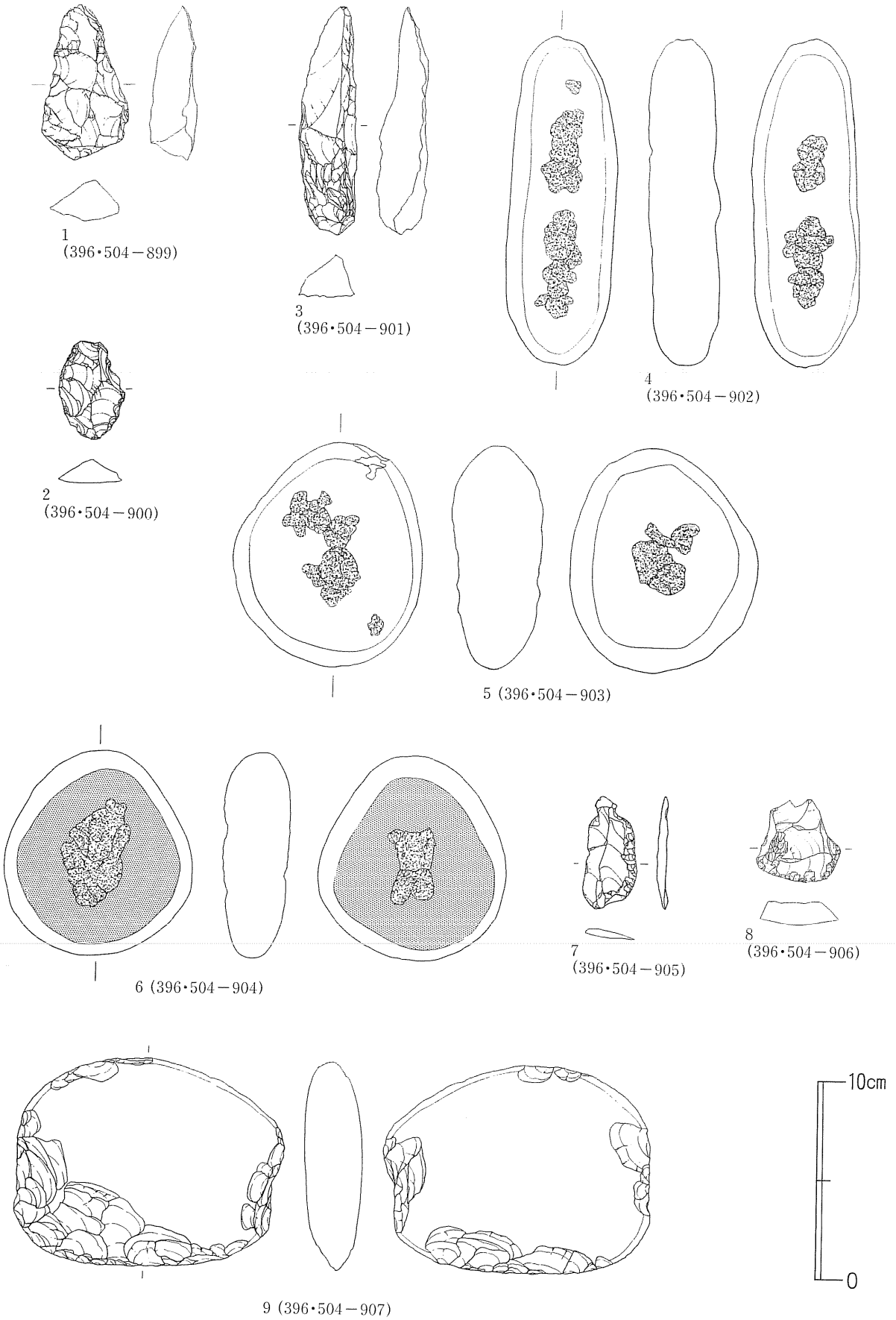
第677図　ＳＴ396・504谷Ⅴ層・Ⅴａ層出土石器



第678図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土石器（１）



第679図　ＳＴ396・504谷Ｖｂ層出土石器（２）



第680図　ＳＴ396・504谷Ｖｃ層・Ｖｄ層出土石器

写真20　ＳＴ396・504谷　土器掘り出し状況（1）

写真21　ＳＴ396・504谷　土器掘り出し状況（2）

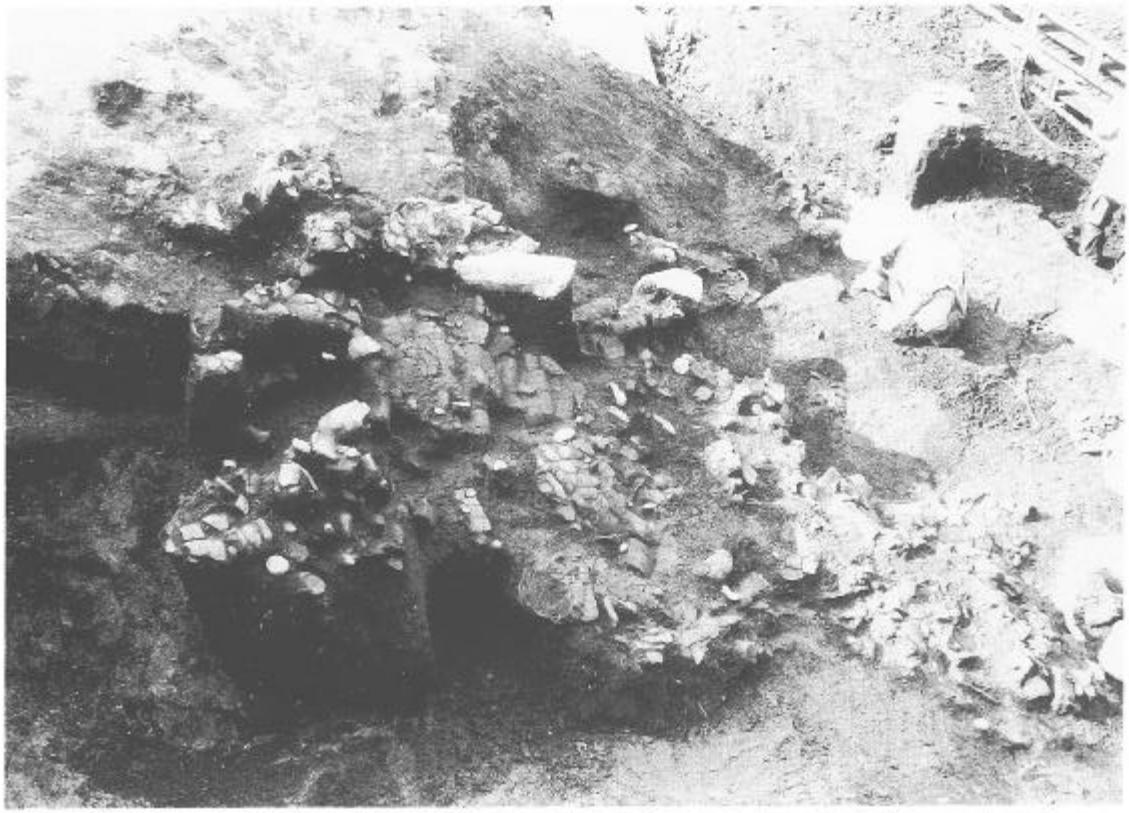


写真22　ＳＴ396・504谷　土器掘り出し状況（３）

写真23　ＳＴ396・504谷　ＭＩ49遺物出土状況

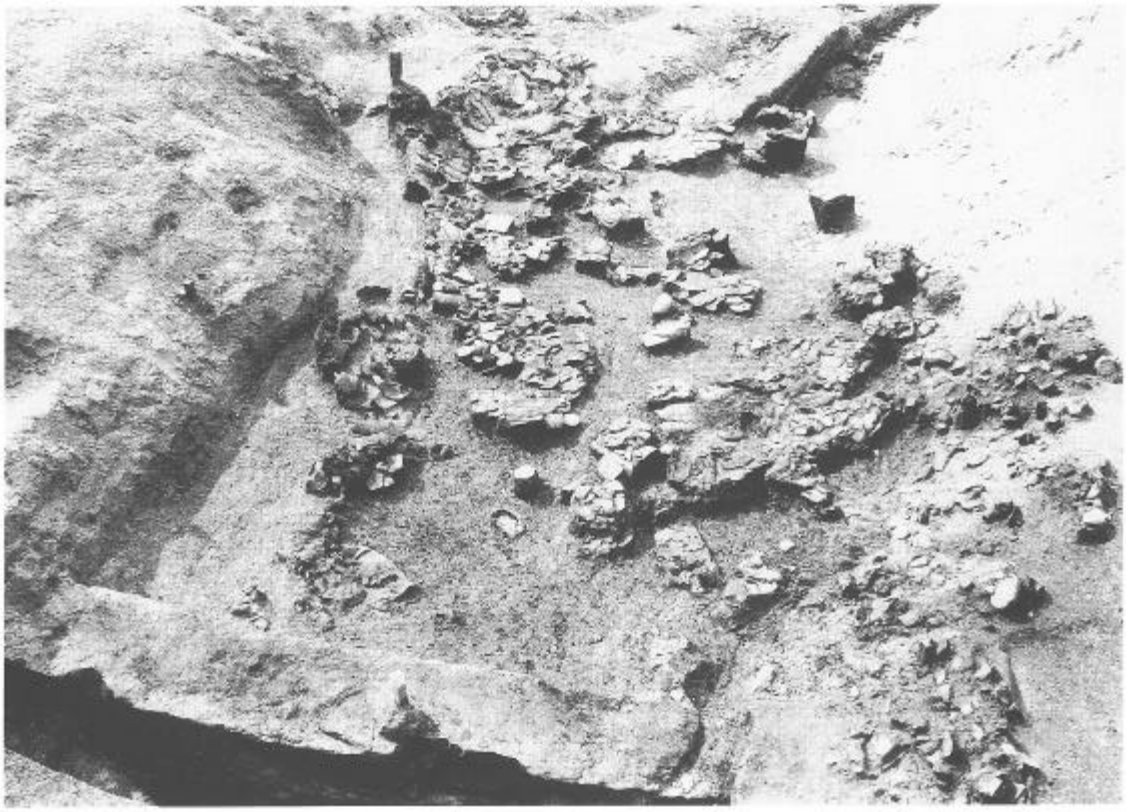


写真24　ST396・504谷　ML～MM第V層遺物出土状況

写真25　ST396・504谷　ML49第V層遺物出土状況

写真26　ＳＴ396・504谷　ＭＩ47第Ⅴ層遺物出土状況

写真27　ＳＴ396・504谷　ＭＩ48第Ⅴ層遺物出土状況

写真28　ＳＴ396・504谷　ＭＩ48第Ｖ層遺物出土状況

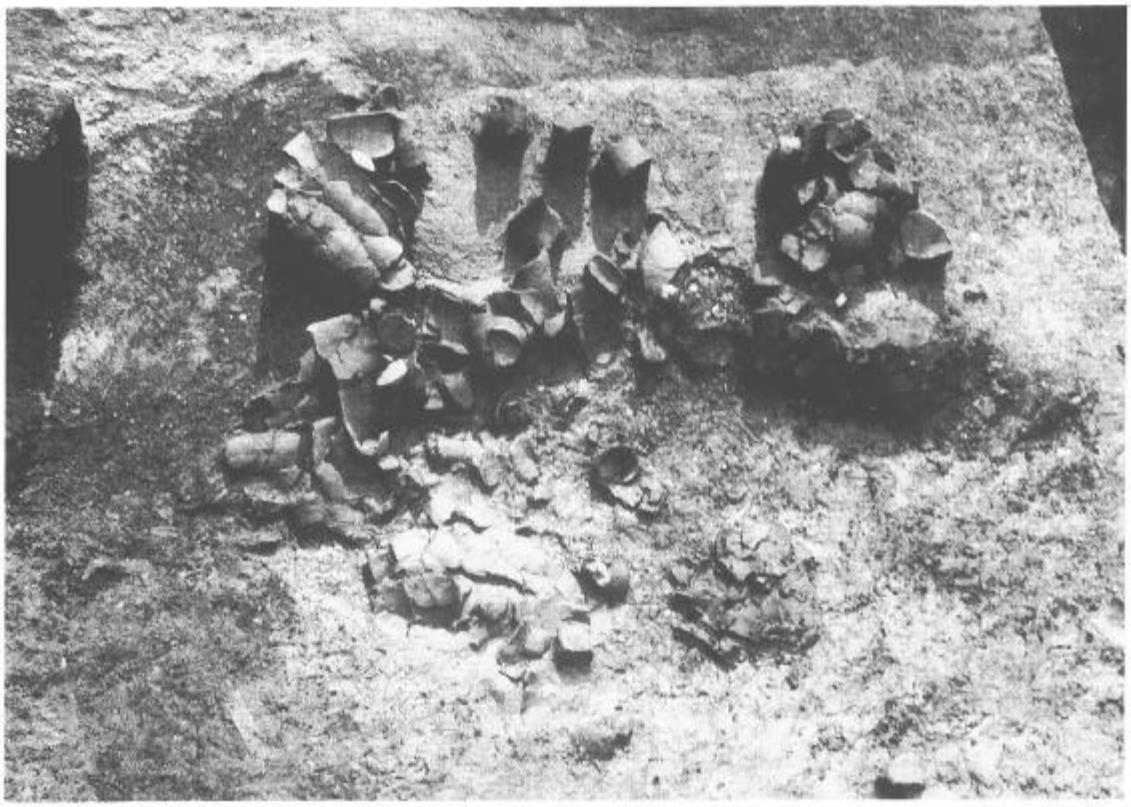


写真29　ＳＴ396・504谷　MM49第Ｖ層遺物出土状況

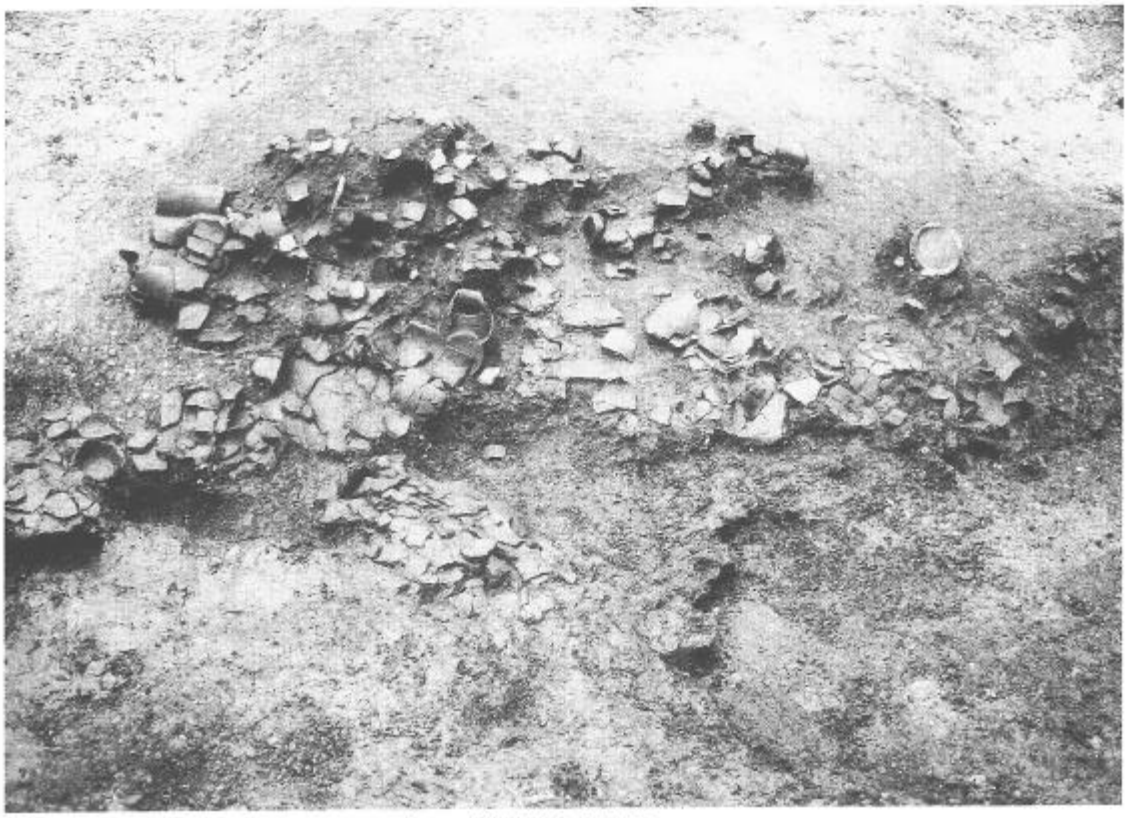


写真30　ＳＴ396・504谷　ＭＬ48第Ｖｂ層遺物出土状況

写真31　ＳＴ396・504谷　ＭＣ51第Ⅳ層遺物出土状況

写真32　ＳＴ396・504谷　土器掘り出し作業風景

写真33　ＳＴ396・504谷　実測作業風景（１）

写真34　ＳＴ396・504谷　実測風景（２）

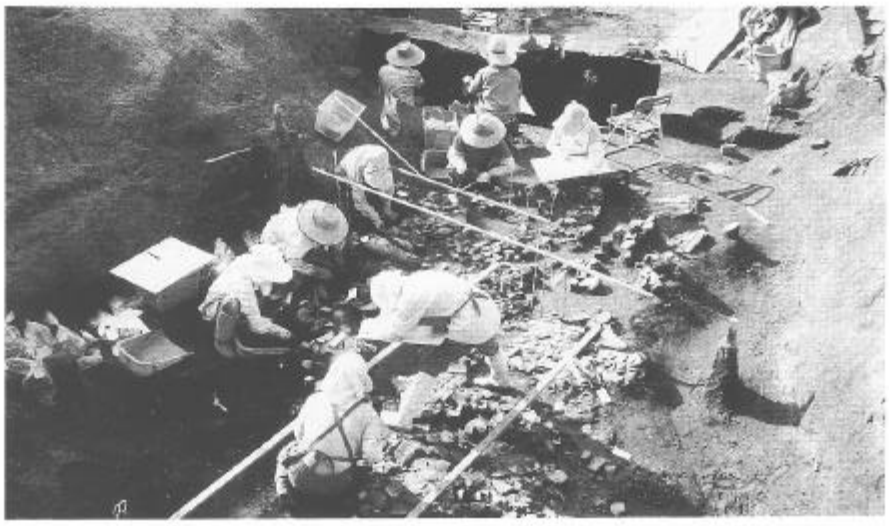


写真35　ＳＴ396・504谷　実測風景（３）

（７）水場遺構（第681図）

①　検出状況

平成５年度の調査時に、谷の屈折点から下方約16ｍの谷底に近い第Ⅴ層に、丸太材を半截後両端を切断し尖らせた２本の杭が立ち、その東側に割り材あるいは丸太状の木材が並んで横倒していたのを検出した。

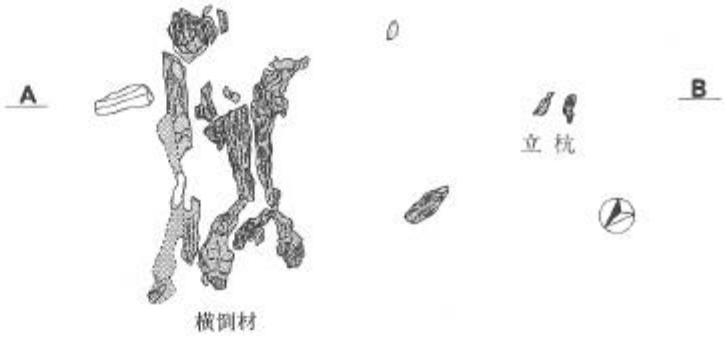
②　形状と構築時期

谷底の東側に幅0.72～0.80ｍ、長さ1.1～1.5ｍで５～８本の割り材あるいは丸太状の木材が木口を谷方向と平行させて並べられ、1.21ｍ離れた西側に長さ0.4～0.6ｍ、幅0.1～0.2ｍの半割りされ両端を尖らせた丸太材が0.15～0.2ｍの間隔でどちらも割り面を谷頭側に向けて立てられていた。

しかし、その後の記録処理のまずさと担当者の異動・引き継ぎミス、遺物保管場所の度重なる変更などから、水場遺構が検出していたこと自体が忘れられ、木材の同定、年代測定も行われなかった。

構築時期は、周辺の遺物の状況から縄文時代前期中葉と推定した。

写真36　全景（北側から撮影）



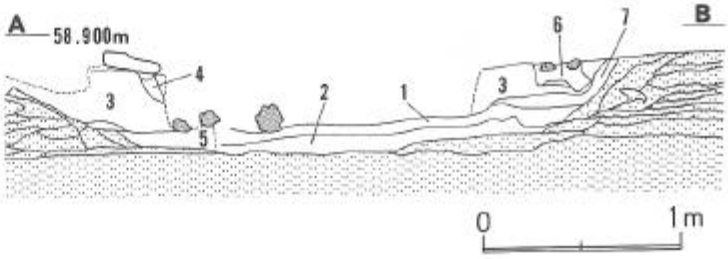


写真37 横倒材の検出状況（南側から撮影）

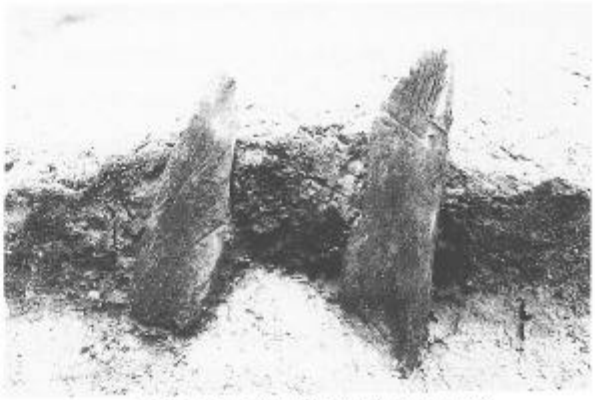


写真38立杭の検出状況（北側から撮影）

第681図　ＳＴ396・504谷内水場状遺構

第６節　ＳＴ505谷の捨て場

（１）概要と土層堆積状況

ＳＴ396・504谷とＳＴ528谷、ＳＴ529谷に挟まれ南東方向に延びる舌状地形の南斜面の西側部分に、雨水等の流下により開析された谷地形で、ＭＨ43・44、ＭＩ42～44、ＭＪ42～44、ＭＫ42～45、ＭＬ41～45、ＭＭ41～45、ＭＮ40～45、ＭＯ41～45、ＭＰ45のグリッドで確認できた。

北西側に谷頭をもち、南東方向に直線的に延び、ＳＴ529谷に合流する谷の長さは水平距離で27ｍを計測する。谷頭から水平距離で12ｍあまりの中半付近での上幅は11.2ｍである。谷頭から中半付近までの底面は急傾斜しその後谷尻まではゆるやかに傾斜していた。

遺物は、谷内に堆積する黒褐色の埋土中位に薄い層を形成するように、ＭＭ43・44、ＭＮ43・44グリッドの第Ⅳ層から出土した。

（２）第Ⅳ層の出土遺物と出土状況

①　土器　復元できた土器は28点（505－１～505－27、ＳＲ513）である。このうち、ＳＲ513は、ほぼ直立状態で出土し、土器埋設遺構と判断したので遺構篇に掲載した。

綾絡文を施文し、やや外反する口縁部をもち、頸部に回転押捺した縄文で飾る低い隆帯を付けたずん胴気味な器形の土器で、胴部には撚糸文を施文した土器（505－１）。

ベル・ボトム風の器形で、口縁部と胴部中半に綾絡文を巡らした土器（505－２・４）。口縁部に綾絡文、胴部に複節縄文を施文した土器（505－３）。

頸部に２条の細く低い隆帯を巡らし、条間とその上下を押捺した縄で飾った土器（505－５・７～９・10～12）であるが、口縁部の文様は（505－５）が多条の縄、（505－７）が羽状縄文、（505－８）は口縁部の文様帯の中半に複数条の縄圧痕が見られる。

（505－９）では隆帯の上下に単軸絡条体の側面圧痕が施文されている。

スリムな円筒形を呈し、頸部に条間と上下を爪形文で飾った２条の低い隆帯を巡らし、口縁部と胴部上半に羽状縄文、下半に撚糸文を施文した土器（505－６）。

円筒形を呈し、頸部に単軸絡条体の側面圧痕が３段施文されている土器（505－13）。

ずん胴な円筒形を呈し、口縁部に羽状縄文、胴部に撚糸文、頸部には間隔を空けて単軸絡条体の側面圧痕が施文されている土器（505－14・15）。

ずん胴な円筒形を呈し、口縁部に羽状縄文、胴部に撚糸文が施文され、頸部に幅広で低い隆帯が巡る土器（505－16）。

ずん胴な円筒形を呈し、口縁部から胴部上半に羽状縄文、胴部下半に撚糸文が施文され、口縁部から胴部上半にかけて間隔を空けて縄原体が押捺された土器（505－17）。

やや幅広な口縁部に横走・垂下する押圧縄文を施文し菱形文様を作出した土器（505－18～20）。

胴部に網目状撚糸文を施文した土器（505－21）。

バケツ形を呈し、頸部に横長の指頭圧痕で飾られた低い隆帯を巡らし胴部に木目状撚糸文を施文した土器（505－24）。

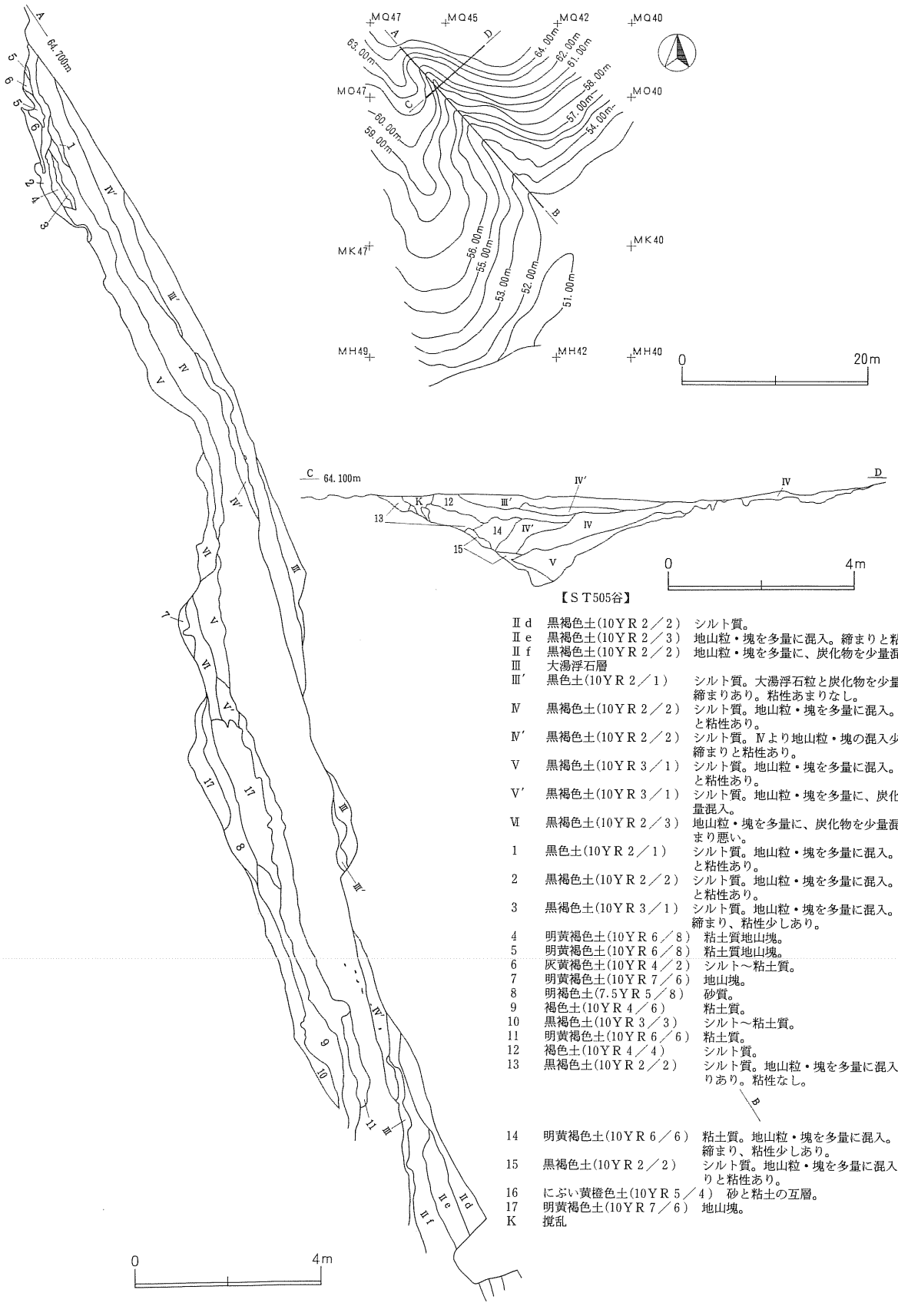
胴部に多軸絡条体、単軸絡条体、羽状縄文を施文した土器（505－22・23・25～27）がある。

②　石器　石器は195点出土した。その内訳は石鏃５点〔Ⅰ層：１（505－31）、Ⅳ層：１（505－30）、

層位不明２（505－28・29）〕、石槍７点〔Ⅱ層：１、Ⅲ層：２（505－36）、Ⅳ層：４（505－32～35）〕、石錐８点（Ⅰ層：１、Ⅳ層：６、層位不明：１）、石匙60点〔Ⅰ層：１、Ⅱ層：20、Ⅲ層：２、Ⅳ層：29（505－37・39・41）、Ⅴ層：４（505－40・42）、層位不明：４（505－38）〕、篦状石器４点〔Ⅱ層：１（505－46）、Ⅲ層：２（505－44・45）、Ⅳ層：１（505－43）〕、削器45点〔Ⅰ層：３、Ⅱ層：15（505－50）、Ⅲ層：５、Ⅳ層：18、層位不明：４〕、掻器27点〔Ⅰ層：２、Ⅱ層：14、Ⅳ層：11（505－48）、Ⅴ層：１（505－49）、層位不明：１〕、剥片・不定形石器８点〔Ⅱ層：２、Ⅲ層：２、Ⅳ層：２（505－48）、Ⅴ層：１、層位不明：４〕、磨製石斧５点（Ⅱ層：２、Ⅲ層：１、Ⅳ層：２）、石錘３点〔Ⅱ層：１（505－54）、Ⅳ層：２（505－52・53）〕、半円状扁平打製石器16点〔Ⅰ層：２（505－54）、Ⅱ層：４、Ⅲ層：２、Ⅳ層：２、層位不明：６〕、くぼみ石４点（Ⅱ層：２、Ⅳ層：１、層位不明：１）、敲石４点（Ⅱ層：３、Ⅲ層：１）、擦石２点（層位不明：２）、石皿１点（Ⅳ層：１）である。

③　石製品　刻線礫が１点〔Ⅱ層：１（505－55）〕出土した。このほかに、自然礫に穴の開いた有孔礫１点（Ⅱ層：１）、石核１点（Ⅳ層：１）が出土した。

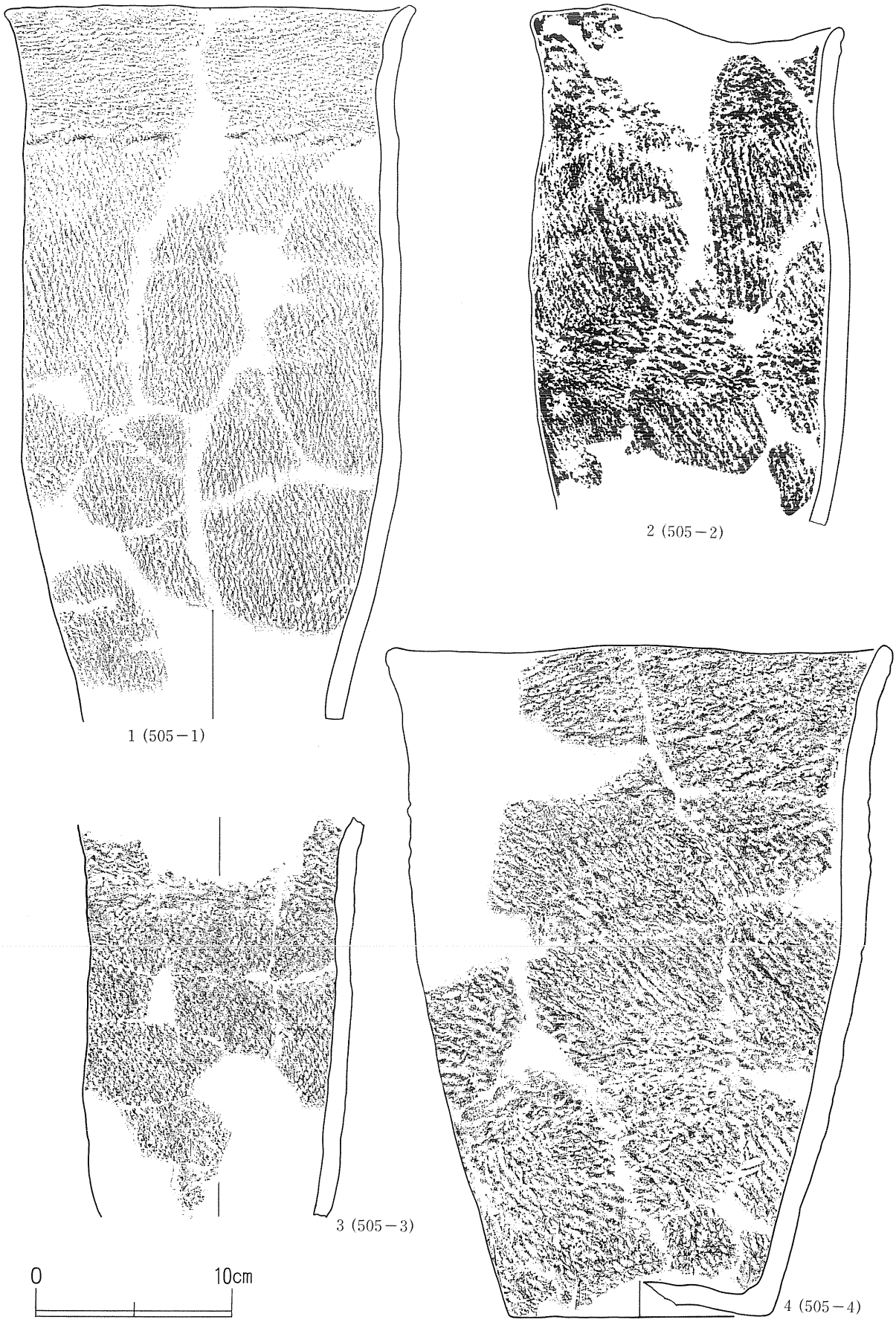
写真39　ＳＴ505谷完掘状況



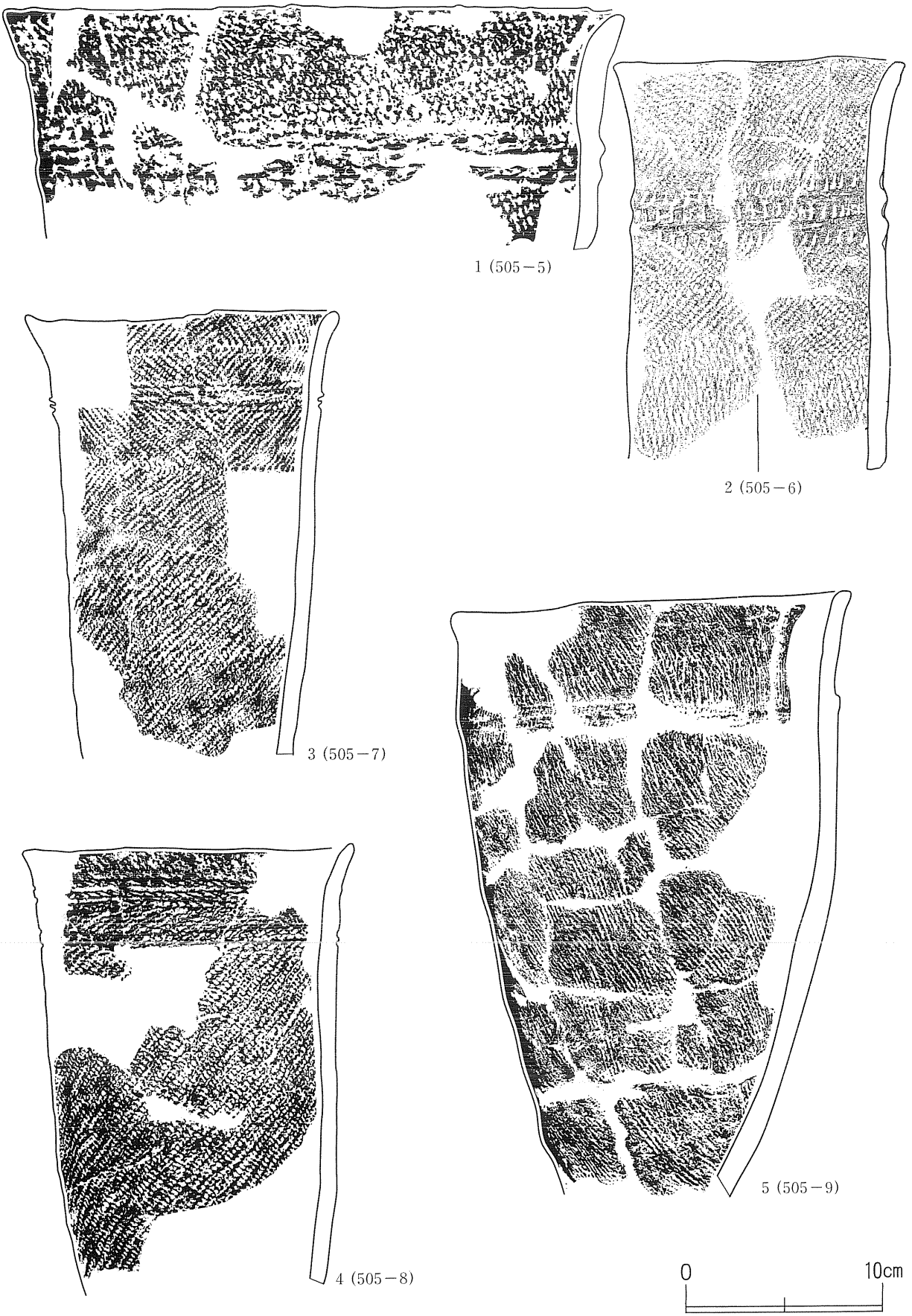
【ＳＴ505谷】

Ⅱｄ	黒褐色土(10ＹＲ２／２)	シルト質。
Ⅱｅ	黒褐色土(10ＹＲ２／３)	地山粒・塊を多量に混入。締まりと粘性あり。
Ⅱｆ	黒褐色土(10ＹＲ２／２)	地山粒・塊を多量に、炭化物を少量混入。
Ⅲ	大湯浮石層	
Ⅲ′	黒色土(10ＹＲ２／１)	シルト質。大湯浮石粒と炭化物を少量混入。締まりあり。粘性あまりなし。
Ⅳ	黒褐色土(10ＹＲ２／２)	シルト質。地山粒・塊を多量に混入。締まりと粘性あり。
Ⅳ′	黒褐色土(10ＹＲ２／２)	シルト質。Ⅳより地山粒・塊の混入少ない。締まりと粘性あり。
Ⅴ	黒褐色土(10ＹＲ３／１)	シルト質。地山粒・塊を多量に混入。締まりと粘性あり。
Ⅴ′	黒褐色土(10ＹＲ３／１)	シルト質。地山粒・塊を多量に、炭化物を少量混入。
Ⅵ	黒褐色土(10ＹＲ２／３)	地山粒・塊を多量に、炭化物を少量混入。締まり悪い。
1	黒色土(10ＹＲ２／１)	シルト質。地山粒・塊を多量に混入。締まりと粘性あり。
2	黒褐色土(10ＹＲ２／２)	シルト質。地山粒・塊を多量に混入。締まりと粘性あり。
3	黒褐色土(10ＹＲ３／１)	シルト質。地山粒・塊を多量に混入。かたく締まり、粘性少しあり。
4	明黄褐色土(10ＹＲ６／８)	粘土質地山塊。
5	明黄褐色土(10ＹＲ６／８)	粘土質地山塊。
6	灰黄褐色土(10ＹＲ４／２)	シルト～粘土質。
7	明黄褐色土(10ＹＲ７／６)	地山塊。
8	明褐色土(7.5ＹＲ５／８)	砂質。
9	褐色土(10ＹＲ４／６)	粘土質。
10	黒褐色土(10ＹＲ３／３)	シルト～粘土質。
11	明黄褐色土(10ＹＲ６／６)	粘土質。
12	褐色土(10ＹＲ４／４)	シルト質。
13	黒褐色土(10ＹＲ２／２)	シルト質。地山粒・塊を多量に混入。締まりあり。粘性なし。
14	明黄褐色土(10ＹＲ６／６)	粘土質。地山粒・塊を多量に混入。かたく締まり、粘性少しあり。
15	黒褐色土(10ＹＲ２／２)	シルト質。地山粒・塊を多量に混入。締まりと粘性あり。
16	にぶい黄橙色土(10ＹＲ５／４)	砂と粘土の互層。
17	明黄褐色土(10ＹＲ７／６)	地山塊。
K	撹乱	

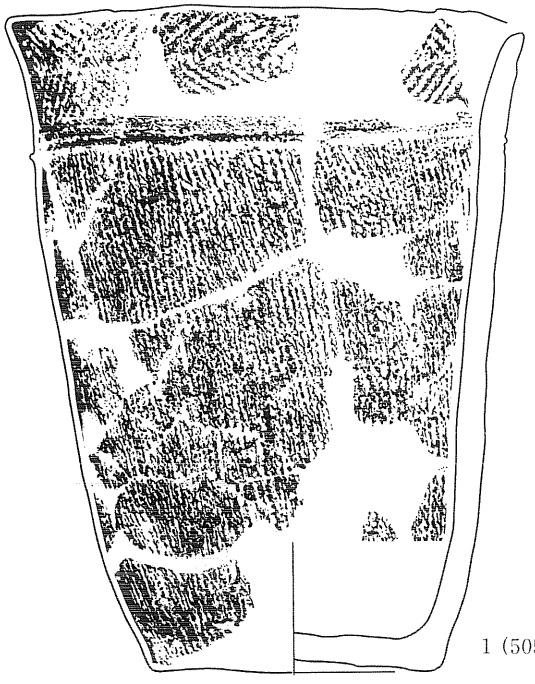
第682図　ＳＴ505谷土層断面図



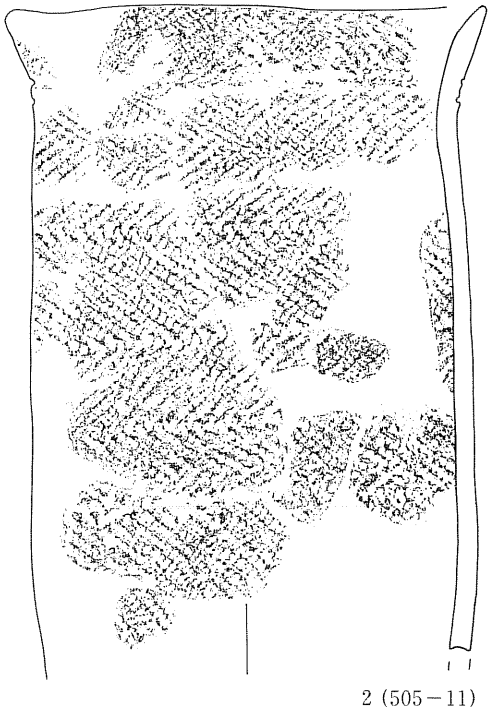
第683図　ＳＴ505谷出土土器（１）



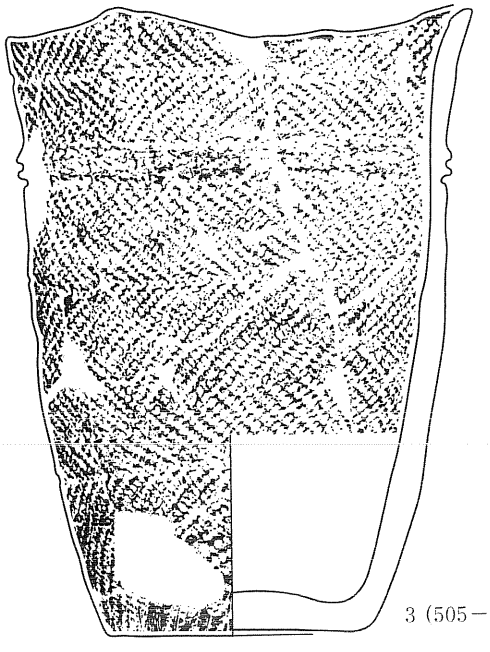
第684図　ＳＴ505谷出土土器（２）



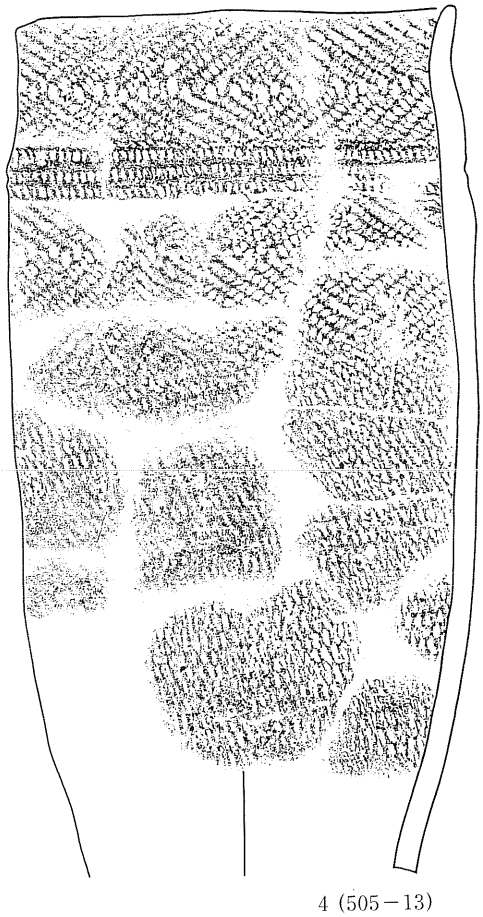
1（505－10）



2（505－11）



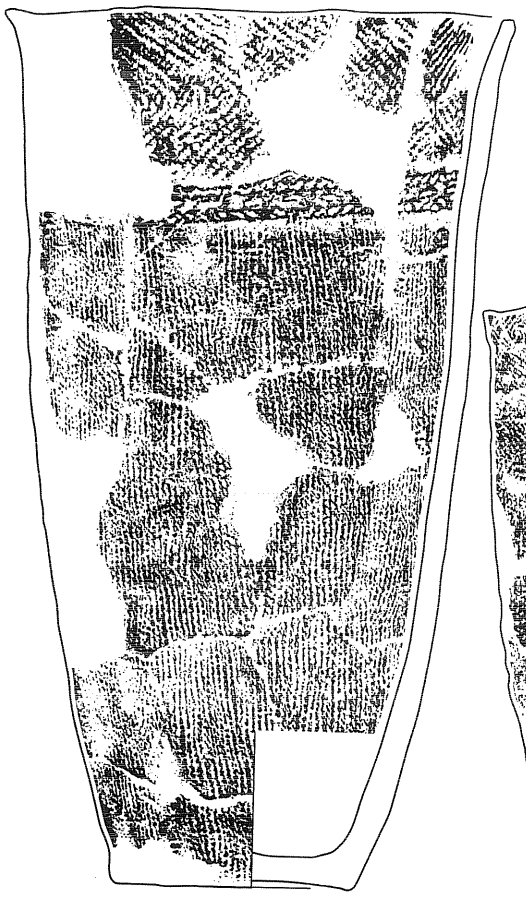
3（505－12）



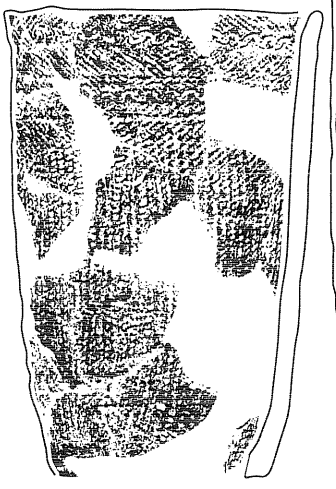
4（505－13）

0　10cm

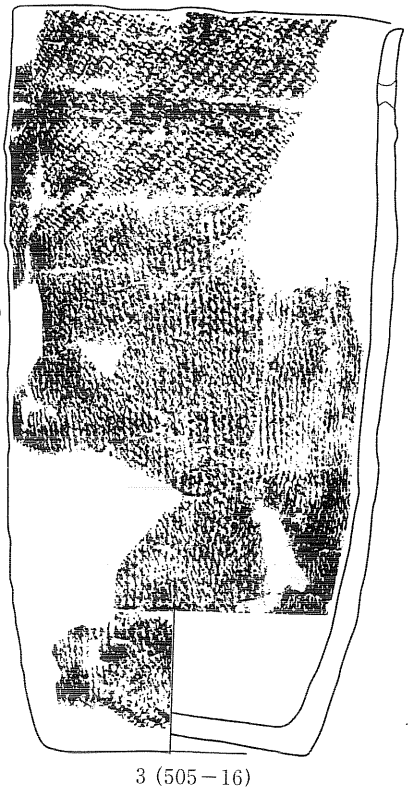
第685図　ＳＴ505谷出土土器（３）



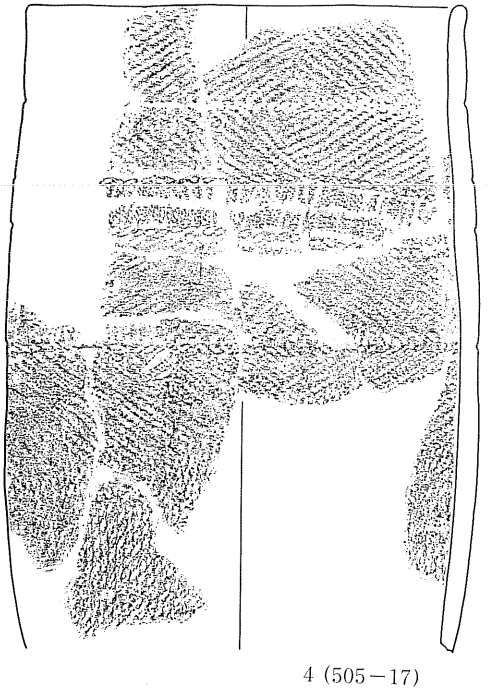
1（505－14）



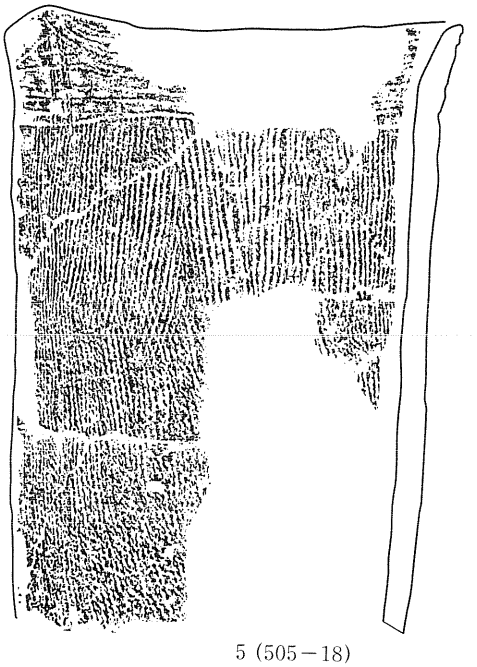
2（505－15）



3（505－16）



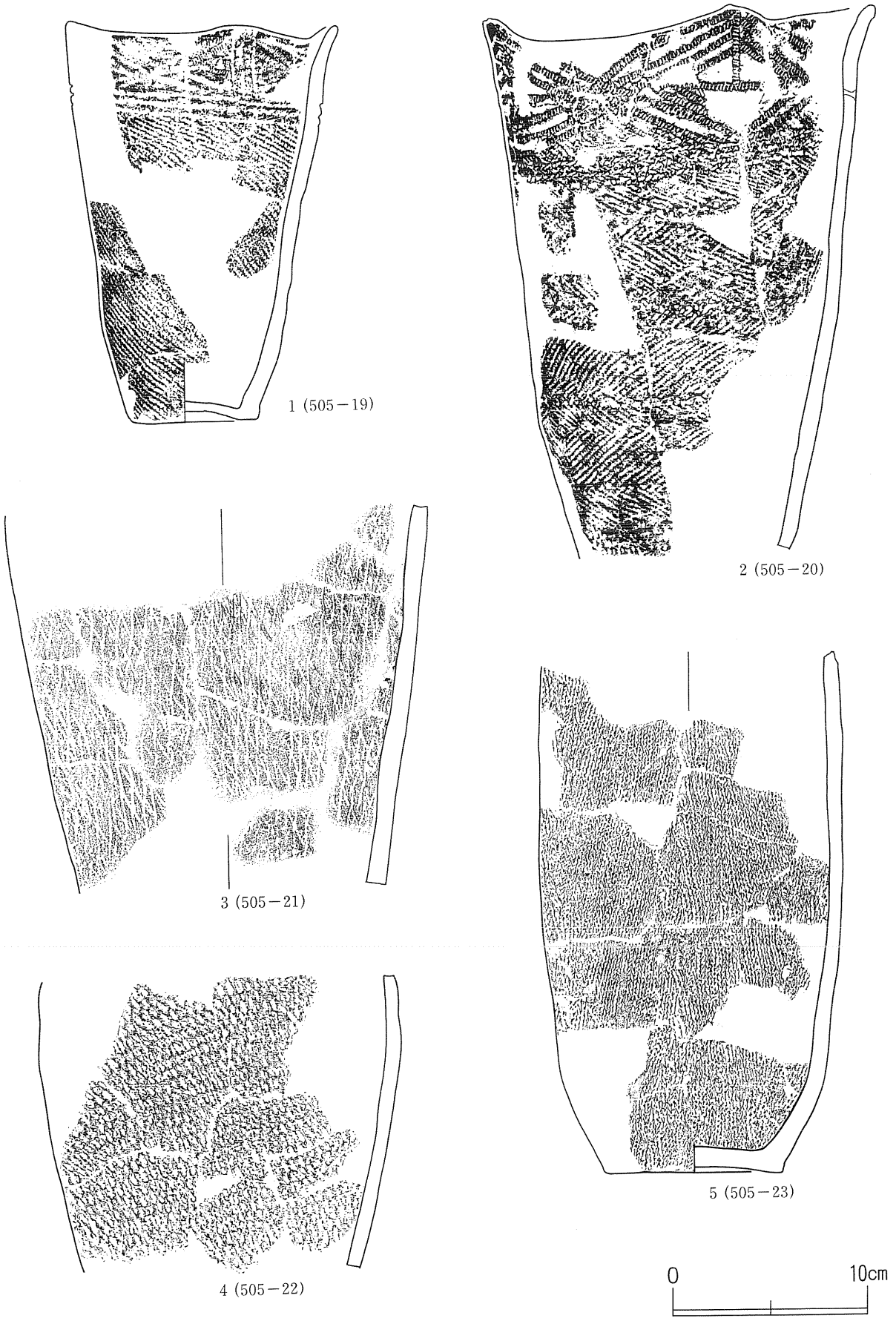
4（505－17）



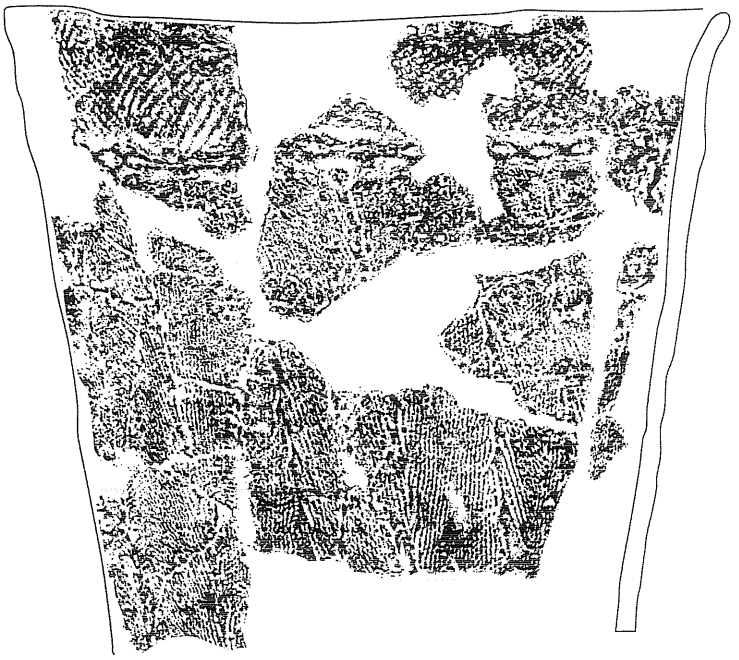
5（505－18）

0　10cm

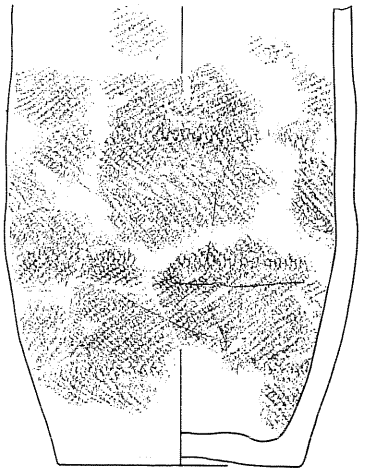
第686図　ＳＴ505谷出土土器（４）



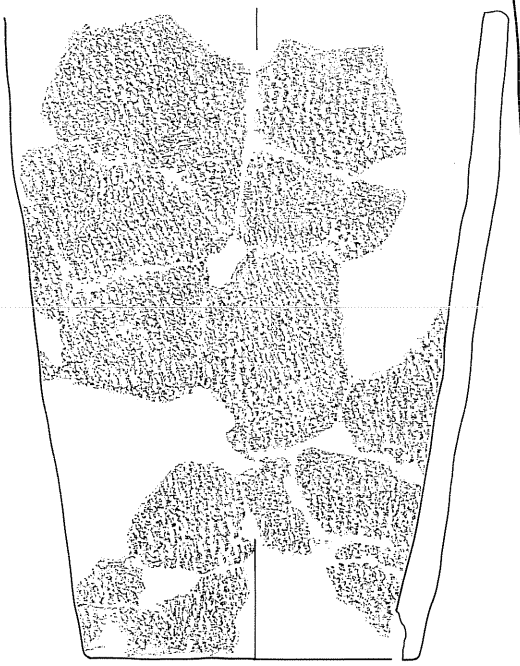
第687図　ＳＴ505谷出土土器（５）



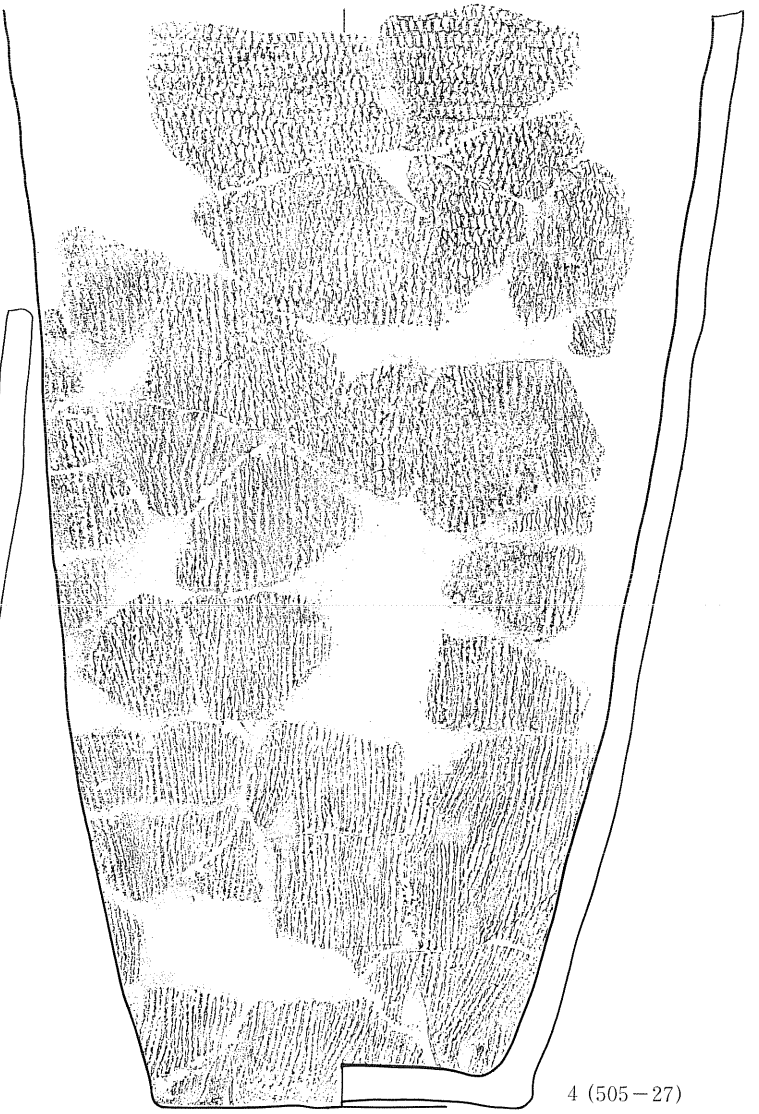
1（505－24）



2（505－25）



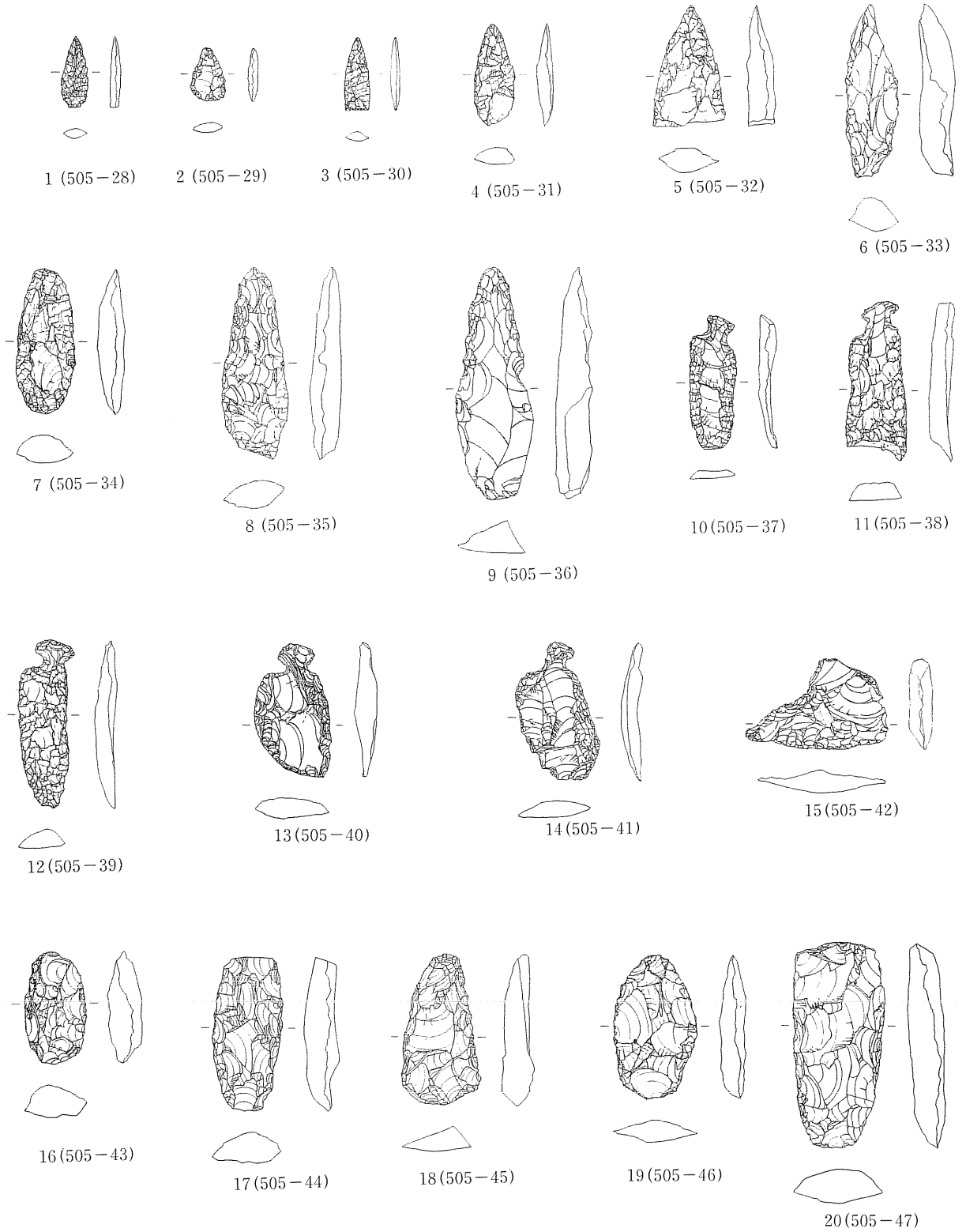
3（505－26）



4（505－27）

0　10cm

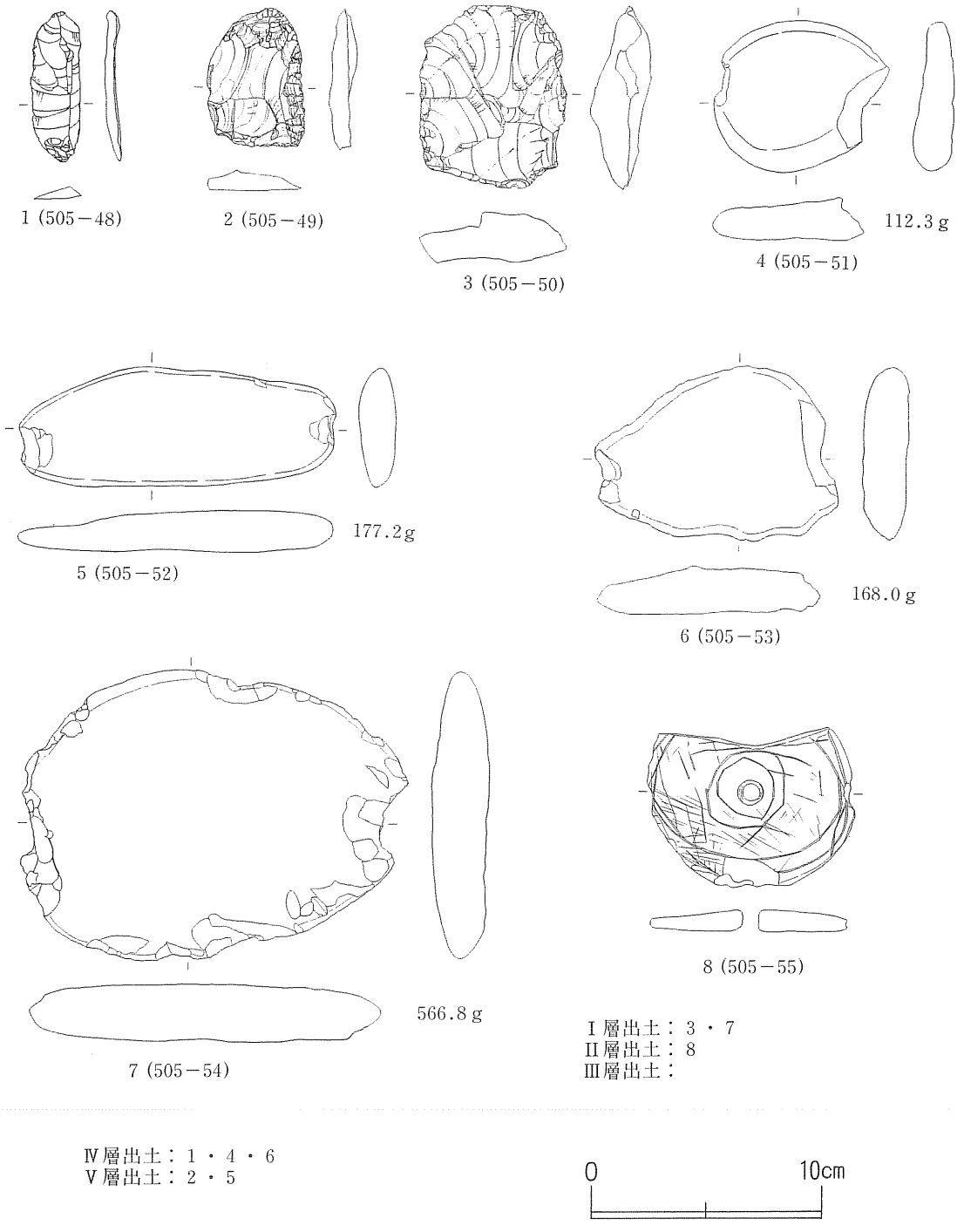
第688図　ＳＴ505谷出土土器（６）



Ⅰ層出土：4
Ⅱ層出土：19
Ⅲ層出土：3･9･17･18
Ⅳ層出土：5～8･10･12･14･16･20
Ⅴ層出土：13･15･
不明　　：1･2･11･

0　10cm

第689図　ＳＴ505谷出土石器（１）



第690図　ＳＴ505谷出土石器（２）

写真40　ＳＴ396・504谷、ＳＴ505谷、ＳＴ528谷、ＳＴ529谷

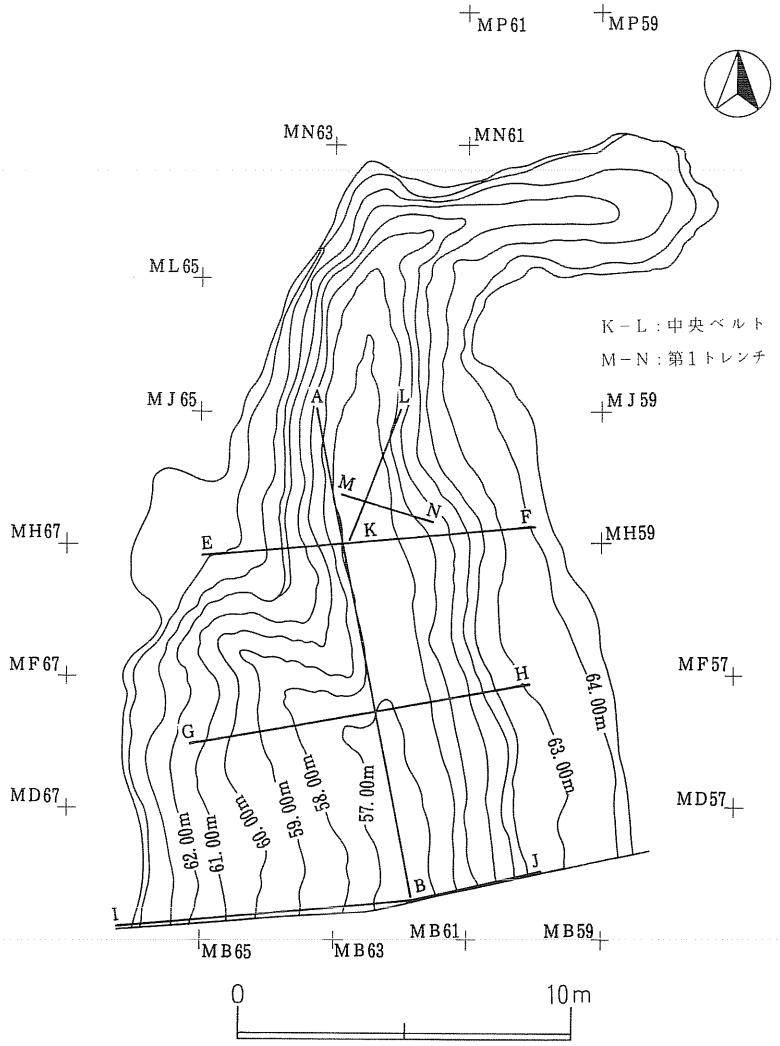
写真41　ＳＴ505谷調査状況

第７節　ＳＴ639谷の捨て場

（１）概要と土層堆積状況

台地南西側のＭＢ60～64、ＭＣ59～64、ＭＤ59～66、ＭＥ59～66、ＭＦ59～66、ＭＧ59～66、ＭＨ59～66、ＭＩ60～65、ＭＪ60～64、ＭＫ60～63、ＭＬ57～63、ＭＭ57～62、ＭＮ58のグリッドで、ほぼ南側から北側に延び、谷頭側が東側にほぼ直角に屈曲した谷として確認できた。

現地形でも南側の谷尻は不明確になっているが、直線的に南北方向に延びる窪地として確認できることと、試掘調査時のトレンチで縄文時代前期の深鉢形土器が多量に出土していたことから、内部に捨て場が形成された谷であると認識していたものの、谷頭部分の屈曲部については、表土の黒褐色土が大きく削り取られていたこともあり表土除去・プラン確認作業時にも認識していなかった。



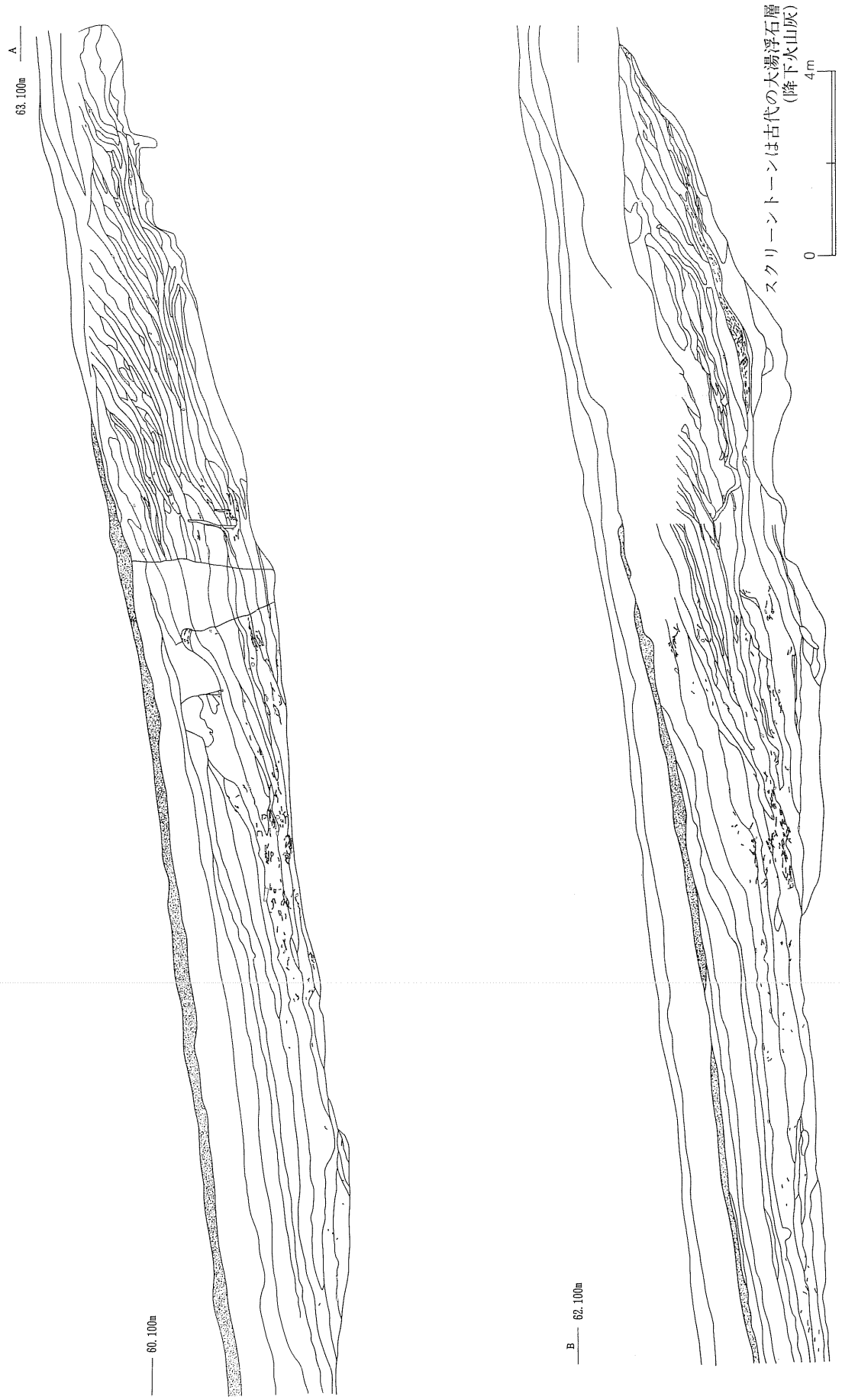
第691図　ＳＴ639谷土層断面実測位置

谷の西側斜面の１カ所には、小さな谷地形が形成されていた。また、谷の両側斜面は地滑りを起こしていたことが判明した。

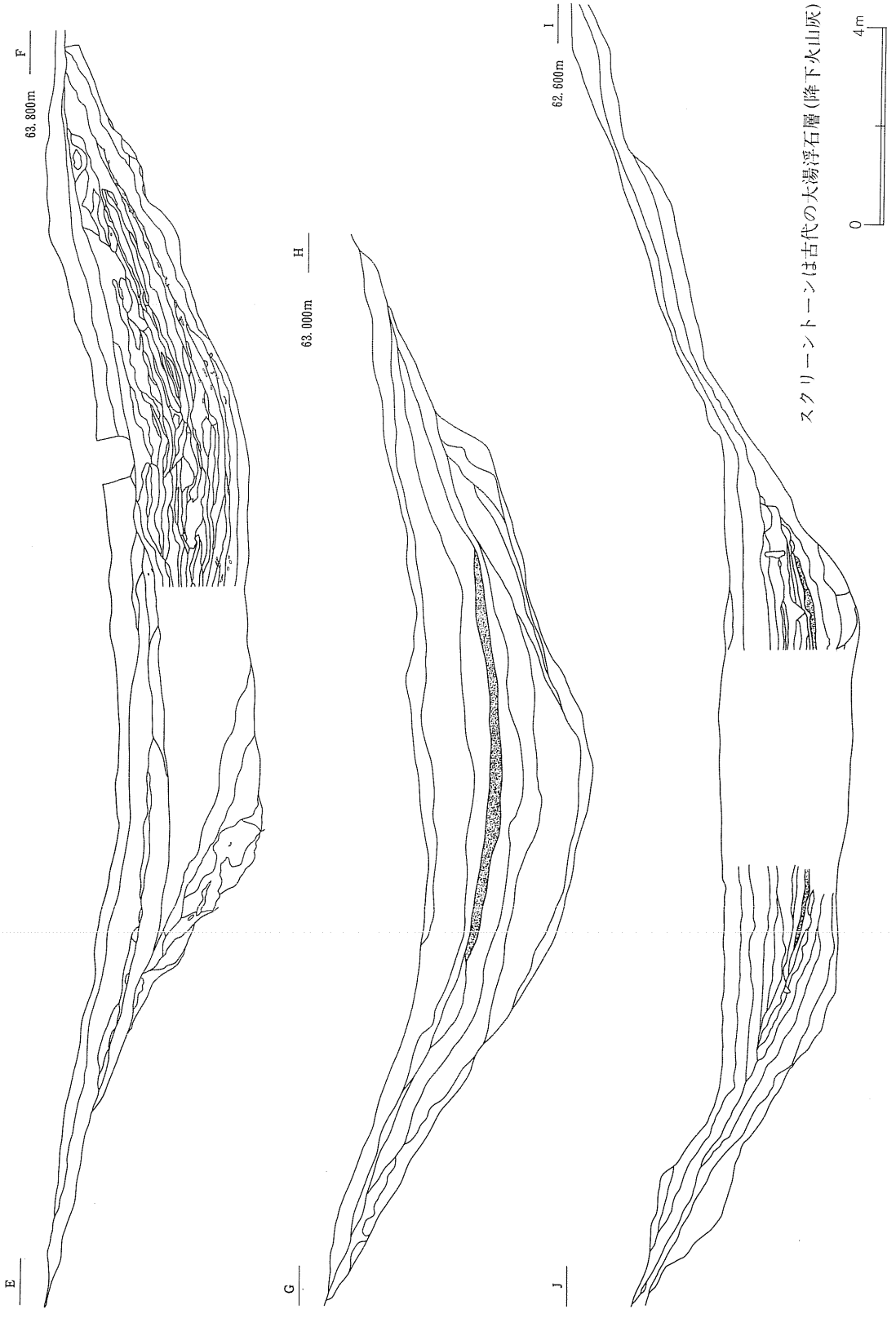
谷の長さ（水平距離）は、谷尻側にあたる南側最端部から屈曲点までが42.6ｍ、屈曲点から谷頭までが23.4ｍ、合計66ｍである。プラン確認面での谷頭から屈曲点までの上幅は、最小6.4ｍ、最大９ｍであった。屈曲点から南側最端部までの間の上幅は、屈曲点付近が12.8ｍ、中半付近で20ｍ、南側最端部で32.5ｍであった。

西側斜面の小さな谷地形は、北西から南東方向に長さ（水平距離）13.5ｍ、谷頭での幅が9.6ｍ、谷尻の幅が4.8ｍを計測した。谷頭の幅が谷尻よりも大きいのは、谷尻部に地滑りによる崩落土が堆積しているためである。この崩落の一因として、プラン確認面から４ｍほどの深さに確認されている帯水層が考えられる。

この帯水層は、12,000～13,000年前の旧石器時代に噴火した十和田火山の火砕流のため、森林がなぎ倒され、４ｍもの厚さに堆積した火山灰（軽石層）で覆われたが、当時の地表面と倒伏した森林樹



第692図　ＳＴ639谷土層断面図（Ａ－Ｂ）



第693図　ＳＴ639谷土層断面図（Ｅ－Ｆ、Ｇ－Ｈ、Ｉ－Ｊ）

写真42　ＳＴ639谷　横断土層断面

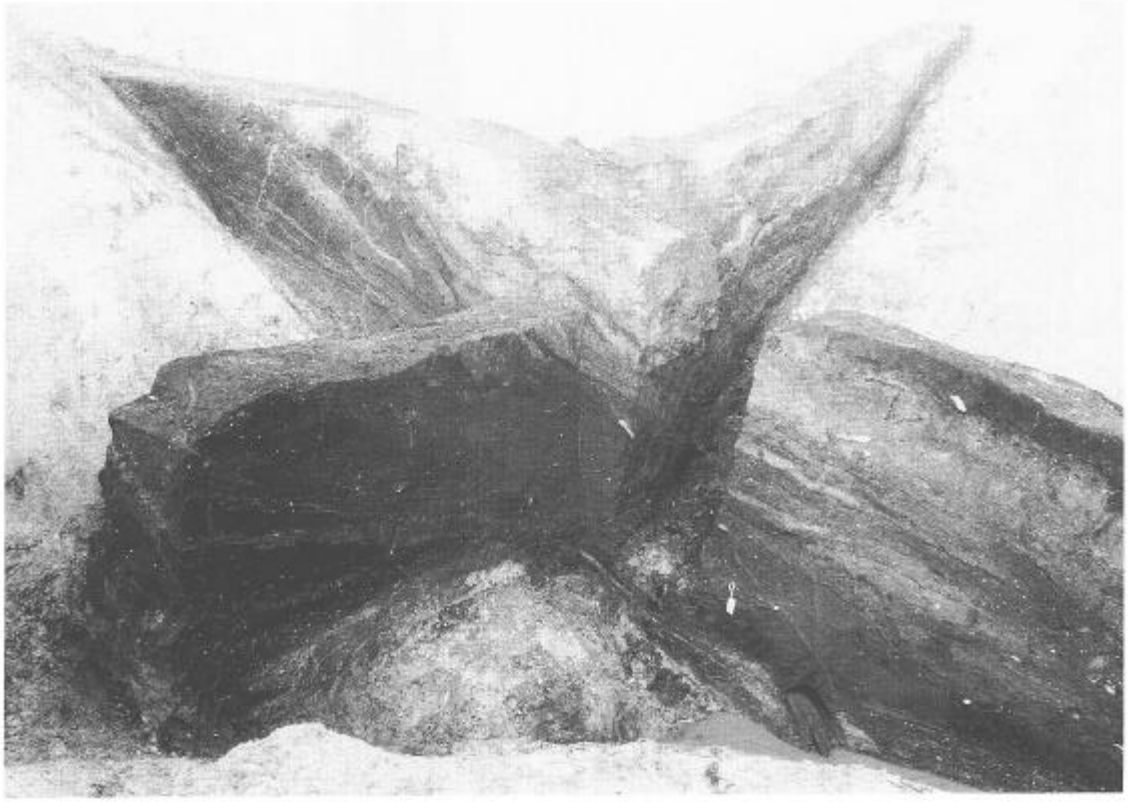
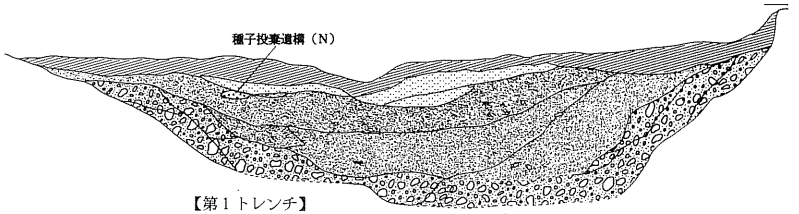
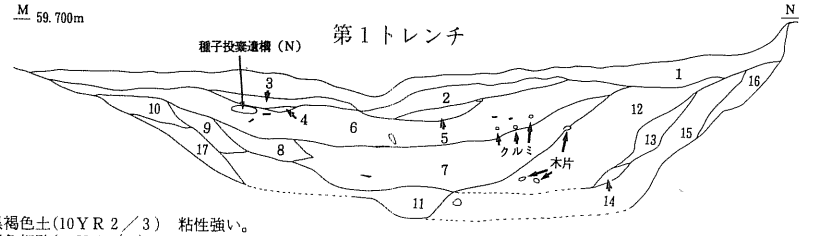


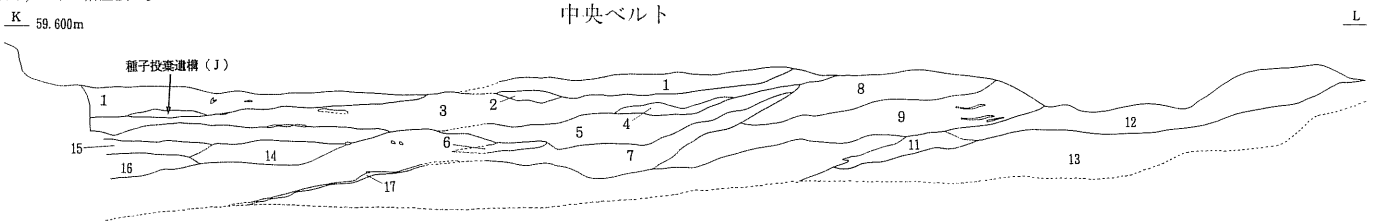
写真43　ＳＴ639谷　土層断面

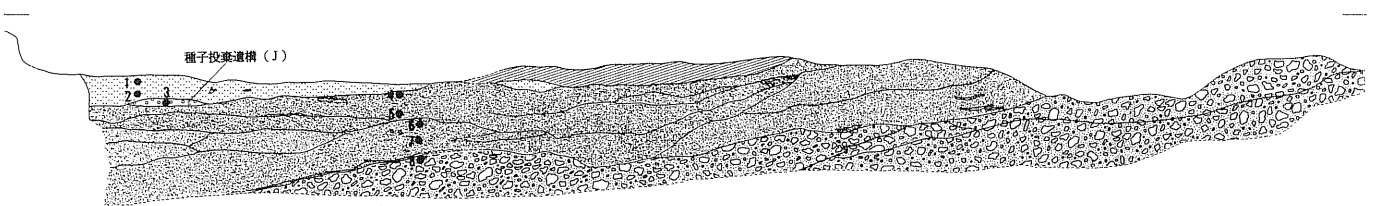


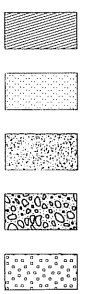
【第１トレンチ】
1　撹乱土(94年度に氷結防止用に覆った砂)
2　黒褐色土(５ＹＲ３／１)　炭化物とクルミが多く混入し、土器を多く包含する。粘性強い。
3　黒褐色土(５ＹＲ２／２)　粘性強い。
4　黄灰色粘土(2.5ＹＲ６／１)
5　暗赤褐色土(５ＹＲ３／３)　木材を多く包含する。粘性強い。
6　黒褐色土(7.5ＹＲ３／１)　炭化物と植物遺体、土器を多く包含する。粘性強い。
7　暗褐色砂質土(10ＹＲ３／３)　地山シラス粒を多量に混入。ザラザラしている。
8　黒褐色土(7.5ＹＲ３／２)　粘性強い。



9　黒褐色土(10ＹＲ２／３)　粘性強い。
10　灰色細砂(５Ｙ４／１)
11　黒褐色砂質土(10ＹＲ３／１)　地山シラス大粒・塊を混入。
12　黒褐色土(7.5ＹＲ３／１)　地山シラス細粒を混入。粘性あり。
13　黒褐色土(10ＹＲ３／２)　地山シラス大粒を多量に混入。粘性あり。
14　黒褐色土(10ＹＲ２／３)　粘性強い。
15　黒褐色土(５ＹＲ３／２)　地山シラス大粒を少量に、小粒を多量に混入。ザラザラしている。
16　灰黄褐色土(10ＹＲ５／２)　地山。
17　黒褐色土(10ＹＲ３／１)　粘性あり。







【中央ベルト】
1　前年度に埋め戻した土（泥中にクルミ・土器片・木片多い）
2　クルミの塊
3　黒褐色土(10ＹＲ３／１)
4　黒褐色土(10ＹＲ３／１)　地山シラス細粒を少量混入。
5　黒褐色土(10ＹＲ３／１)　地山シラス(細粒～中粒)を多く混入するが、よく締まっている。
6　地山シラス塊
7　黒褐色土(10ＹＲ２／３)　地山シラス中粒を多量に混入する。
8　黒褐色土(10ＹＲ２／３)　地山シラス粒と炭化物粒を混入する。
9　黒褐色土(10ＹＲ３／１)　地山シラス中粒を少量混入する。かたく締まっている。
10　黒褐色土(10ＹＲ３／１)　地山シラス(細粒～中粒)を多量に混入する。
11　灰黄褐色シラス(10ＹＲ５／２)
12　黒褐色土(10ＹＲ３／１)　地山シラスと木片を混入する。
13　灰黄褐色砂(10ＹＲ５／２)　地山漸移層
14　黒褐色土(10ＹＲ３／２)　地山の白色と黄褐色のシラスを混入。ザラザラしている。
15　黒褐色土(10ＹＲ３／２)　地山の黄褐色シラスを混入。
16　黒褐色土(10ＹＲ３／１)　灰黄色の地山シラス
17　黒色土(N20)　腐植質。
５～13では木片・土器・石器・骨等の出土が多い。

0　1m

第694図　ＳＴ639谷低湿部土層断面図

写真44　ＳＴ639谷の精査状況

写真45　ＳＴ639谷　縦方向土層断面実測状況

写真46　平成7年秋のＳＴ639谷低湿部調査終了時の状況

写真47　ＳＴ639谷の大湯浮石層堆積状況(白い部分が浮石層)

写真48　ＳＴ639谷捨て場Ｖ層土器出土状況

写真49　ＳＴ639谷捨て場Ｖ層土器出土状況

写真50　ＳＴ639谷捨て場Ｖ層土器出土状況

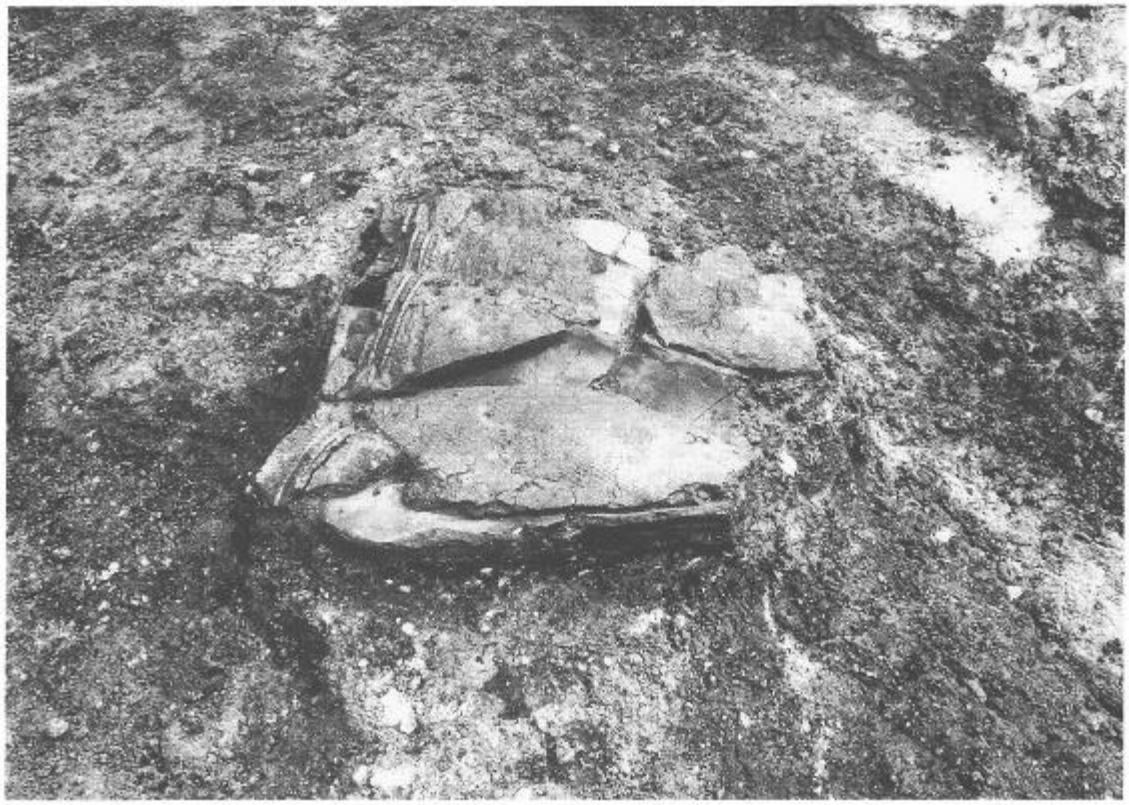


写真51　ＳＴ639谷捨て場Ｖ層、639－607土器出土状況

木が帯水層を形成したのである。この厚く堆積した軽石層で台地が作られているのであるが、雨水等の流水で開析され、帯水層まで露頭するようになり、不安定な堆積状態から大きく亀裂が入り、地滑りを起こしたと考えられるのである。

谷本体の底面は、地滑りによる崩落土が両側から堆積しているため狭まり、大きな凹凸が見られ、プラン確認面からの深さは、屈曲点付近が4.3ｍ、中半付近で6.4ｍ、南側最端部で7.6ｍであった。

崩落土が影響したのか谷内の埋土は、谷頭から谷中半付近までが厚く、中半付近から南側最端部は薄かった。また、中半付近から南側最端部に堆積する埋土の上位には古代の降下火山灰である十和田起源の大湯浮石層が堆積していた。

（２）第Ⅰ層から出土した遺物

①　土器　復元できた土器は５点（639－１～５）である。

（639－１）は底部を欠失するが、スマートな逆ベル・ボトム風の器形を呈し、頸部に指頭圧痕列で飾った細く尖った２条の隆帯を巡らしている。幅広で大きく外反する口縁部と隆帯下半には綾絡文を施文し、胴部には撚糸文を施文しているが、中半下位に綾絡文帯を付加している。

（639－２）はスマートな円筒形で、口縁はほぼ等間隔に低くなだらかな４つの頂部をもつ波状を呈する。頸部には、その上下に押圧縄文を付加し上部に縄を斜位に押捺した隆帯を１条巡らしている。やや外反する口縁部には所謂単軸絡条体第４類を回転施文したあと、口辺に１条の押圧縄文を付加している。胴部には撚糸文を施文している。

（639－３）は底部を欠失するが、口端が強く外反するバケツ形を呈し、頸部に爪形文で飾った細くて低い２条の隆帯を巡らしている。２条の隆帯の上下と間にも指先刺突列（指頭圧痕となったり、爪形文となったりしている）を施工文している。幅広な口縁部には羽状縄文で作出した連続菱形文を一巡させている。胴部には撚糸文を縦位施文しているが、隆帯下方には横位回転の撚糸文、中半には口縁部と同様に羽状縄文で作出した連続菱形文を一巡させている。

（639－４）は底部を欠失するが、幅広な口縁部の上半が大きく外反し、頸部には上部に横方向の連続爪形文を２条施文し、その上下と間に縦方向の連続爪形文を施文した結果として細く低い２条の隆帯を巡らしたように見せた土器である。口縁部から胴部上半には羽状縄文、下半には撚糸文を施文している。

（639－５）も底部を欠失するが、幅の狭い口縁部は外反し頸部がすぼまり胴の膨らむ円筒形を呈する。頸部には横長な連続刺突列で飾った１条の隆帯を巡らしている。口縁部には縦位、横位、斜位に２条１単位の押圧縄文を施文し、胴部には木目状撚糸文を施文している。

②　石器　石器は59点出土した。その内訳は、石鏃１点、石槍３点（639－775・776）、石錐１点、石匙６点（639－777・778）、篦状石器３点、削器14点、掻器４点、剥片・不定形石器４点（639－779）、石錘３点（639－780～782）、半円状偏平打製石器12点、くぼみ石４点（639－783～785）、擦石２点、石皿２点である。

③　石製品　有溝礫１点が出土した。このほかに自然礫に穴のあいた有孔礫２点、軽石１点、石核５点が出土した。

（３）第Ⅱ層から出土した遺物

①　土器　復元できた土器は73点（639－６～78）である。

（639－６・７）は胴の膨らむ器形を呈し、全面に単節縄文を施文した土器である。

（639－８）は頸部がすぼまり口縁部が外反し、胴中央の膨らむ円筒形を呈する土器で、口縁部に単節縄文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－９～15）は口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器である。器形にはバケツ形（639－９～12・15）と円筒形（639－13・14）がある。

（639－16・17・19・20）は頸部に隆帯あるいは隆帯様膨らみを巡らして、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器である。（639－16）は太く低い隆帯を巡らし、口縁部から隆帯下方まで綾絡文、胴部に撚糸文、底辺部に綾絡文を施文している。（639－17・19）は頸部に隆帯様膨らみを巡らして、口縁部から胴部上半に綾絡文、胴部下半に撚糸文を施文している。（639－20）は口縁部を大きく外反させ頸部に細く高い隆帯を巡らし、口縁部から隆帯下方まで綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－18）は頸部に低く幅広な隆帯様膨らみを巡らして、胴部上半に単節縄文、胴部下半に撚糸文を施文した土器である。

（639－21）は胴の膨らむ円筒形で頸部に隆帯を巡らし、口縁部から隆帯下方までと底辺部に綾絡文、以下に複節縄文を施文した土器である。

（639－22）はやや胴の膨らむ円筒形で、頸部にやや高く山形に尖った隆帯を巡らし、口縁部から隆帯下方まで綾絡文、以下に撚糸文を施文した土器である。

（639－23）はややボリュームのある円筒形を呈し、口縁部が外反し頸部にやや低い隆帯を巡らした土器で、口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文を施文している。口辺と隆帯には押圧縄文を施文している。

（639－24）は口縁部がやや開く円筒形で、頸部に丸みのある隆帯を巡らし、全面に撚糸文を施文した土器である。

（639－25）はスマートな円筒形で、頸部にやや高く山形に尖った隆帯を巡らし、口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文を施文している。口縁部には縄の押捺による連続山形文が付加されている。

（639－26）はややボリュームのある円筒形を呈し、口縁部が外反し頸部に低く偏平な２条の隆帯を巡らした土器で、口縁部から隆帯下方に羽状縄文、以下に撚糸文を施文している。隆帯上には網目状撚糸原体の側面圧痕、隆帯の上下と間には押圧縄文を付加している。

（639－27・28・30～38）は頸部に指頭圧痕列で飾った隆帯を巡らした土器である。

（639－27）はボリュームのある円筒形を呈し、口唇に指頭圧痕列を巡らした幅の狭い口縁部が大きく外反し、頸部に指頭圧痕列で飾った低く偏平な隆帯を１条巡らした土器である。全面に単節縄文を施文しているが、隆帯上下と胴部中半下位に綾絡文を付加している。

（639－28）は胴部下半を欠失するが、ずん胴な円筒形を呈すると思われ、頸部に指頭圧痕列で飾った低く偏平な隆帯を１条巡らした土器である。全面に撚糸文を施文している。

（639－30）は胴部下半を欠失するが、ボリュームのある円筒形を呈すると思われ、頸部に連続する指頭圧痕列で飾った低く偏平な隆帯を１条巡らした土器である。口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－31）は底辺部を欠失するが、円筒形を呈し、頸部に連続する指頭圧痕列で飾った隆帯を１

条巡らした土器である。隆帯の上下にも連続する指頭圧痕列も部分的に見られる。全面に撚糸文を施文している。

（639－32）は円筒形を呈し、頸部に部分的な指頭圧痕列で飾った隆帯を1条巡らした土器である。口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－33）は胴部以下を欠失するが、頸部に指頭圧痕で飾った細く低い隆帯を1条巡らした土器である。隆帯の上下には連続する指頭圧痕列を巡らしている。口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－34）はスマートな逆ベル・ボトム風な器形を呈し、頸部に連続する指頭圧痕列で飾った低く偏平な2条の隆帯を巡らした土器である。口縁部から隆帯下方までに綾絡文、以下に撚糸文を施文している。

（639－35）はずんぐりした逆ベル・ボトム風な器形を呈し、頸部に連続する指頭圧痕列で飾った先細りのやや高い2条の隆帯を巡らした土器である。口縁部から隆帯下方までと胴部中半下位に綾絡文、他には撚糸文を施文している。

（639－36）は胴部下半を欠失するが逆ベル・ボトム風な器形を呈し、頸部に連続する指頭圧痕列で飾った低く偏平な1条の隆帯を巡らした土器である。隆帯の上下にも連続する指頭圧痕列を巡らしている。口縁部から隆帯下方までに綾絡文、以下に撚糸文を施文している。

（639－37）は胴部下半を欠失するが、頸部に連続する指頭圧痕列で飾った先細りのやや高い2条の隆帯を巡らした土器である。隆帯間にも爪形に似た指頭圧痕列を付加している。口縁部に綾絡文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－38）は胴部下半を欠失するが、口縁部が大きく外反し胴部中半が膨らむ逆ベル・ボトム風な器形を呈し、頸部に連続する指頭圧痕列で飾った偏平な2条の隆帯を巡らした土器である。隆帯間と隆帯上下にも爪形に似た指頭圧痕列を付加している。口縁部から隆帯下方までと胴部中半下位に綾絡文、その他には撚糸文を施文している。

（639－29）はスマートな円筒形で口縁部が外反し、頸部に竹管刺突列で飾ったやや低く偏平な隆帯を2条巡らした土器である。全面に単節縄文を施文している。

（639－39～51・53・55）は幅広な口縁部をもち頸部に爪形文で飾った隆帯を巡らした土器である。

（639－39）は胴部下半を欠失するが、低く偏平な1条の隆帯上に、指頭圧痕のくぼみの中に爪形を縦位に刺突して爪形文を飾ったもので、口縁部から隆帯下方までに綾絡文、その下位には撚糸文を施文している。

（639－40）は底辺部を欠失するが、口縁部が大きく外反する逆ベル・ボトム風な器形を呈し、頸部にやや先細りの高い1条の連続爪形文を飾った隆帯を巡らした土器である。口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－41）も底辺部を欠失するが、口縁部が外反する円筒形を呈し、頸部に偏平で低い1条の連続爪形文を飾った隆帯を巡らした土器である。口縁部から隆帯下方までに綾絡文、その下位には撚糸文を施文している。

（639－42）は底辺部を欠失するが、スマートな器形を呈し、頸部に連続爪形文を飾ったやや先細りの高い1条の隆帯を巡らした土器である。口縁部に羽状縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－43）は胴部下半を欠失するが、胴部中半が膨らみ口縁部がほぼ直立する円筒形を呈し、頸部に偏平で低い1条の連続爪形文を飾った隆帯を巡らした土器である。隆帯上下にも連続爪形文を巡らしている。口縁部から隆帯下方までに綾絡文、その下位には撚糸文を施文している。

（639－44）は口縁部がやや開く円筒形を呈し、頸部には間隔の狭い連続爪形文で飾っているが目立たないほど低く偏平な隆帯を巡らしている。全面に撚糸文を施文している。

（639－45）は底辺部を欠失するが、ずん胴な円筒形を呈し、頸部に2条の連続爪形文列を巡らしている。2条の間には横位に連続する爪形文列を充填している。幅の広い口縁部と、連続爪形文列下方に口縁部とほぼ同じ幅で羽状縄文、以下に撚糸文を施文している。

（639－46）はスマートな器形を呈し、頸部に2条の連続爪形文列を巡らしている。上下2条巡らすことによりその間の粘土はあたかも細くて低い無文の隆帯を巡らしているように見える。口縁部と胴部上半には単節および多条の縄文、胴部下半に撚糸文を施文している。

（639－47・48）の頸部には2条の連続爪形文列を巡らしているが、その上下と口辺に1条の押圧縄文を施文している。（639－47）では連続爪形文列の間の隆起部分に斜位の連続爪形文列を充填している。全面に羽状縄文を施文している。（639－48）は口縁部と底辺部を欠失するが、頸部には1条の押圧縄文を下位に付加した連続爪形文列を巡らしている。連続爪形文列下方に羽状縄文、その下位には撚糸文を施文している。

（639－49）は頸部に（639－46）と同じように2条の連続爪形文列を巡らしているが2条の間の隆起部分に横位の連続爪形文列を充填している。全面に撚糸文を施文しているが、口辺は施文方向を変えている。

（639－50・51・53）はいずれも胴部下半あるいは底辺部を欠失するが、胴部中半が膨らみ口縁部が外反する円筒形を呈し、頸部に偏平で低い2～3条の連続爪形文を飾った隆帯を巡らした土器である。隆帯上下とその間にも連続爪形文を施文している。（639－50）では口縁部に羽状縄文を上下組み合わせて菱形文、2条の隆帯下位には綾絡文、その下方には撚糸文を施文している。（639－51）では口縁部から3条の隆帯下方まで羽状縄文を上下組み合わせて菱形文、その下位には撚糸文を施文している。

（639－53）でも口縁部から2条の隆帯下方まで羽状縄文を上下組み合わせて菱形文、その下位には撚糸文を施文しているが、中半に羽状縄文、下半に綾絡文を巡らしている。

（639－55）はずん胴な円筒形を呈し、頸部に偏平で細く低い2条の連続爪形文を飾った隆帯を巡らした土器である。隆帯上下とその間にも連続爪形文を施文している。口縁部から隆帯下方までと胴部中半下位に羽状縄文を、それ以外には撚糸文を施文している。

（639－54）は胴部以下を欠失するがずん胴な円筒形を呈すると思われ、口縁部に羽状縄文を上下組み合わせて菱形文、その下位には撚糸文を施文している。

（639－56～58・60）はダンゴ虫のように、縄原体を斜位に押捺した隆帯を頸部に巡らした土器である。（639－56）は口辺に撚糸文を施文した口縁部がやや開き、胴膨らみのある円筒形を呈し、頸部に太く偏平な隆帯を1条巡らした土器である。口縁部から隆帯下方までと胴部中半に単節縄文を巡らし、それ以外には撚糸文を施文している。（639－57）は底辺部を欠失するが胴部中半が膨らみ口縁部が外反する円筒形を呈し、頸部に太くやや高い隆帯を1条巡らした土器である。口縁部から隆帯下方

までと胴部下半に羽状縄文を巡らし、それ以外には撚糸文を施文している。(639－58) は底辺部を欠失するが円筒形を呈し、幅広で低い隆帯を頸部に１条巡らした土器である。口縁部から隆帯下方まで綾絡文、以下に撚糸文を施文している。(639－60) は胴部上半が膨らみボリュームのある器形を呈し、太く高い隆帯を頸部に１条巡らした土器である。口縁部と胴部中半および底辺に綾絡文、それ以外には撚糸文を施文している。

(639－64) はややスリムなバケツ形を呈し、全面に複節縄文を施文した土器である。

(639－65) は底辺部を欠失するが、胴部中半が膨らみ口縁部が外反する円筒形を呈し、口縁部から下方に綾絡文と単節縄文を交互に施文した土器である。

(639－66) は円筒形を呈し、胴部下半を欠失するが、頸部に１条の綾絡文を巡らし、口縁部に単節縄文を、胴部に撚糸文を施文した土器である。

(639－67) は口縁が外反するバケツ形を呈し、胴部上半に縄文を、下半に撚糸文を施文した土器である。口辺には縄文を横位回転させて口縁部文様体を表出し、胴部中半でも撚糸文を横位回転施文させている。

(639－68) はずん胴な円筒形で、胴部上半に縄文を、下半に撚糸文を施文した土器である。頸部に２条の綾絡文を巡らし、幅の狭い口縁部を表出している。

(639－69) は口辺に粘土を貼り付けて厚く幅の狭い口縁部を作り、撚糸文を横位回転施文させ、胴部には縦位に撚糸文を施文した土器である。

(639－70) は口がやや開く円筒形を呈し、頸部に細く低い隆帯を１条巡らした土器である。幅の狭い口縁部には横走する数条の押圧縄文を、隆帯には単軸絡条体の側面圧痕、胴部には羽状縄文を施文している。

(639－71) はバケツ形を呈し、頸部に２条の単軸絡条体の側面圧痕を巡らし、幅の狭い口縁部には羽状縄文を、胴部に撚糸文を施文した土器である。

(639－72) は４つの頂部をもつゆるやかな波状口縁をもちバケツ形に近いボリュームのある円筒形を呈する土器である。頸部に半截竹管様の連続刺突文と綾絡文を上下平行させて巡らしている。幅の狭い口縁部には横走する数条の押圧縄文と波頂部から垂下する２条の押圧縄文が施文され、地には爪形文が充填されている。胴部には撚糸文を施文している。

(639－73) はずん胴な円筒形を呈している。頸部に２条の横走する押圧縄文を巡らし、口縁部と胴部上半に羽状縄文、下半には単節縄文を施文した土器である。

(639－74) は４つの頂部をもつ波状口縁をもちバケツ形に近いボリュームのある円筒形を呈する土器である。頸部と口辺に細い粘土紐を貼り付けて半截竹管様の連続刺突文を施文し、口縁部には波状口縁に平行させて押圧縄文を巡らし、波頂部から１条の押圧縄文を垂下させている。胴部には木目状撚糸文を施文している。

(639－75) は底辺部を欠失するが、スマートな円筒形を呈する土器である。全面に羽状縄文を施文したあと、頸部に平行する５条の押圧縄文を巡らし、口辺から１条の押圧縄文を垂下させている。

(639－76) はボリュームのある円筒形の胴部に、すぼめた頸部、大きく外反する口縁部がつけられた器形の土器である。口縁部には単軸絡条体の側面圧痕を横位、斜位に施文し、胴部上半に羽状縄文を、下半に撚糸文を施文している。

（639－77）は底辺部を欠失するが、６つの頂部をもつ波状口縁をもちボリュームのある円筒形を呈する土器である。口辺に粘土を貼り付けて厚く幅の狭い口縁部を作り出して撚糸文を施文し、頸部には横走する６条の押圧縄文、肩部に撚りの異なる２条の縄原体を巡らし、胴部には木目状撚糸文を施文している。

（639－78）は底辺部を欠失するが、スマートなバケツ形を呈する土器である。口縁部には横走する５条の押圧縄文を巡らし、胴部には撚糸文を施文している。

②　石器　石器は227点出土した。その内訳は、トランシェ様石器１点（639－786）、石鏃６点（639－787～792）、石槍７点（639－796～799）、石錐19点（639－793）、石匙40点（639－795）、篦状石器８点（639－800～803）、削器38点、掻器19点、剥片・不定形石器７点（639－804～807）、磨製石斧６点、石錘13点（639－808～818）、半円状偏平打製石器37点（639－821～823）、くぼみ石13点、擦石10点、石皿４点である。

③　石製品　有溝礫２点、円盤状石製品６点（639－819・820）が出土した。このほかに自然礫に穴のあいた有孔礫１点、石核８点が出土した。

（４）第Ⅲ層から出土した遺物

①　土器

復元できた土器は70点（639－79～149）である。

（639－79）はバケツ形を呈する土器である。全面に撚糸文を施文しているが、口縁部には施文方向を変え横方向に施文している。

（639－80～82・84～87）はバケツ形あるいは逆ベル・ボトム風の器形で、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器である。（639－82）は底辺部にも綾絡文を施文している。

（639－83）はバケツ形を呈し全面に単節縄文を施文した土器である。

（639－88・89）は円筒形を呈する土器で、（639－88）は口縁部と底辺部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文し、（639－88・89）は口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－90・92）は胴部下半を欠失しているが、逆ベル・ボトム風の器形と思われる土器で、全面に撚糸文を施文している。

（639－91）は底辺部を欠失しているが、逆ベル・ボトム風の器形と思われる土器で、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器である。

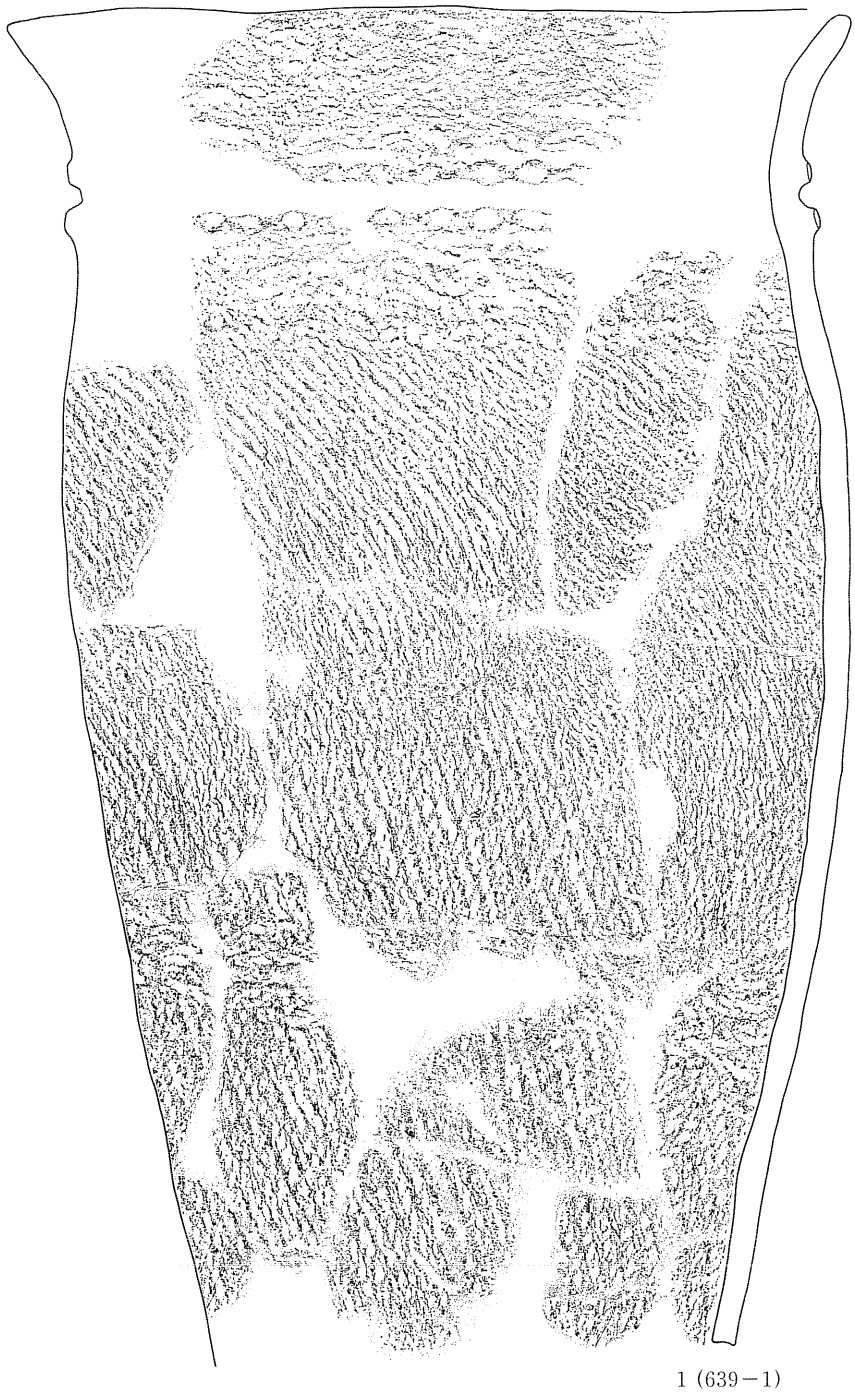
（639－93）は頸部がすぼまり口縁部が外反する円筒形の土器である。口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文しているが、底辺部には施文方向を変え横方向に施文している。

（639－94～96）はバケツ形を呈し、口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文を施文した土器である。（639－95）では胴部中半下位にも単節縄文が施文されている。

（639－97）は円筒形を呈する土器である。口縁部に複節縄文、頸部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－98）は頸部にほとんど目立たないほど低い隆帯を巡らした円筒形を呈する土器である。全面に縦位の撚糸文を施文しているが、隆帯上と口辺には横位に施文している。

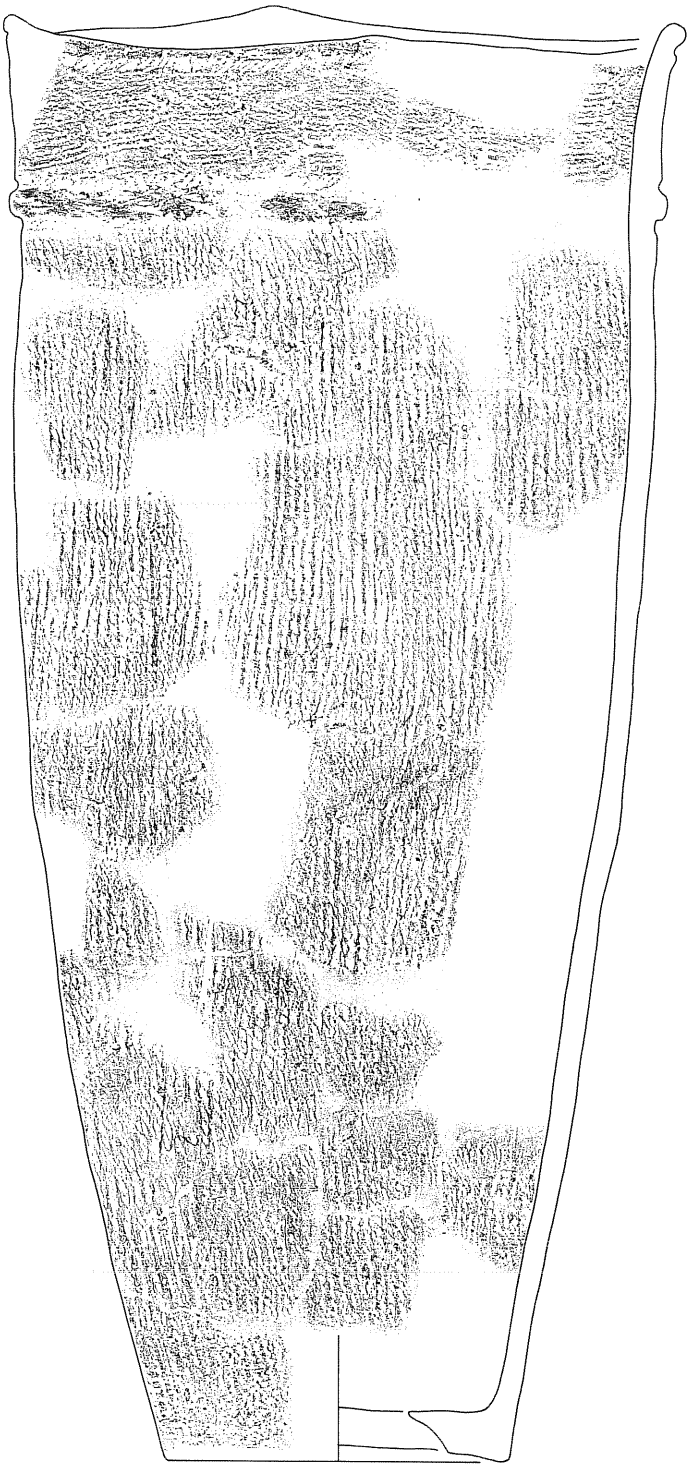
（639－99）は胴部下半を欠失しているが、頸部にほとんど目立たないほど低い隆帯を巡らした円筒形と思われる土器で、幅の広い口縁部から隆帯下方にかけて綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。



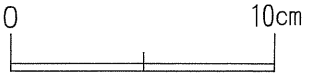
1（639－1）

0　10cm

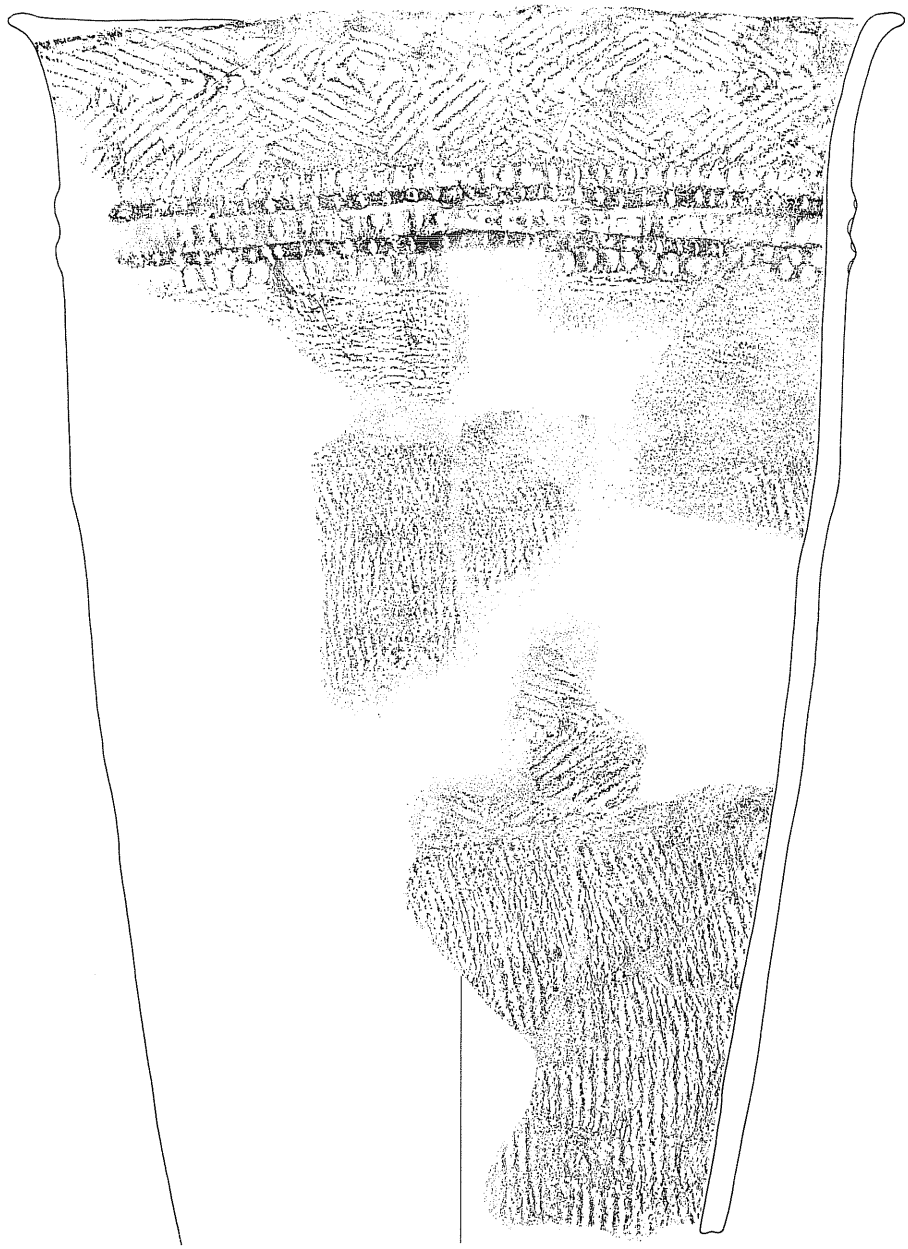
第695図　ＳＴ639谷Ｉ層出土土器（１）



1（639－2）



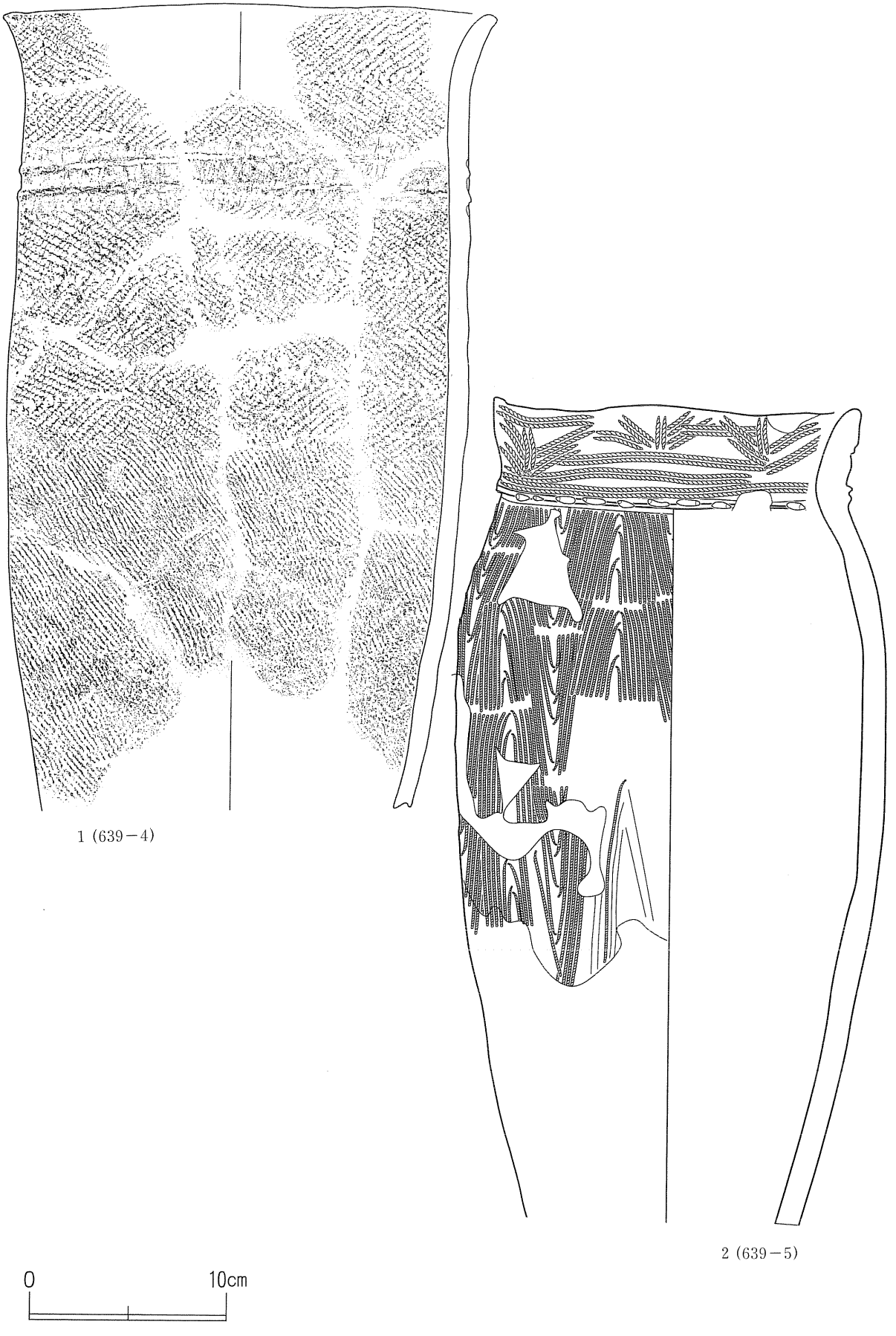
第696図　ＳＴ639谷Ｉ層出土土器（２）



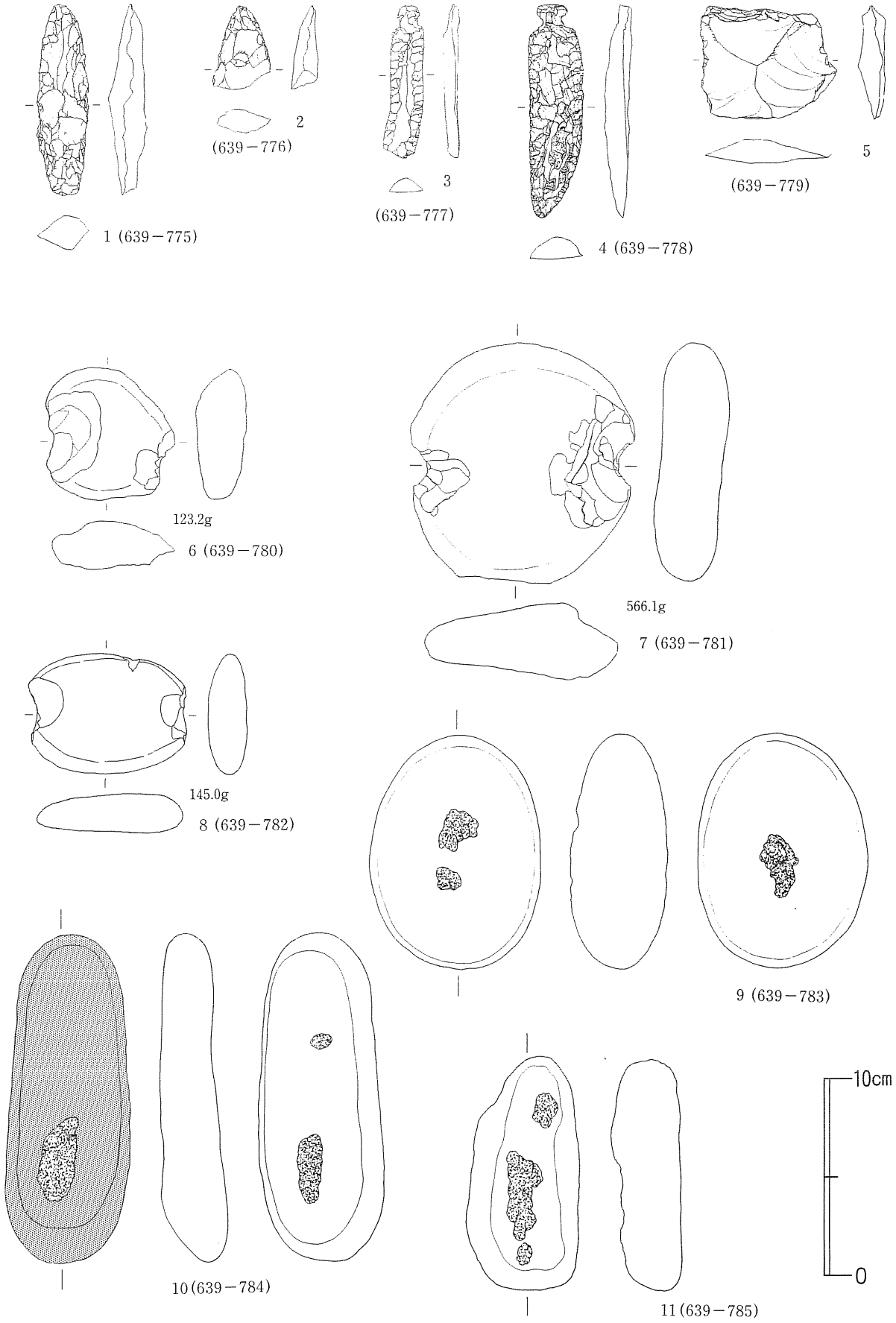
1（639－3）

0　10cm

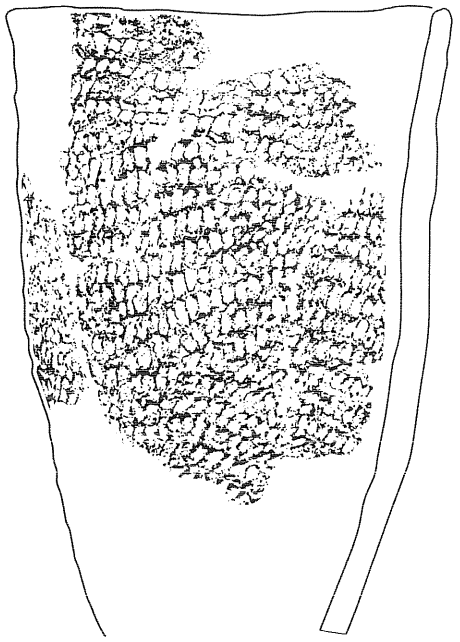
第697図　ＳＴ639谷Ｉ層出土土器（３）



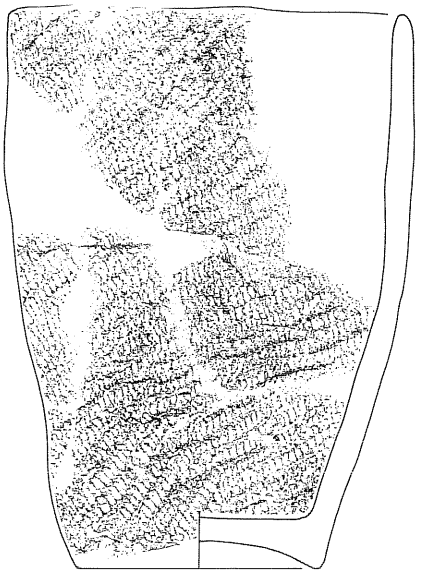
第698図　ＳＴ639谷Ｉ層出土土器（４）



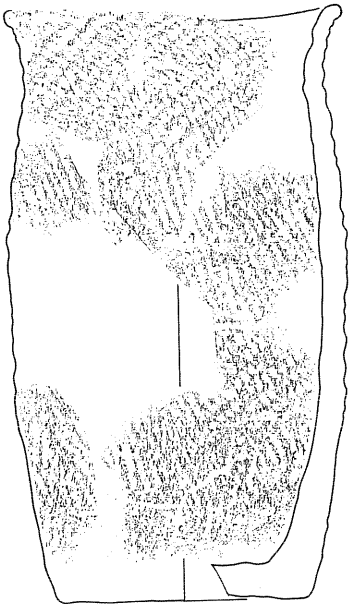
第699図　ＳＴ639谷Ｉ層出土石器



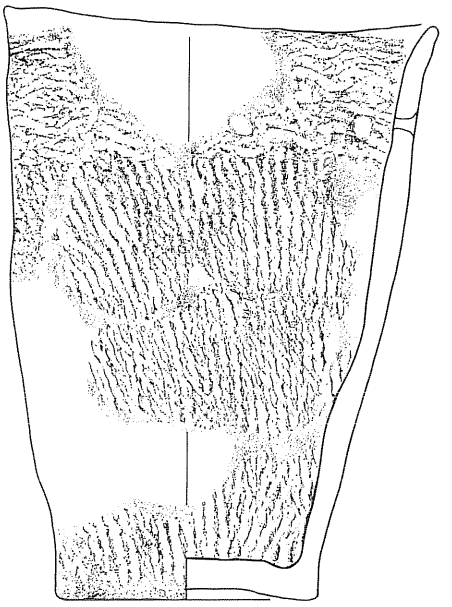
1（639－6）



2（639－7）

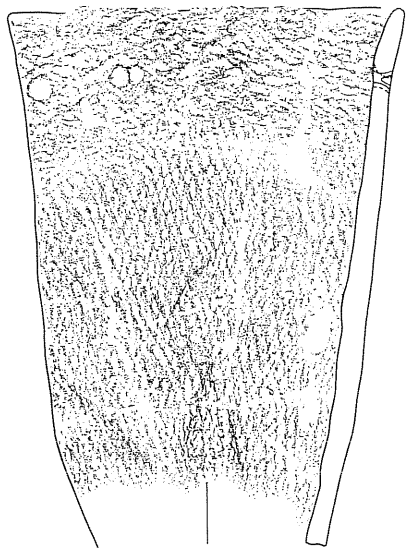


3（639－8）

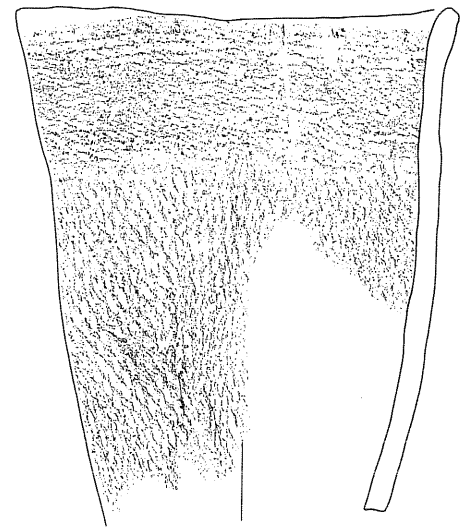


4（639－9）

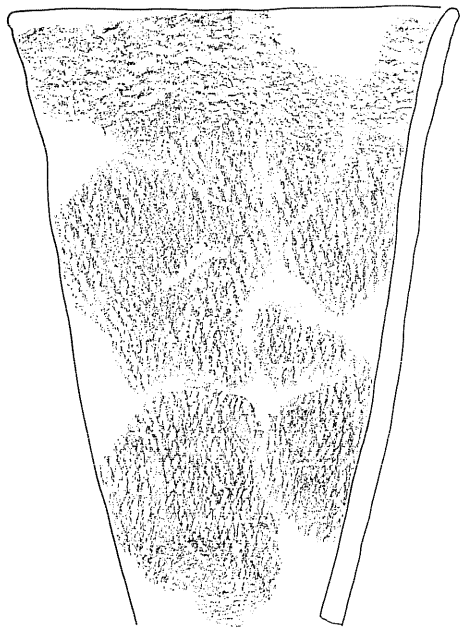
第700図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（１）



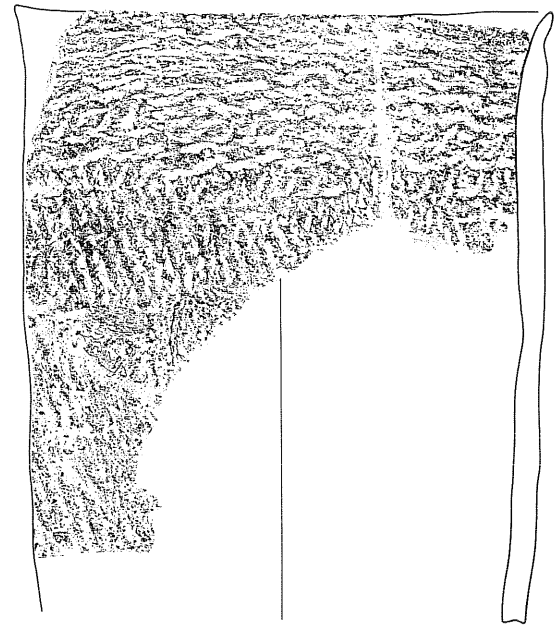
1（639－10）



2（639－11）

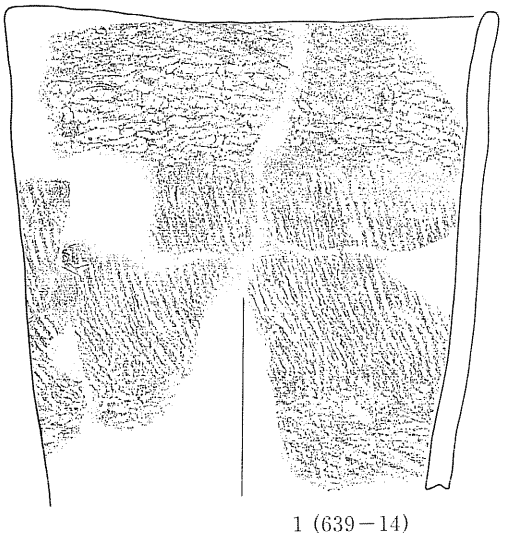


3（639－12）

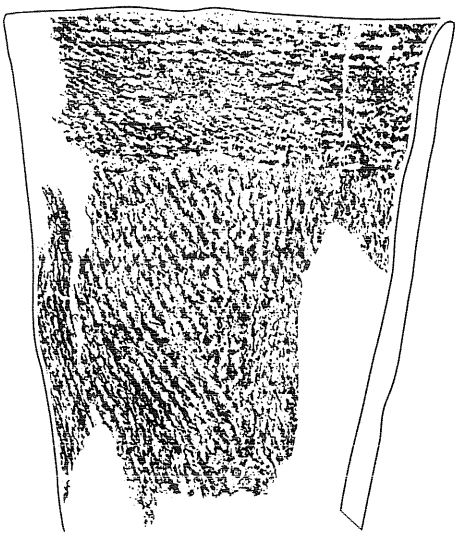


4（639－13）

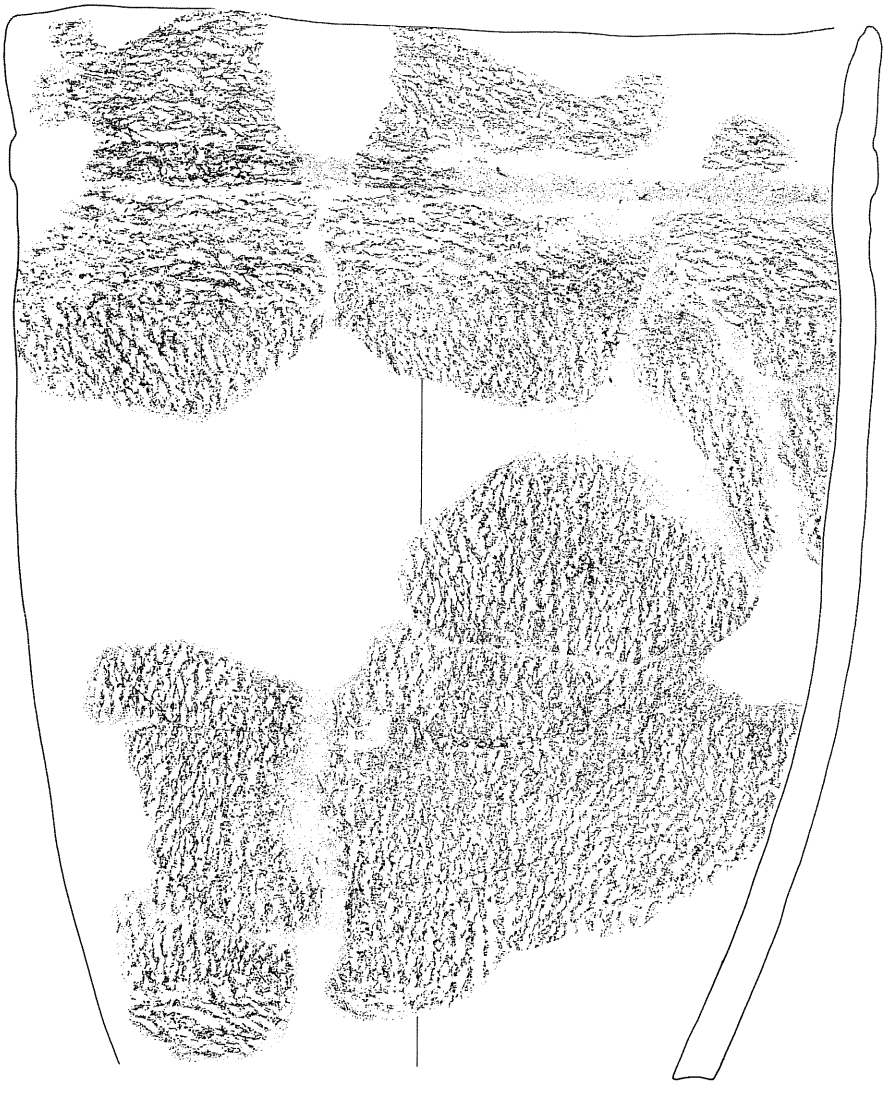
第701図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（２）



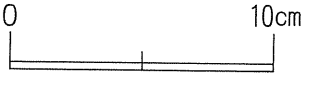
1（639－14）



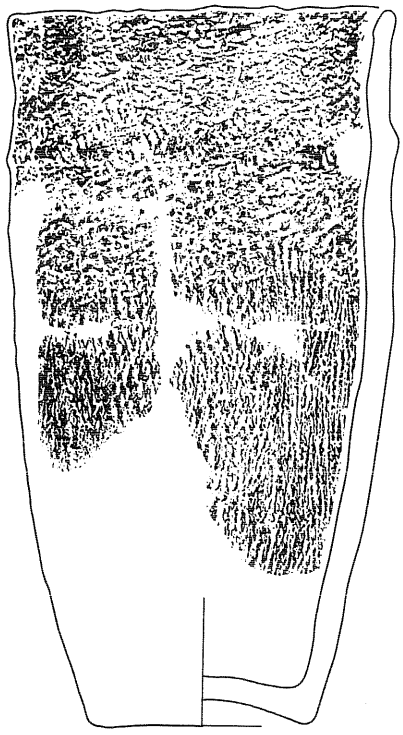
2（639－15）



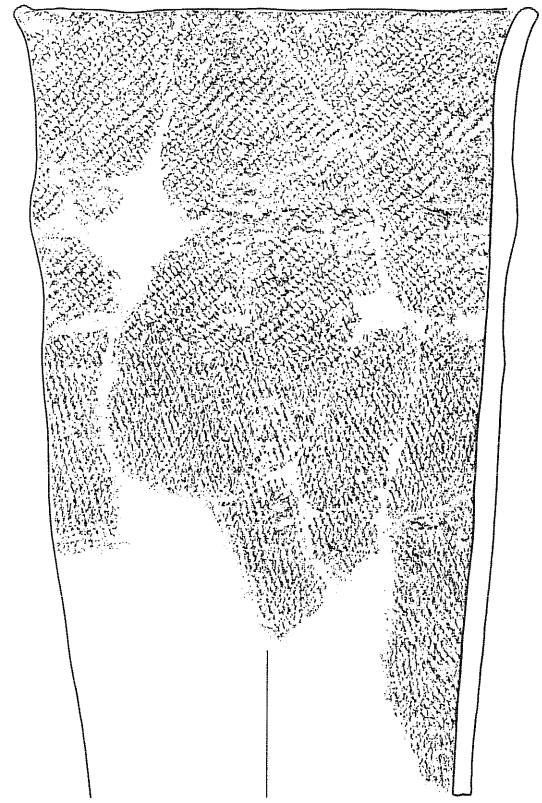
3（639－16）



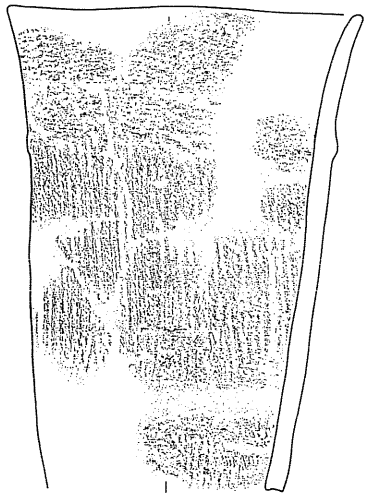
第702図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（３）



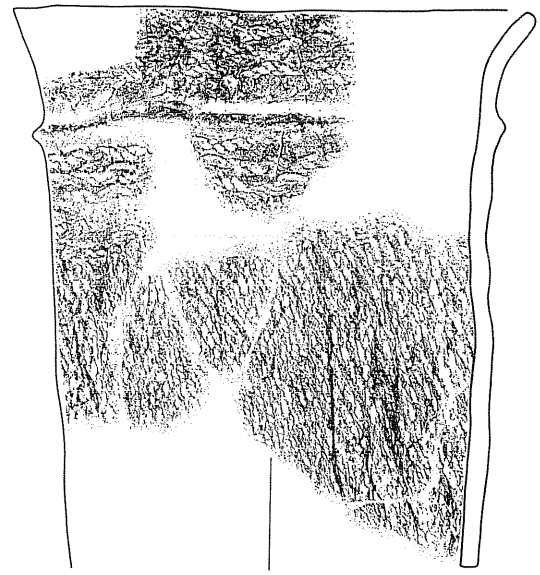
1（639－17）



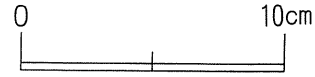
2（639－18）



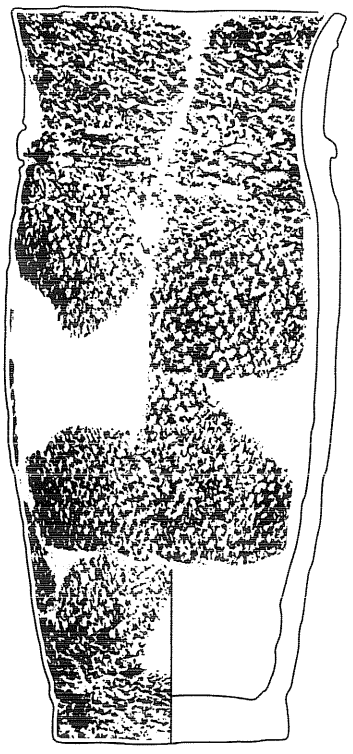
3（639－19）



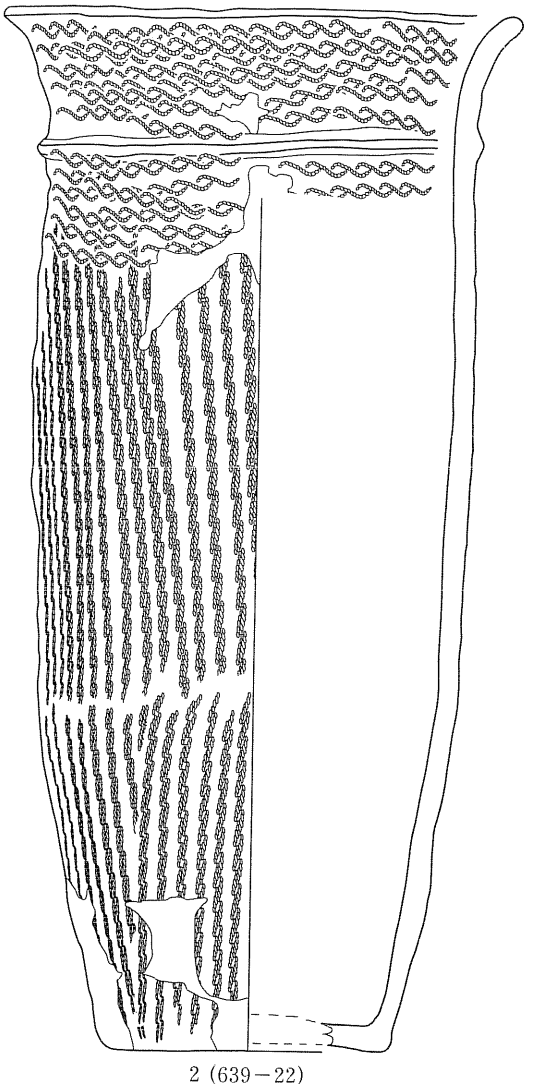
4（639－20）



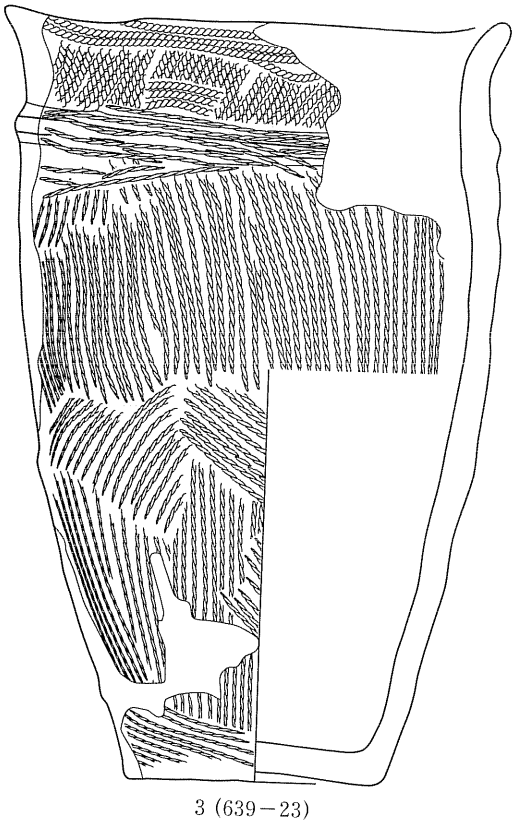
第703図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（４）



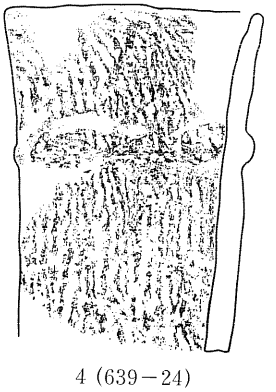
1　(639－21)



2 (639－22)



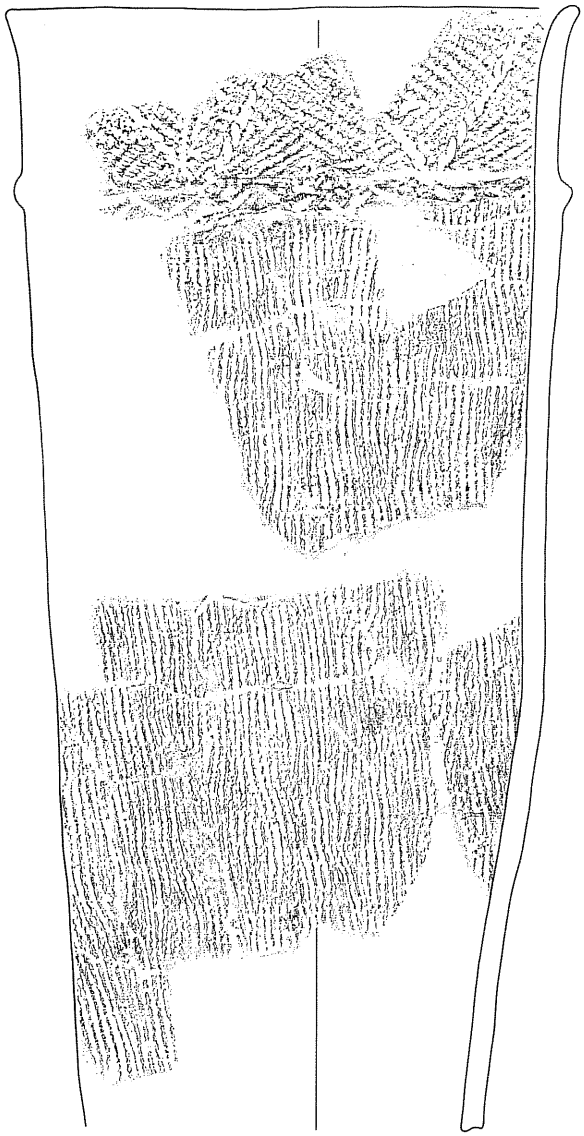
3 (639－23)



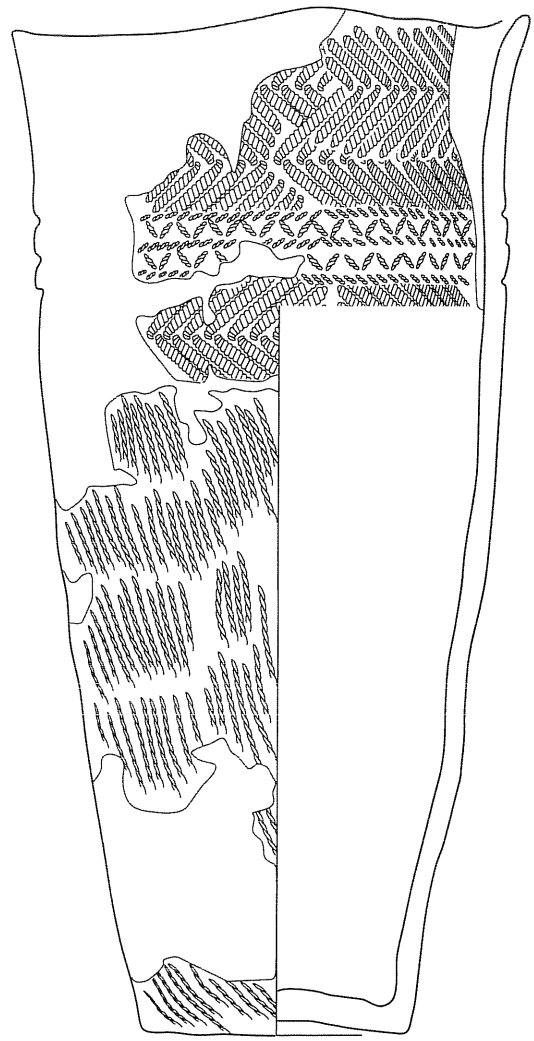
4 (639－24)

0　10cm

第704図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（５）



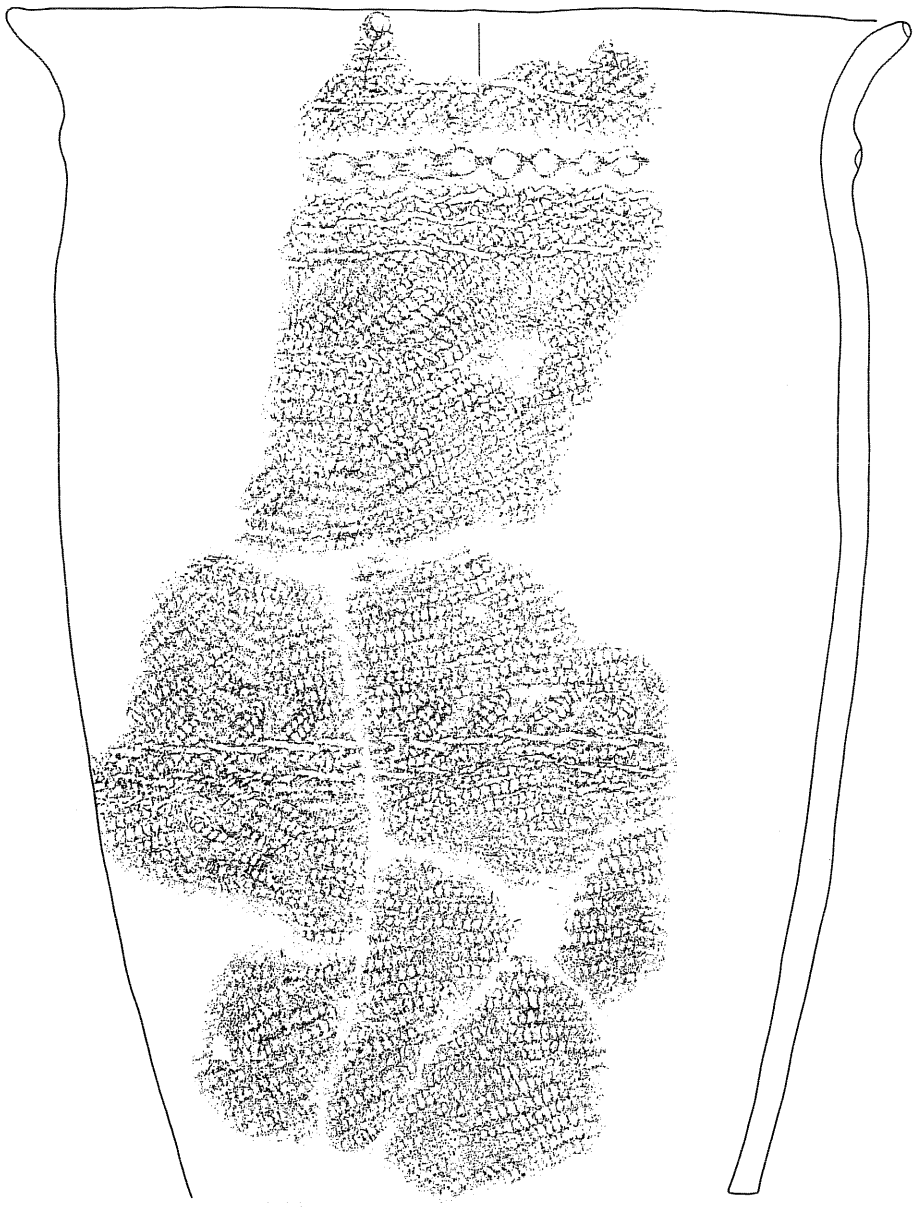
1（639－25）



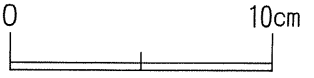
2（639－26）

0　10cm

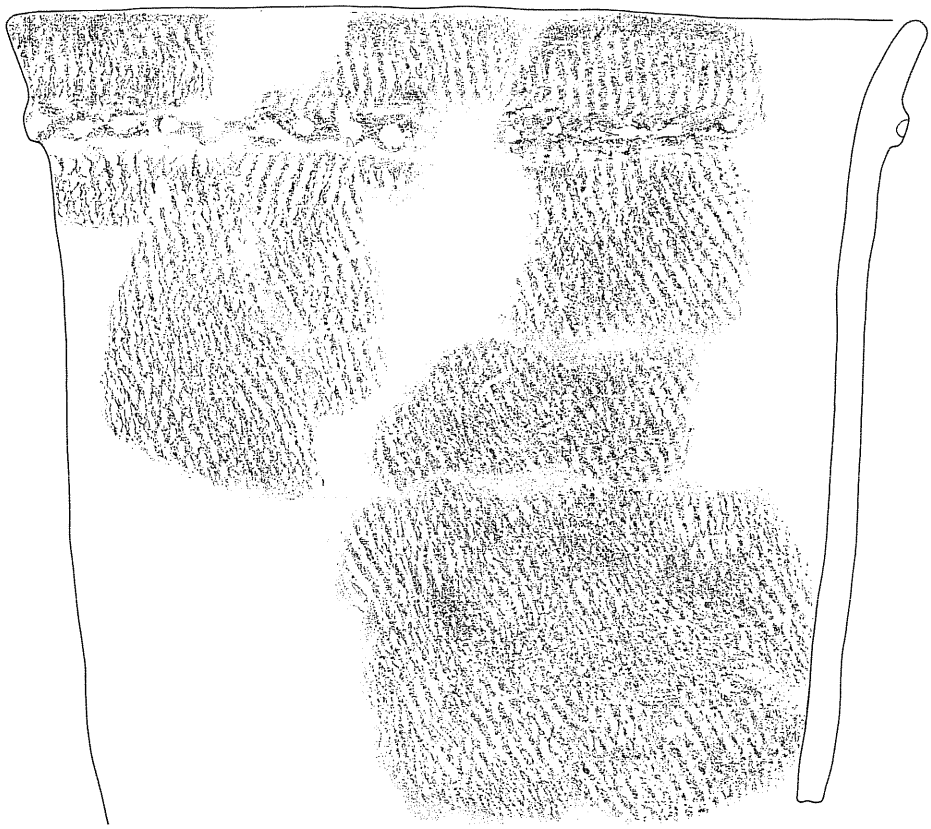
第705図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（６）



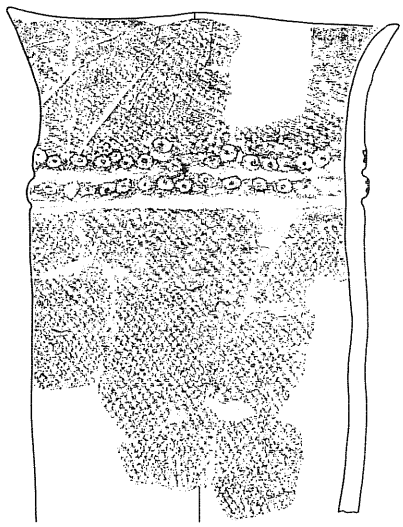
1（639－27）



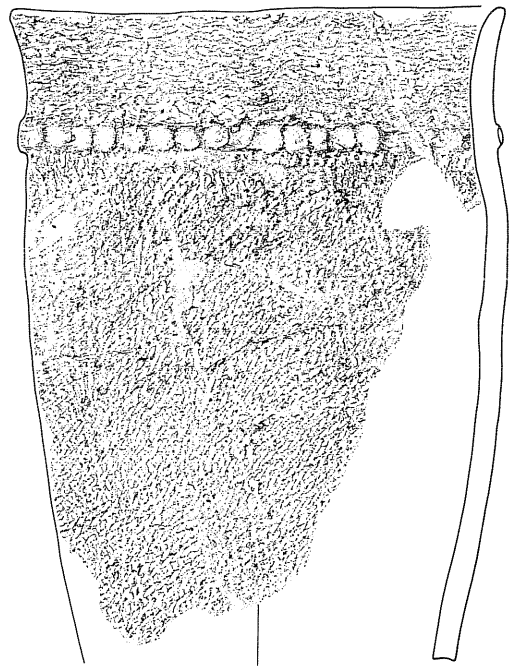
第706図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（７）



1（639－28）



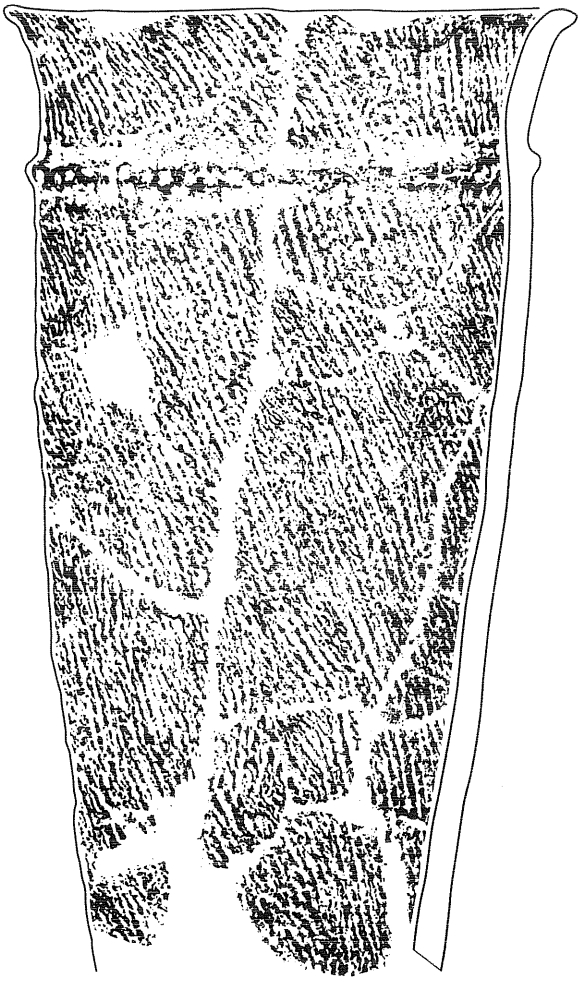
2（639－29）



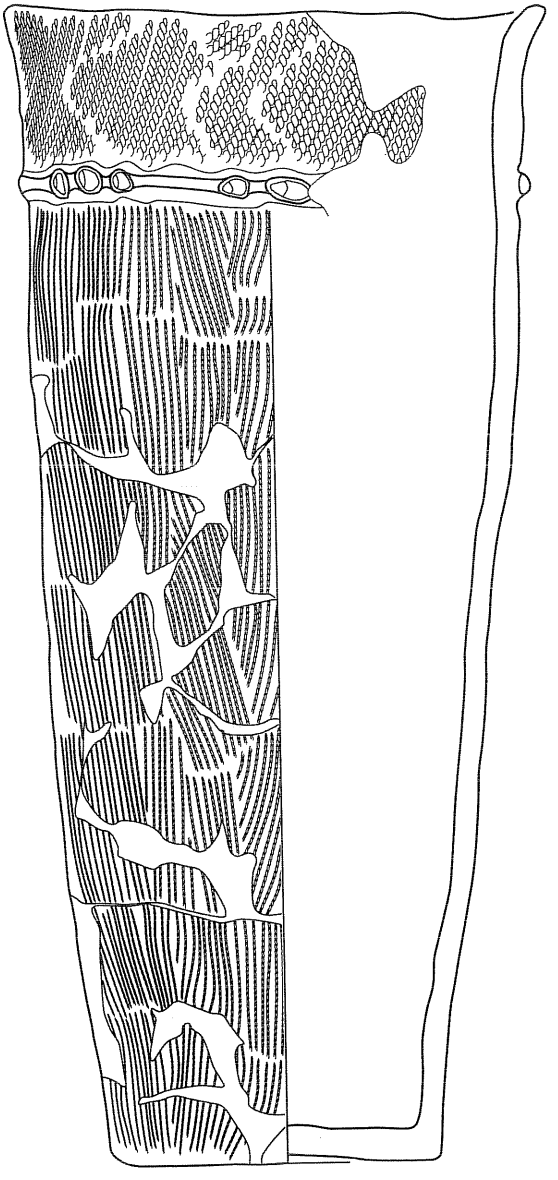
3（639－30）

0　10cm

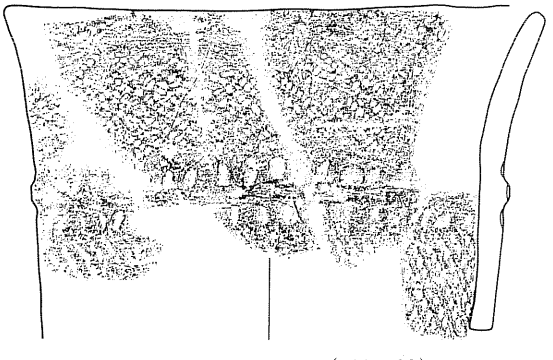
第707図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（８）



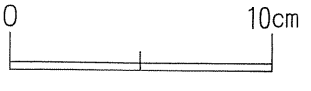
1（639－31）



2（639－32）



3（639－33）

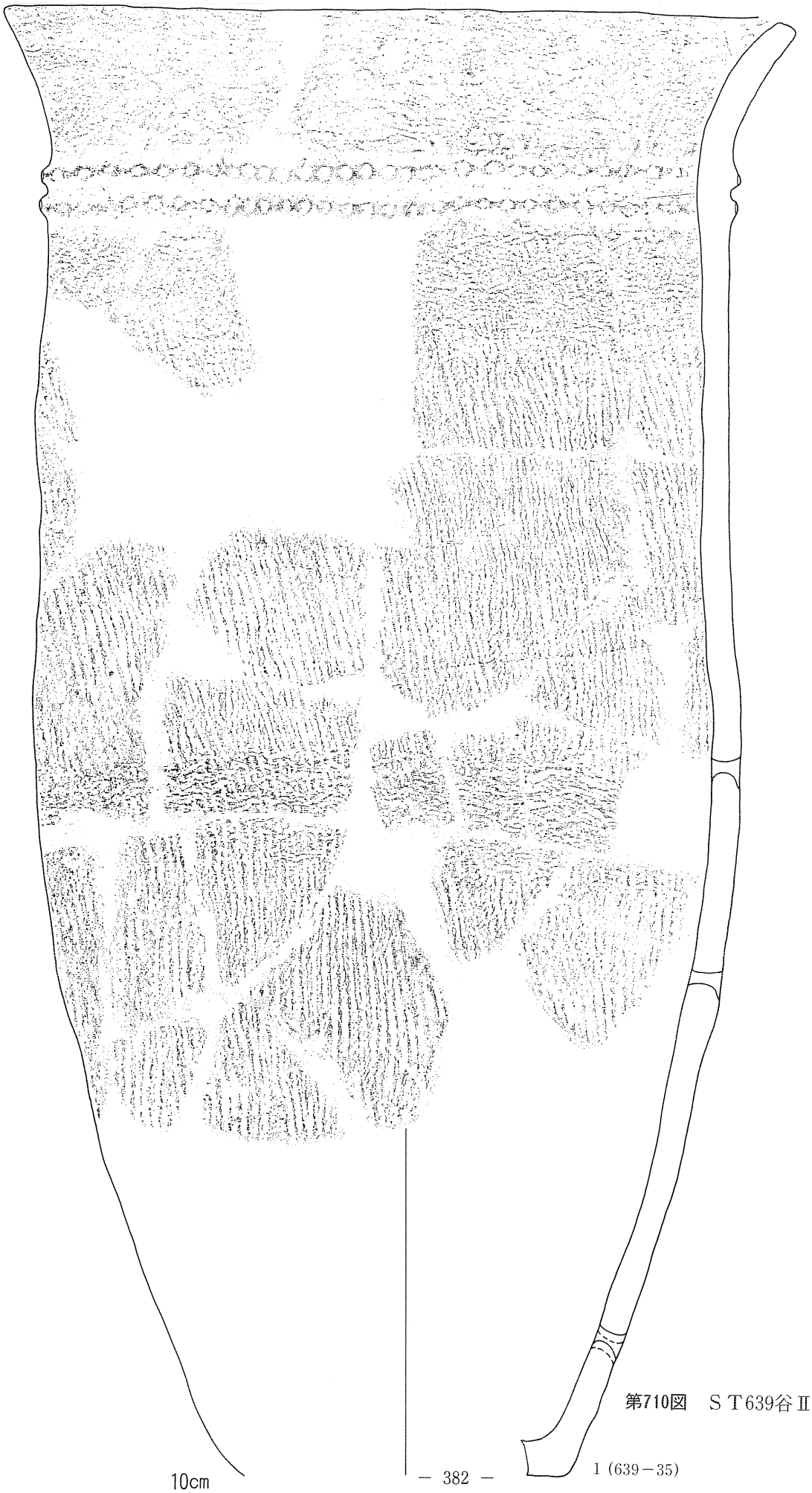


第708図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（９）

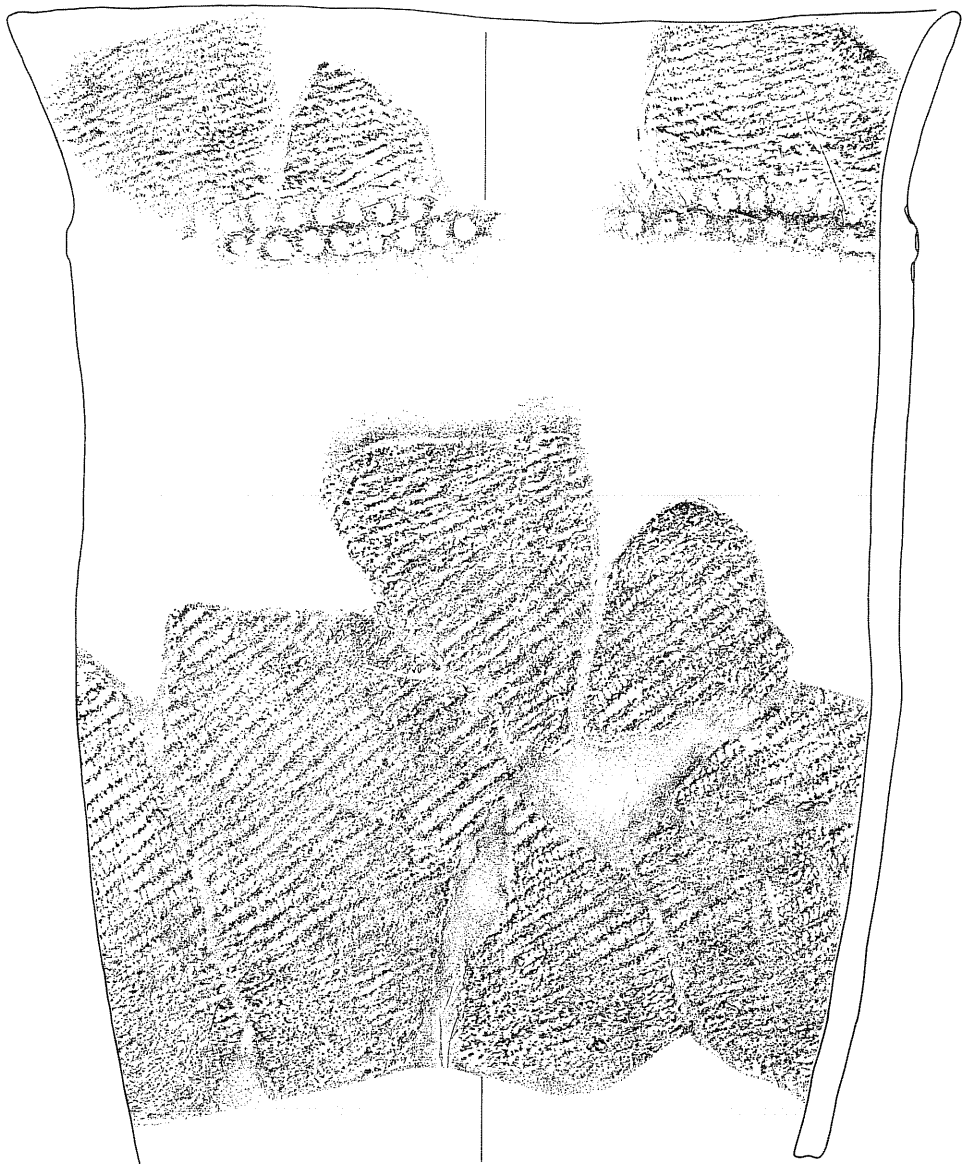
1（639－34）

第709図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（10）

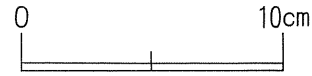
0　10cm



第710図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（11）

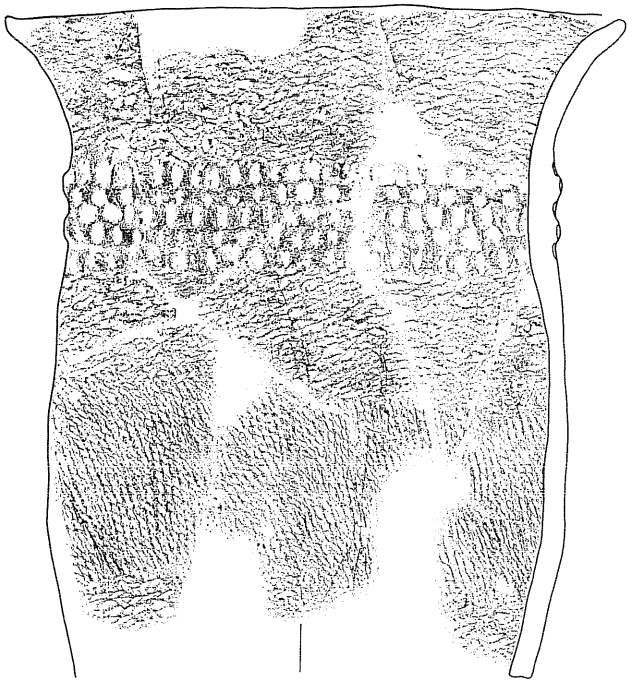


1（639－36）

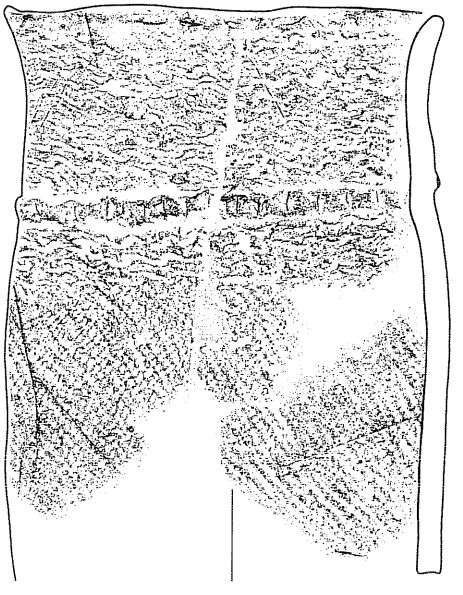


第711図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（12）

1（639－37）



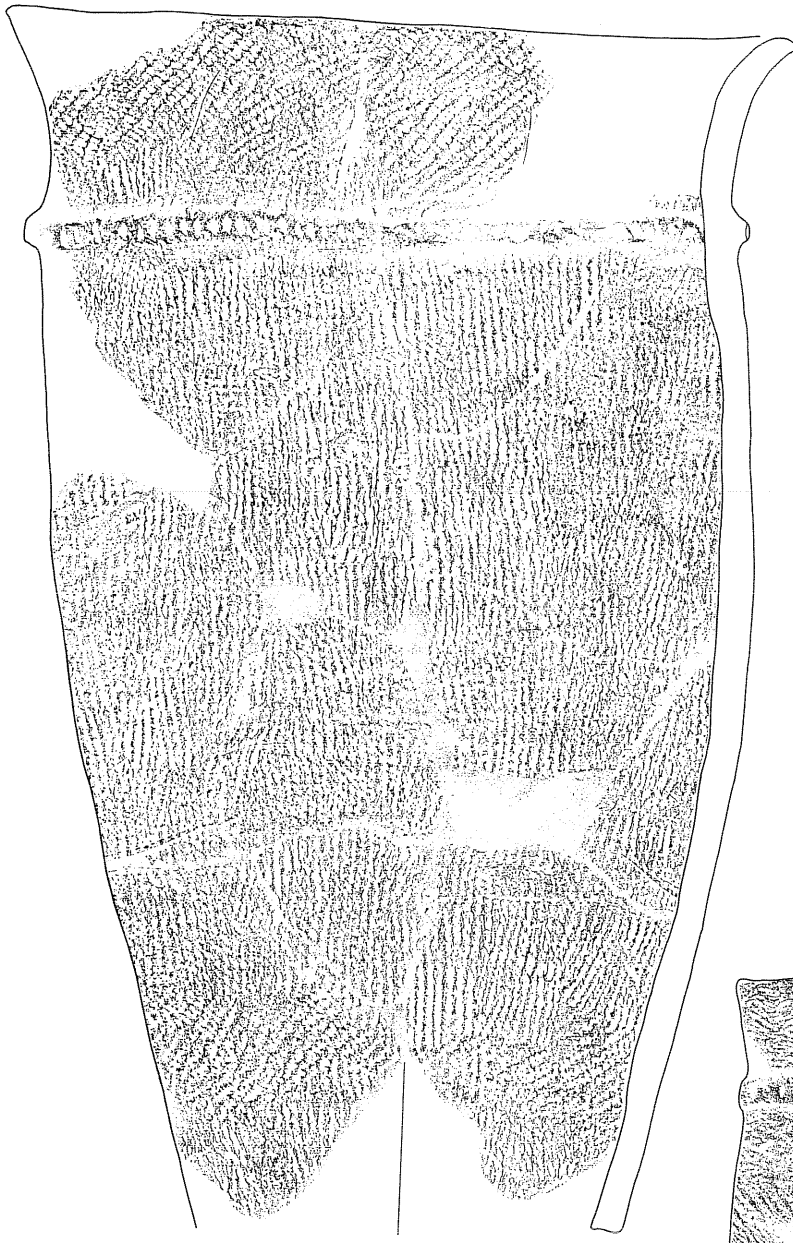
2（639－38）



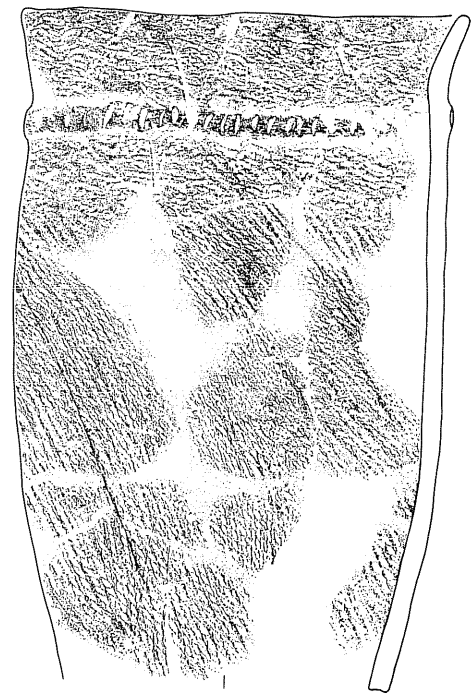
3（639－39）

0　10cm

第712図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（13）



1（639－40）

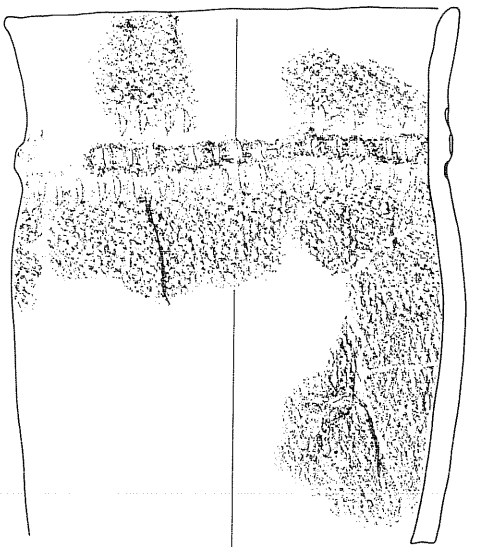


2（639－41）

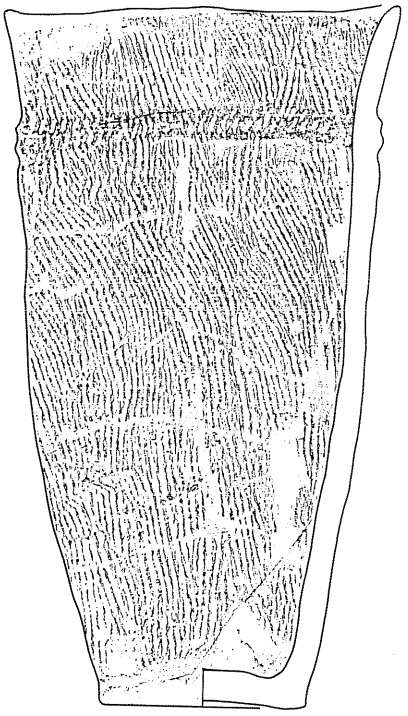
0　10cm

第713図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（14）

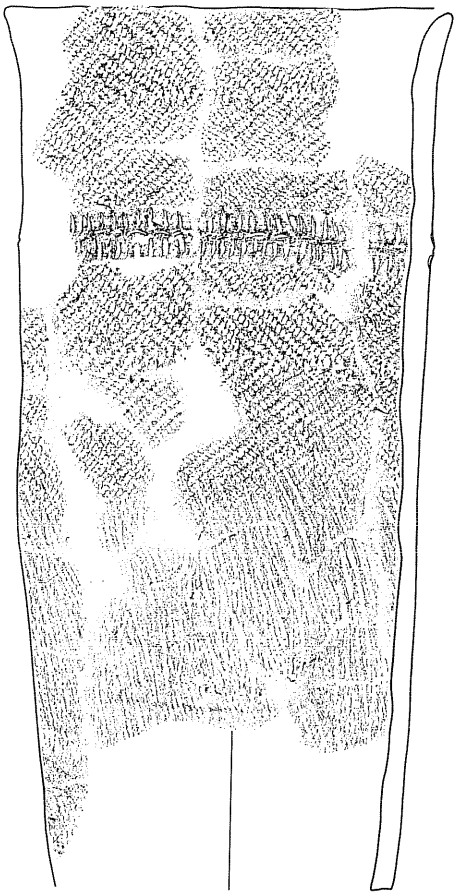
1（639－42）



2（639－43）



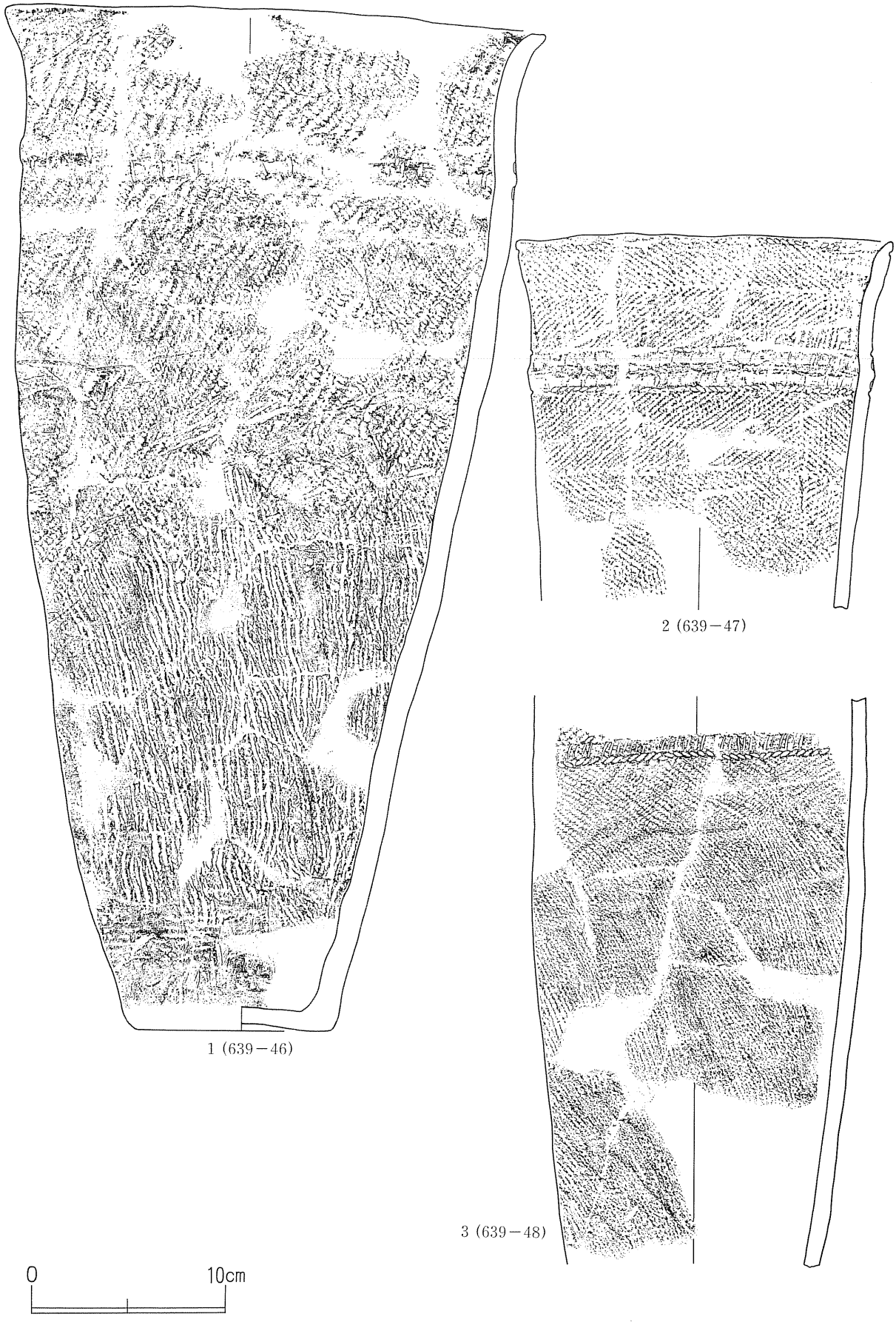
3（639－44）



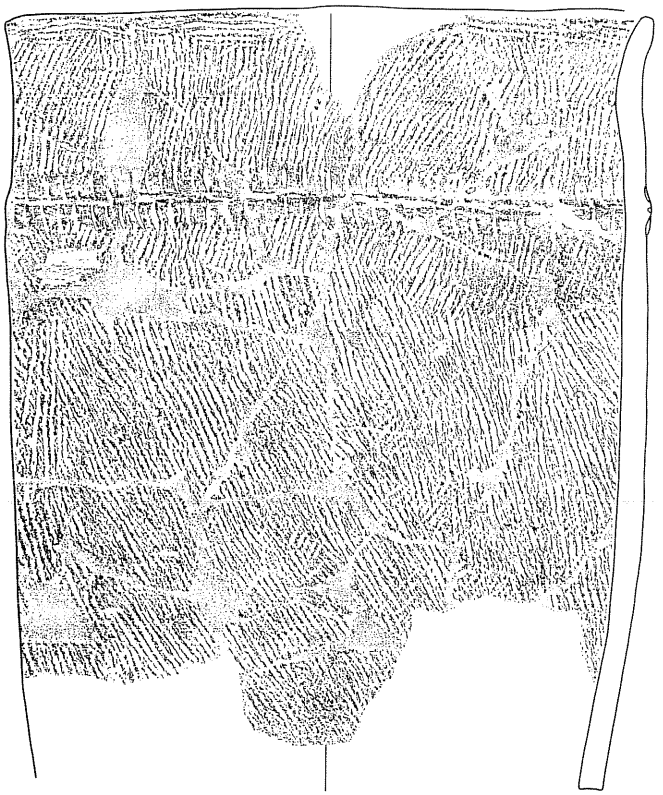
4（639－45）

0　10cm

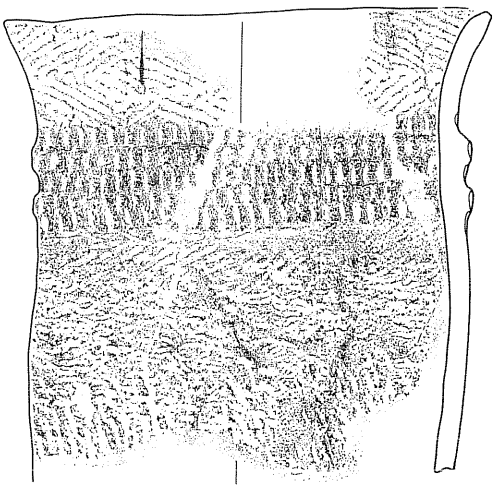
第714図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（15）



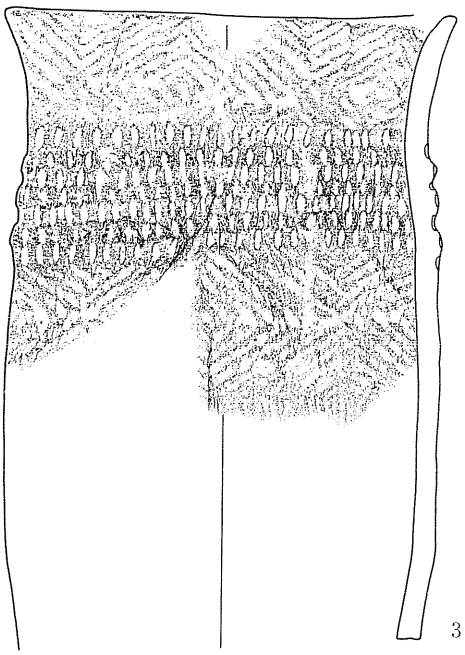
第715図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（16）



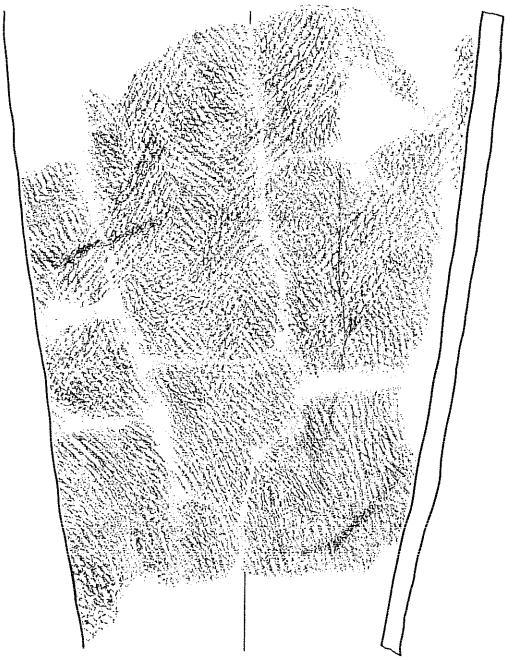
1（639－49）



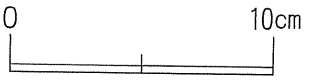
2（639－50）



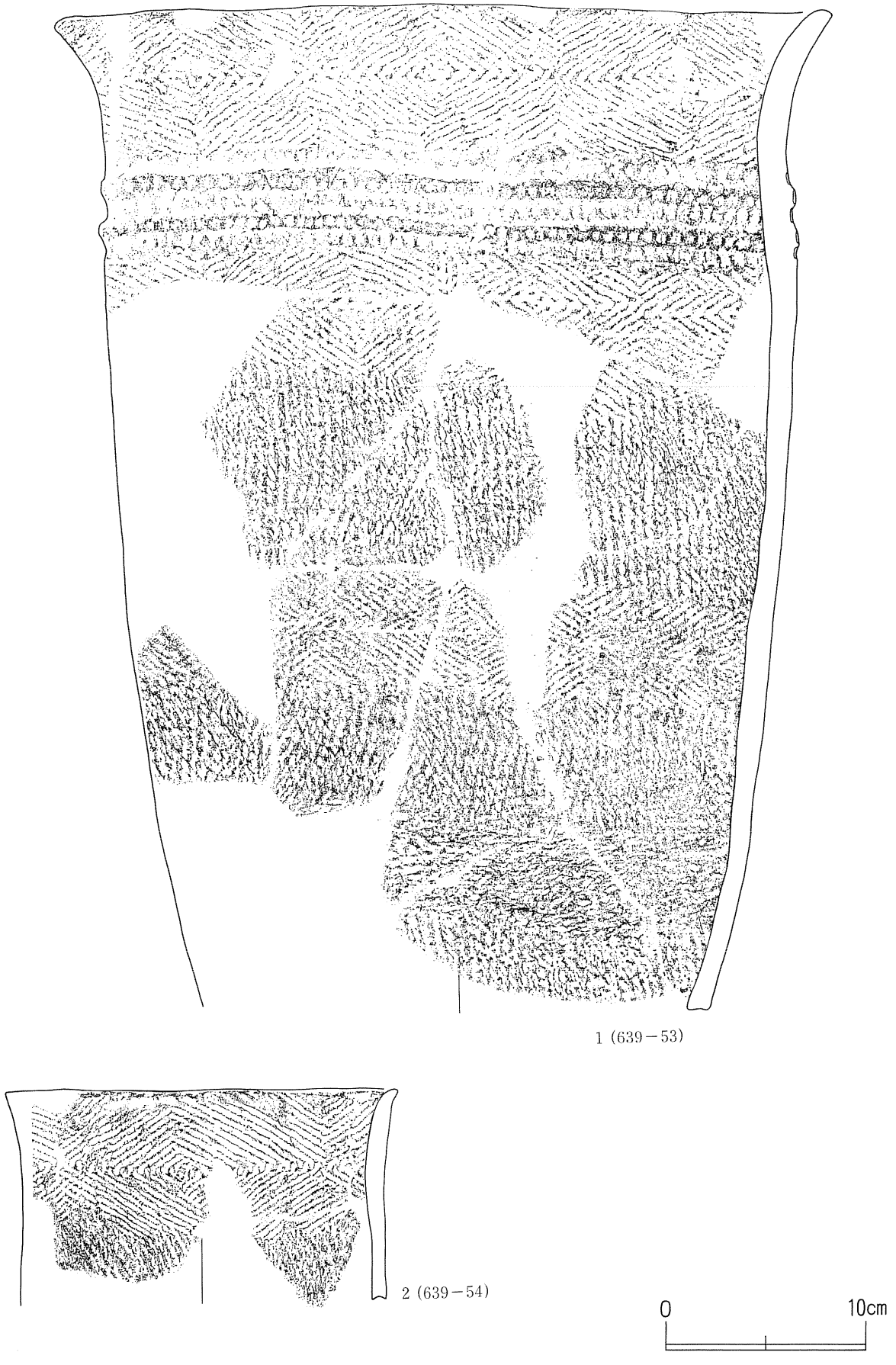
3（639－51）



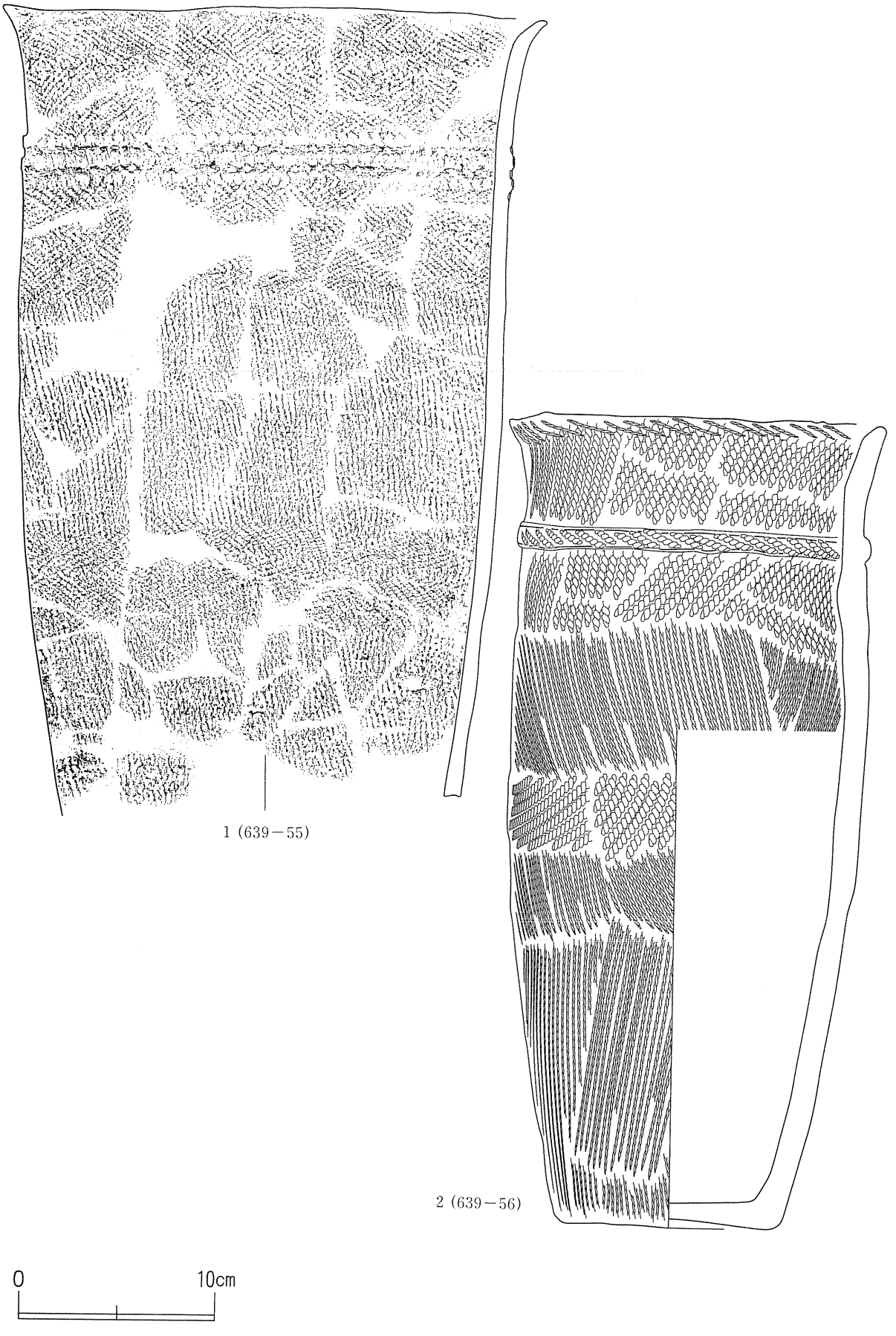
4（639－52）



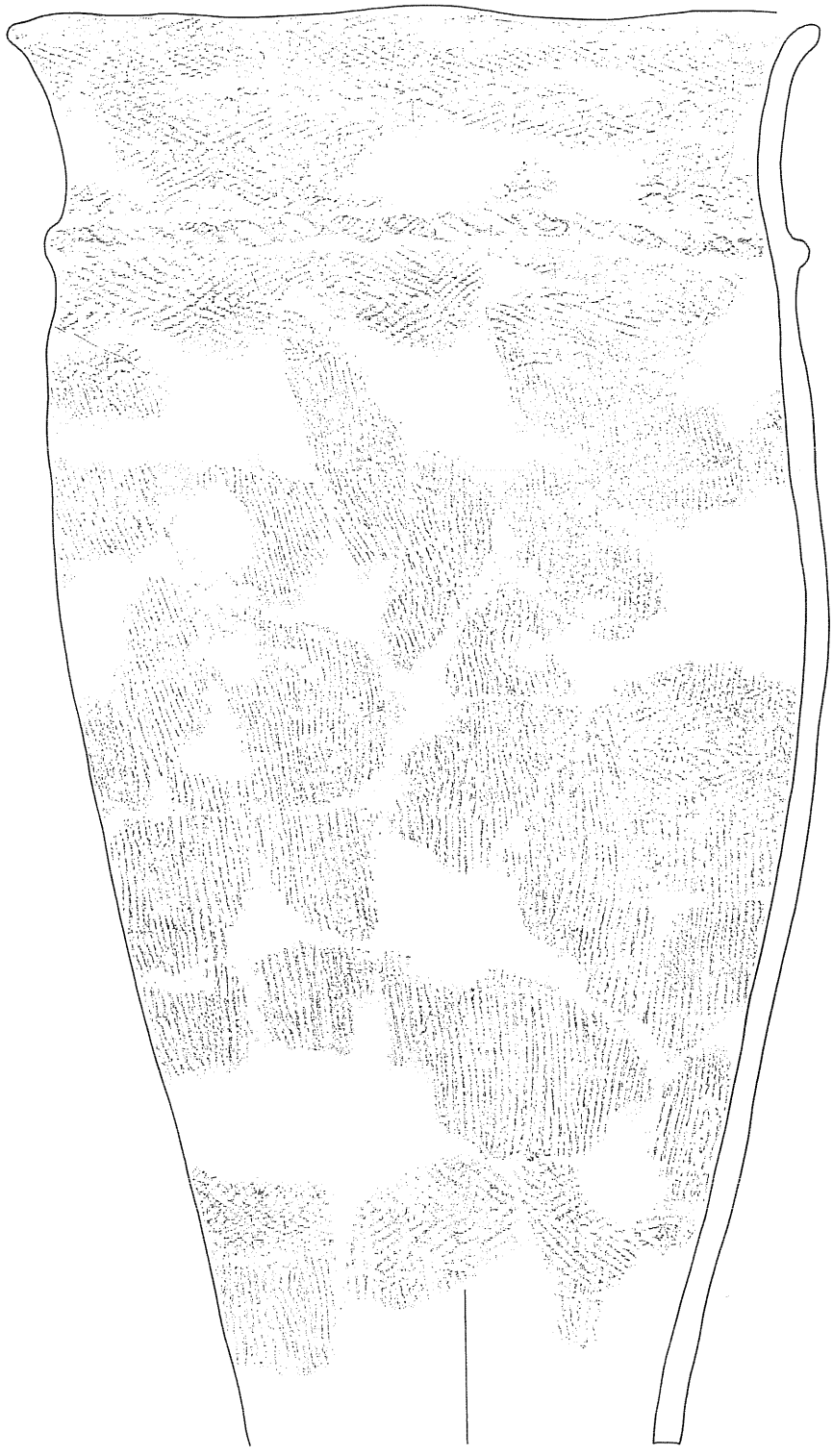
第716図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（17）



第717図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（18）



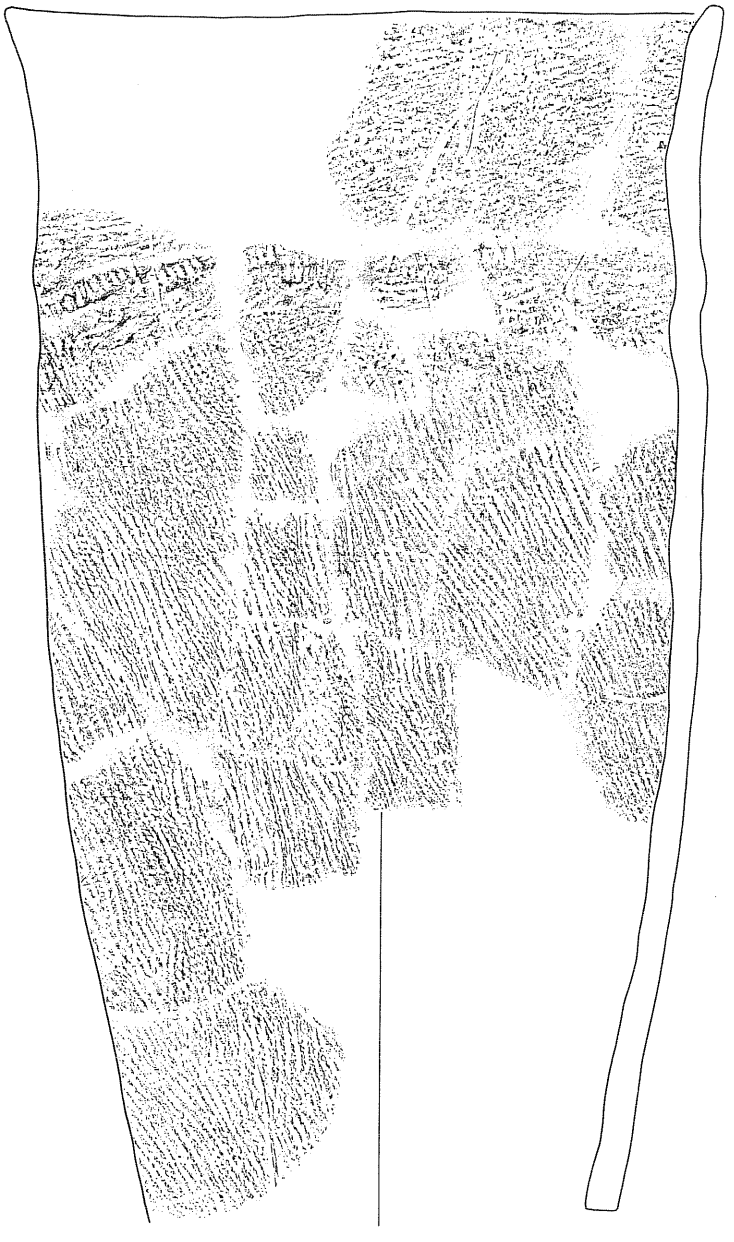
第718図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（19）



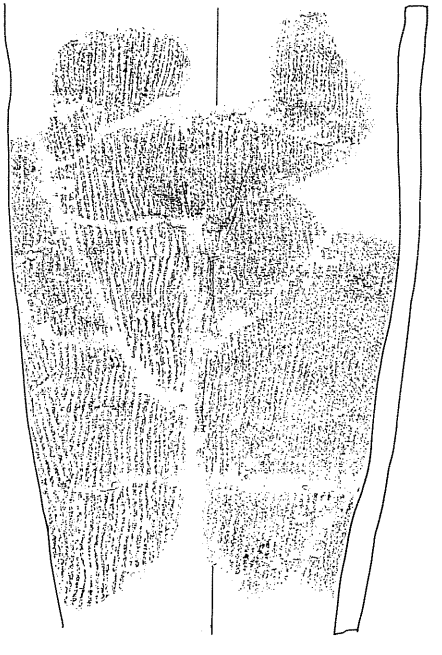
1（639－57）

0　10cm

第719図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（20）



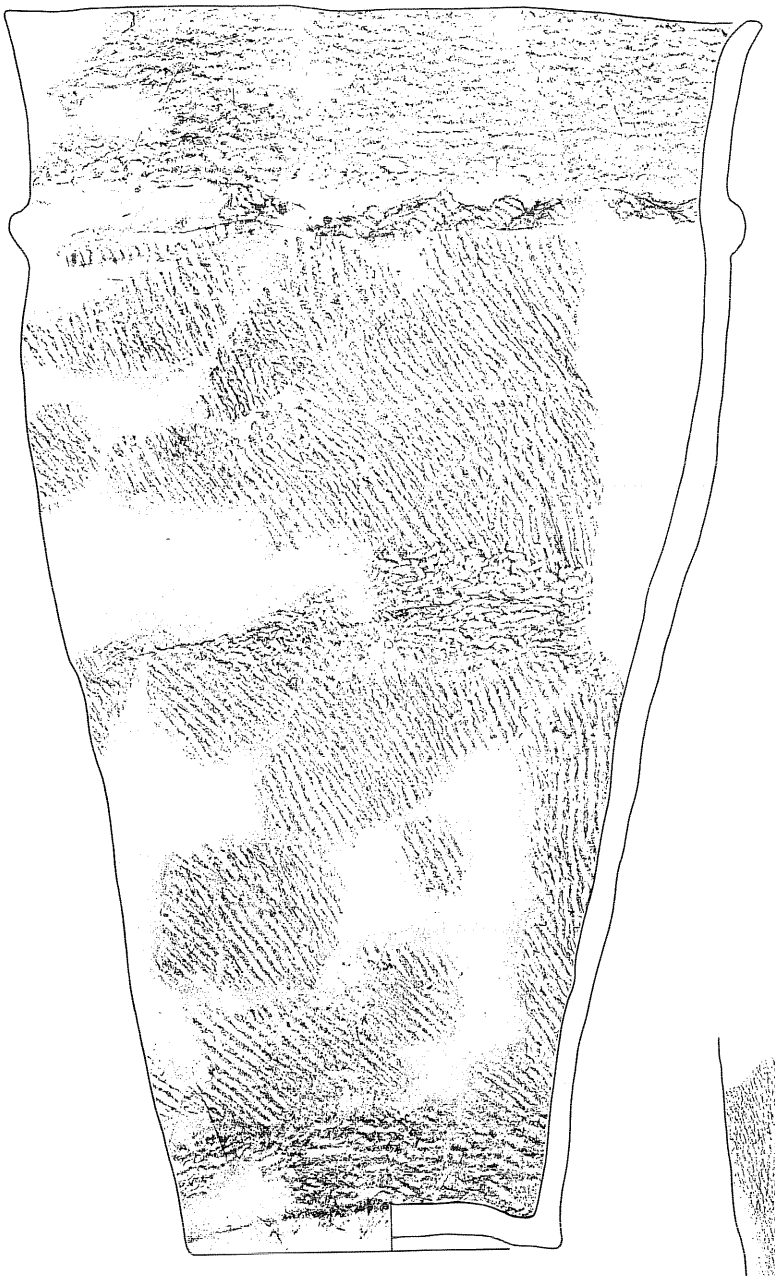
1（639－58）



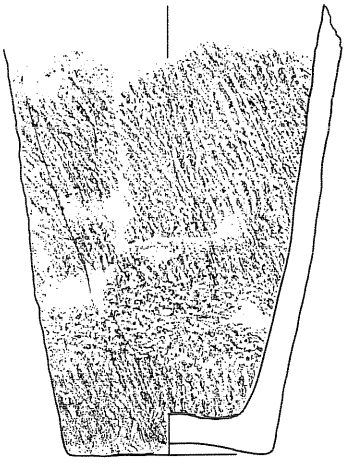
2（639－59）

0　10cm

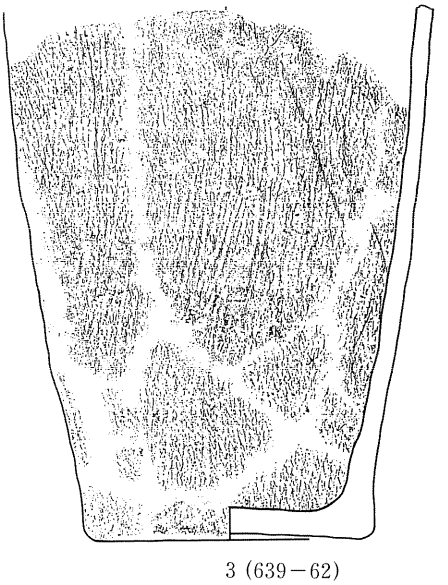
第720図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（21）



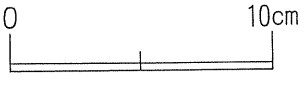
1（639－60）



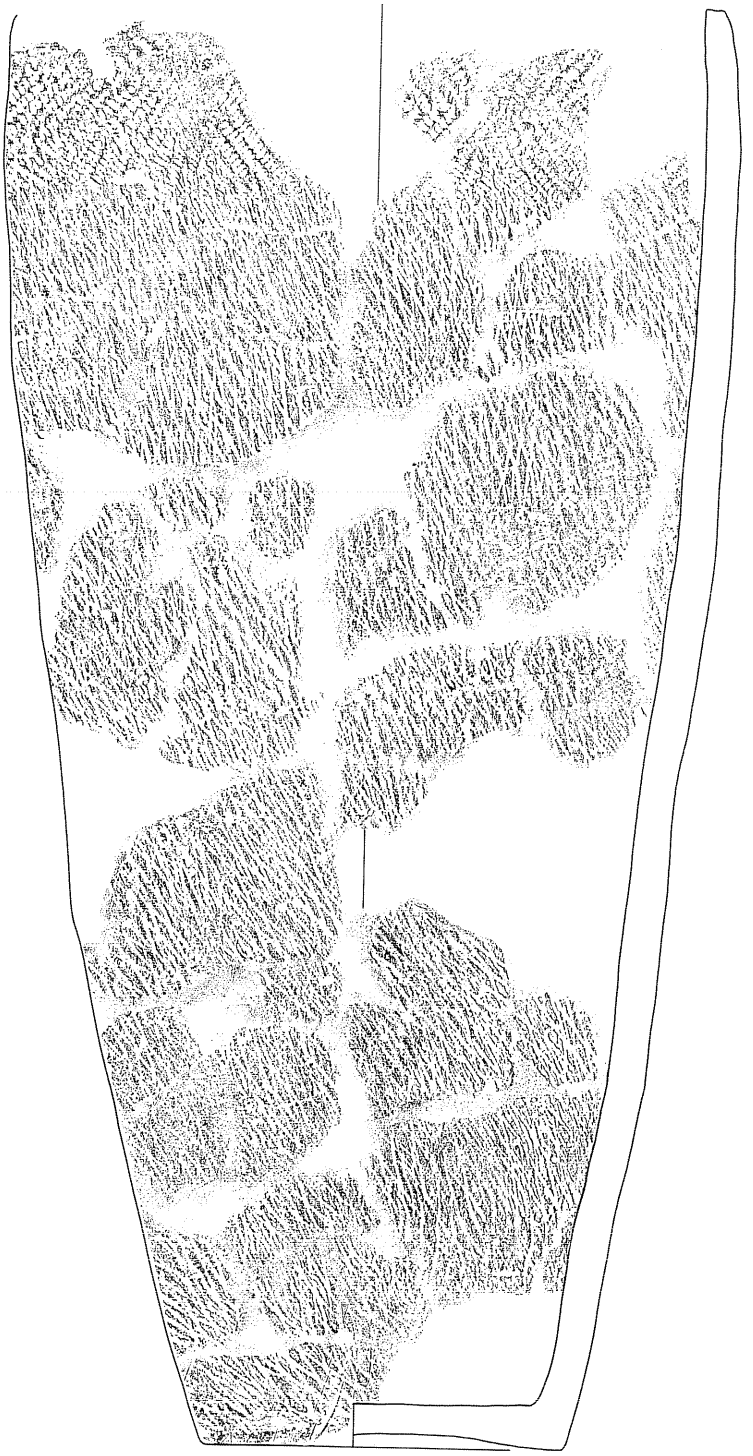
2（639－61）



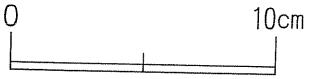
3（639－62）



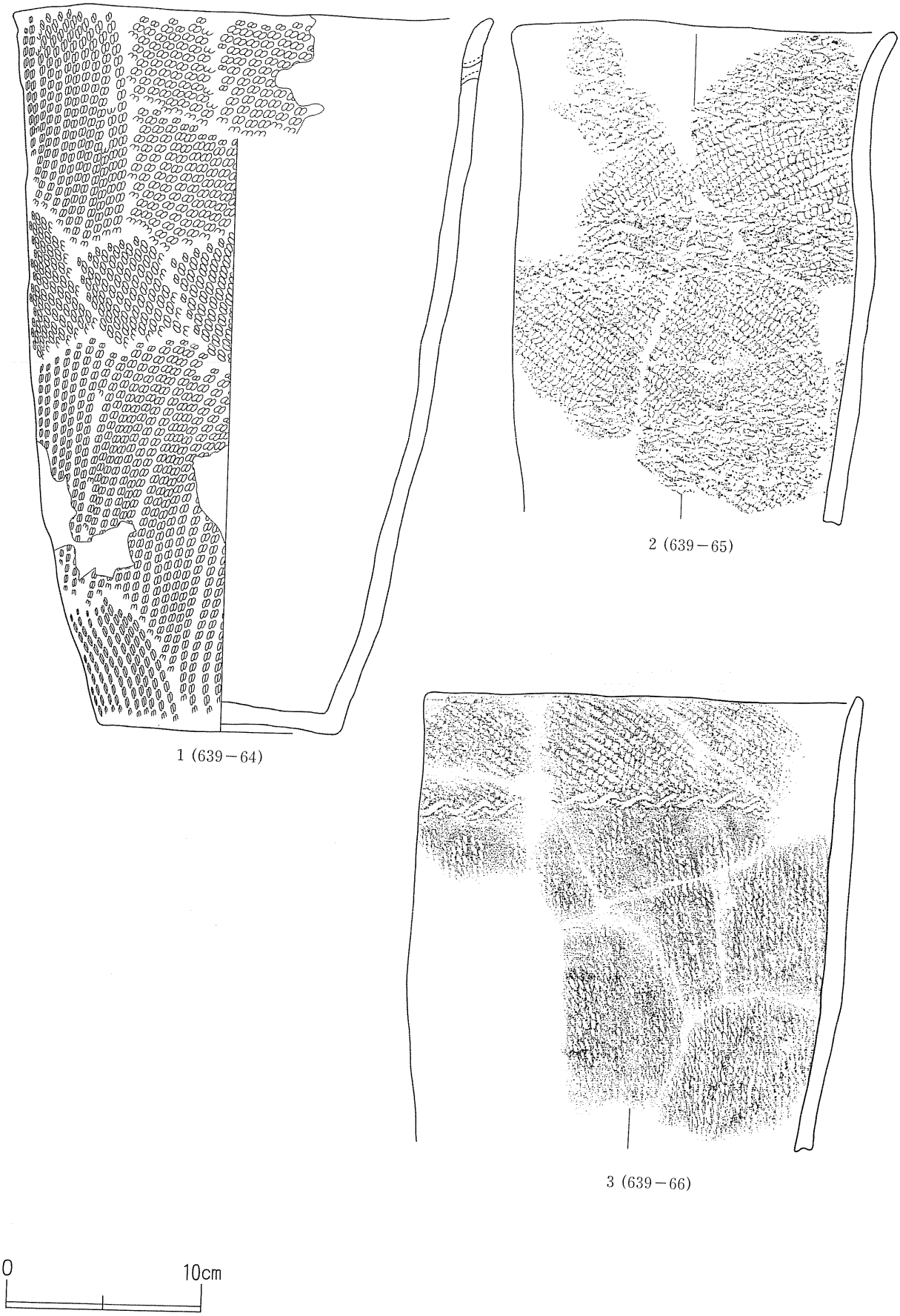
第721図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（22）



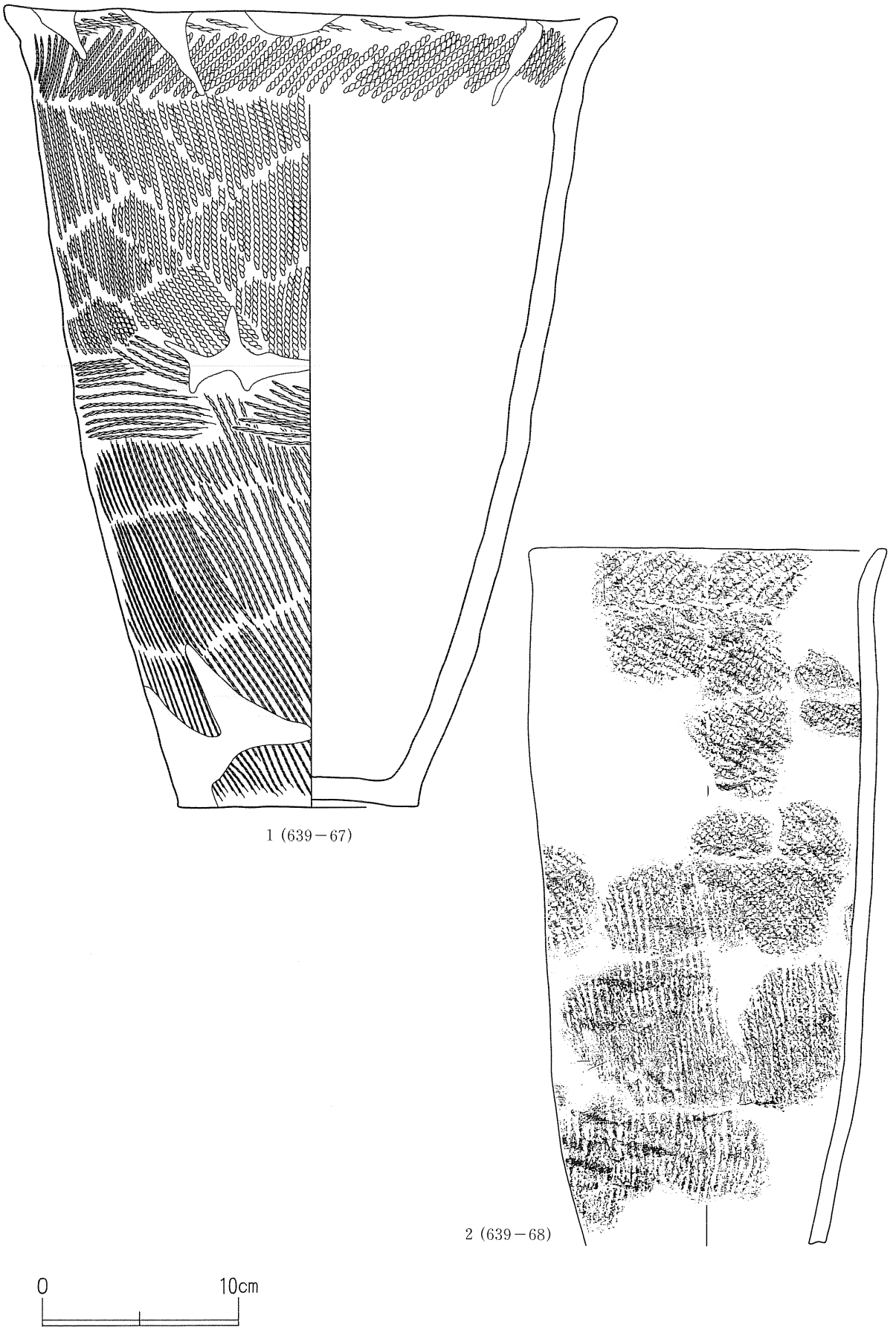
1（639－63）



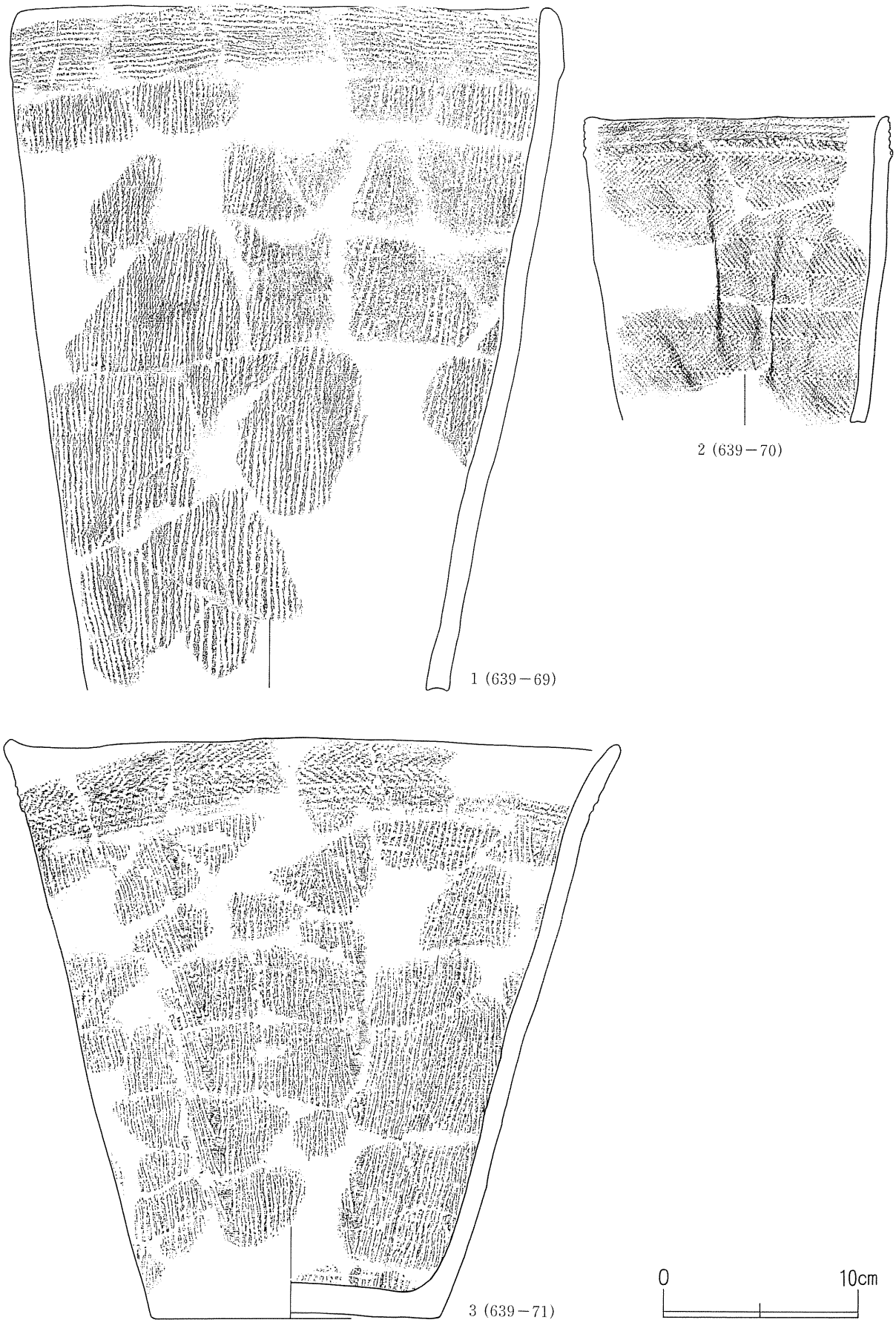
第722図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（23）



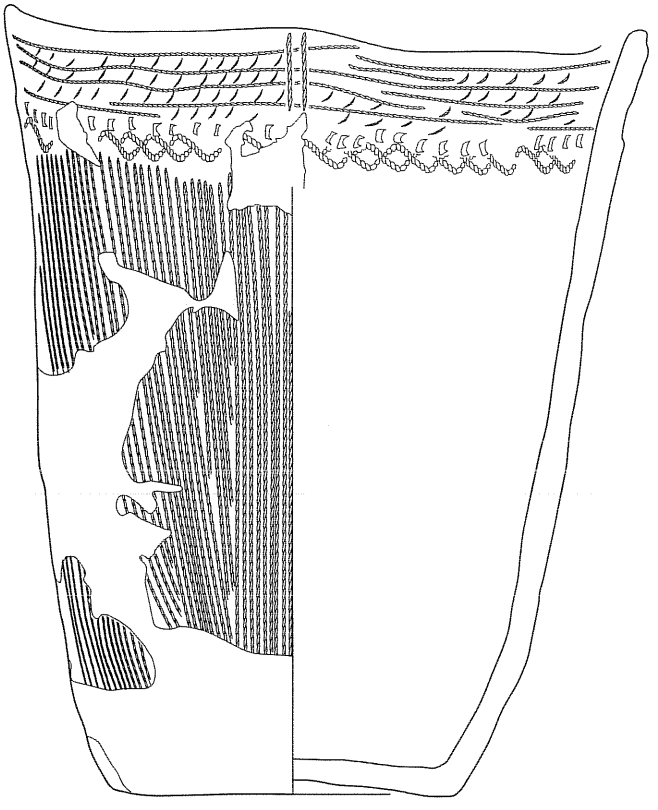
第723図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（24）



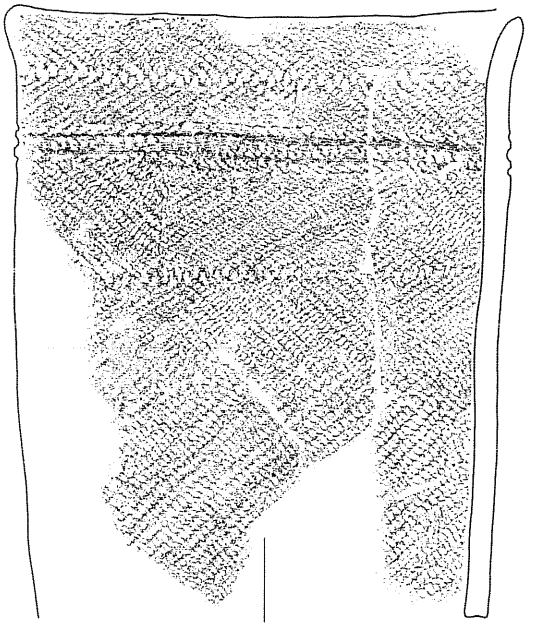
第724図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（25）



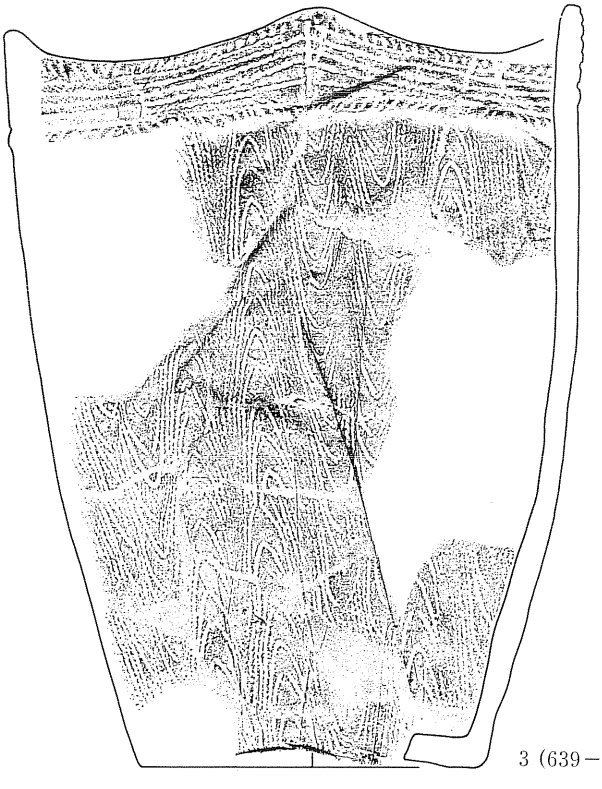
第725図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（26）



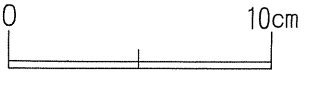
1（639－72）



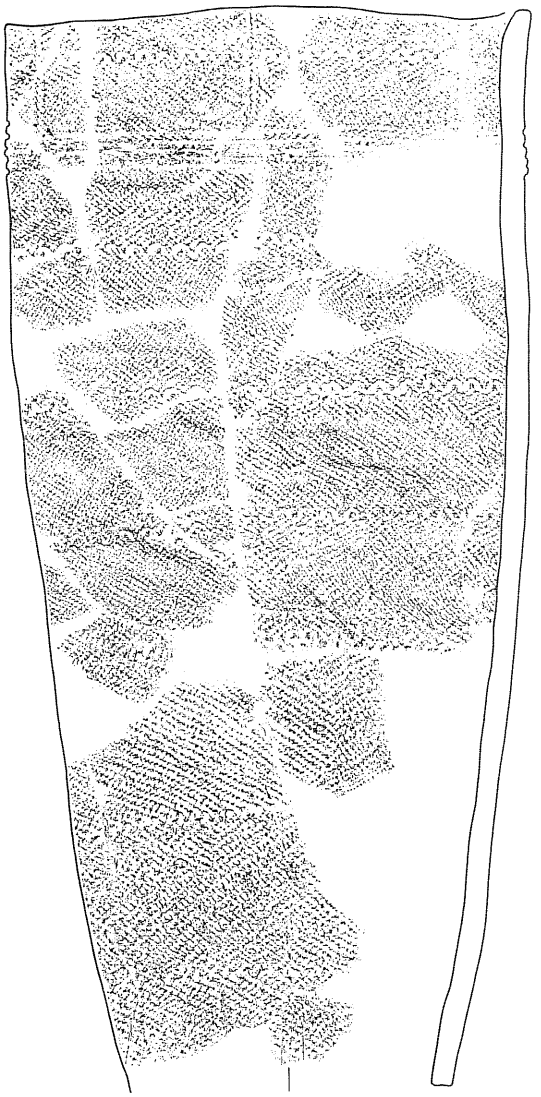
2（639－73）



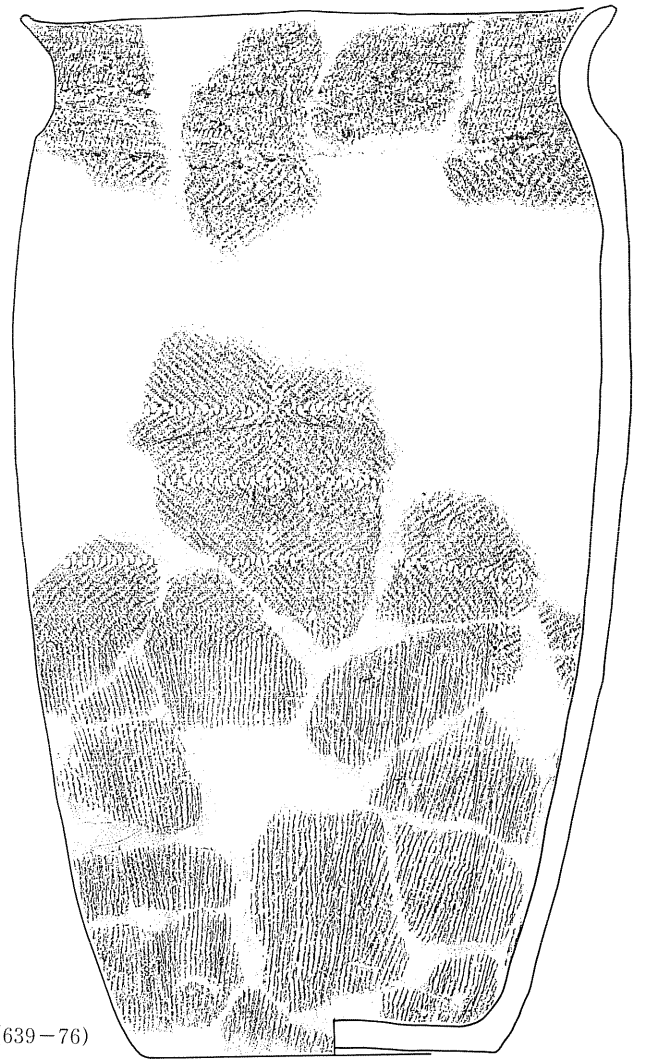
3（639－74）



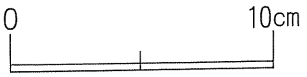
第726図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（27）



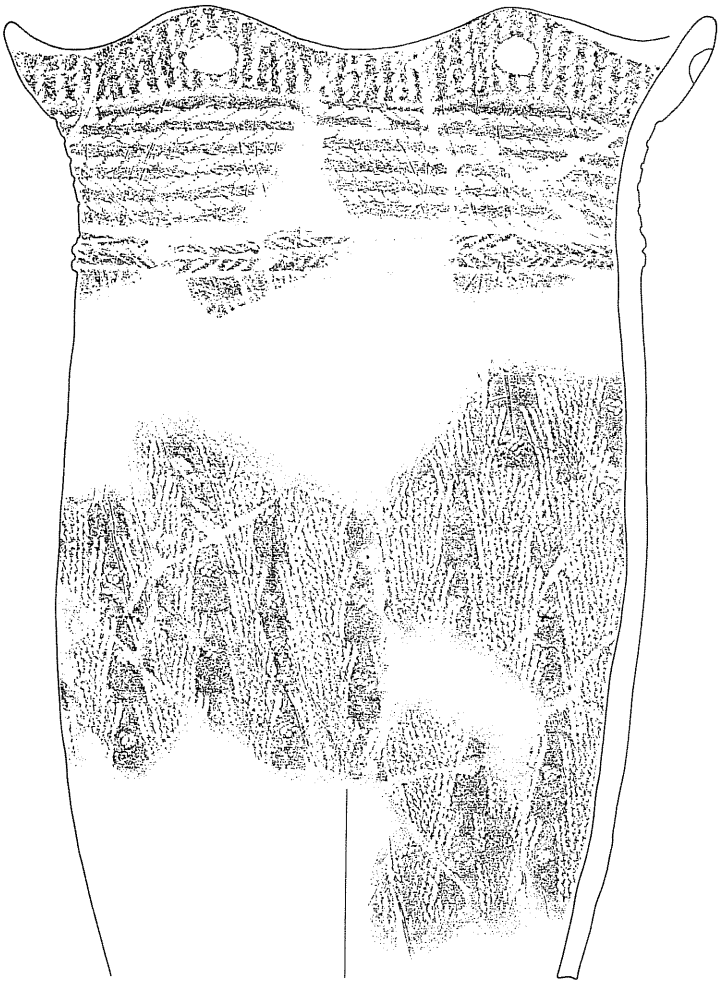
1（639－75）



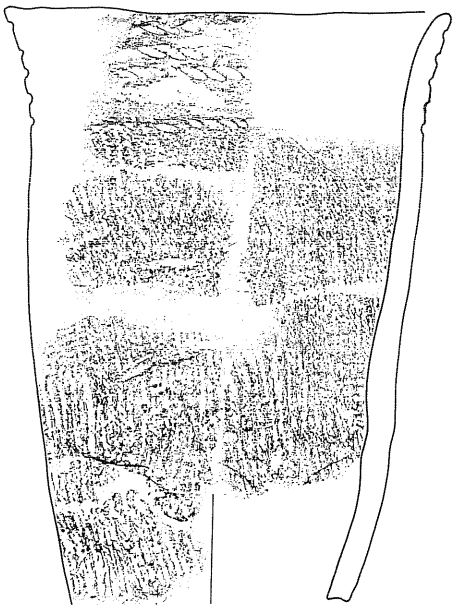
2（639－76）



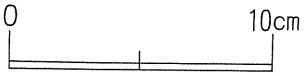
第727図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（28）



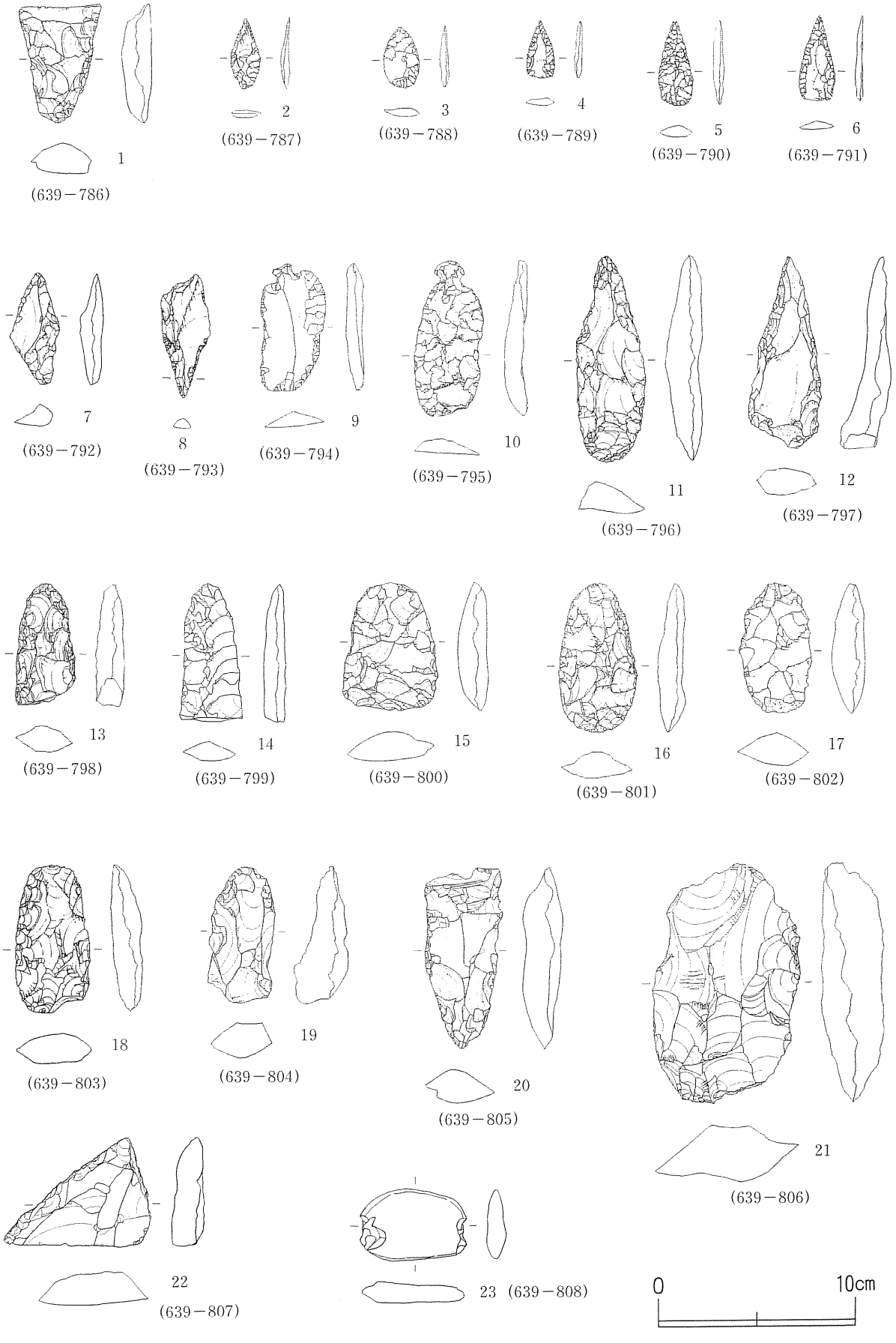
1（639－77）



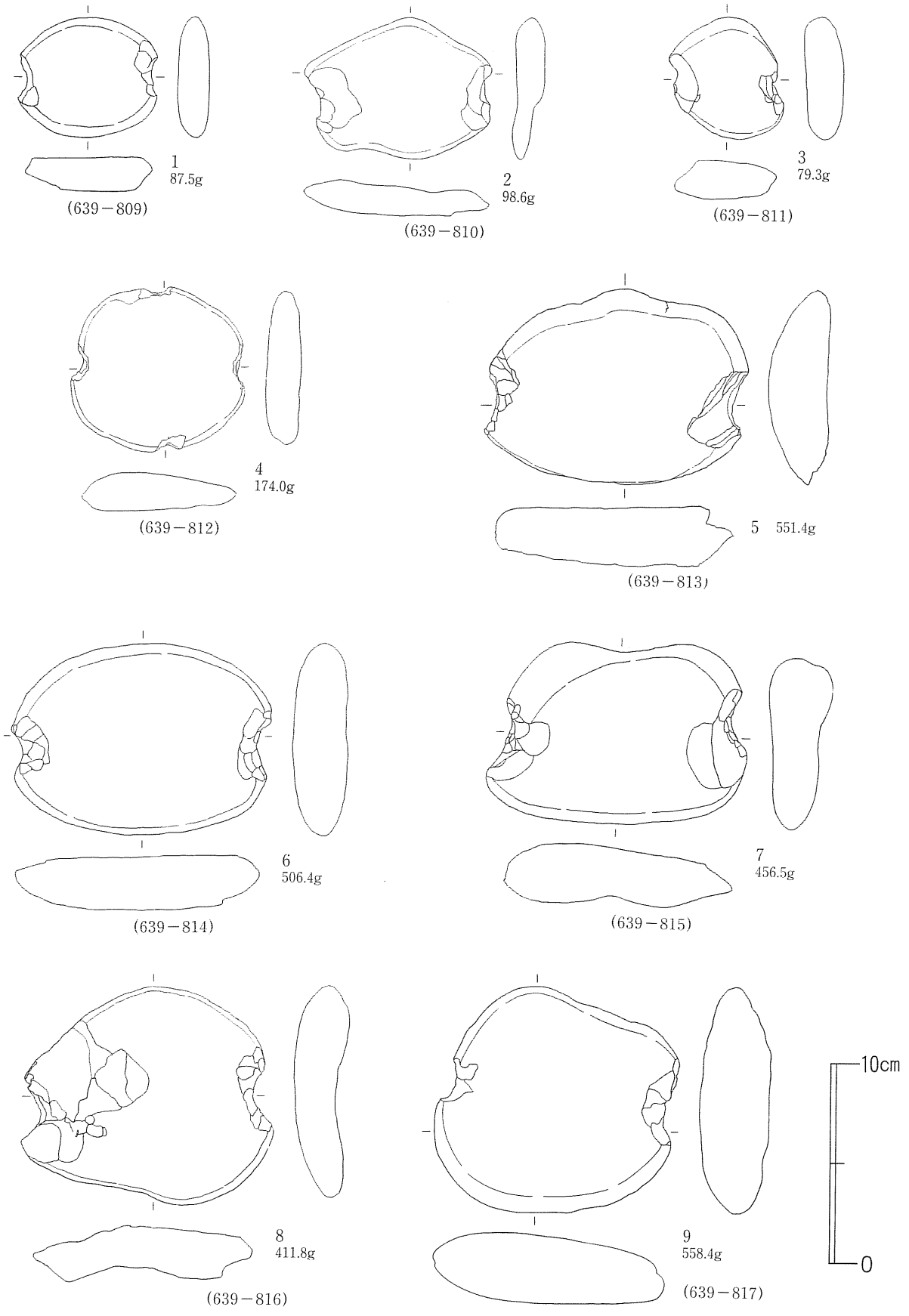
2（639－78）



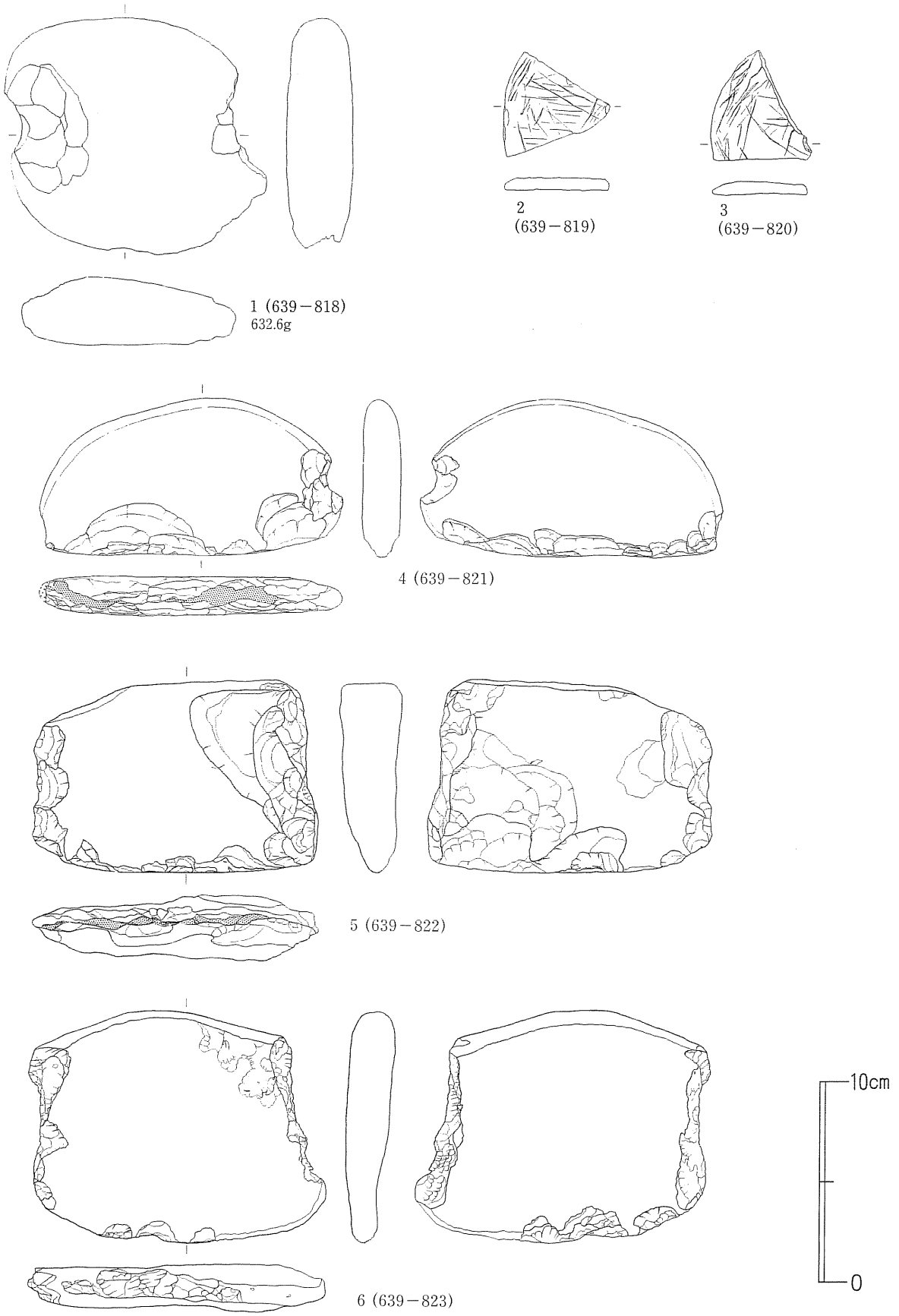
第728図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土土器（29）



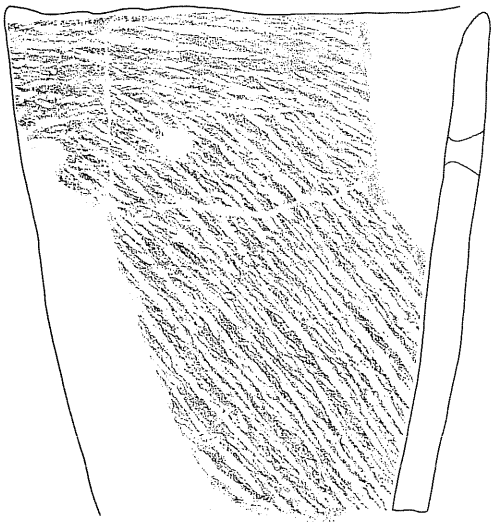
第729図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土石器（１）



第730図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土石器（２）

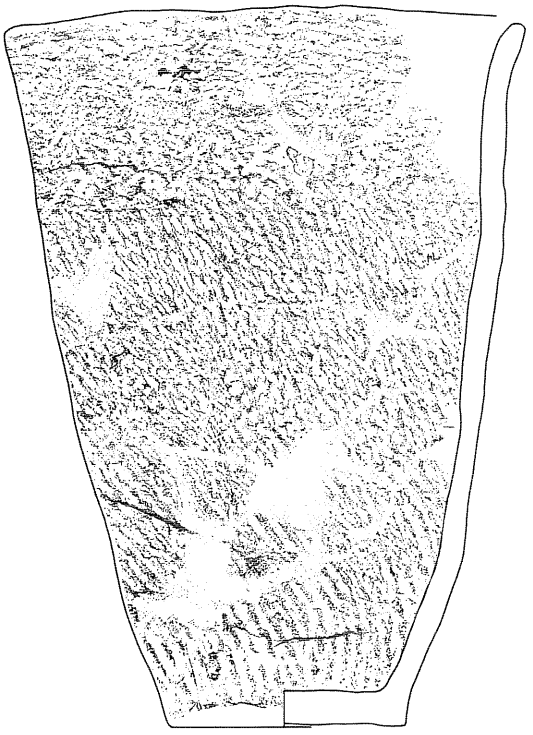


第731図　ＳＴ639谷Ⅱ層出土石器（３）

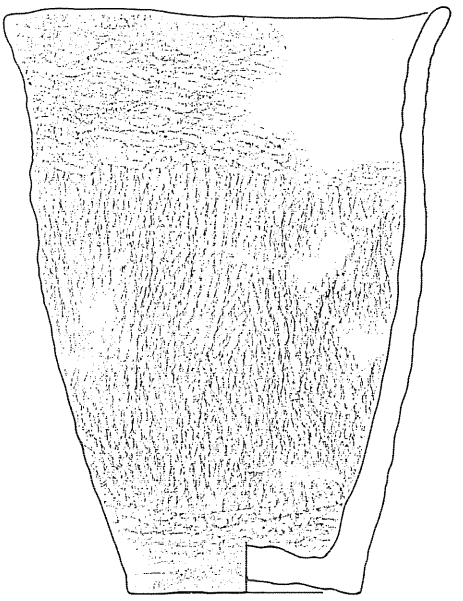


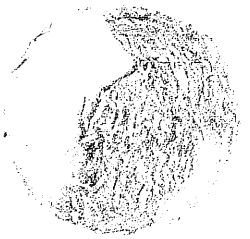
1（639－79）

2（639－80）

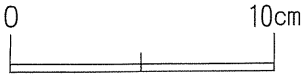


3（639－81）





4（639－82）



第732図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（１）

（639－100・101）は円筒形あるいは逆ベル・ボトム風の器形で、頸部に太く高い隆帯を巡らし、口縁部から隆帯下方にかけて綾絡文、胴部に撚糸文を施文している土器である。

（639－102）は逆ベル・ボトム風の器形で、頸部に太く高い隆帯を巡らし、口縁部から隆帯下方にかけて綾絡文、胴部に撚糸文を施文している土器である。

（639－103）は円筒形を呈する土器で、頸部に太く高い隆帯を巡らし、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－104）はやや逆ベル・ボトム風の器形で、頸部に指頭圧痕列で飾った太く低い隆帯を１条巡らし、全面に撚糸文を施文した土器である。

（639－106）は口縁部と底辺部を欠失した胴膨らみのある土器である。頸部に指頭圧痕列で飾った太く低い隆帯を２条巡らしている。隆帯の上下方と胴部中半下位に綾絡文、それ以外の胴部には撚糸文を施文している。

（639－107）は胴部下半を欠失するが逆ベル・ボトム風の器形の土器で、頸部に指頭圧痕列で飾った細く低い隆帯を２条巡らし、その上下と間にも指頭圧痕列を施文し、さらに上位に単軸絡条体の側面圧痕列を１条付加している。外反する幅の広い口縁部から隆帯下方にかけてと胴部中半に羽状縄文を組み合わせた菱形文、それ以外の胴部には撚糸文を施文している。

（639－108～122）は頸部に爪形文列を施文した土器である。

（639－108）は太く丸みのある隆帯に爪形文列を施文し、口縁部から隆帯の下方にかけてと胴部中半下位に綾絡文、それ以外の胴部には撚糸文を施文した円筒形を呈する土器である。

（639－109）は無文で先の尖った隆帯の上下に爪形文列を施文し、さらにその上下に押圧縄文を付加している。外反するやや幅の広い口縁部から隆帯下方の胴部上半にかけて羽状縄文、以下に撚糸文を施文している。

（639－110）は頸部に２条の爪形文列を施文し、その上下と間に押圧縄文を付加した、やや胴膨らみの円筒形を呈する土器である。やや幅の広い口縁部から頸部下方にかけて単節縄文、以下の胴部に撚糸文を施文している。

（639－111・114）は頸部に２条の爪形文列を施文し、その間の粘土の低い隆起上に横位の爪形文列を付加した、円筒形を呈する土器である。口縁部から胴部上半にかけて羽状縄文、以下に撚糸文を施文している。

（639－112）は頸部に低い２条の隆帯を巡らしたボリュームのある円筒形の土器である。無文で先の尖った隆帯の上下とその間に爪形文列を施文し、さらにその上下に押圧縄文を付加している。直立する口縁部から隆帯下方の胴部上半にかけて羽状縄文、以下に撚糸文を施文している。

（639－113）は無文の丸みのある隆帯の上下に爪形文列を施文し、外反する幅の広い口縁部から隆帯下方にかけて綾絡文、それ以下の胴部には撚糸文を施文している。

（639－115）は頸部に１条の丸みのある低い隆帯を巡らした土器である。隆帯上とその上下位に爪形文列を施文し、外反する幅の狭い口縁部から隆帯下方にかけてと胴部中半下位に綾絡文、それ以外の胴部には撚糸文を施文している。

（639－116）は頸部に低い２条の隆帯を巡らした胴膨らみのある円筒形の土器である。横位の爪形文列を施文した隆帯の上下とその間に爪形文列を施文し、直立する口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文

を施文している。

（639－117）は円筒形を呈する土器である。頸部に2条の爪形文列を施文し、上下とその間に押圧縄文を付加している。直立する幅の広い口縁部から隆帯下方にかけてと胴部中半に羽状縄文を組み合わせた菱形文、それ以外の胴部には撚糸文を施文している。

（639－118）は底辺部を欠失する円筒形を呈する土器である。頸部に3条の爪形文列を巡らし、上下とその間に押圧縄文を付加している。やや外反する口縁部と爪形文列下方に羽状縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－119）も底辺部を欠失する円筒形を呈する土器である。頸部に2条の爪形文列を施文した隆帯を巡らし、上下とその間に押圧縄文を付加している。やや外反する口縁部に羽状縄文、胴部に撚糸文と網目状撚糸文を重ねて施文している。

（639－120）はずん胴な円筒形を呈する土器である。頸部に3条の爪形文列を巡らし、その上下に押圧縄文を付加している。幅の狭く直立する口縁部に羽状縄文、胴部に多軸撚糸文を施文している。

（639－121）は胴部下半を欠失するが、ずん胴な円筒形を呈する土器である。頸部に3条の爪形文列を巡らし、口縁部と爪形文列下方に羽状縄文を施文している。

（639－122）は口縁部を欠失するが、胴膨らみのある円筒形を呈する土器である。頸部に2条の爪形文列を巡らし、口縁部と爪形文列下方に羽状縄文、以下に撚糸文を施文している。

（639－124・125）は頸部にダンゴ虫様の単軸絡条体の側面圧痕文を施文した1条の隆帯を巡らす円筒形の土器である。口縁部から隆帯下方にかけて綾絡文、以下に撚糸文を施文している。

（639－126・127）はバケツ形を呈し、全面に羽状縄文を施文した土器である。（639－126）の頸部には2条の押圧縄文を巡らしている。

（639－128～136・138・139）は頸部に押圧縄文を巡らした土器である。

（639－128）は底辺部を欠失するが、円筒形を呈する土器である。押圧縄文を頸部に2条と口辺に1条巡らし、口縁部から胴部上半にかけて羽状縄文、以下に撚糸文を施文している。

（639－129）も底辺部を欠失するが、円筒形を呈する土器である。押圧縄文を頸部に2条巡らし、全面に多軸撚糸文を施文している。

（639－130）も底辺部を欠失するが、円筒形を呈する土器である。押圧縄文を頸部に3条巡らし、口縁部から胴部上半にかけて羽状縄文、以下に撚糸文を施文している。

（639－131）は波状口縁をもつやや胴膨らみのある円筒形を呈する土器である。押圧縄文を頸部に3条巡らし、全面に羽状縄文を施文している。

（639－132）は外反する口縁部をもち円筒形を呈する土器である。押圧縄文を頸部に3条巡らし、口縁部から胴部上半にかけて羽状縄文、以下に撚糸文を施文している。

（639－133）は頸部に隆帯を巡らし円筒形を呈する土器である。隆帯上とその上下位に押圧縄文を施文し、全面に羽状縄文を施文している。

（639－134）は波状口縁をもつ土器の胴部上半である。頸部に3条の押圧縄文で飾る隆帯を1条巡らし、口辺には単軸絡条体の側面圧痕文を1条施文している。全面に羽状縄文を施文している。

（639－135）は胴部下半を欠失するが、円筒形を呈する土器である。頸部に2条の押圧縄文を巡らし、直立する口縁部には横位方向の撚糸文を、胴部には単節縄文と撚糸文を施文している。

（639－136）は頸部に押圧縄文で飾る隆帯を１条巡らし、口辺から２条１単位の押圧縄文を垂下させている土器である。幅の広い口縁部から胴部上半にかけて羽状縄文、以下に撚糸文を施文している。

（639－138）は円筒形を呈する土器である。頸部に１条、口辺に２条の押圧縄文を巡らし、口辺から２条１単位の押圧縄文を垂下させている。直立する口縁部には網目状撚糸文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－139）も円筒形を呈する土器である。頸部に３条の押圧縄文を巡らし、口辺から３条１単位の押圧縄文を垂下させている。口縁部から胴部上半にかけて羽状縄文、以下に撚糸文を施文している。

（639－140～145）は幅の狭い口縁部に横位の押圧縄文を数条平行に施文した土器である。

（639－140）はずん胴な円筒形を呈する土器である。幅の狭い口縁部に２条１単位の押圧縄文を４条巡らし、胴部には撚糸文を施文している。

（639－141）は胴部中半以下を欠失する土器である。単節縄文を施文した口縁部に８条の押圧縄文を重ねて施文している。

（639－142）も胴部を欠失する土器である。頸部に円形刺突文列を巡らし、８条の押圧縄文を巡らし、口辺から３条１単位の押圧縄文を垂下させている。

（639－143）はバケツ形を呈する土器である。口唇に刻み目を入れ、幅の狭い口縁部に４条の押圧縄文を巡らし、胴部には全面単節縄文を施文している。

（639－144）は底辺部を欠失するが、４つのゆるやかな波状口縁をもち円筒形を呈する土器である。幅の狭い口縁部に２条１単位の押圧縄文を６条巡らし、波頂から２条１単位の押圧縄文を３条垂下させている。胴部には全面単節縄文を施文している。

（639－145）は４つのゆるやかな波状口縁をもちバケツ形を呈する土器である。幅の狭い口縁部に６条の押圧縄文を巡らし、波頂から２条１単位の押圧縄文を垂下させている。胴部には全面単節縄文を施文している。

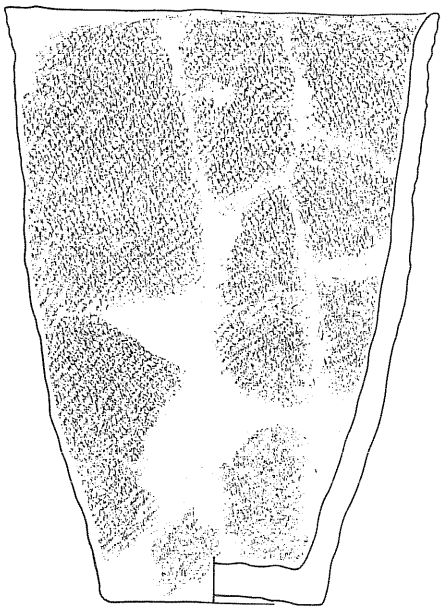
（639－146）は底辺部を欠失するが、円筒形を呈する土器である。頸部に縄を押捺した隆帯を１条巡らし、直立する口縁部に横位方向の撚糸文を、胴部には縦方向の撚糸文を施文している。

（639－147）は頸部に１条の押圧縄文を巡らして文様体を区画し、４つのゆるやかな波状口縁をもち円筒形を呈する土器である。幅の狭い口縁部には単軸絡条体の側面圧痕文を数条施文し、波頂から３条１単位の単軸絡条体の側面圧痕文を垂下させている。頸部下方に羽状縄文、それ以下には単節縄文を施文している。

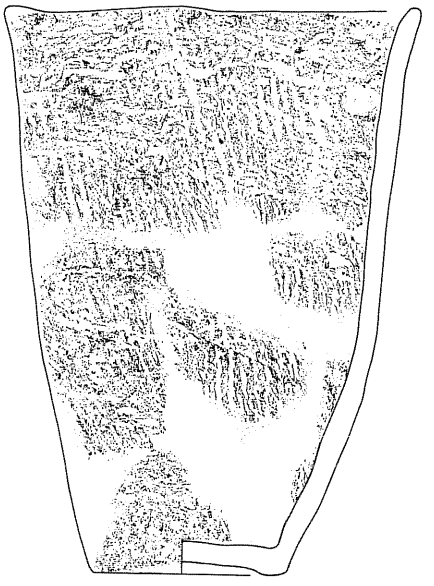
（639－148）は胴部下半を欠失するが、頸部に１条の押圧縄文を巡らして文様体を区画し、４つのゆるやかな波状口縁をもち円筒形を呈する土器である。幅の広い口縁部には縦位、横位、斜位に縄文を押圧し重なり会う菱形文を表出している。胴部には多軸撚糸文を施文している。

（639－149）は底辺部を欠失するが、胴膨らみのある円筒形を呈する土器である。頸部に縄を押捺した隆帯を１条巡らし、直立する口縁部に押圧縄文で２段の横位の低い連続山形文を、胴部には多軸撚糸文を施文している。

②　石器　石器は126点出土した。その内訳は、石槍１点（639－824）、石錐２点、石匙23点、削器13点（639－825）、掻器４点、剥片・不定形石器25点、磨製石斧４点、石錘６点（639－829～834）、半円状偏平打製石器33点、くぼみ石３点、擦石６点、敲石６点である。

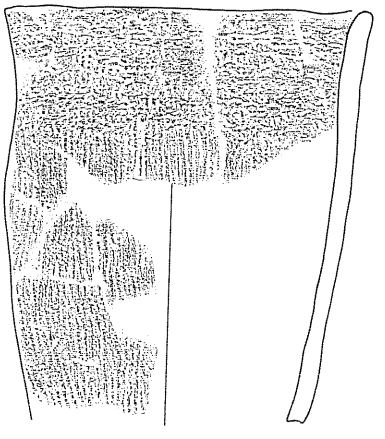


1（639－83）



2（639－84）

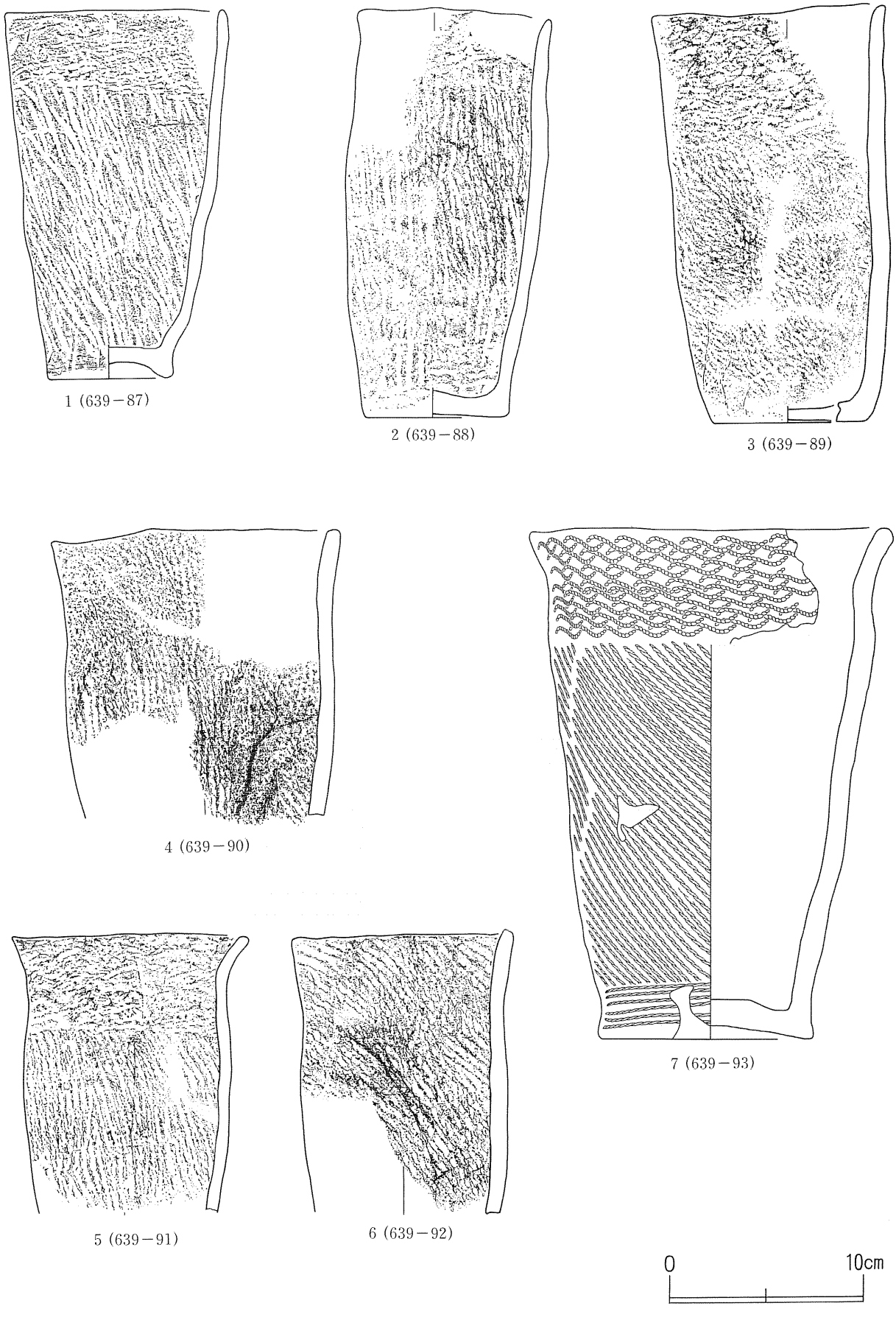
3（639－85）



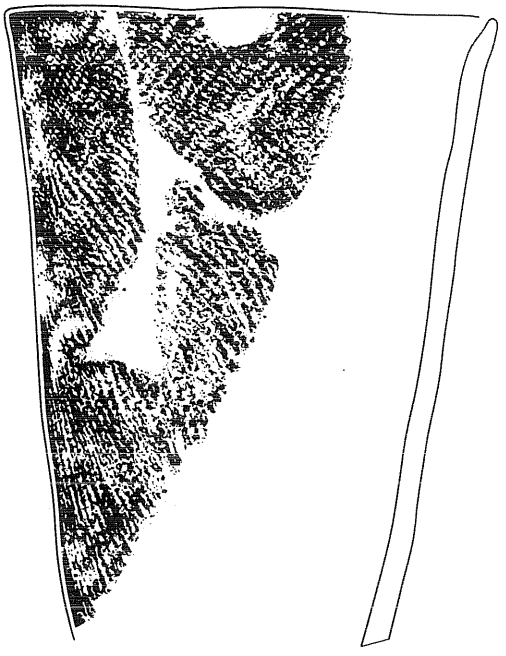
4（639－86）

0　10cm

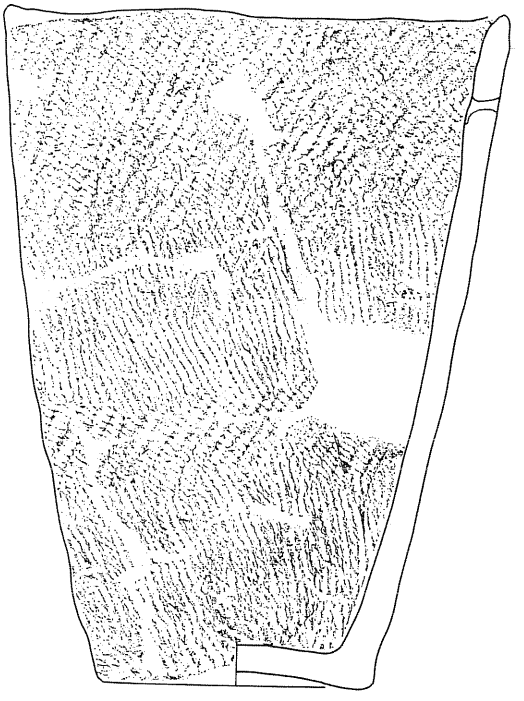
第733図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（２）



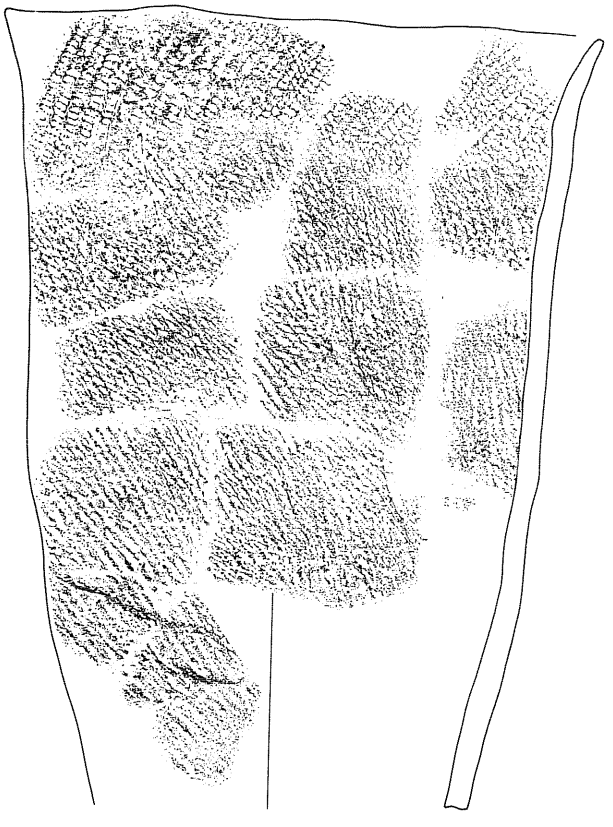
第734図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（３）



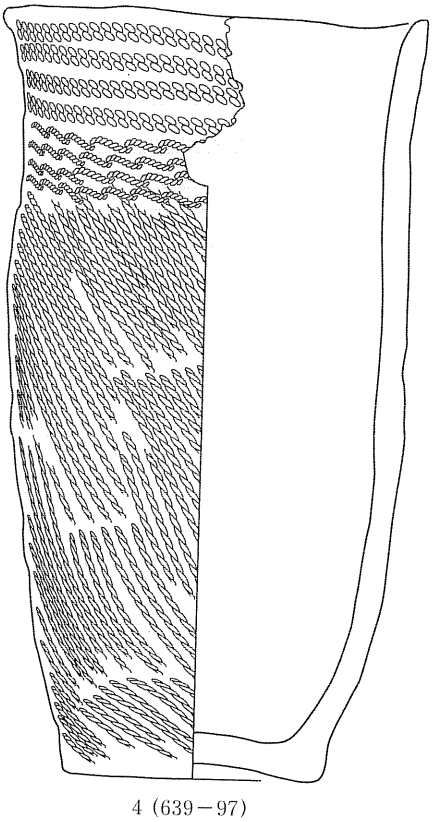
1（639－94）



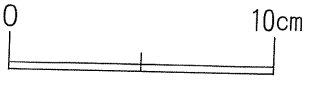
2（639－95）



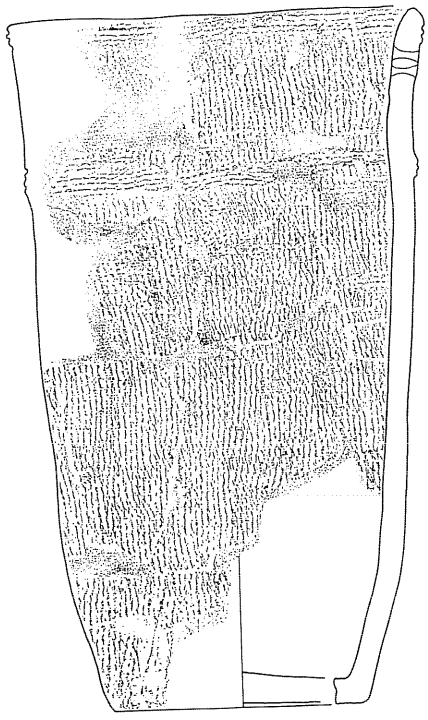
3（639－96）



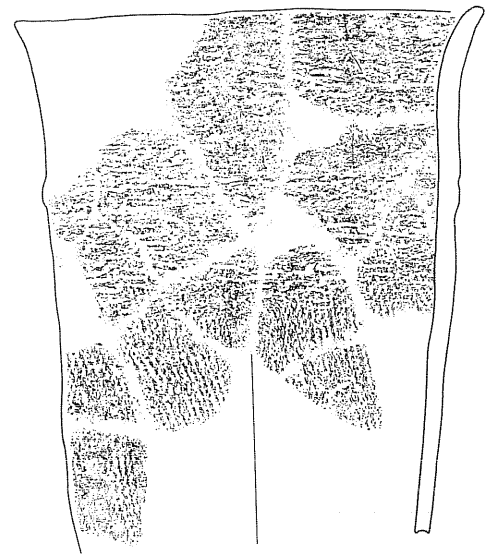
4（639－97）



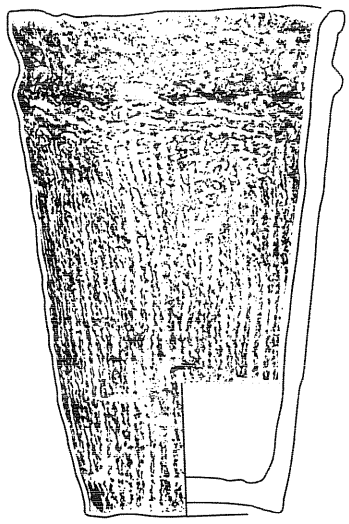
第735図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（４）



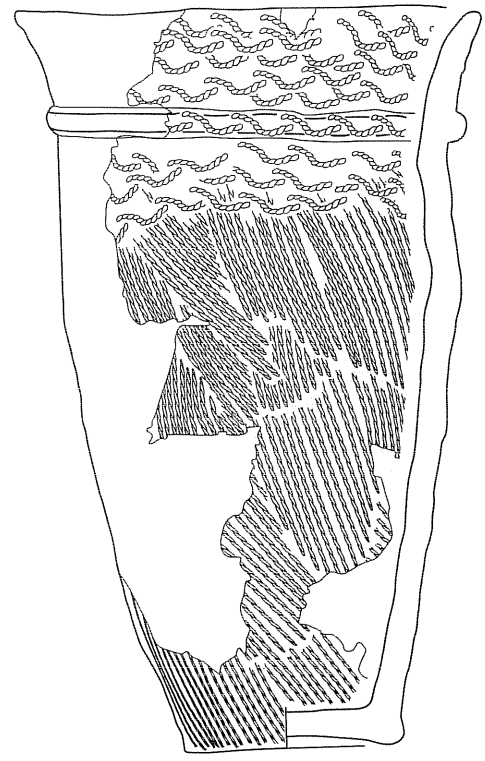
1（639－98）



2（639－99）

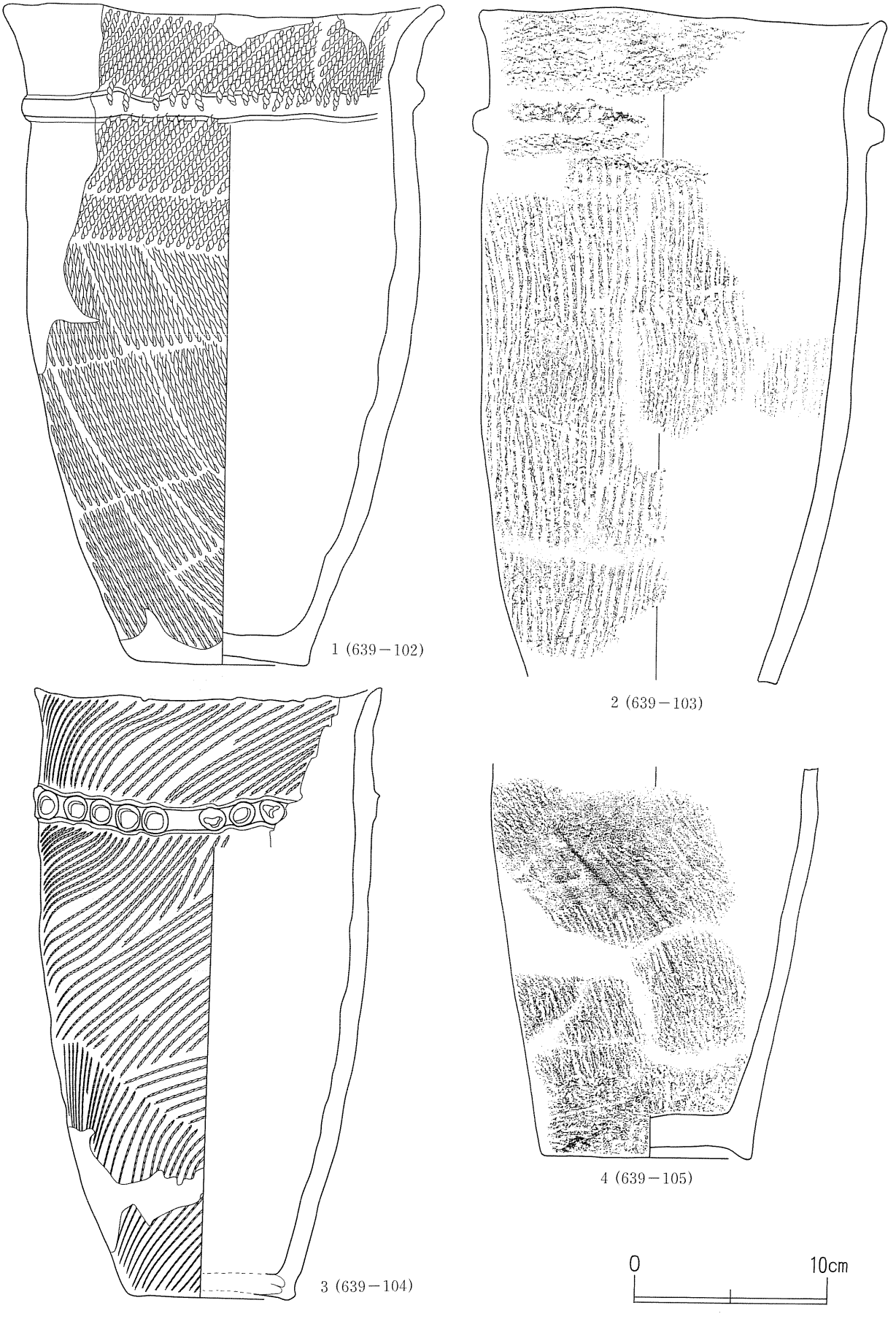


3（639－100）

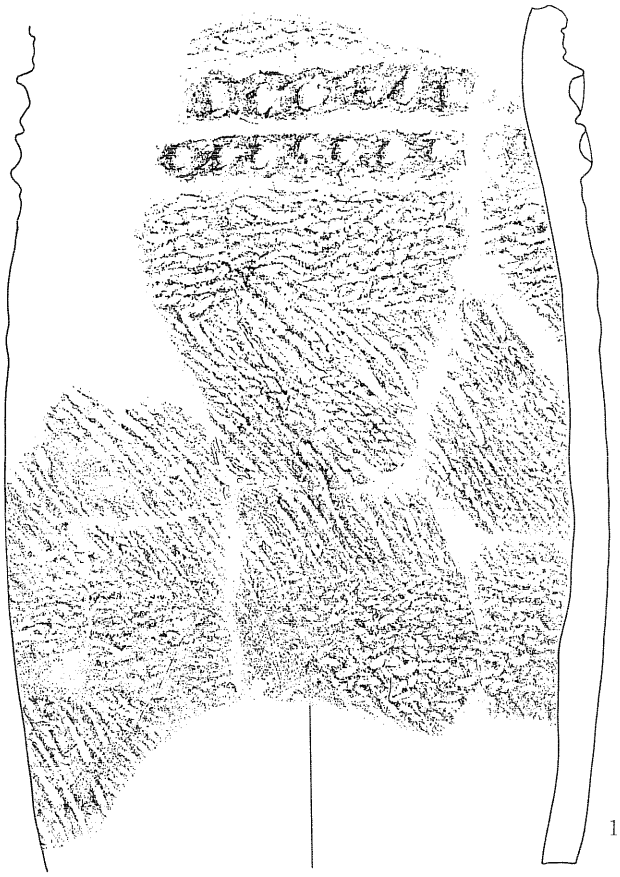


4（639－101）

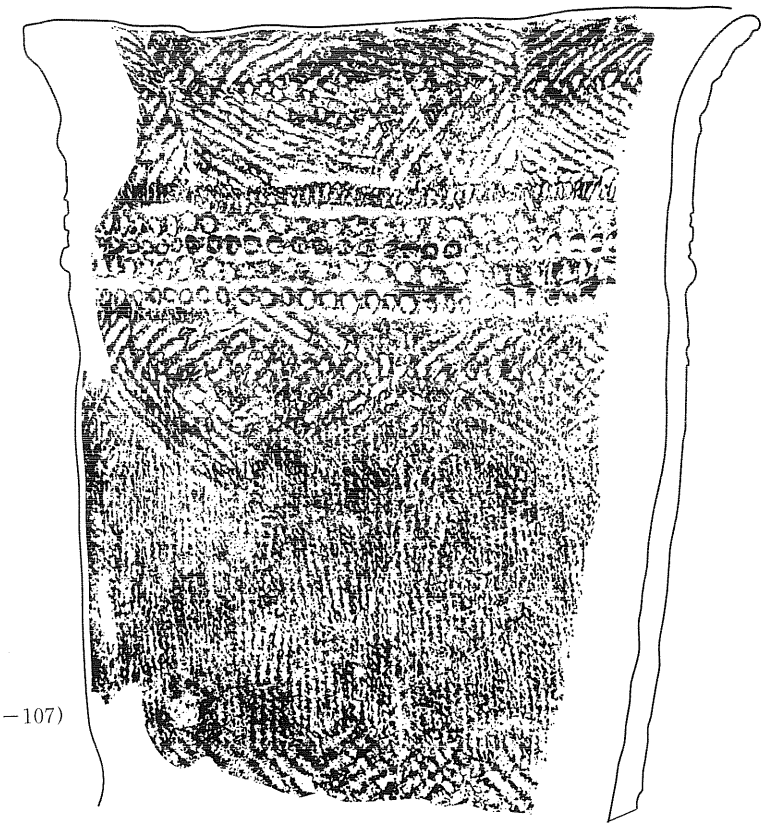
第736図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（５）



第737図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（６）



1（639－106）



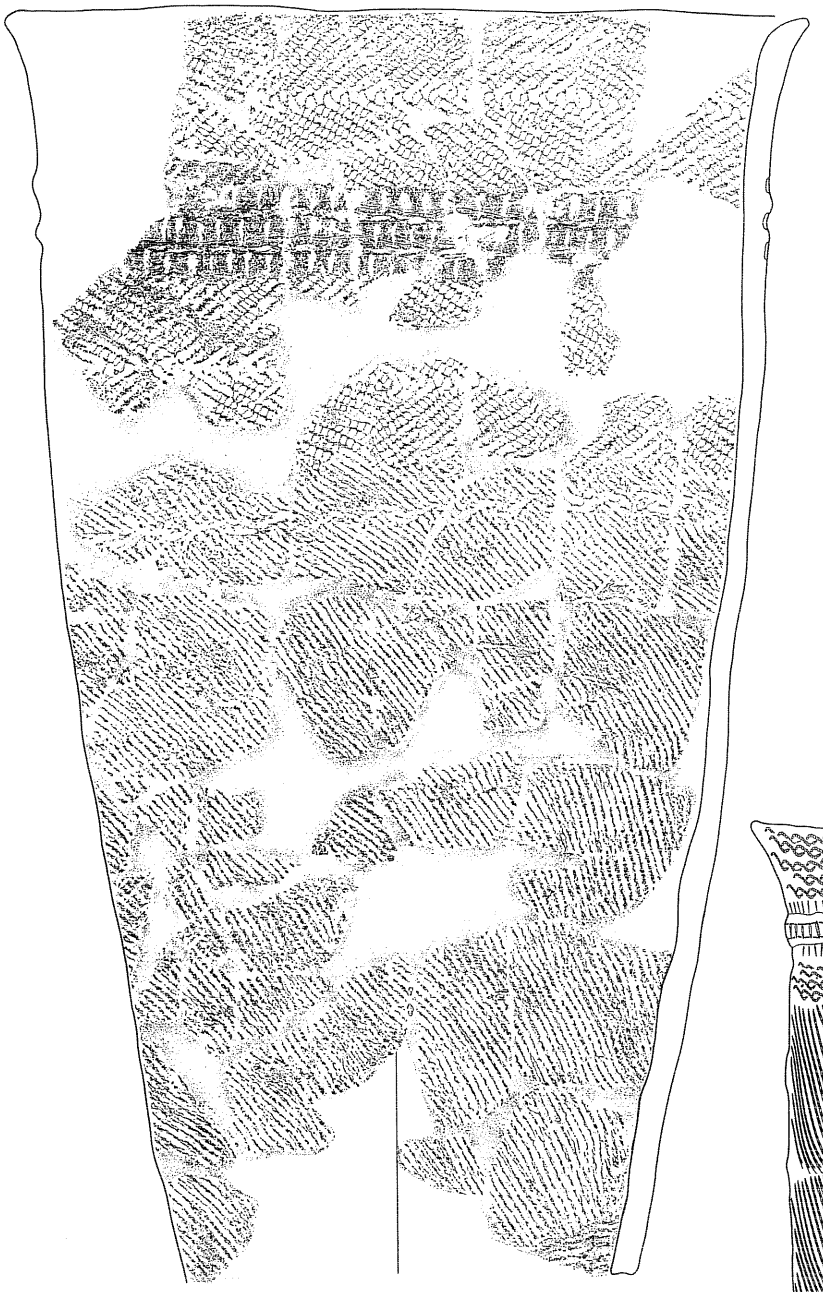
2（639－107）

0　10cm

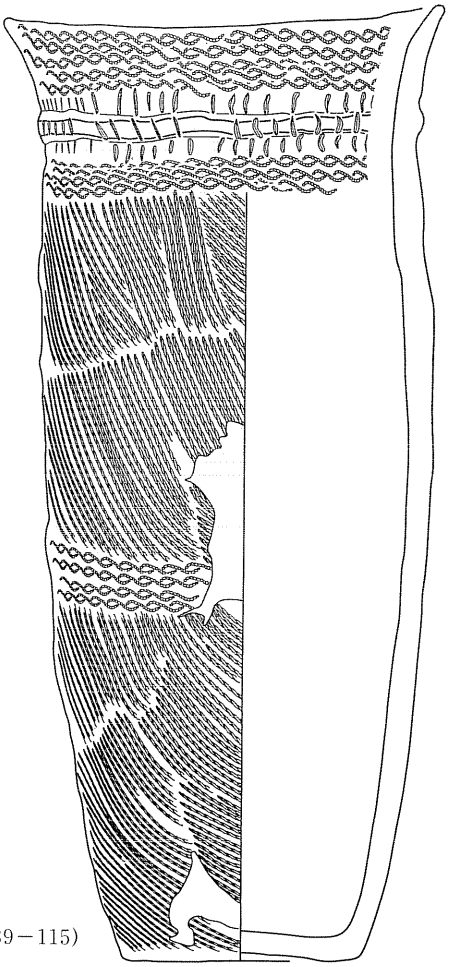
第738図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（７）

第739図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（８）

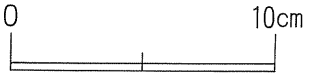
第740図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（９）



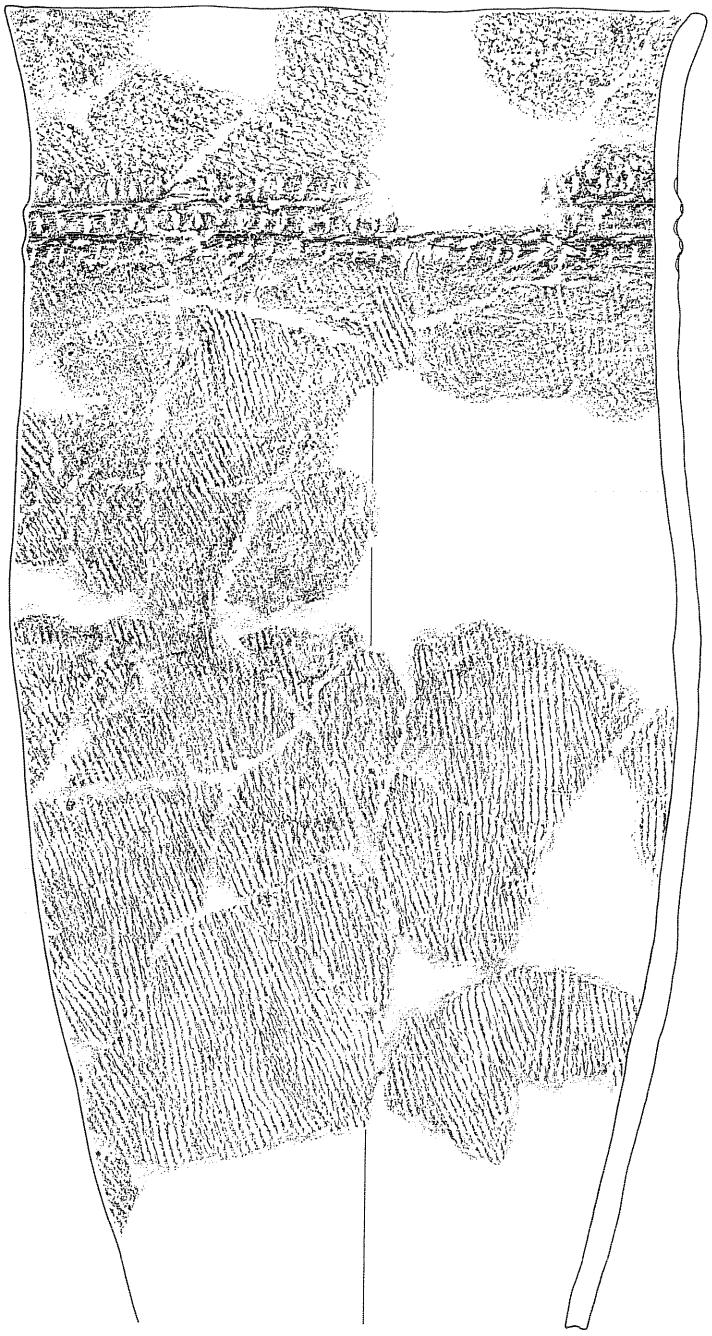
1（639－114）



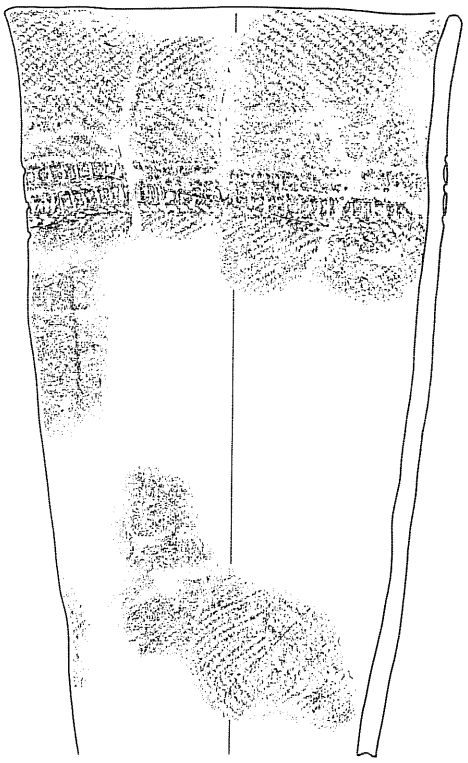
2（639－115）



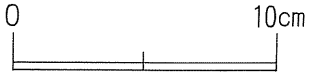
第741図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（10）



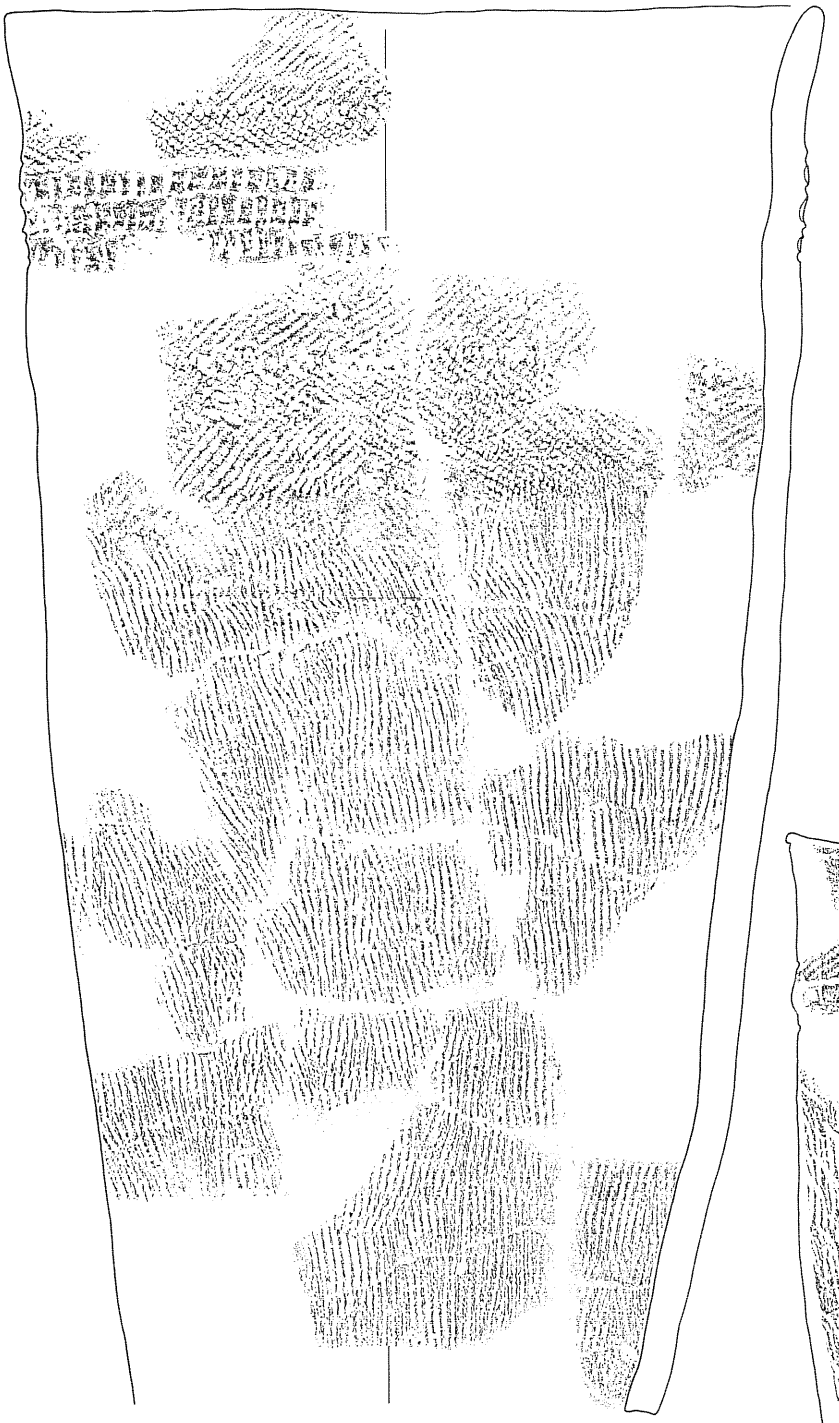
1（639－116）



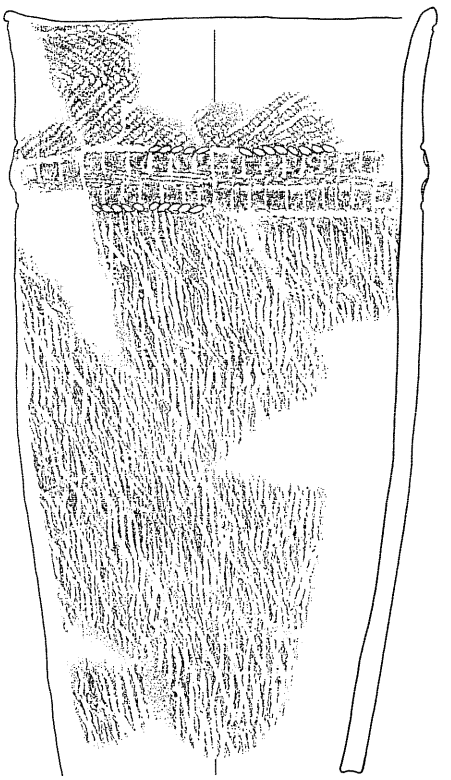
2（639－117）



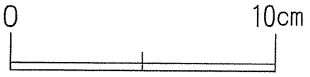
第742図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（11）



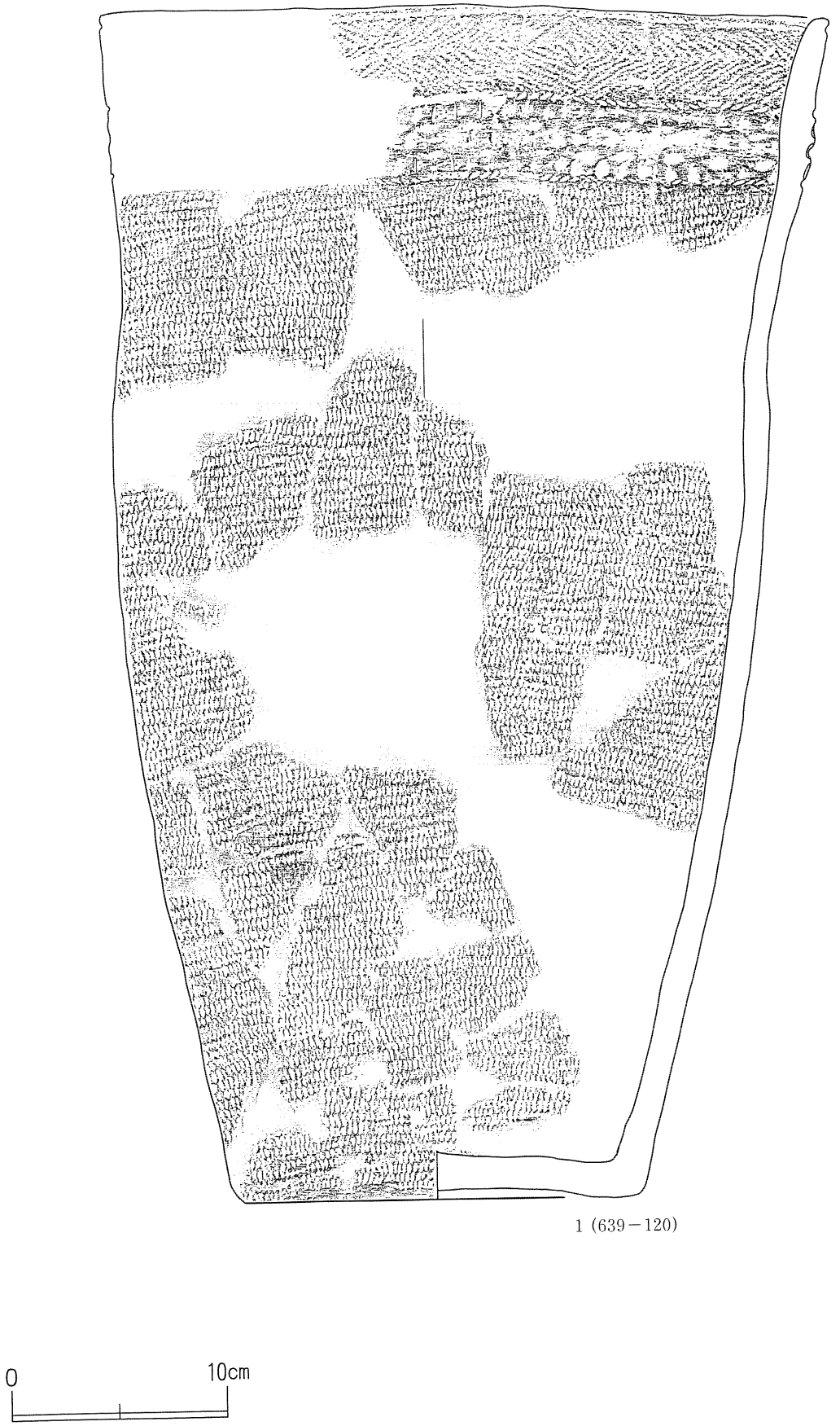
1（639－118）



2（639－119）

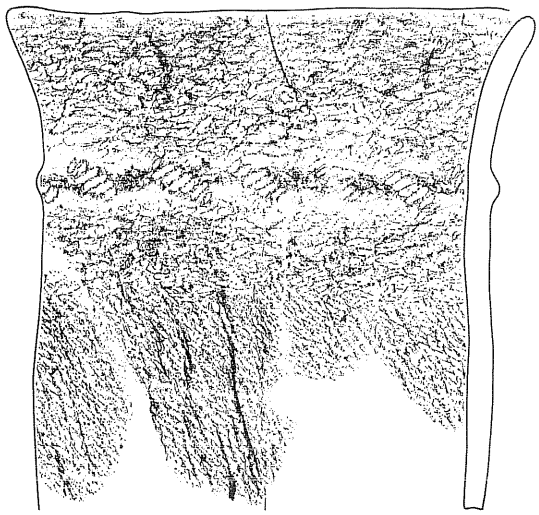


第743図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（12）

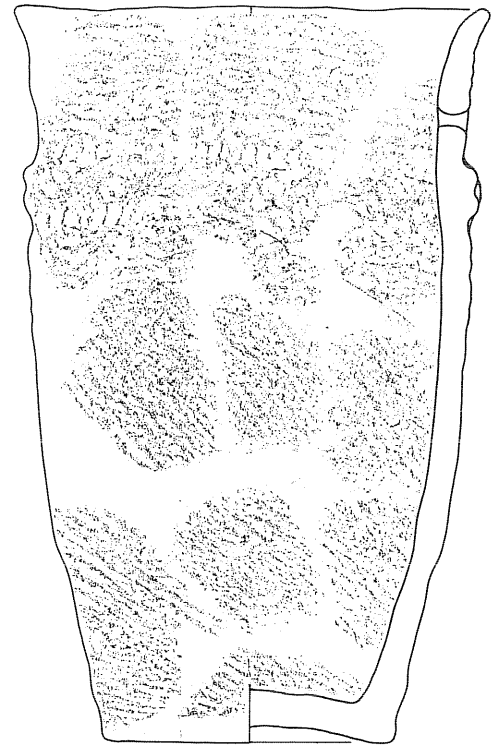


第744図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（13）

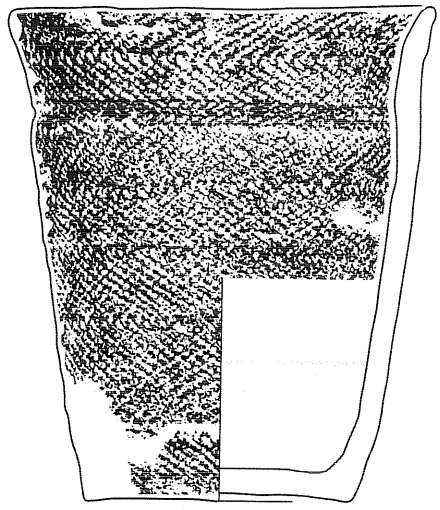
第745図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（14）



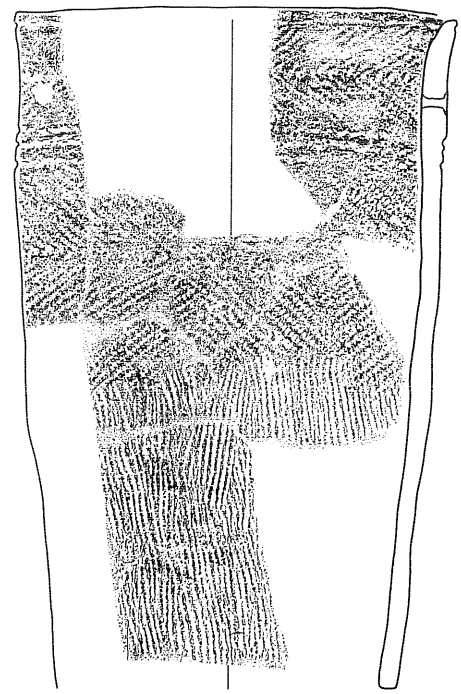
1（639－124）



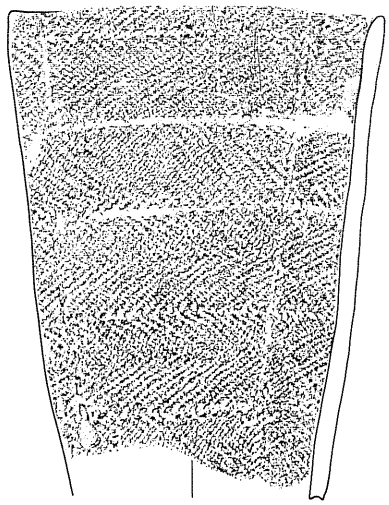
2（639－125）



3（639－126）



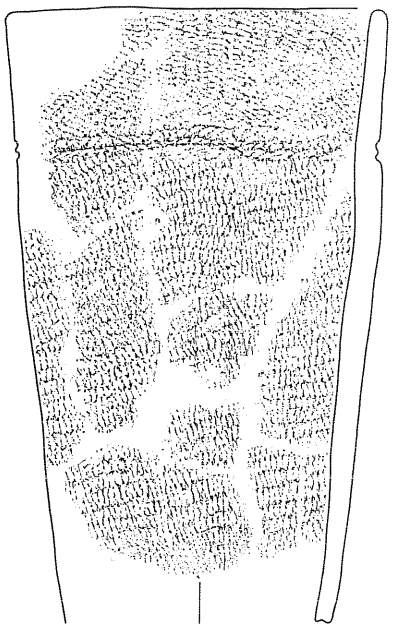
5（639－128）



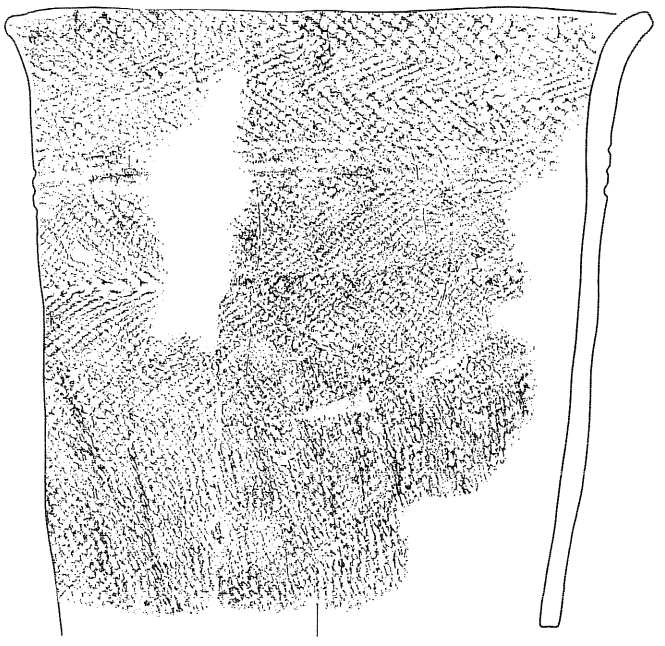
4（639－127）

0　10cm

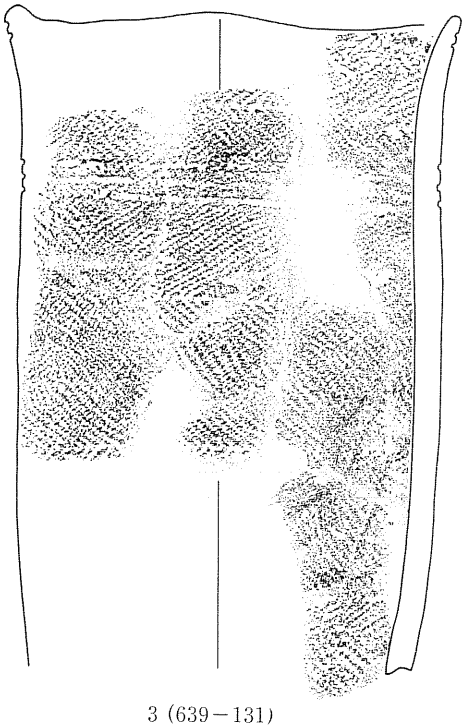
第746図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（15）



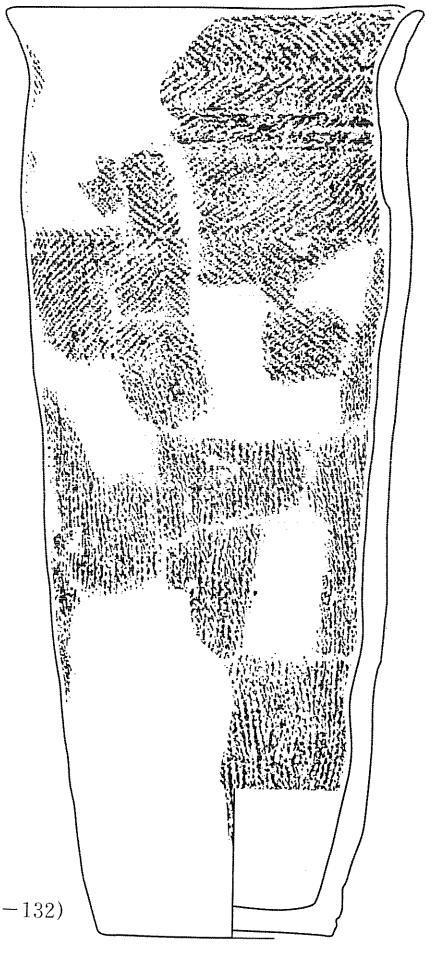
1（639－129）



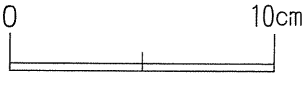
2（639－130）



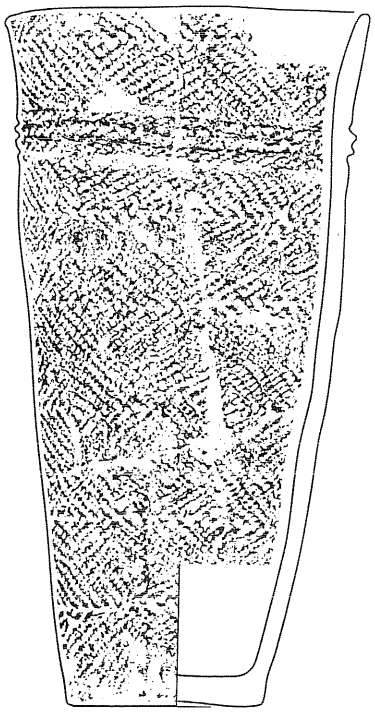
3（639－131）



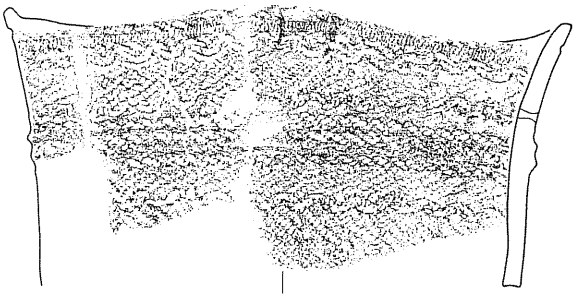
4（639－132）



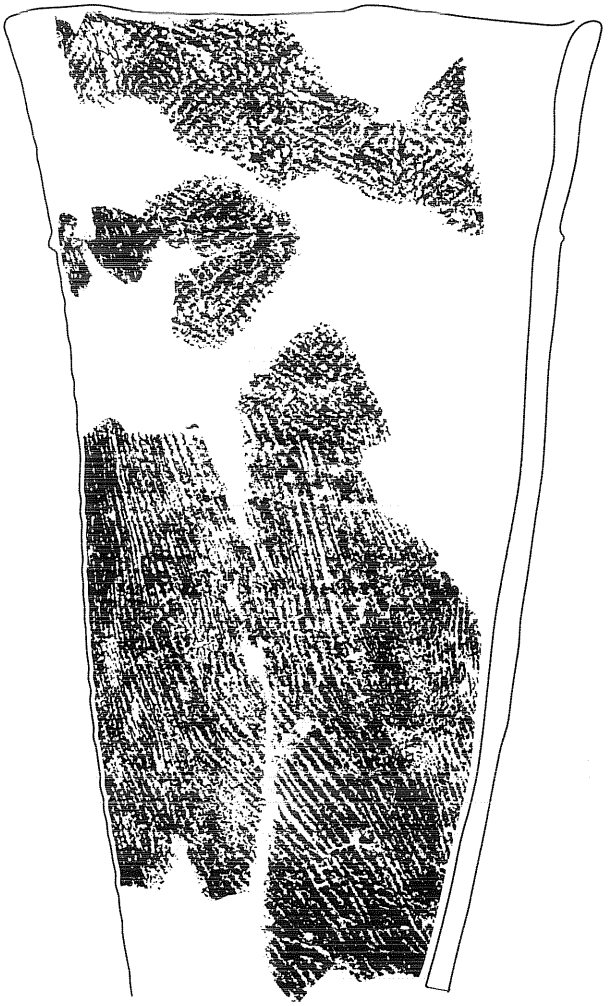
第747図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（16）



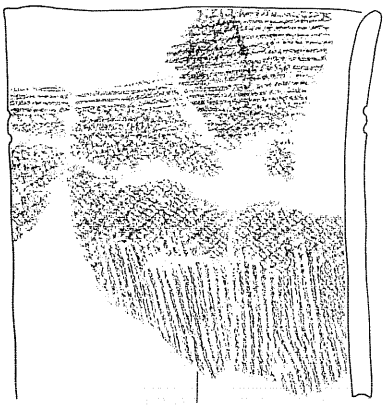
1（639－133）



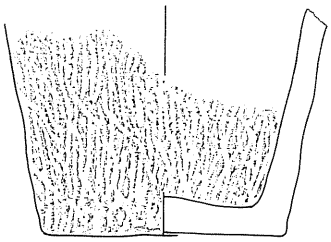
2（639－134）



4（639－136）



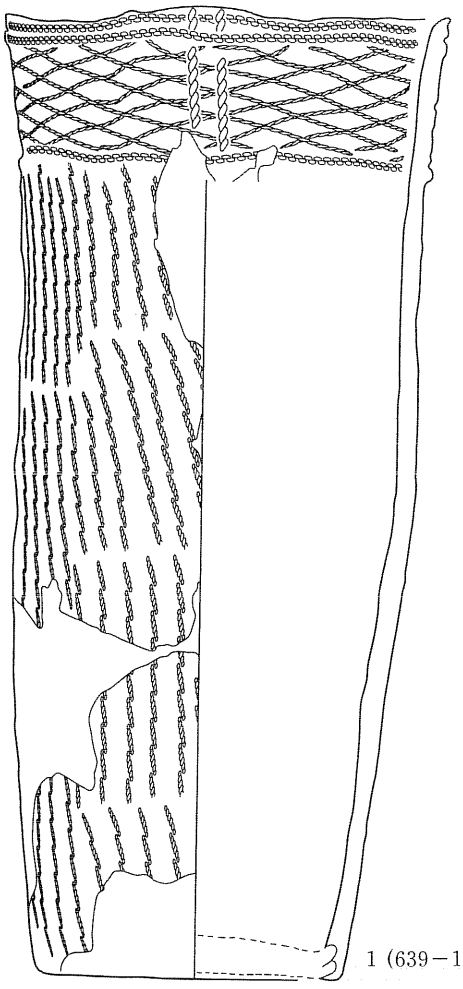
3（639－135）



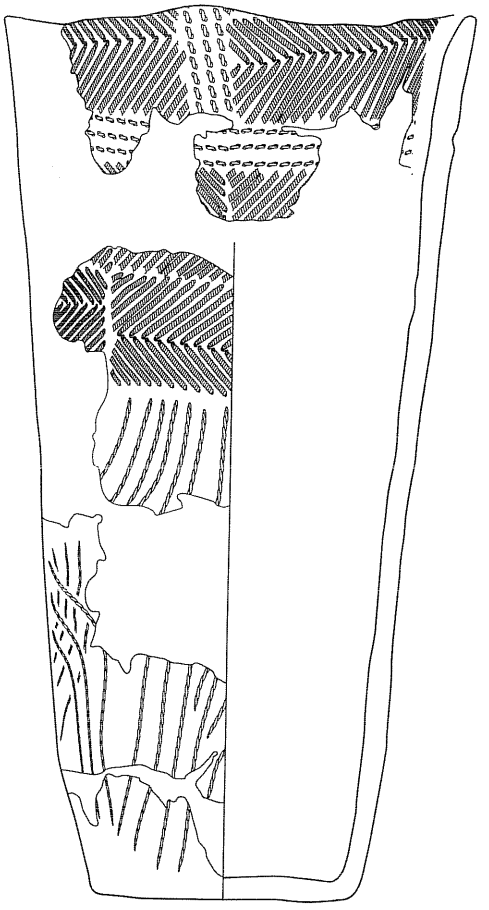
5（639－137）

0　10cm

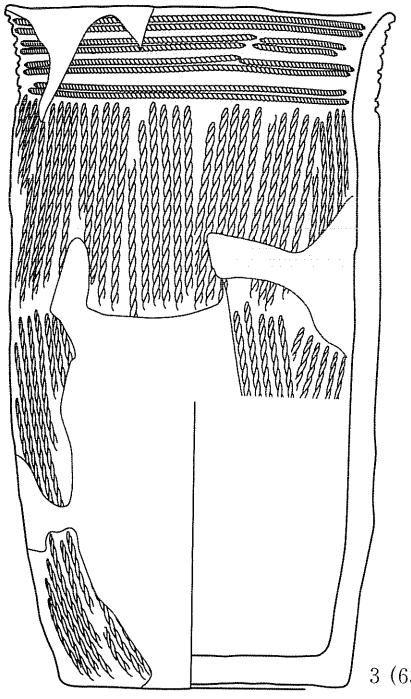
第748図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（17）



1（639－138）

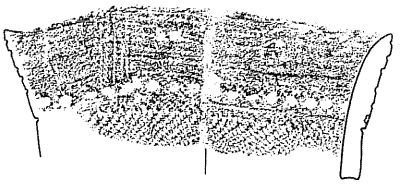


2（639－139）



3（639－140）

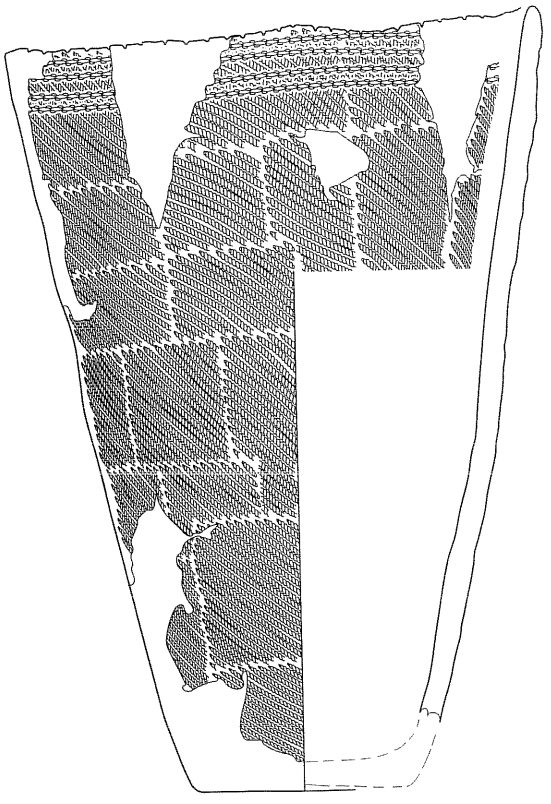
4（639－141）



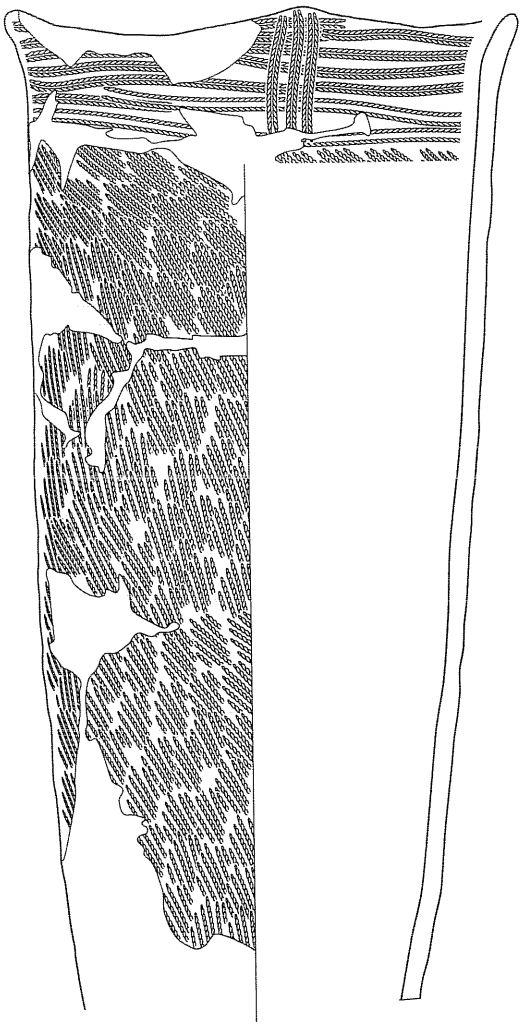
5（639－142）

0　10cm

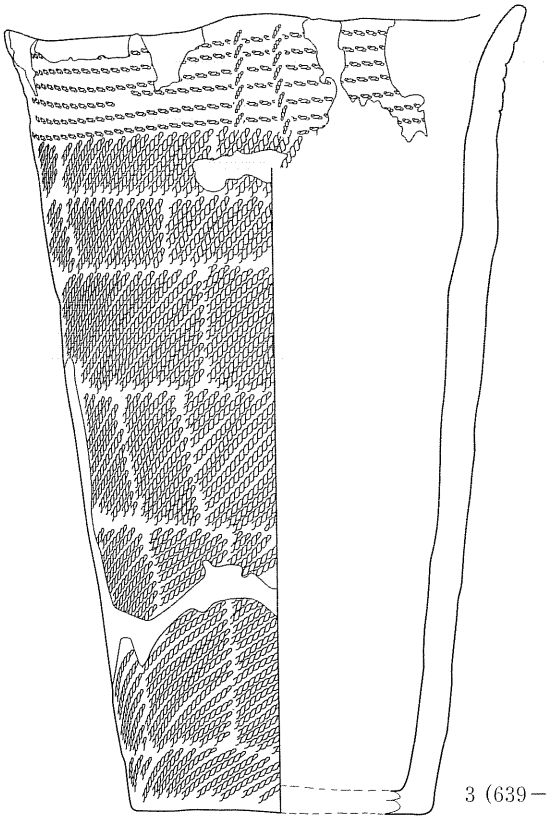
第749図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（18）



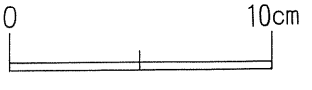
1（639－143）



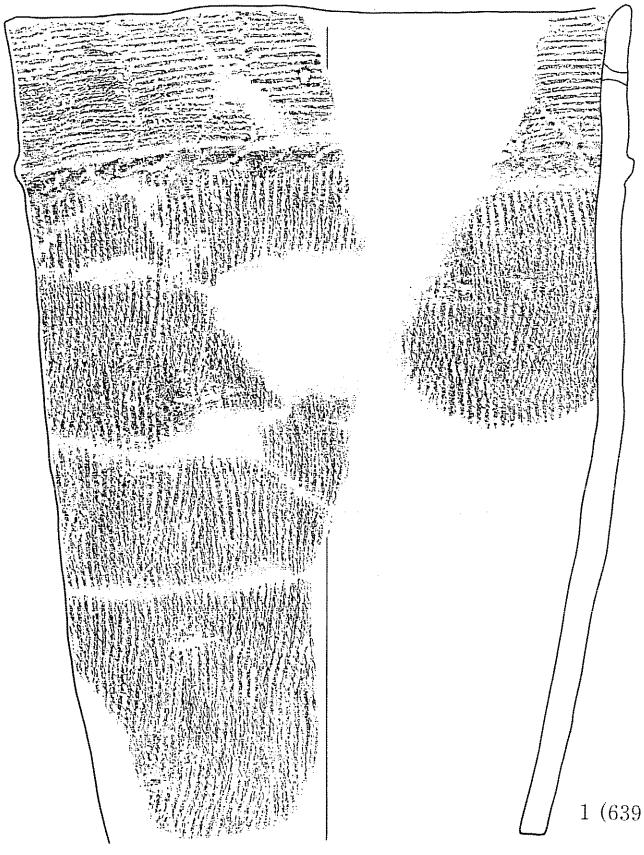
2（639－144）



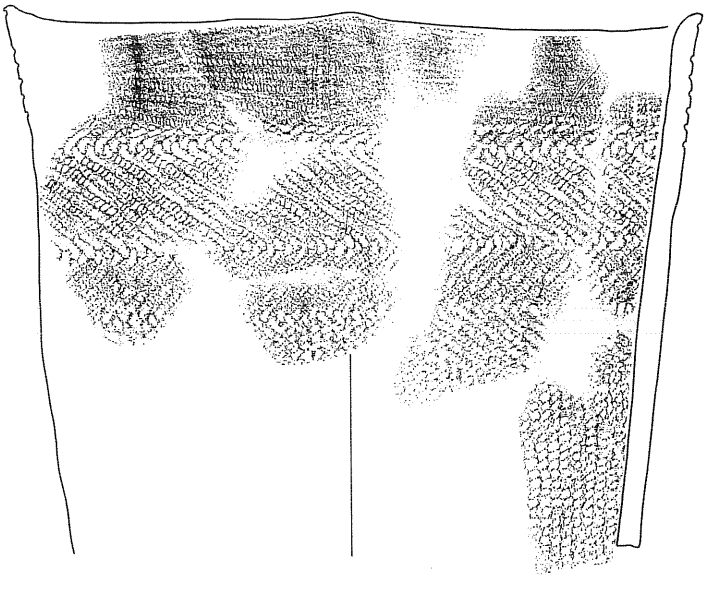
3（639－145）



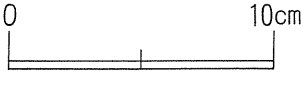
第750図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（19）



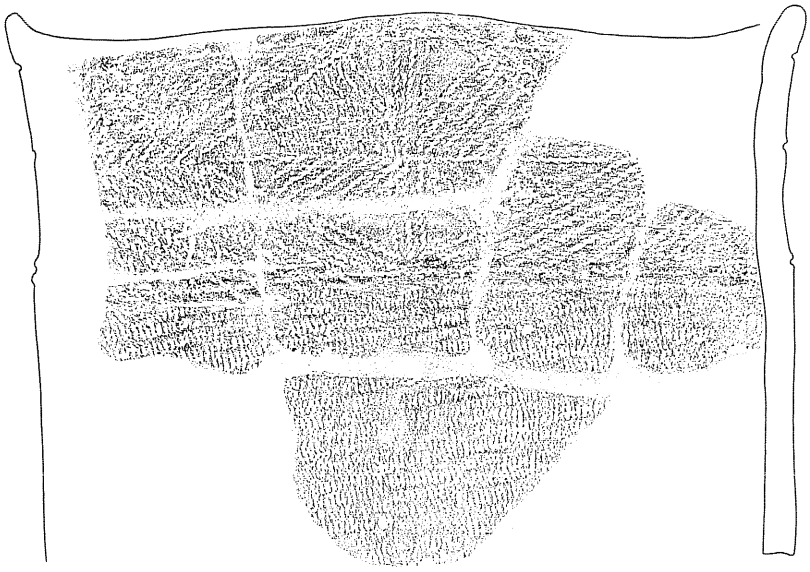
1（639－146）



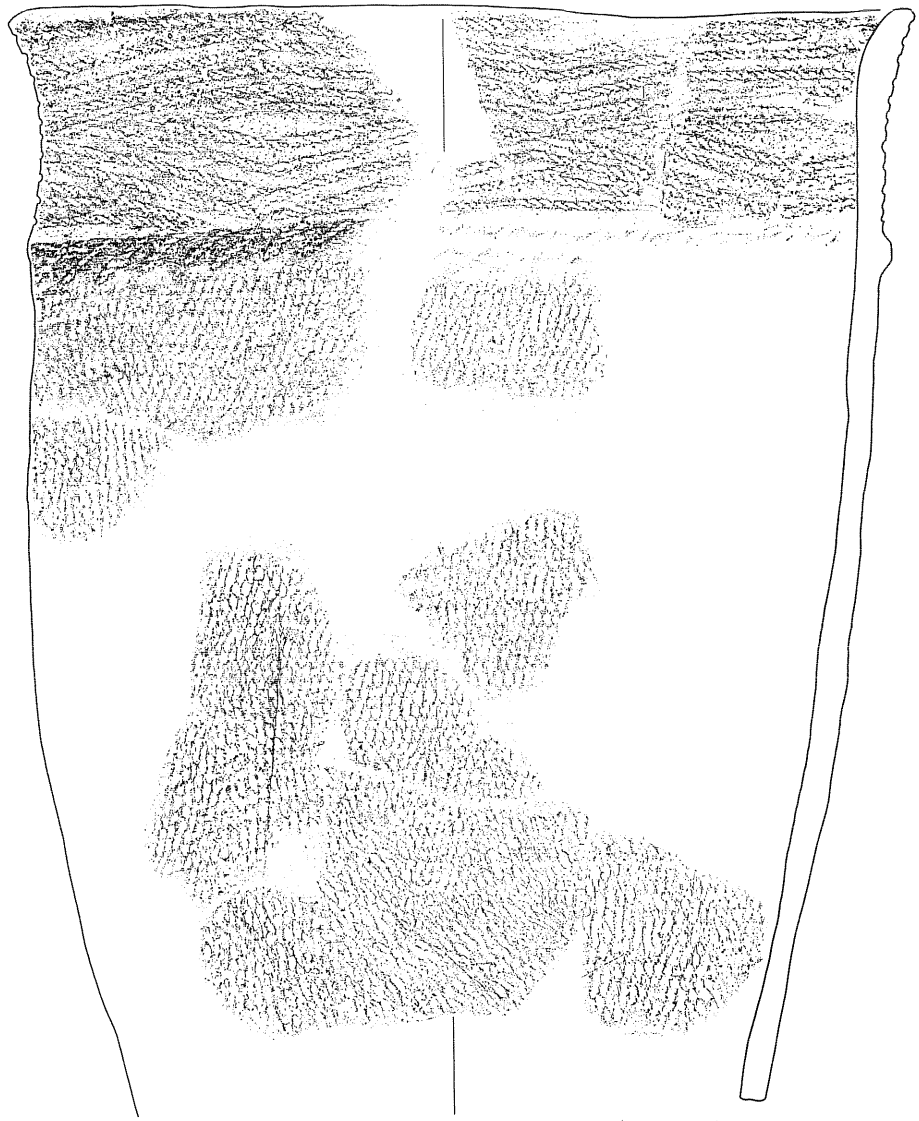
2（639－147）



第751図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（20）



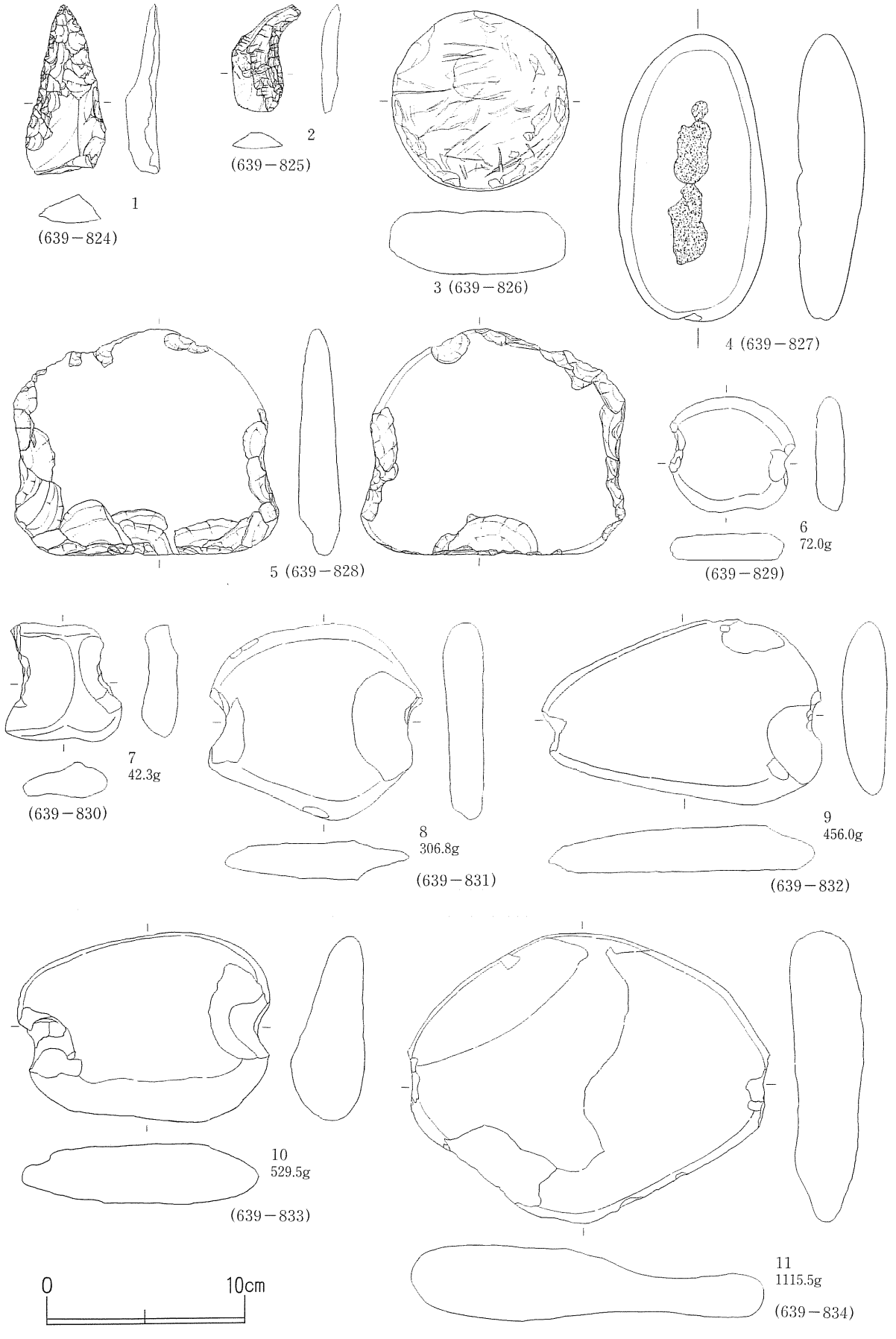
1（639－148）



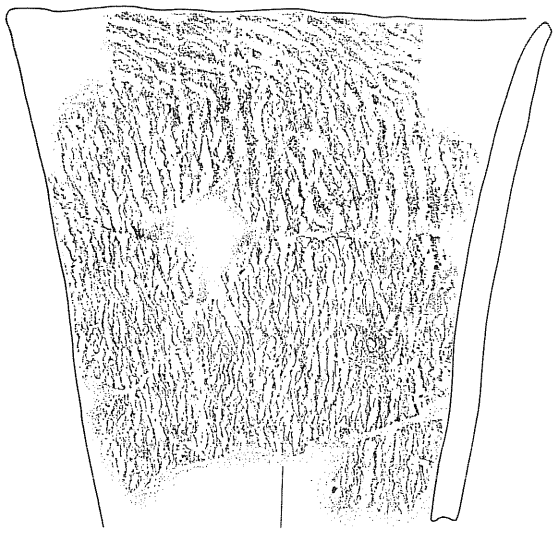
2（639－149）

0　10cm

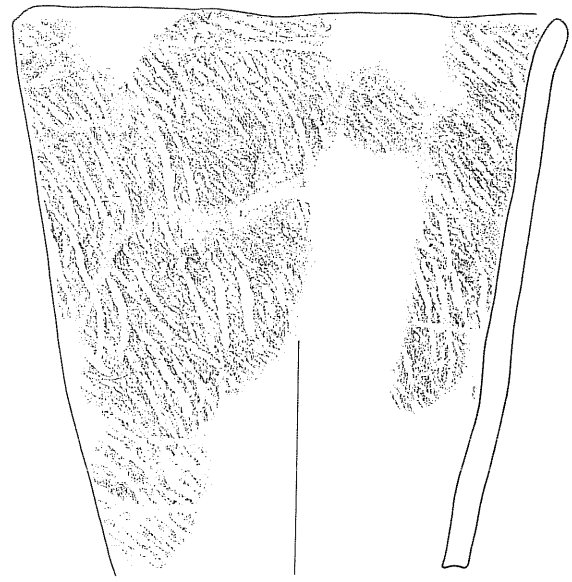
第752図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土土器（21）



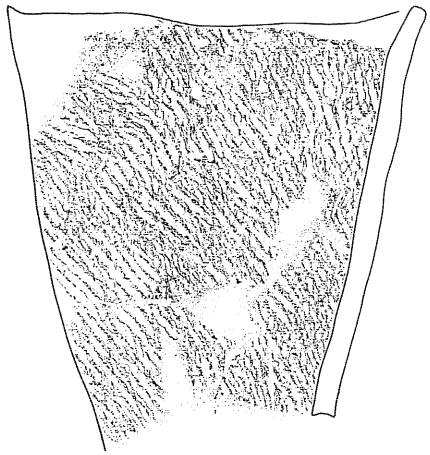
第753図　ＳＴ639谷Ⅲ層出土石器



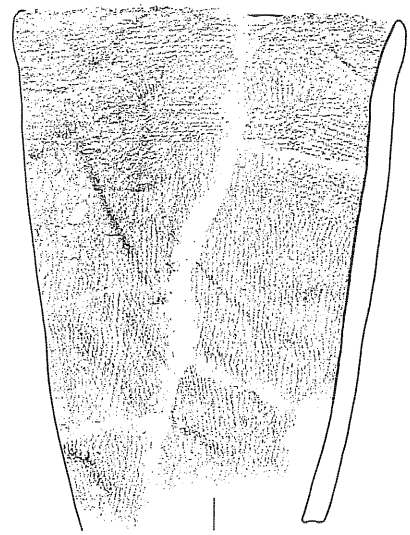
1（639－150）



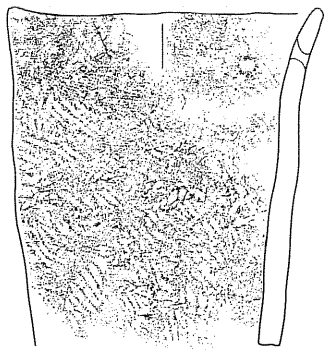
2（639－151）



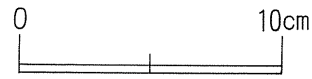
3（639－152）



4（639－153）



5（639－154）



第754図　ＳＴ639谷Ⅳ層出土土器（１）

③　石製品　有溝礫点、石棒2点、円盤状石製品9点（639－826）が出土した。このほかに自然礫に穴のあいた有孔礫2点、石核7点が出土した。

（5）第Ⅳ層から出土した遺物

①　土器

復元できた土器は390点（639－150～540）である。

（639－150～188）は全面に同一原体を施文した土器である。バケツ形あるいは円筒形を呈し、原体の回転方向を変えて文様体を表出したもの（639－150・153・180～185）がある。

（639－189～197）は口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器である。バケツ形あるいは円筒形を呈する。

（639－198～204）は口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文し中半下位に綾絡文を帯状に巡らした土器である。バケツ形あるいは円筒形を呈する。

（639－205～206）は口縁部と底辺部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文し中半下位に綾絡文を帯状に巡らした土器である。バケツ形あるいは円筒形を呈する。（639－206）の底部には、縄の押捺が見られる。

（639－207・208）は胴膨らみのある円筒形を呈し、口縁部と底辺部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文し中半に綾絡文を帯状に巡らした土器であるが、胴部の撚糸文が斜位、横位に施文されている。

（639－209～211）は胴膨らみのある円筒形を呈し、口縁部と底辺部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器である。

（639－212～223）は逆ベル・ボトム風の器形あるいは円筒形を呈し、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器である。胴部下半あるいは底辺部を欠失したものが多いが、胴部中半に綾絡文を帯状に巡らしたもの（639－212・214～216・218～220・222・223）もある。

（639－224～231）は胴部下半を欠失するがボリュームのあるバケツ形あるいは円筒形を呈し、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文し中半下位に綾絡文を帯状に巡らした土器である。

（639－232・233）は胴部下半を欠失するがスマートなバケツ形を呈し、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器である。（639－233）の口辺と頸部には押圧縄文を巡らしている。

（639－234）は胴部下半を欠失するがずん胴な円筒形を呈し、口縁部に稚拙な羽状縄文、胴部に撚糸文を施文した土器である。

（639－235～243・245・246）は胴部下半を欠失するがボリュームのある円筒形あるいはスリムな逆ベル・ボトム風の器形を呈し、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器である。

（639－244）は底辺部を欠失するがスマートなバケツ形を呈する土器である。頸部に3条の単軸絡条体側面圧痕文を巡らして文様体を区画し、幅の狭い口縁部に所謂単軸絡条体第5類を回転施文、胴部には撚糸文を施文した土器である。

（639－245）はスリムな逆ベル・ボトム風の器形を呈し、口縁部に綾絡文、胴部に複節縄文を施文した土器である。

（639－247～250・252）はスマートなバケツ形を呈する土器である。（639－247）は口縁部と胴部中半に単節縄文、胴部に撚糸文を施文し、（639－248）は全面に撚糸文を施文したあと胴部中半に綾絡文を帯状に巡らしている。（639－249・250・252）は胴部下半を欠失するが異なる原体により口縁

部と胴部の文様体（249：綾絡文と多軸撚糸文、250・252：単節縄文と撚糸文）を表出している。

（639－251・253・254・256）は胴部下半を欠失するが円筒形あるいはやや胴膨らみのある円筒形を呈する土器である。口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－255）は胴部下半を欠失するがやや胴膨らみのある円筒形を呈する土器で、口縁部と胴部中半に羽状縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－257～261）はスマートなバケツ形あるいはやや胴膨らみのある円筒形を呈し、口縁部に羽状縄文、胴部に撚糸文を施文した土器である。

（639－262）はバケツ形を呈する土器である。口縁部から胴部中半まで羽状縄文、胴部下半に撚糸文を施文している。

（639－263・264）はやや胴膨らみのあるバケツ形を呈する土器である。口縁部に綾絡文を施文しているが、胴部には複節縄文（639－263）あるいは単節縄文（639－263・264）を施文している。

（639－265・266）はバケツ形を呈する土器である。口縁部から胴部中半すぎまで単節縄文、以下に撚糸文を施文している。

（639－267～285）は頸部に縄を回転施文した隆帯を巡らし、胴膨らみのある円筒形あるいはスリムな逆ベル・ボトム風の器形を呈する土器である。（639－267・268・278）は口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文、（639－269・270・274～277・280）は口縁部から隆帯下方に綾絡文、以下に撚糸文を施文、（639－271・279）は全面に撚糸文を施文、（639－272）は口縁部に単節縄文、胴部に撚糸文を施文、（639－273）は口縁部に綾絡文、隆帯下方に羽状縄文、以下に撚糸文を施文している。

（639－281～283）は底辺部を欠失するが頸部に隆帯を巡らし、胴膨らみのある円筒形あるいはスリムな逆ベル・ボトム風の器形を呈する土器である。口縁部から胴部上半まで単節縄文、以下に撚糸文を施文している。

（639－284・285）は底辺部を欠失するが頸部に隆帯を巡らし、円筒形あるいは胴膨らみのある円筒形を呈する土器で、全面に単節縄文を施文している。

（639－286～293・295～327）は頸部に指頭圧痕列を施文した隆帯を巡らした土器である。

（639－286）は円筒形を呈し、頸部に1条の低い隆帯を巡らし、幅の狭い口縁部に羽状縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－287・288）は円筒形を呈し、口縁部と隆帯下方に綾絡文、以下に撚糸文を施文、（639－289）は胴膨らみのあるボリューム感あふれる逆ベル・ボトム風の器形を呈し、頸部に2条の先の尖った隆帯を巡らし、幅の狭い口縁部から隆帯下方および胴部中半下位に綾絡文、それ以外の胴部には撚糸文を施文した土器である。口唇と2条の隆帯上、その上下位および条間に指頭圧痕列を施文している。

（639－289）は胴部下半を欠失するが大きく外反する幅の狭い口縁部をもち頸部に2条の先の尖った隆帯を巡らし、ボリュームのあるバケツ形を呈する土器である。口唇と2条の隆帯上、その上下位および条間に指頭圧痕列を施文し全面に撚糸文を施文している。

（639－291・292）は円筒形を呈し、頸部に1条の低い隆帯を巡らし、幅の狭い口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－293）は逆ベル・ボトム風の器形を呈し、頸部に2条の先の尖った隆帯を巡らし、幅の狭い口縁部から隆帯下方に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器である。口唇と2条の隆帯上に指頭圧痕

列を施文している。

（639－294）は円筒形を呈する土器である。全面に撚糸文を施文したあと、頸部に1条の竹管刺突列を巡らし、口辺と竹管刺突列下方に綾絡文を付加している。

（639－295～297）はボリュームのあるバケツ形あるいは逆ベル・ボトム風の器形を呈し、頸部に1条の太い隆帯を巡らし、幅の狭い口縁部と隆帯下方および胴部中半に綾絡文、胴部に撚糸文あるいは単節縄文を施文した土器である。

（639－298）はゆるやかな波状口縁をもつ円筒形の土器である。頸部にその上下に押圧縄文を付加した1条の円形刺突列を巡らし、外反し幅の狭い口縁部に羽状縄文、胴部には円形刺突列下方から胴部下半まで緩んだ網目状撚糸文、以下に撚糸文を施文している。

（639－299）は胴部下半を欠失するが円筒形を呈する土器である。頸部に1条の太い隆帯を巡らし、口縁部と隆帯下方に単節縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－300）は口縁部を欠失するが胴膨らみのある円筒形を呈する土器である。頸部に1条の太い隆帯を巡らし、口縁部と隆帯下方および胴部下半と底辺部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－301・302・304・305・307・310）は大きく外反する口縁部をもち頸部に2条の先の尖った隆帯を巡らし、ボリュームのある逆ベル・ボトム風の器形を呈する土器である。口縁部と隆帯下方および胴部上半あるいは下半に綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－303）は底辺部を欠失するがボリュームのある円筒形を呈する土器である。外反する口縁部をもち頸部に2条の先の尖った隆帯を巡らし、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－306）は円筒形を呈する土器である。頸部に2条の竹管刺突列を巡らし、口辺と竹管刺突列下方および胴部中半に綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－308・309）は胴部下半を欠失するがずん胴な円筒形を呈する土器である。頸部に2条の指頭圧痕列を巡らし、口縁部に（639－309にあっては指頭圧痕列下方まで）羽状縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－311）は胴部下半を欠失するがずん胴な円筒形を呈する土器である。頸部に2条の隆帯を巡らし、全面に複節縄文を施文している。

（639－312～314・316）は胴部下半を欠失するが、頸部に1条の太い隆帯を巡らし、ずん胴な円筒形を呈する土器である。隆帯上とその上下位に指頭圧痕列を施文している。いずれも胴部に撚糸文を施文しているが、（639－312）では口縁部から隆帯下方まで羽状縄文、（639－313）の口縁部には単節縄文、（639－314）では口縁部から隆帯下方まで綾絡文、（639－316）の口縁部には羽状縄文が施文されている。

（639－315）は胴部下半を欠失するがずん胴な円筒形を呈する土器である。頸部に連続刺突列で飾った1条の隆帯を巡らし、口縁部から隆帯下方まで羽状縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－317）は口縁部を欠失するがずん胴な円筒形を呈する土器である。頸部に3条の指頭圧痕列を巡らしている。胴部に撚糸文を施文している。

（639－318～322）はスマートな逆ベル・ボトム風の器形を呈し、頸部に2条の隆帯を巡らし、隆帯上とその上下位と条間に指頭圧痕列を施文する土器である。口縁部から隆帯下方までと胴部中半あるいは下半にも綾絡文帯を、胴部には撚糸文を施文している。いずれの隆帯も先が尖っているので、

隆帯上の指頭圧痕は小さい。

（639－323～327）は円筒形あるいはスマートな逆ベル・ボトム風の器形を呈し、頸部に２条の隆帯を巡らし、隆帯上に指頭圧痕列、隆帯の上下位と条間には爪形圧痕列（爪形文）を施文する土器である。やや幅広な口縁部と隆帯下方には羽状縄文（639－326）あるいは羽状縄文の組み合わせによる菱形文（639－323・324・327）を施文している。胴部には撚糸文あるいは多軸撚糸文を施文している。

（639－328～347）は頸部にダンゴ虫様の単軸絡条体側面圧痕を飾った太い隆帯を巡らした土器である。

（639－328）は胴部中半以下を欠失するが、アトランダムに撚糸文を施文した幅の広い口縁部が大きく外反する器形で、隆帯下方に綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－329・330）は底辺部を欠失するが、バケツ形を呈する土器である。（639－329）は口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文し、（639－330）は全面に多軸撚糸文を施文している。

（639－331～336・338）は円筒形を呈する土器である。口縁部から隆帯下方まで綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。（639－338）の口縁部には沈線による連続山形文が付加されている。

（639－337）は底辺部を欠失するが、口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文している円筒形を呈する土器である。

（639－337）は円筒形を呈する土器である。口縁部から隆帯下方までと胴部中半下位に複節縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－338・339）は底辺部を欠失するが、円筒形を呈する土器である。口縁部から隆帯下方までと胴部中半下位に綾絡文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－342）は底辺部を欠失するが、バケツ形を呈する土器である。口縁部から隆帯下方まで単節縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－343）は胴部下半を欠失するが、幅が狭く外反する口縁部から隆帯下方までには撚糸文を施文したあと単軸絡条体側面圧痕や原体の異なる撚糸文を付加している。胴部には撚糸文を施文している。

（639－344）はスマートなバケツ形を呈する土器である。口縁部には羽状縄文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－345）は胴部下半を欠失するが、円筒形を呈する土器である。口縁部から隆帯下方まで単節縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－346）はやや胴膨らみのある円筒形を呈する土器で、全面に撚糸文を施文している。

（639－347）は底辺部を欠失するが円筒形を呈する土器で、口縁部には網目状撚糸文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－348～360・362～395・399・400）は頸部に縦位の爪形圧痕列（爪形文）を巡らした土器である。

（639－348）は胴部下半を欠失するが、頸部に縦位の爪形圧痕列（爪形文）を飾った隆帯を１条巡らした円筒形を呈する土器である。全面に撚糸文を施文している。

（639－349）は底辺部を欠失するが円筒形を呈する土器である。頸部に２条の縦位の爪形圧痕（爪形文）列を巡らし、口縁部には羽状縄文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－350）は底辺部を欠失するが円筒形を呈する土器である。頸部に縦位の爪形圧痕列（爪形文）を飾った隆帯を2条巡らし、口縁部から隆帯下方まで単節縄文、胴部に撚糸文を施文している。

（639－351・352）は胴部下半を欠失するが胴膨らみのある円筒形を呈する土器で、頸部に2条の縦位の爪形圧痕（爪形文）列を巡らし、条間にも円形刺突文を充填している。口縁部から隆帯下方まで綾絡文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－353～355）は円筒形を呈し、頸部に縦位の密に施文した爪形圧痕列（爪形文）を2条巡らし、その上下と条間に1条の押圧縄文を付加した土器である。口辺にも1条の押圧縄文を巡らせた口縁部から圧痕列下方まで羽状縄文（639－353）あるいは単節縄文（639－354・355）を施文し、胴部には撚糸文を施文している。

（639－356）は円筒形を呈し、頸部に縦位の爪形圧痕列（爪形文）を密に施文した低い隆帯を2条巡らし、その上下と条間に1条の押圧縄文を付加した土器である。口縁部に網目状撚糸文、胴部には単節縄文を施文している。

（639－357）は底辺部を欠失するが円筒形を呈し、頸部に縦位の密に施文した爪形圧痕列（爪形文）を2条巡らし、その上下に2条と条間に1条の押圧縄文を付加した土器である。口辺にも2条の押圧縄文を巡らせた口縁部から圧痕列下方まで羽状縄文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－358）は円筒形を呈し、頸部に縦位の爪形圧痕列（爪形文）を密に2段施文した低い隆帯を1条巡らし、隆帯の上下と先端に1条の押圧縄文を付加した土器である。口縁部に羽状縄文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－359）は円筒形を呈し、頸部に縦位の爪形圧痕列（爪形文）を密に2段施文した低い隆帯を1条巡らし、隆帯の上下に1条の押圧縄文を付加した土器である。先端には斜位の爪形文を施文している。口縁部と隆帯下方に羽状縄文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－360）はバケツ形を呈し、頸部に縦位の爪形圧痕列（爪形文）を密に2段施文した低い隆帯を1条巡らし、隆帯の上下に1条の押圧縄文を付加した土器である。先端には斜位の爪形文を施文している。口縁部には撚糸文を施文したあと横走する7条の押圧縄文を付加し、胴部には撚糸文を施文している。

（639－361）は円筒形を呈する土器で、全面に撚糸文を施文したあと横走する10条の押圧縄文を付加している。

（639－362～365）は円筒形を呈し、頸部に縦位の密に施文した爪形圧痕列（爪形文）を2条巡らし、その上下に2条と条間に1条あるいは2条の押圧縄文を付加した土器である。（639－362・363）では口辺にも1条の押圧縄文を巡らせているが口縁部から圧痕列下方まで羽状縄文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－366～369・372・376・378）は円筒形を呈し、頸部に縦位の密に施文した爪形圧痕列（爪形文）を3条巡らし、その上下と条間に1条の押圧縄文を付加した土器である。（639－366・369）では口縁部に羽状縄文、胴部には撚糸文を施文し、（639－367・368・372・376・378）では口縁部から圧痕列下方まで羽状縄文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－370・371・373）は円筒形を呈し、頸部に縦位に施文した爪形圧痕列（爪形文）を2条巡らした土器である。（639－370）では口縁部から圧痕列下方まで羽状縄文、胴部には撚糸文を施文し、（639

－371）では口縁部から圧痕列下方まで単節縄文、胴部には網目状撚糸文を施文し、（639－373）では口縁部から圧痕列下方までと胴部中半下位に綾絡文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－374・375）は頸部に縦位の爪形圧痕列（爪形文）を密に3段施文した隆帯を1条巡らした土器である。（639－374）では口縁部と隆帯下方に単節縄文、胴部には撚糸文を施文し、（639－375）では口縁部と隆帯下方に羽状縄文の組み合わせによる菱形文を施文している。

（639－377・380・381・382）は頸部に縦位の爪形圧痕列（爪形文）を密に施文した隆帯を2条巡らし、隆帯の上下位および条間にも爪形圧痕列（爪形文）を密に施文した土器である。

（639－379）はバケツ形を呈する土器である。頸部に縦位の爪形圧痕列（爪形文）を密に上下に施文した隆帯を1条巡らし、その上下に押圧縄文を1条付加している。口縁部に単節縄文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－382・383・385・386・389）は円筒形あるいはバケツ形を呈し、頸部に縦位に密に施文した爪形圧痕列（爪形文）を3条巡らした土器である。（639－382・383）では爪形圧痕列の上下に押圧縄文を付加している。

（639－388・394）は胴膨らみのある円筒形を呈する土器である。頸部に縦位に密に施文した爪形圧痕列（爪形文）を3条巡らし、条間に横位の爪形圧痕列（爪形文）を充填している。

（639－390）は頸部に横位の爪形圧痕列（爪形文）を施文した隆帯を2条巡らし、隆帯の上下位に縦位に爪形圧痕列（爪形文）を施文し、さらにその上下に押圧縄文を付加している。口縁部と隆帯下方に羽状縄文、胴部には撚糸文を施文している。口辺にも1条の押圧縄文を付加している。

（639－391・392）は頸部に縦位の爪形圧痕列(爪形文)を施文した隆帯を2条巡らした土器である。

（639－391）では口縁部と隆帯下方に綾絡文、胴部には撚糸文を施文し、（639－392）では口縁部に綾絡文、胴部には撚糸文を施文しており、2条の隆帯を連結するように粘土を貼り付けている。

（639－393）は頸部に縦位の爪形圧痕列（爪形文）を施文した太くて低い隆帯を1条巡らし、その上下位にも縦位の爪形圧痕列（爪形文）を施文した土器である。口縁部と隆帯下方および底辺部に綾絡文、胴部には多軸撚糸文を施文している。

（639－396～398・412）は頸部に爪形圧痕列（爪形文）を横位に飾った細く低い隆帯を巡らした土器である。

（639－396）は円筒形を呈し、上半に単節縄文、胴部には撚糸文を施文、（639－397）では口縁部に羽状縄文、胴部には多軸撚糸文を施文、（639－398・412）では圧痕列の上下に押圧縄文が付加され、口縁部と圧痕列下方に羽状縄文、胴部には撚糸文を施文している。

（639－401～411・413～423）は円筒形あるいはバケツ形を呈し、頸部に単軸絡条体側面圧痕列を巡らした土器である。（639－406・408・409）は圧痕列の上下位に押圧縄文を付加し、（639－410・411・413・416・417）では圧痕列の条間にも押圧縄文を付加している。（639－414・415・418・419）は圧痕列を多段に巡らした土器である。（639－420～423）は口縁部に圧痕列を施文している。

（639－425～461）は円筒形を呈し、頸部に1～3条の押圧縄文を巡らした土器である。（639－445～469・451・457・458・460・461）では口辺にも押圧縄文を巡らしている。（639－453～456）では口辺にも押圧縄文を巡らしたあと、連結させるように押圧縄文を垂下させている。

（639－462～475）は幅の狭い口縁部に数条の押圧縄文を横位に施文した土器である。（639－469～

473）では口端からも押圧縄文を垂下させている。（639－474）では頸部のほかに口辺にも3条の押圧縄文を横位に施文し、その間に押圧縄文で連続山形文を充填している。

（639－475～495）は口縁部に押圧縄文で連続山形文あるいは菱形文を表出した土器である。

（639－496～521）はバケツ形を呈し、幅の狭い口縁部に数条の押圧縄文を横位に施文した土器である。胴部には、撚糸文、木目状撚糸文、羽状縄文、多軸撚糸文が施文されている。（639－503～505・507・509・511～513・515・516・518）には細く低い隆帯が巡っている。

（639－522・523）は胴膨らみのある円筒形を呈し、頸部に2条の押圧縄文を巡らし、全面に羽状縄文を施文している。（639－522）では口辺にも縄の押圧があり、また、綾絡文が狭い帯状に口縁部から胴部下半まで間隔をあけて付加されている。

（639－524～526）は胴部が円筒形を呈し、頸部がすぼまり、口縁部が大きく外反する土器である。

（639－527～536）はバケツ形あるいは円筒形を呈し、全面に羽状縄文を施文した土器である。

（639－537）は胴膨らみのある円筒形を呈し、口辺と頸部に太い粘土紐を貼り付け、その上部に斜位の沈線文を施文し、胴部に縦位の羽状縄文を施文した土器である。

（639－538）はキャリパー形を呈し、大きく外反する口縁部には、口辺と頸部に横位沈線を巡らし、内部に2条1単位の沈線2組を開始位置をずらした連続山形文を充填している。また、4カ所に縦の沈線を施文した横長で偏平な粘土塊を貼り付けている。球形の胴部には単節縄文を施文している。

（639－539）は胴膨らみのある器形で無文の地に沈線で文様を描いた土器である。

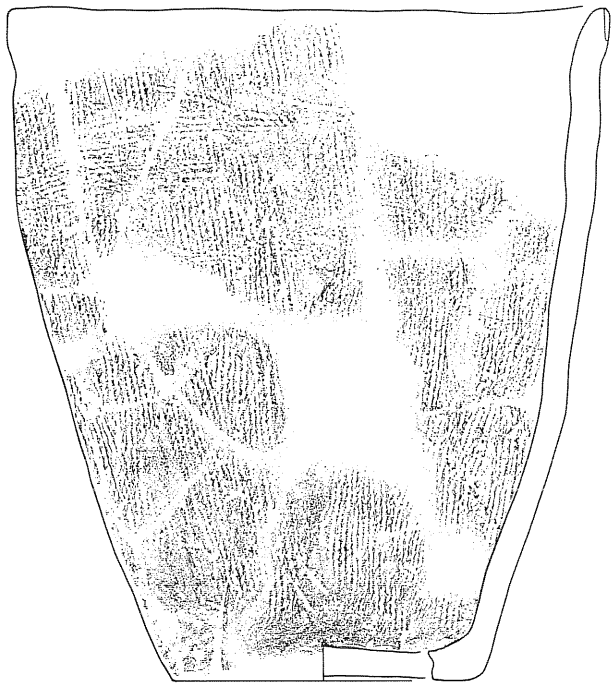
（639－540）は2つの突起が1組となる5つの頂部をもつ波状口縁でキャリパー形を呈する土器である。2条1単位の沈線で、縦位に連続する山形文の組み合わせによる連続菱形文を表出している。

②　石器　石器は1,146点出土した。その内訳は、石鏃6点（639－835～842）、石槍42点（639－843～881）、石錐81点（639－882）、石匙245点（639－883～918）、篦状石器14点、削器272点（639－921～956）、剥片・不定形石器87点（639－957～966）、磨製石斧26点（639－919・920）、石錘67点（639－970・971・973～1028・1030・1031）、半円状偏平打製石器233点（639－1029・1032～1043）、くぼみ石29点（639－967～969・972）、擦石26点、敲石9点、石皿8点、台石1点である。

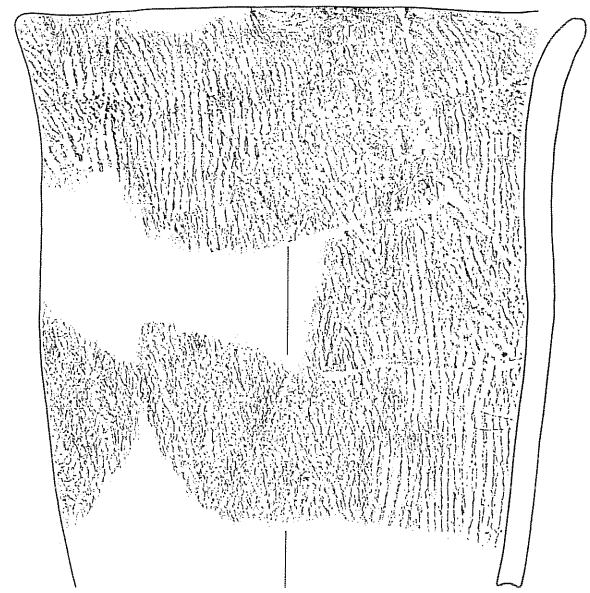
③　石製品　有溝礫1点、石棒1点、円盤状石製品40点（639－1044～1054）、線刻礫3点（639－1055～1057）、垂飾品2点（639－1058・1059）、岩偶1点（639－1060）が出土した。このほかに赤色顔料の付着した石2点、自然礫に穴のあいた有孔礫8点、石核12点、軽石3点が出土した。

④　動・植物遺体

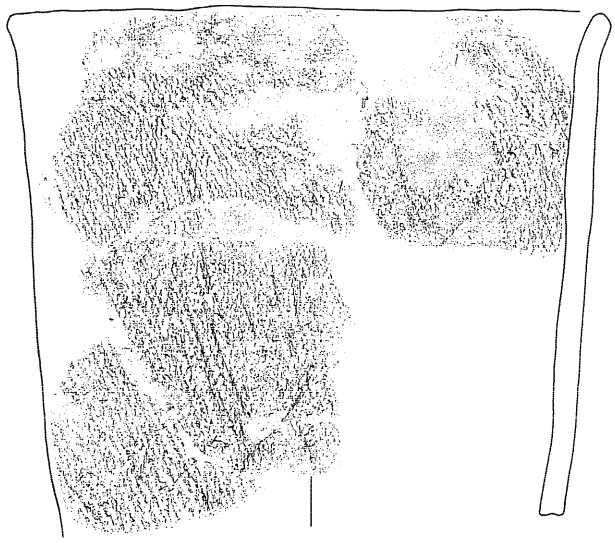
平成6年秋に植物質の遺物が発見されるまでは、発掘してみたいという願望はあっても、地形的に「この遺跡では動・植物遺体が出土することはない」というあきらめにも似た信念があった。鷹巣町伊勢堂岱遺跡の範囲確認調査実施のための事前現地確認に呼ばれ、櫻田が不在にした時間に、他の担当職員が一度も見回ることもなく、この谷の作業が続行されており、第Ⅳ層をスコップとベルトコンベァーで掘り下げ始めてしまっていた。たまたま、櫻田が出掛ける前にそれまでの排土場所を変更して新しい場所（平坦面）にベルコンからの土が落ちるようにしていたため、伊勢堂岱遺跡から戻って来て排土の盛り土にクルミや木材などの植物遺体が混入していたのを発見し、急ぎ谷内に行き掘り下げを停止させるとともに、排土の盛り土からクルミや木材などの植物遺体を選別・収納するとともに、この土を全量コンテナに回収させた。回収した量は4トントラック2台分であった。（この土は翌年



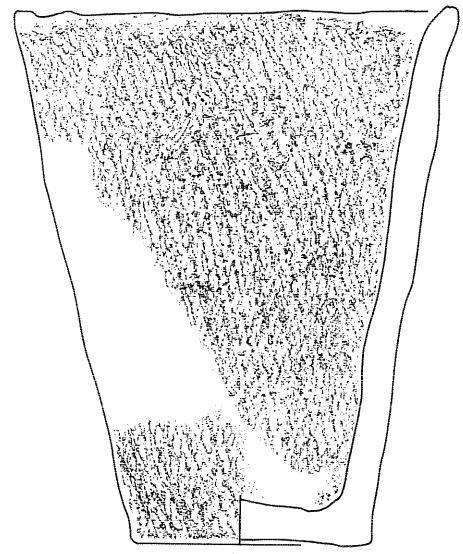
1（639－155）

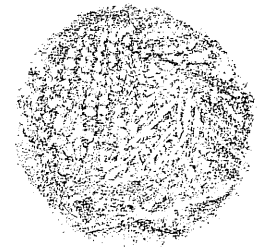


2（639－156）

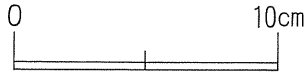


3（639－157）

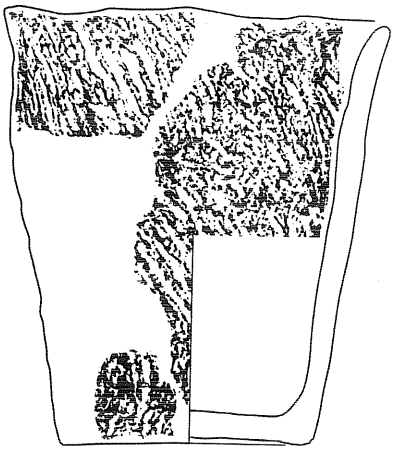




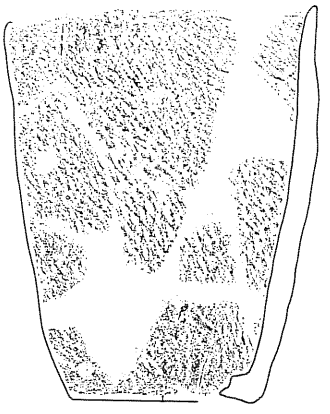
4（639－158）



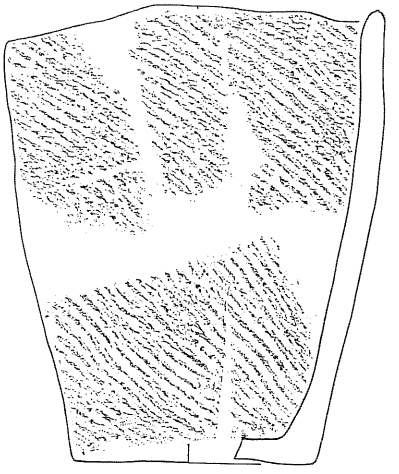
第755図　ＳＴ639谷Ⅳ層出土土器（２）



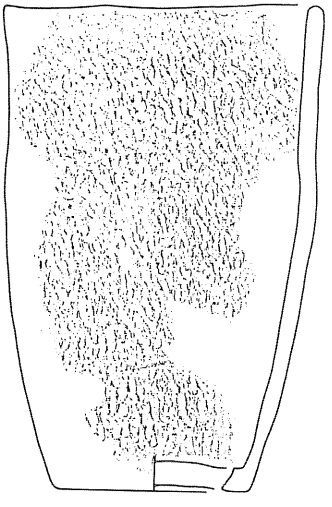
1（639－159）



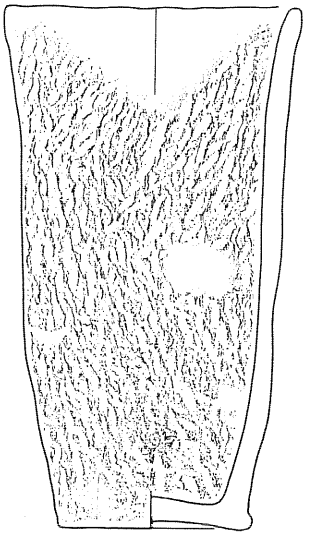
2（639－160）



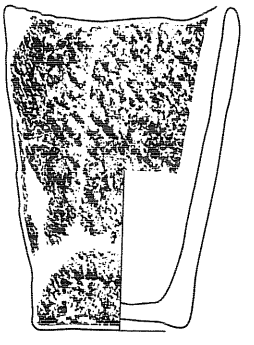
3（639－161）



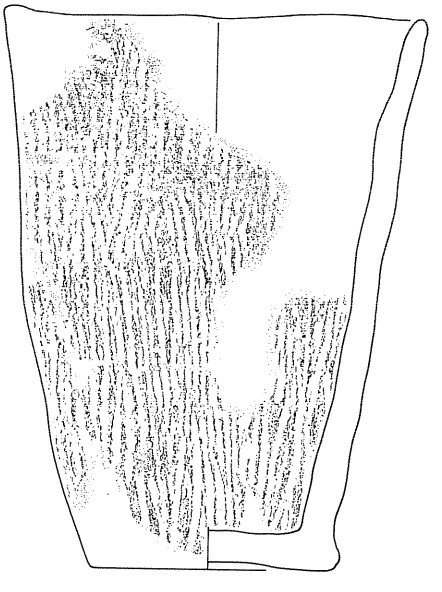
4（639－162）



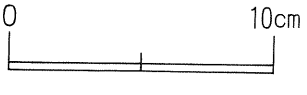
5（639－163）



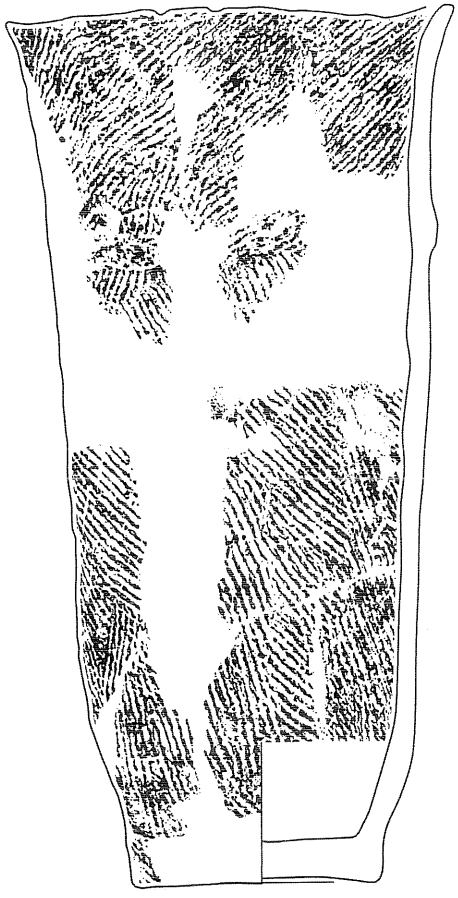
6（639－164）



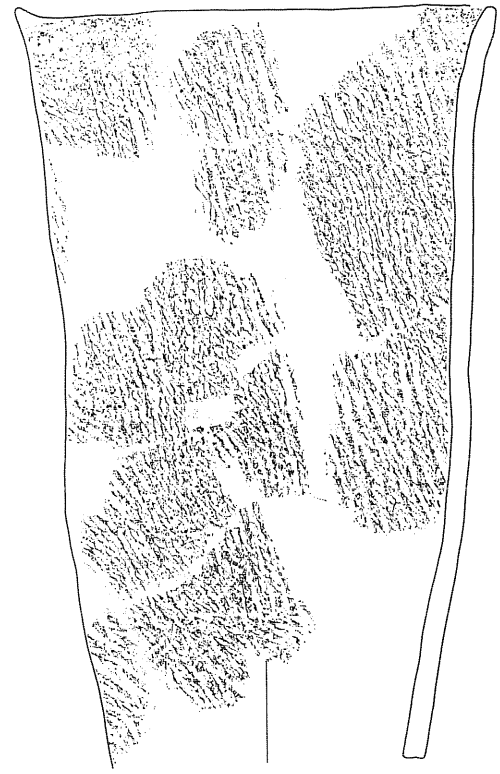
7（639－165）



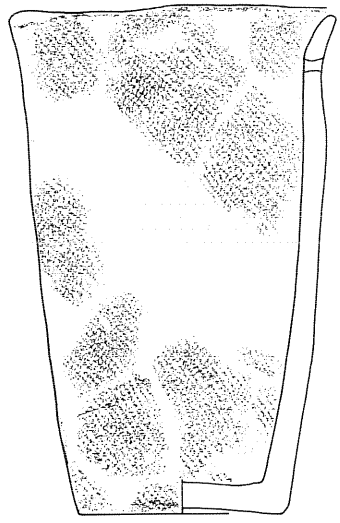
第756図　ＳＴ639谷Ⅳ層出土土器（３）



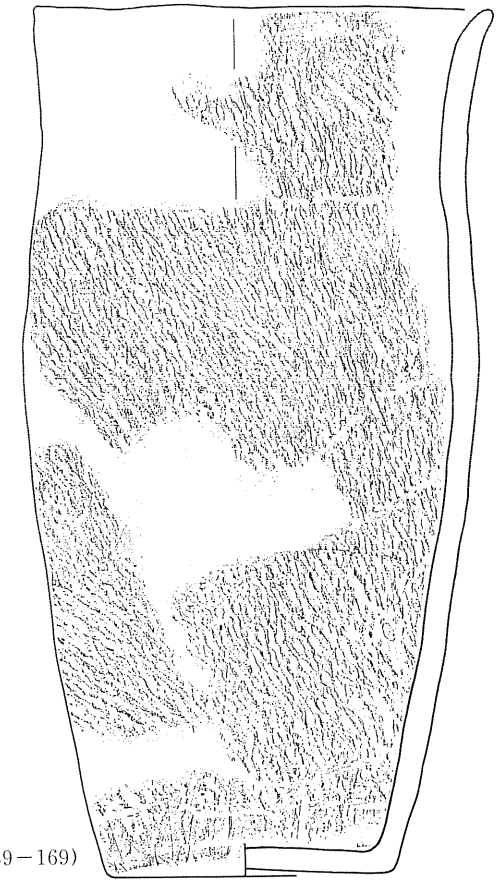
1（639－166）



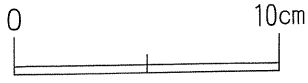
2（639－167）



3（639－168）

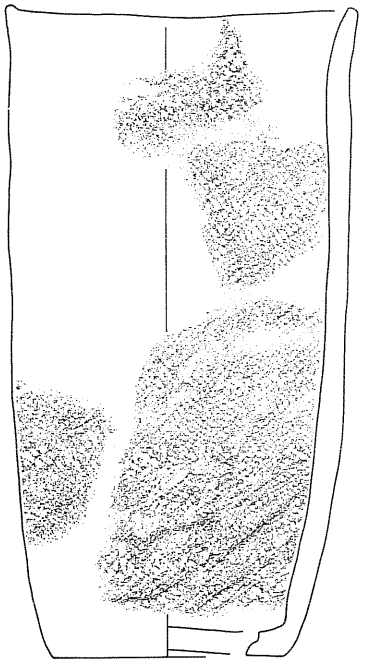


4（639－169）

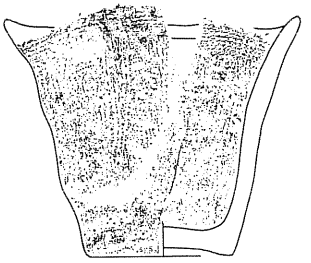


第757図　ＳＴ639谷Ⅳ層出土土器（４）

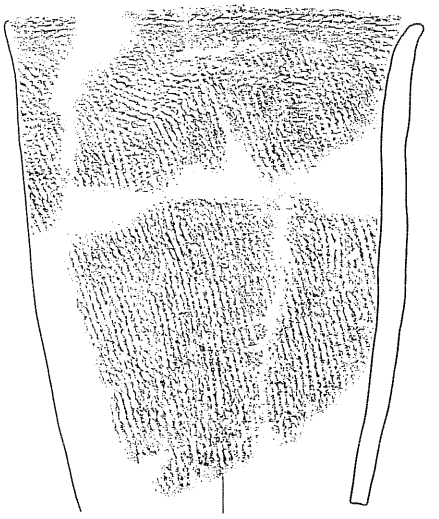
第758図　ＳＴ639谷Ⅳ層出土土器（５）



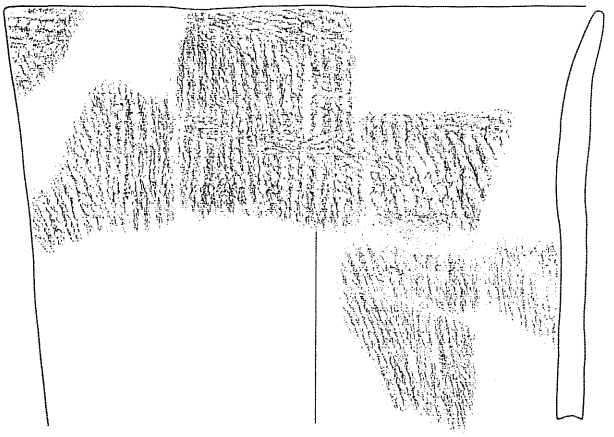
1（639－178）



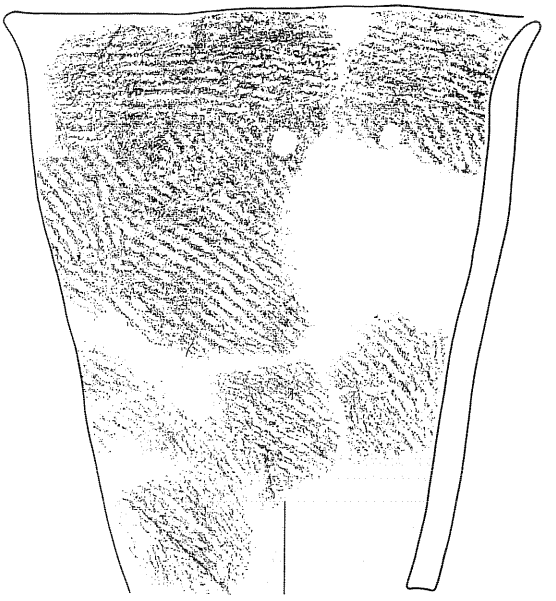
2（639－179）



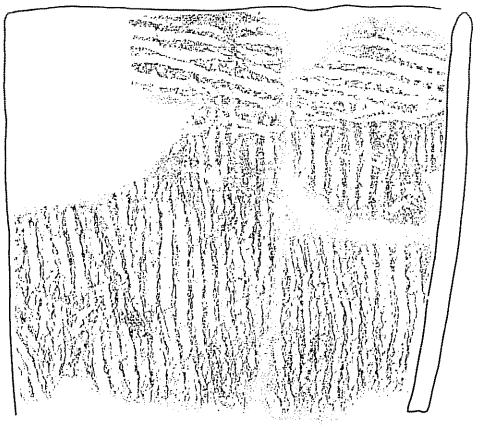
3（639－180）



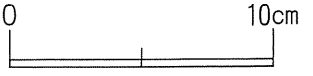
4（639－181）



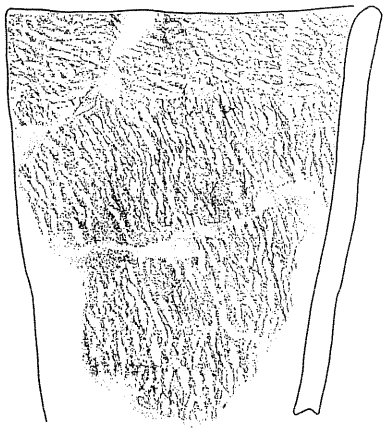
5（639－182）



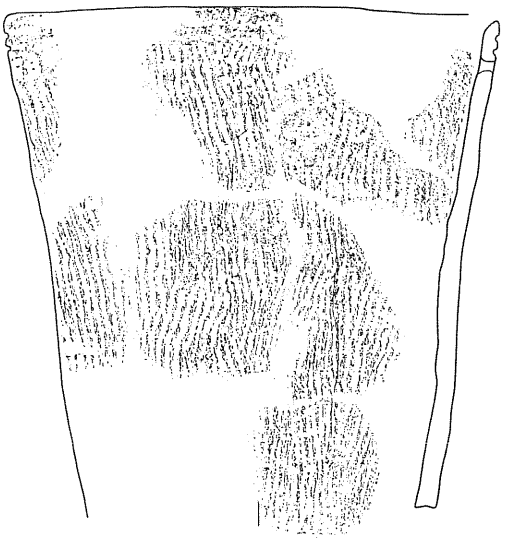
6（639－183）



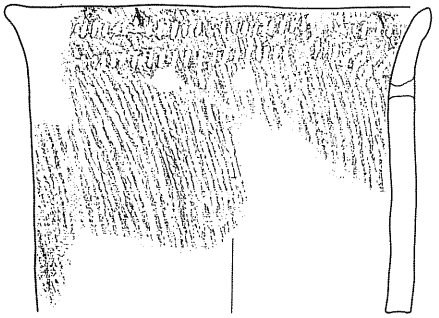
第759図　ＳＴ639谷Ⅳ層出土土器（６）



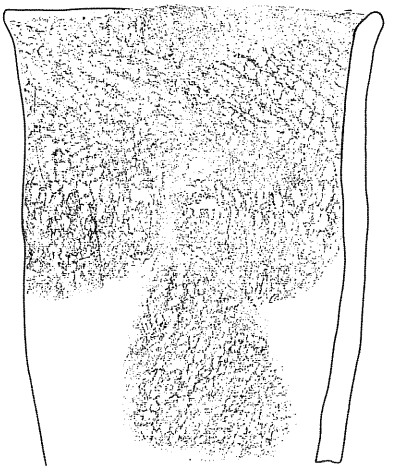
1（639－184）



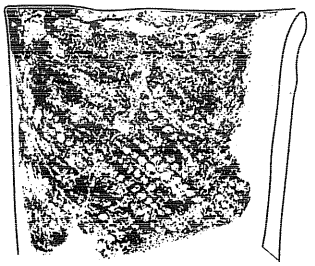
2（639－185）



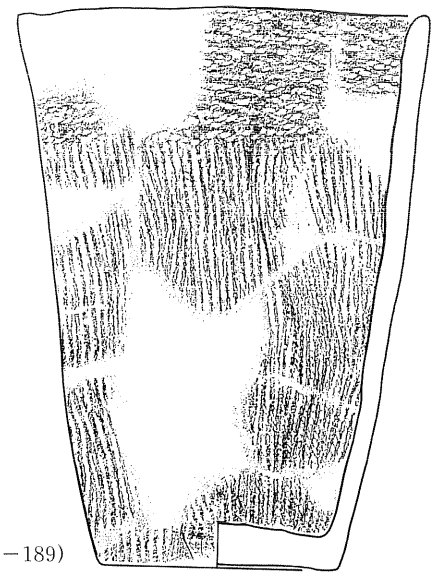
3（639－186）



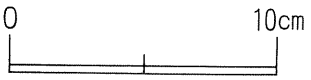
4（639－187）



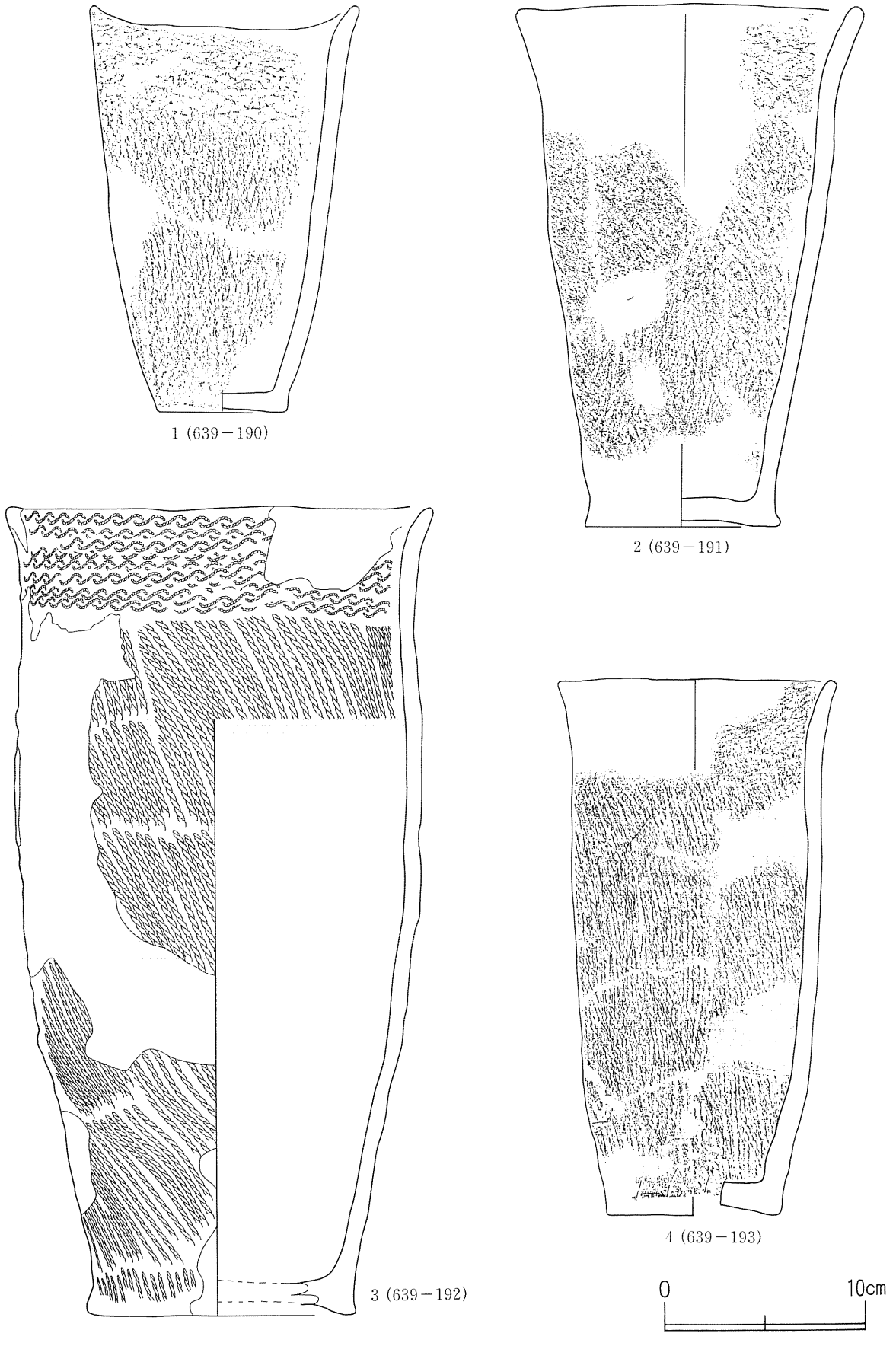
5（639－188）



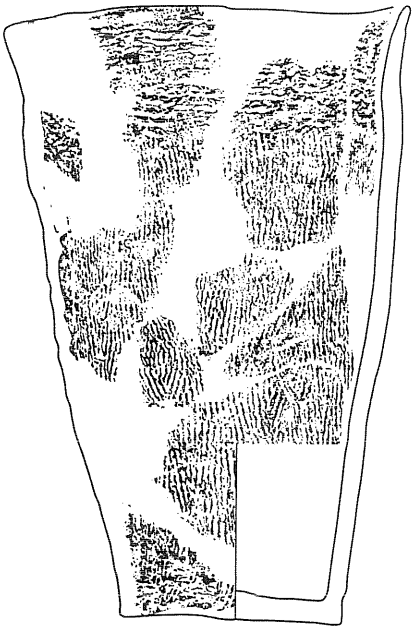
6（639－189）



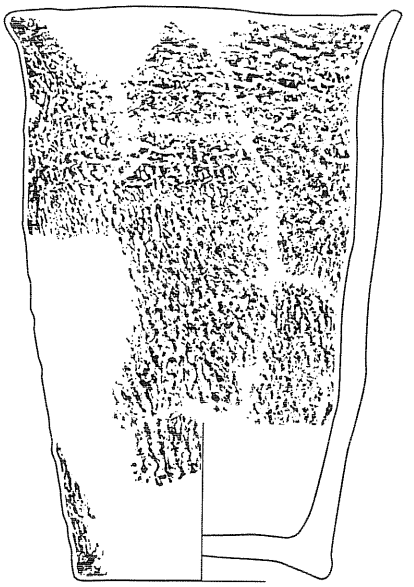
第760図　ＳＴ639谷Ⅳ層出土土器（７）



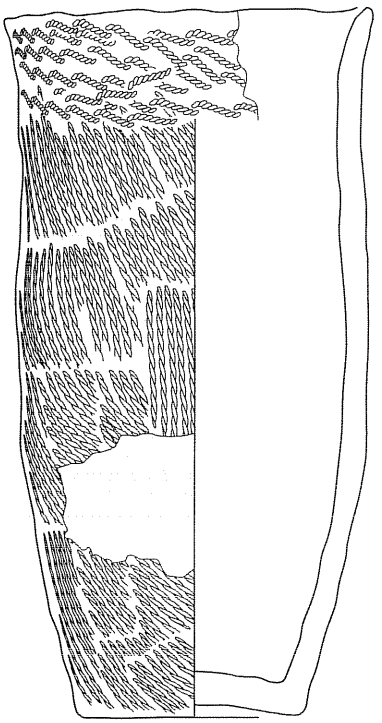
第761図　ＳＴ639谷Ⅳ層出土土器（８）



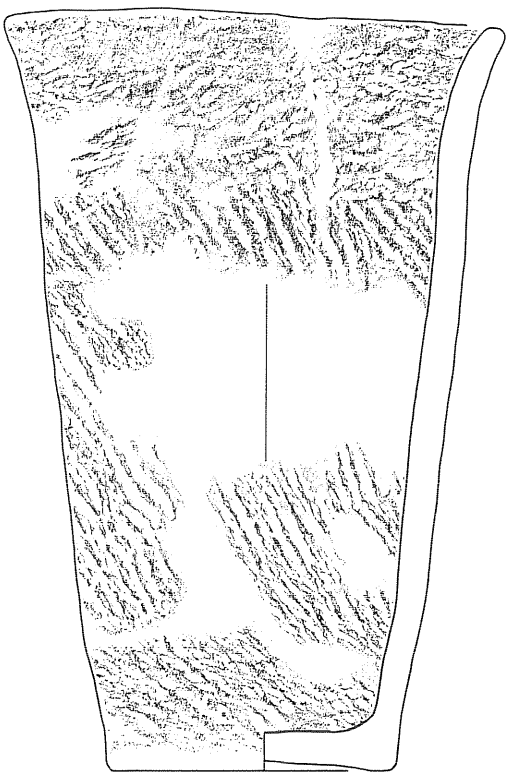
1（639－194）



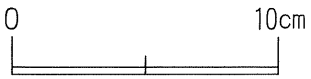
2（639－195）



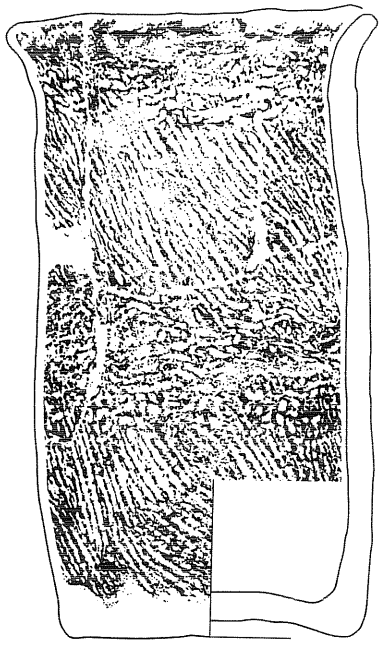
3（639－196）



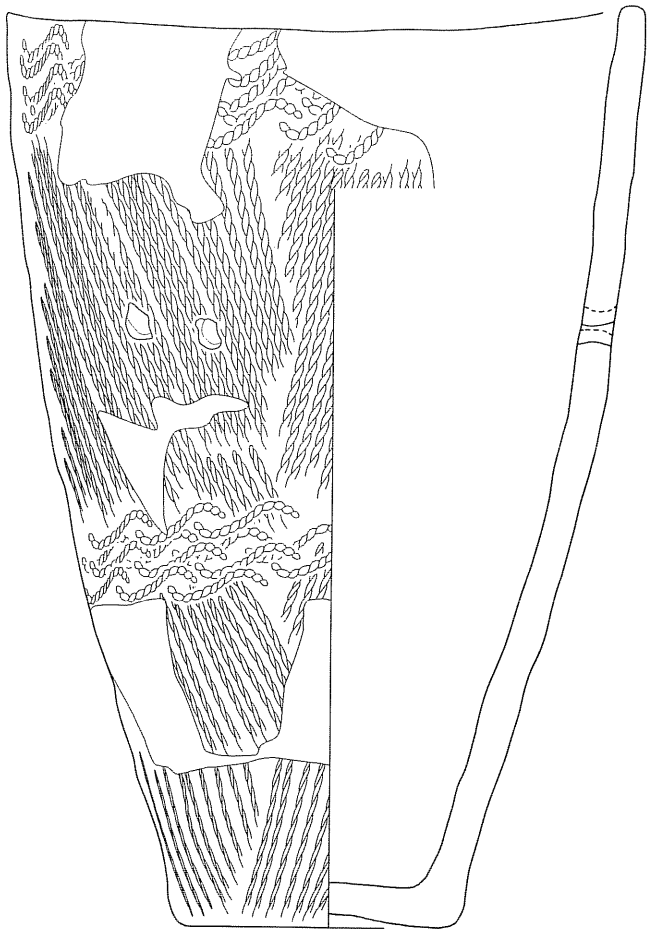
4（639－197）



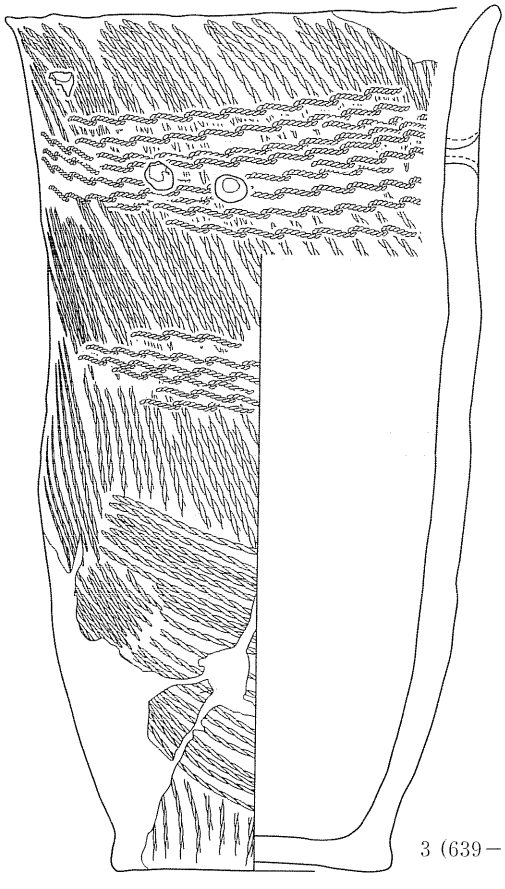
第762図　ＳＴ639谷Ⅳ層出土土器（９）



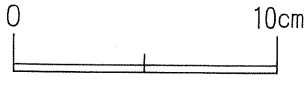
1（639－198）



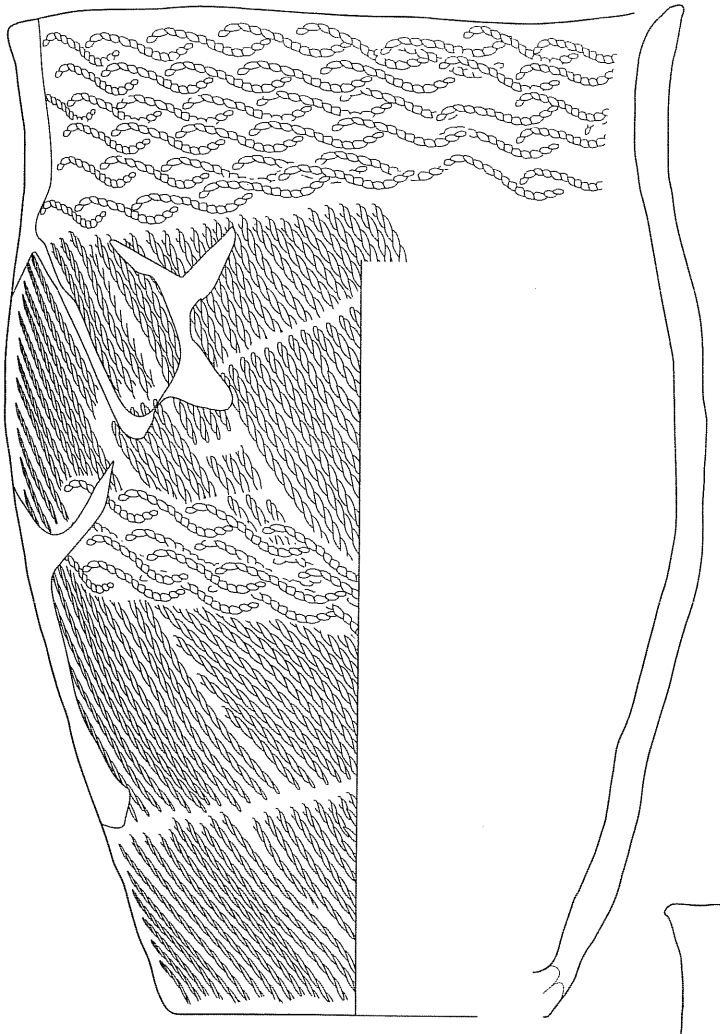
2（639－199）



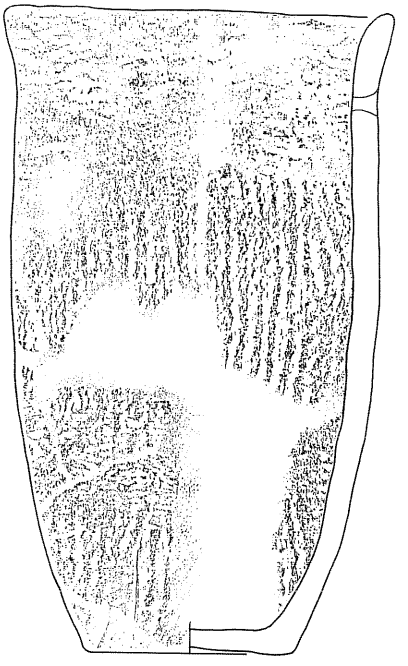
3（639－200）



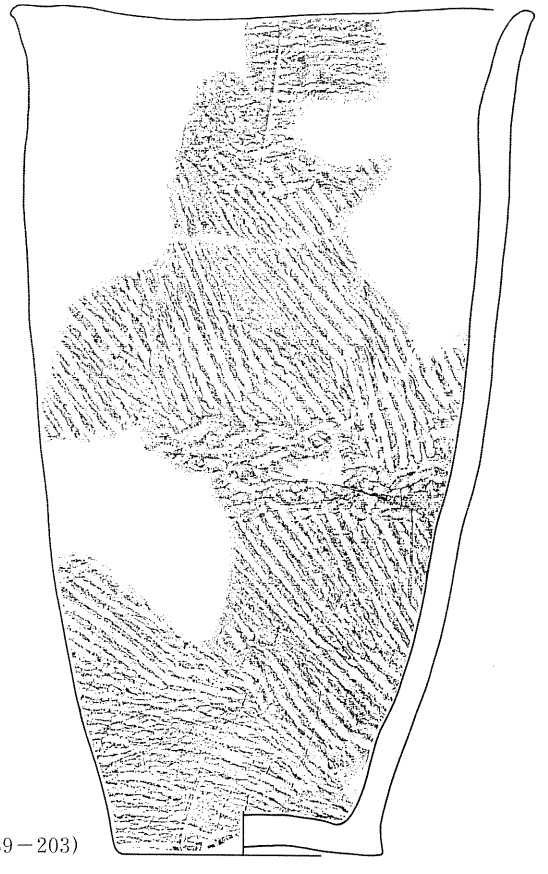
第763図　ＳＴ639谷Ⅳ層出土土器（10）



1（639－201）



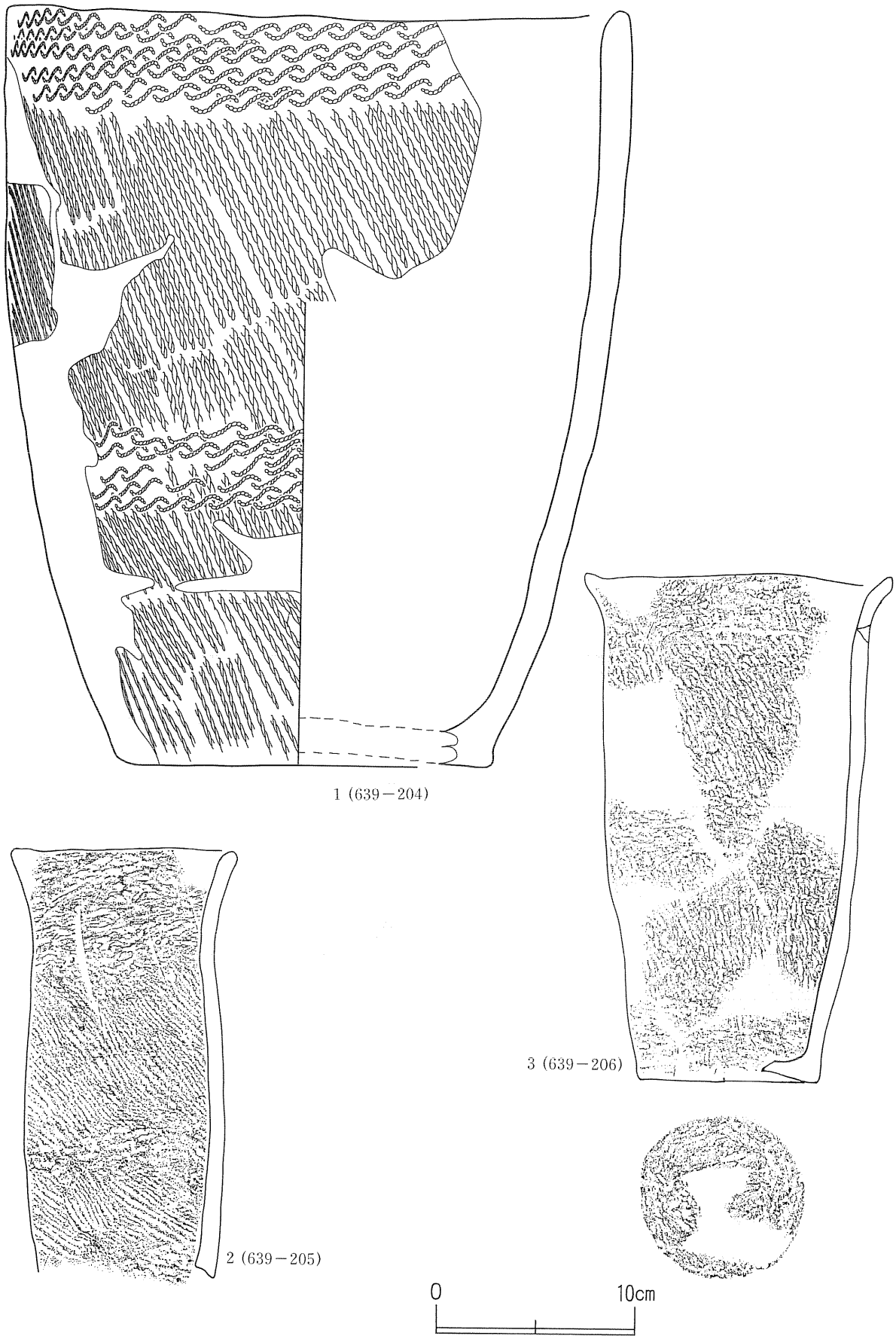
2（639－202）



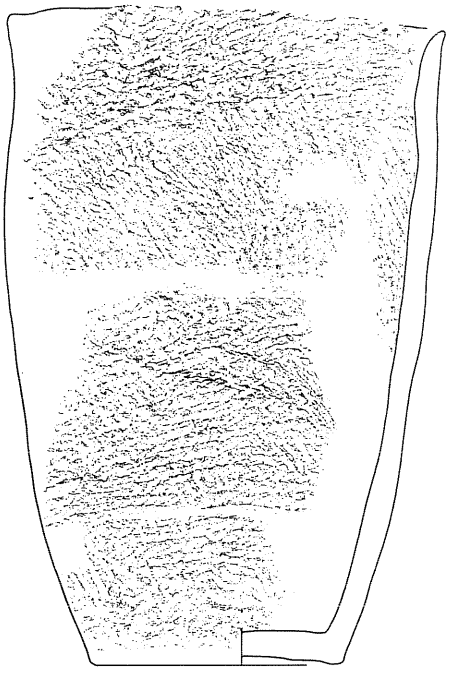
3（639－203）

0　10cm

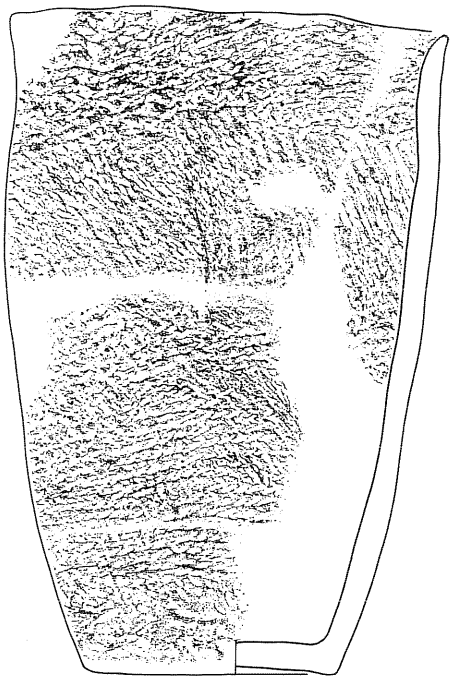
第764図　ＳＴ639谷Ⅳ層出土土器（11）



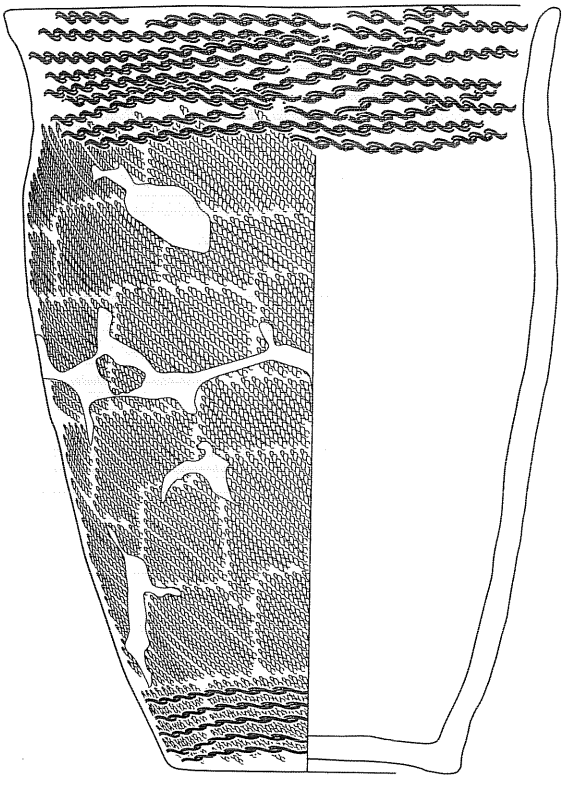
第765図　ＳＴ639谷Ⅳ層出土土器（12）



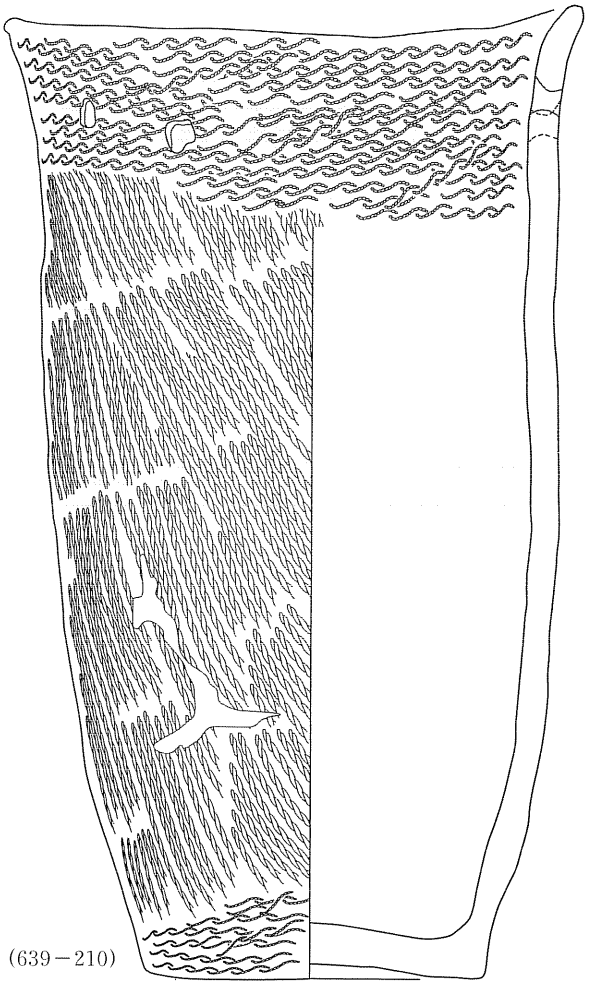
1（639－207）



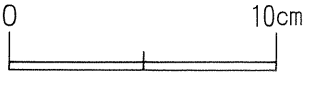
2（639－208）



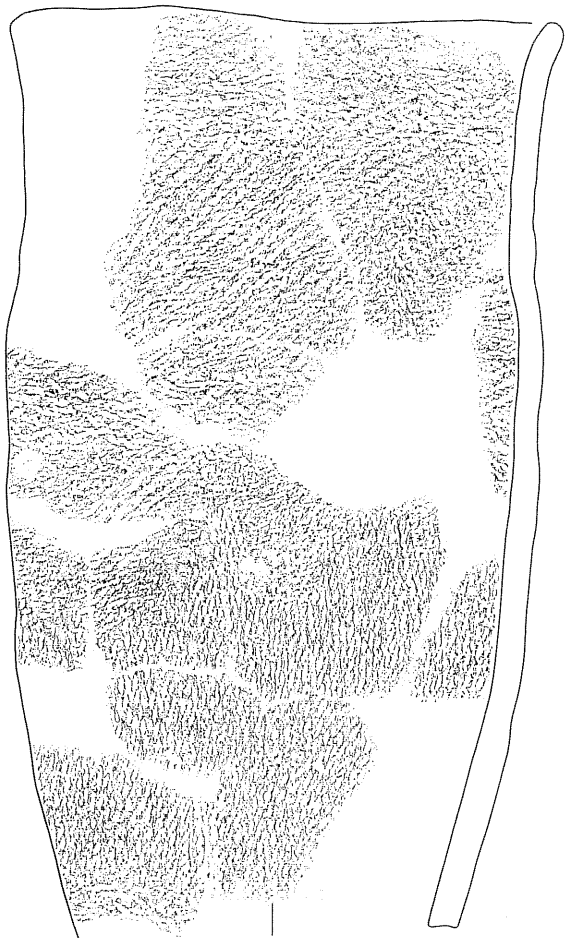
3（639－209）



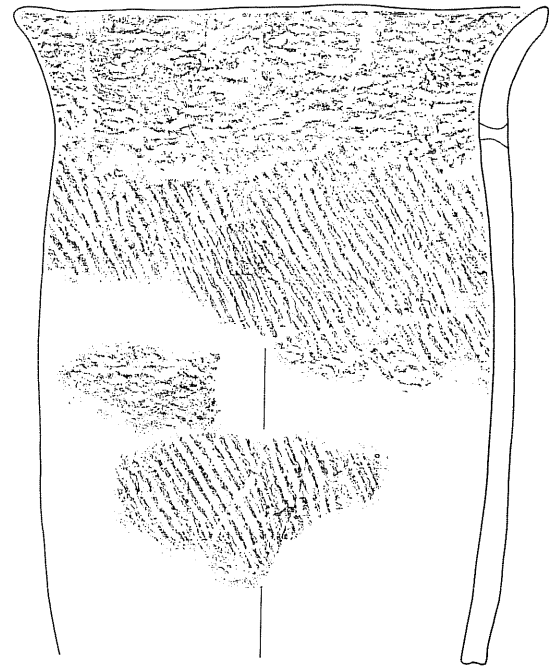
4（639－210）



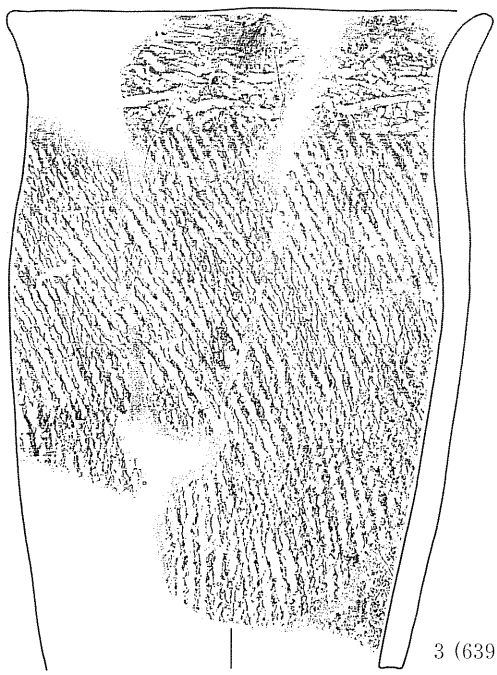
第766図　ＳＴ639谷Ⅳ層出土土器（13）



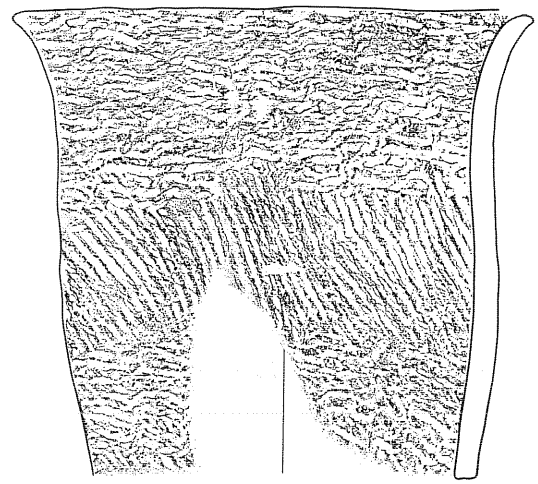
1 (639－211)



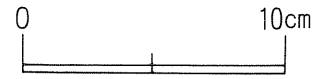
2 (639－212)



3 (639－213)



4 (639－214)



第767図　ＳＴ639谷Ⅳ層出土土器（14）